

基本計画書

基本計画書											
事項	記入欄							備考			
計画の区分	学部の学科の設置										
フリガナ設置者	ガッコウホジツ ジョゼンジョウガクエン 学校法人 実践女子学園										
フリガナ大学の名称	ジョゼンジョウガク 実践女子大学										
大学本部の位置	東京都日野市大坂上4丁目1番地の1										
大学の目的	本学は、教育基本法、学校教育法及び実践女子学園の建学の精神に則り、深く専門の学芸を教授研究し、かつ人格の完成を目標として幅広く深い教養を培い、国際的視野に立つ社会人として自己の信ずるところを實踐し、もって文化の創造と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的とする。										
新設学部等の目的	人間社会学部社会デザイン学科は、高度情報化する知識基盤社会に求められるソーシャル・データサイエンス、社会情報学、メディア論、デザイン思考などを中心とする専門的な知識・理論を学び、社会情勢・環境が変化し続ける創造社会で発生する諸問題を解決できる能力を修得し、社会で主体的に活躍し貢献できる人材の育成を目的とする。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地			
	人間社会学部 社会デザイン学科	4年	80人	—	320人	学士（人間社会学）	令和6年4月 第1年次	東京都渋谷区東1丁目1番49号			
	計		80	—	320						
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	<p>令和6年4月名称変更予定</p> <p>人間社会学部 現代社会学科→ビジネス社会学科</p> <p>人間社会学部 ビジネス社会学科〔定員減〕 (△20) (令和6年4月)</p> <p>国際学部国際学科 (120) (令和5年4月届出)</p> <p>実践女子大学短期大学部（廃止）</p> <p>日本語コミュニケーション学科 (△80)</p> <p>英語コミュニケーション学科 (△100)</p> <p>※令和6年4月学生募集停止</p>										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計						
	人間社会学部 社会デザイン学科	171科目	93科目	22科目	286科目	124 単位					
教員	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等		
				教授	准教授	講師	助教	計		助手	
	新設	人間社会学部 社会デザイン学科			5人 (3)	2人 (2)	2人 (2)	0人 (0)	9人 (7)	0人 (0)	201人 (188)
		国際学部 国際学科			6人 (4)	3人 (3)	2人 (0)	0人 (0)	11人 (7)	0人 (0)	181人 (174)
	既	計			11人 (7)	5人 (5)	4人 (2)	0人 (0)	20人 (14)	0人 (0)	—人 (—)
		文学部 国文学科			9人 (9)	2人 (2)	1人 (1)	1人 (1)	13人 (13)	2人 (2)	184人 (184)
英文学科			8人 (8)	1人 (1)	3人 (3)	1人 (1)	13人 (13)	2人 (2)	176人 (176)		
美学美術史学科			7人 (7)	2人 (2)	1人 (1)	1人 (1)	11人 (11)	3人 (3)	185人 (185)		

令和5年4月届出

組 織 の 概 要	生活科学部 食生活科学科	12 (12)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	19 (19)	160 (160)	令和6年4月名称 変更届出(予定)
	生活環境学科	8 (8)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	11 (11)	8 (8)	173 (173)	
	生活文化学科	5 (5)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	15 (15)	4 (4)	189 (189)	
	現代生活学科	4 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	7 (7)	2 (2)	160 (160)	
	人間社会学部 人間社会学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	2 (2)	192 (192)	
	ビジネス社会学科	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	2 (2)	186 (186)	
	教職センター	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	2 (2)	29 (29)	
	図書館学課程	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	16 (16)	
	博物館学課程	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	23 (23)	
	言語文化教育研究センター	3 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	
	大学教育研究センター	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
	文芸資料研究所	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	
	下田歌子記念女性総合研究所	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
	計	12 (12)	1 (1)	3 (3)	1 (1)	17 (17)	3 (3)	- (-)	
	合計	88 (84)	34 (34)	20 (18)	7 (7)	149 (148)	47 (47)	- (-)	
教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員	51 (48)	人	59 (59)	人	110 (107)	人		
	技 術 職 員	0 (0)		0 (0)		0 (0)			
	図 書 館 専 門 職 員	6 (5)		4 (4)		10 (9)			
	そ の 他 の 職 員	0 (0)		7 (7)		7 (7)			
計	57 (53)		70 (70)		127 (123)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	37,685 m ²	0 m ²	0 m ²		37,685 m ²			
	運 動 場 用 地	32,716 m ²	0 m ²	0 m ²		32,716 m ²			
	小 計	70,401 m ²	0 m ²	0 m ²		70,401 m ²			
	そ の 他	2,546 m ²	0 m ²	0 m ²		2,546 m ²			
合 計	72,947 m ²	0 m ²	0 m ²		72,947 m ²				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	56,251 m ² (56,251 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)		56,251 m ² (56,251 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	88 室	41 室	59 室	7 室 (補助職員 5人)	0 室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数					
	人間社会学部	社会デザイン学科		9 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学科単位での特定不 能なため、大学全体 の教	
	人間社会学部 社会デザイン学科	759,600 [111,500] (735,600 [110,000])	70,810 [61,186] (70,810 [61,186])	60,000 [60,000] (60,000 [60,000])	10,250 (9,950)	0 (0)	0 (0)		
	計	759,600 [111,500] (735,600 [110,000])	70,810 [61,186] (70,810 [61,186])	60,000 [60,000] (60,000 [60,000])	10,250 (9,950)	0 (0)	0 (0)		

図書館		面積		閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体	
		6,523 m ²		626		558,388			
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要					
		2,245 m ²		テニスコート 4面					
経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル、データベース、その他の経費（運用コスト）を含む。
	教員1人当り研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	－千円	－千円	
	共同研究費等		1,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	－千円	－千円	
	図書購入費	600千円	2,000千円	2,900千円	3,700千円	4,400千円	－千円	－千円	
	設備購入費	600千円	2,000千円	4,000千円	4,000千円	5,000千円	－千円	－千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,330千円	1,090千円	1,090千円	1,090千円	－千円	－千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常経費補助金、雑収入 等						
既設大学等の状況	大 学 の 名 称	実践女子大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	文学部		310		1280				東京都渋谷区東
	国文学科	4	110	3年次	458	学士（文学）	1.12	昭和40年度	1丁目1番49号
	英文学科	4	110	3年次	458	学士（文学）	1.11	昭和40年度	同 上
	美学美術史学科	4	90	3年次	364	学士（文学）	1.13	昭和60年度	同 上
	生活科学部		410		1648		1.11		東京都日野市大坂上
	食生活科学科		185		740		1.05		4丁目1番地の1
	管理栄養士専攻	4	70	－	280	学士（生活科学）	1.08	昭和41年度	同 上
	食物科学専攻	4	75	－	300	学士（生活科学）	1.05	昭和41年度	同 上
	健康栄養専攻	4	40	－	160	学士（生活科学）	1.02	平成25年度	同 上
	生活環境学科	4	80	3年次	324	学士（生活科学）	1.19	昭和40年度	同 上
	生活文化学科		85		344		1.13		
	生活心理専攻	4	40	3年次	164	学士（生活科学）	1.17	平成19年度	同 上
	幼児保育専攻	4	45	－	180	学士（生活科学）	1.10	平成19年度	同 上
	現代生活学科	4	60	－	240	学士（生活科学）	1.11	平成26年度	同 上
	人間社会学部		200		800		1.13		東京都渋谷区東
	人間社会学科	4	100	－	400	学士（人間社会学）	1.17	平成16年度	1丁目1番49号
	現代社会学科	4	100	－	400	学士（人間社会学）	1.08	平成23年度	同 上
	文学研究科								東京都渋谷区東
	博士後期課程								1丁目1番49号
	国文学専攻	3	3	－	9	博士（文学）	0.11	昭和44年度	同 上
	美術史学専攻	3	2	－	6	博士（文学）	0.33	平成23年度	同 上
	博士前期課程								
	国文学専攻	2	10	－	20	修士（文学）	0.15	昭和41年度	同 上
	美術史学専攻	2	6	－	12	修士（文学）	1.66	平成4年度	同 上
	修士課程								
	英文学専攻	2	6	－	12	修士（文学）	0.00	昭和41年度	同 上
	生活科学研究科								東京都日野市大坂上
	博士後期課程								4丁目1番地の1
	食物栄養学専攻	3	2	－	6	博士（食物栄養学）	0.16	平成17年度	同 上
	博士前期課程								
	食物栄養学専攻	2	6	－	12	修士（食物栄養学）	0.16	昭和41年度	同 上
	修士課程								
	生活環境学専攻	2	6	－	12	修士（生活科学）	0.25	平成元年度	同 上
	人間社会研究科								東京都渋谷区東
	修士課程								1丁目1番49号
	人間社会専攻	2	7	－	14	修士（人間社会）	0.00	平成22年度	同 上

大学の名称	実践女子大学短期大学部								
学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	定員 超過率	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
日本語コミュニケーション学科	2	80	—	160	短期大学士 (日本語コミュニケーション学)	0.93	昭和27年度	東京都渋谷区東 1丁目1番49号	※令和6年4月より 学生募集停止
英語コミュニケーション学科	2	100	—	200	短期大学士 (英語コミュニケーション学)	0.69	昭和27年度	東京都渋谷区東 1丁目1番49号	
附属施設の概要	該当なし								

教育課程等の概要														
(人間社会学部 社会デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
実践スタンダード科目	実践入門セミナー	1前	2				○		2	1	2			兼8
	実践キャリアプランニング	2前	2			○								兼1
	Integrated English a	1前	1				○							兼6
	Integrated English b	1前	1				○							兼5
	データサイエンス入門	1後	1			○								兼1
	情報リテラシー基礎	1前	1				○							兼3
	小計（6科目）	—	8	0	0		—		2	1	2	0	0	兼23
キャリア教育科目	キャリアデザイン	3前		2		○								兼2
	グローバル・キャリアデザイン	3後		2			○							兼2
	短期インターンシップ	3休		1				○						兼1
	長期インターンシップ	3休		2				○						兼1
	キャリア開発実践論	3通		2			○							兼1
	ビジネスのスキルとマナー	3後		2		○								兼1
	国際理解とキャリア形成	2前		2		○								兼1
	女性とキャリア形成	2前・後		2		○								兼3
	キャリア・ショーケース	2前		2		○								兼1
	ライフデザイン	3前・後		2		○								兼2
	実践企業分析論	2前		2		○								兼1
	実践企業分析論演習	2前		2			○							兼1
小計（12科目）	—	0	23	0		—		0	0	0	0	0	兼9	
実践アドバンスト科目	Effective Writing	1前・後		1			○							兼3
	Effective Speaking	1前・後		1			○							兼2
	Active Reading	1前・後		1			○							兼2
	Active Listening	1前・後		1			○							兼3
	CEFR B1	1前・後		1			○							兼1
	Global Studies a	1前・後		2		○								兼1
	Global Studies b	1前・後		2		○								兼1
	Global Studies c	1前・後		2		○								兼2
	Global Studies d	1前・後		2		○								兼3
	Global Studies e	1前・後		2		○								兼2
	Global Studies f	1前・後		2		○								兼1
	Global Studies g	1前・後		2		○								兼2
	Global Studies h	1前・後		2		○								兼1
	Global Studies i	1前		2		○								兼1
	Global Studies j	1後		2		○								兼1
	フランス語1 a	1前		1			○							兼2
	フランス語1 b	1後		1			○							兼2
	ドイツ語1 a	1前		1			○							兼2
	ドイツ語1 b	1後		1			○							兼2
	中国語1 a	1前		1			○							兼2
	中国語1 b	1後		1			○							兼2
	コリア語1 a	1前		1			○							兼2
	コリア語1 b	1後		1			○							兼2
スペイン語1 a	1前		1			○							兼1	
スペイン語1 b	1後		1			○							兼1	
フランス語2 a	2前		1			○							兼1	
フランス語2 b	2後		1			○							兼1	
ドイツ語2 a	2前		1			○							兼2	
ドイツ語2 b	2後		1			○							兼2	

外国語教育科目	中国語 2 a	2前	1			○							兼2	
	中国語 2 b	2後	1			○							兼2	
	コリア語 2 a	2前	1			○							兼2	
	コリア語 2 b	2後	1			○							兼2	
	スペイン語 2 a	2前	1			○							兼1	
	スペイン語 2 b	2後	1			○							兼1	
	海外語学研修 a	1休	2				○						兼1 集中	
	海外語学研修 b	1休	2				○						兼1 集中	
	海外語学研修 c	1休	2				○						兼1 集中	
	海外語学研修 d	1休	2				○						兼1 集中	
	海外語学研修 e	1休	1				○						兼1 集中/ｽﾃｯｼﾞ	
	海外語学研修 f	1休	1				○						兼1 集中/ｽﾃｯｼﾞ	
	海外語学研修 g	1休	1				○						兼1 集中/ｽﾃｯｼﾞ	
	海外語学研修 h	1休	1				○						兼1 集中/ｽﾃｯｼﾞ	
	海外短期インターンシップ	1休	1				○						兼1	
	海外長期インターンシップ	1休	2				○						兼1	
	小計 (45科目)	—	0	60	0	—			0	0	0	0	0	兼23 —
	情報リテラシー教育科目	情報スキル基礎	1前・後	1			○			1	1			兼9
		情報リテラシー応用 a	1前・後	2			○							兼2
		情報リテラシー応用 b	1前・後	2			○							兼7
情報リテラシー応用 c		1前・後	2			○							兼5	
情報リテラシー応用 d		1前・後	2			○							兼2	
情報リテラシー応用 e		1後	2			○							兼1	
小計 (6科目)	—	0	11	0	—			0	1	2	0	0	兼21	
実践プロジェクト	実践プロジェクト a	1前	2			○							兼2	
	実践プロジェクト b	2前	2			○							兼2	
	実践プロジェクト c	2休・後	2			○							兼2	
	ボランティアプロジェクト a	1前・後	1			○							兼1	
	ボランティアプロジェクト b	1前・後	1			○							兼1	
小計 (5科目)	—	0	8	0	—			0	0	0	0	0	兼7	
ジェンダーについて学ぶ	ジェンダー論入門	1前・後	2			○							兼2	
	女性の歴史	1後	2			○							兼1	
	女性の健康	1前・後	2			○							兼1	
	文学とジェンダー	1前	2			○							兼1	
	国際社会とジェンダー	1前	2			○							兼1	
	女性教育とジェンダー	1前・後	2			○							兼3 オムニバス	
	ジェンダーと心理	1前・後	2			○							兼1	
	小計 (7科目)	—	0	14	0	—			0	0	0	0	0	兼9
共通教育科目	哲学入門	1前・後	2			○							兼1	
	現代の思想	1前・後	2			○							兼2	
	言語学入門	1後	2			○							兼2	
	倫理学入門	1前	2			○							兼1	
	生命と環境の倫理	1後	2			○							兼1	
	社会思想入門	1後	2			○							兼2	
	東洋思想入門	1後	2			○							兼1	
	世界の宗教	1前・後	2			○							兼1	
	日本の古典文学	1前・後	2			○							兼2	
	日本の近現代文学	1前・後	2			○							兼1	
	西洋の文学	1前・後	2			○							兼1	
	児童文学入門	1前・後	2			○							兼2	
	文化人類学入門	1後	2			○							兼1	
	美術の世界	1前・後	2			○							兼1	
	音楽の世界	1前・後	2			○							兼1	
	映像文化論	1前・後	2			○							兼2	
	日本の伝統文化	1前・後	2			○							兼1	
	心理学入門	1前・後	2			○							兼3	
	人間関係の心理学	1前・後	2			○							兼2	
	心の健康	1前・後	2			○							兼2	
日本のポップカルチャー	1後	2			○							兼1		
ファッションの世界	1前	2			○							兼1		
世界のファンタジー	1前	2			○							兼1		

教養教育科目	小計 (23科目)	—	0	46	0	—	0	0	0	0	0	兼30	
	地域研究 a	1前・後		2		○						兼2	
	地域研究 b	1前		2		○						兼1	
	食文化論	1前・後		2		○						兼1	
	衣文化論	1前・後		2		○						兼2	
	生活とデザイン	1前・後		2		○						兼2	
	社会とデザイン	1前		2		○						兼1	
	メディア論	1前・後		2		○						兼3	
	サブカルチャー論	1前・後		2		○						兼2	
	教育学	1前		2		○						兼2	
	日本国憲法	1前・後		2		○						兼2	
	法学入門	1後		2		○						兼2	
	日本の政治	1前		2		○						兼1	
	国際政治の基礎	1後		2		○						兼1	
	日本の経済	1前		2		○						兼2	
	国際経済の基礎	1後		2		○						兼2	
	日本史	1前		2		○						兼1	
	西洋史	1前		2		○						兼1	
	東洋史	1前・後		2		○						兼1	
	地理学	1前・後		2		○						兼1	
社会学入門	1前		2		○						兼1		
社会保障論	1前		2		○						兼1		
日常生活と法	1前・後		2		○						兼1		
金融リテラシー入門	1前		2		○						兼1		
小計 (23科目)	—	0	46	0	—	0	0	0	0	0	兼31		
自然と環境を 探る	数学的思考	1後		2		○						兼4	オムニバス
	統計的思考	1前・後		2		○		1				兼1	
	くらしの化学	1後		2		○						兼2	オムニバス
	くらしの人間工学	1前・後		2		○						兼1	
	生活環境の科学	1前・後		2		○						兼2	
	生命の科学	1前・後		2		○						兼2	
	身体の科学	1前		2		○						兼1	
	宇宙の科学	1前		2		○						兼2	
	地球と環境の科学	1前・後		2		○						兼2	
	科学技術と人間	1前・後		2		○						兼1	
	農業と食料	1後		2		○						兼1	
バイオの世界	1前・後		2		○						兼1		
防災の科学	1前・後		2		○						兼1		
小計 (13科目)	—	0	26	0	—	1	0	0	0	0	兼21		
健康な体 を創る	身体運動の科学 a	1前		2		○						兼3	
	身体運動の科学 b	1後		2		○						兼3	
	スポーツ文化論	1前・後		2		○						兼1	
	健康運動実習 a	1前・後		1				○				兼4	
	健康運動実習 b	1前・後		1				○				兼2	
	基礎スポーツ実習 a	1前・後		1				○				兼5	
	基礎スポーツ実習 b	1前・後		1				○				兼2	
	基礎スポーツ実習 c	1前・後		1				○				兼1	
	基礎スポーツ実習 d	1前・後		1				○				兼1	
	健康体力科学演習	1前・後		1			○					兼1	
	ヘルスプロモーション実践実習 a	1前		1				○				兼1	
ヘルスプロモーション実践実習 b	1後		1				○				兼1		
アダプテッドスポーツ	1前・後		1				○				兼1		
スポーツ応用科学実習	1前・後		1				○				兼1		
小計 (14科目)	—	0	17	0	—	0	0	0	0	0	兼10		

知を拓く	実践教養講座 a	2前・後	2			○								兼1	集中/共同 オムニバス
	実践教養講座 b	1休	2			○								兼3	
	実践教養講座 c	1後	2			○								兼8	
	実践教養講座 d	1前	2			○								兼1	
	実践教養講座 e	1後	2			○								兼1	
	実践教養講座 f	1前	2			○								兼1	
	実践教養講座 g	1前	2			○								兼1	
	実践教養講座 h	1後	2			○								兼5	
	実践教養講座 i	1後	2			○								兼10	
	オープン講座 a	1後	2			○								兼2	
	オープン講座 b	1前・後	2			○								兼1	
	オープン講座 c	1前・後	2			○								兼1	
	クォーターオープン講座 a	1前・後	1			○								兼1	
	クォーターオープン講座 b	1前・後	1			○								兼1	
	クォーターオープン講座 c	1後	1			○								兼1	
小計 (15科目)	—	0	27	0	—		0	0	0	0	0	0	兼30	—	
演習科目	演習 I	1後	2			○		3	1	1				兼8	集中
	演習 II a	2前	2			○		3	1						
	演習 II b	2後	2			○		3	1						
	演習 III a	3前	2			○		5	2	2					
	演習 III b	3後	2			○		5	2	2					
	演習 IV a	4前	2			○		5	2	2					
	演習 IV b	4後	2			○		5	2	2					
	卒業研究	4通	4			○		5	2	2					
小計 (8科目)	—	18	0	0	—		5	2	2	0	0	0	兼8	—	
人間を学ぶ	人間社会学入門	1前	2			○		1	2	2				兼5	オムニバス/ メディア
	心理学概論	1前・後	2			○								兼2	
	コミュニケーション概論	1前・後	2			○								兼1	
	教育学概論	1後	2			○								兼1	
	発達心理学	2前	2			○								兼1	
	異文化理解	2後	2			○								兼2	
	文化人類学	2前	2			○								兼1	
小計 (7科目)	—	6	8	0	—		1	2	2	0	0	0	兼10	—	
社会を学ぶ	社会学概論	1前・後	2			○								兼1	—
	法律学概論	1前・後	2			○								兼2	
	ジェンダー論	1後	2			○								兼1	
	地理学概論	1後	2			○								兼1	
	女性と労働	2前	2			○								兼1	
	メディア社会論	2前	2			○								兼1	
	国際関係概論	2前	2			○								兼1	
小計 (7科目)	—	4	10	0	—		0	0	0	0	0	0	兼7		
ビジネスを学ぶ	経済学概論	1前・後	2			○								兼2	—
	経営学概論	1前・後	2			○								兼1	
	簿記論 I	1前	2			○								兼2	
	簿記論 II	1後	2			○								兼2	
	民法概論	2前	2			○								兼1	
	マーケティング論	2前	2			○								兼1	
	商法概論	2前	2			○								兼1	
小計 (7科目)	—	4	10	0	—		0	0	0	0	0	0	兼8		
未来をデザインする	キャリア・マネジメント論	1後	2			○								兼1	—
	キャリア・デザイン論	2前	2			○								兼1	
	実践デザインラボ I	1後	2			○			1						
	アントレプレナーシップ論	1前	2			○		1							
	アントレプレナーシップ演習	2後	2			○		1							
	リーダーシップ開発 a	1後	2			○		1							
	リーダーシップ開発 b	2前	2			○		1							
小計 (7科目)	—	0	14	0	—		1	1	0	0	0	0	兼2		
リサー	社会と統計	1後	2			○		1							—
	社会調査概論	1前	2			○		1							
	社会調査方法論	1後	2			○								兼1	

専門教育科目	基礎科目	チ・スキル	社会の基礎数学	1前	2	○								兼1		
		調査・実験データ処理法	2後	2	○			1							メディア	
		プログラミング基礎	1後	2	○					1					メディア	
		データベース基礎	2前	2	○					1						
		小計 (7科目)	—	2	12	0	—		1	0	1	0	0	0	兼2	—
	基礎科目	コミュニケーション・スキル	英語コミュニケーションⅠa	1後	1		○								兼5	
		英語コミュニケーションⅠb	1後	1			○								兼5	
		英語コミュニケーションⅡa	2前	1			○								兼3	
		英語コミュニケーションⅡb	2前	1			○								兼3	
		英語コミュニケーションⅢa	2後	1			○								兼3	
		英語コミュニケーションⅢb	2後	1			○								兼3	
		日本語コミュニケーション基礎	1前	2		○									兼1	
		日本語コミュニケーション実践	1後	2		○									兼1	
		小計 (8科目)	—	6	4	0	—		0	0	0	0	0	0	兼12	—
	基礎科目	基幹科目	社会情報学概論	2前	2		○			1						
		情報と職業	2後	2			○			1						
		サステナビリティ論	2前	2			○			1						
		社会システム論	2後	2			○								兼1	
		社会・集団・家族心理学	2前	2			○								兼1	
		社会言語学	2前	2			○								兼1	
		都市フィールドワーク論	2後	2			○								兼1	
		課題解決プロセス基礎	2前	2			○			1						
		社会科学における AI・機械学習	2前	2			○					1				
		マルチメディア処理	2後	2			○								兼1	
		実践デザインラボ II	2前	2			○	○			1					
		デザイン思考とデータ活用	2後	2			○			1						
地域社会学		2前	2			○								兼1		
応用経済学		2後	2			○								兼1		
行動経済学		2後	2			○								兼1		
特別講義 a		2前	2			○			1							
特別講義 b		3後	2			○			1							
小計 (17科目)	—	0	34	0	—		4	1	1	0	0	0	兼7	—		
展開・応用科目	表象メディア論	2前	2			○					1					
	メディア・コミュニケーション論	2前	2			○					1					
	メディア情報学	2前	2			○			1							
	情報セキュリティ	2前	2			○			1							
	応用倫理学	2前	2			○				1						
	国際政治論	2前	2			○								兼1		
	身体論	2前	2			○				1						
	テクノロジーと性	2前	2			○				1						
	共創デザイン論	2後	2			○			1							
	社会ネットワーク論	2後	2			○								兼1		
	広告・PR論	2後	2			○	○							兼1		
	福祉社会学	2後	2			○								兼1		
	メディア心理学	2後	2			○								兼1		
	マスメディア論	2後	2			○								兼1		
	メディア・ワークショップ	2後	2			○	○				1					
	社会科学におけるデータと数理	2後	2			○			1							
	データに基づく地域創生	2後	2			○			1							
	データ時代の女性キャリア開発	2後	2			○								兼1		
	シリアスゲーム・デザイン演習	2後	2			○	○			1						
	ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	2後	2			○	○							兼1		
	社会科学における Web データ収集技術論	2後	2			○	○				1					
	社会科学データ分析	3前	2			○	○		1							
	共創デザイン・プロジェクト	3前	2			○	○		1							
メディア情報リテラシー	3前	2			○								兼1			
イノベーション論	3前	2			○						1		兼1			
メディアとインターセクショナルリティ	3前	2			○						1					
社会科学におけるプログラミング	3前	2			○					1						
社会科学におけるソフトウェア設計	3前	2			○					1						
課題解決プロセス応用	3前	2			○			1								

展開・応用科目	ソーシャル・マーケティング論	3前		2			○							兼1		
	ジェンダード・イノベーション	3前		2			○			1						
	リスク・コミュニケーション	3前		2			○			1						
	社会調査実習Ⅰ	3前		2			○		1							
	社会調査実習Ⅱ	3後		2			○		1							
	デジタルメディア論	3後		2		○			1							
	メディア表現	3後		2		○								兼1		
	メディアデータ分析	3後		2			○				1					
	社会科学における AI・機械学習応用	3後		2			○				1					
	社会科学における質的データ分析	3後		2			○			1						
	社会的価値創造論	3後		2			○			1						
	心理学統計法	3後		2			○							兼1		
	人工知能と人間・社会	3後		2			○			1						
	科学技術社会論	3後		2			○				1					
リスク社会論	3後		2			○				1						
小計 (44科目)		—	0	88	0		—		5	2	2	0	0	9	—	
専門資格科目	関係行政論	2後			2	○								兼1		
	言語コミュニケーション開発支援実習	3通			1		○							兼1	集中	
	公認心理師の職責	2前			2	○								兼1		
	心理実習	3通			4		○							兼3	集中、共同	
	精神疾患とその治療	3後			2	○								兼1		
小計 (5科目)		—	0	0	11		—		0	0	0	0	0	兼7	—	
合計 (286科目)			—	48	458	11		—		5	2	2	0	0	兼201	—
学位又は称号		学士 (人間社会学)			学位又は学科の分野			文学関係、社会学・社会福祉学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
①共通教育科目： 必修科目8単位、選択必修科目6単位以上（「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」の分野から各2単位以上）、合計28単位 ②専門教育科目： 必修科目40単位、選択必修科目20単位以上（基幹科目と展開・応用科目から合計20単位以上）、合計76単位 ③その他： ①、②の要件の他、共通教育科目、専門教育科目の選択科目から合計20単位以上 ①、②、③の要件を満たし、合計124単位以上 （履修登録単位数の制限：各学期（セメスター）22単位）							1学年の学期区分			2学期						
							1学期の授業期間			14週						
							1時限の授業時間			100分						

授 業 科 目 の 概 要			
(人間社会学部 社会デザイン学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 実践スタンダード科目	実践入門セミナー	学生生活を送るうえで必要な知識・技能を身につけるセミナー形式の授業である。積極的に授業に参加し、自分の学習目標、将来計画等を視野に入れながら授業に取り組むこと。実践女子大学の学生として学んでいく上での必要不可欠な基本的知識や技能を身につけること、また社会について視野を広げて卒業後の将来について考えることを目的としている。特に、生涯にわたり知を探究して学び続ける自己研鑽力、現状を正しく把握して課題を発見する行動力、他者と互いに役割を理解して協力できる協働力の育成を目指す。	
	実践キャリアプランニング	人生100年時代と言われる超高齢化社会にあつて、どのように人生を設計し、キャリアを築き、生活していくかが問われる時代となっている。特に女性の生き方の選択肢は様々であり、単純に方向性を指し示せるものではない。 本科目ではこれまでの社会を形成してきた、女性を取り巻く環境の推移や実態についての理解を深め、そして将来を見据え、これからの時代における仕事とは、また仕事と家庭の両立などについて考えていく。 大学卒業後、仕事・結婚・子育てなどの大きなライフイベントにどう対応していくか、人生にとって重要な判断をしなければならぬ。その判断材料としての事例紹介やロールモデルに登場してもらい、より身近に社会や仕事を実感し、自らのキャリア形成に役立てていく場としていく。さらには社会でいま求められている「新社会人基礎力」を学び、そのための疑似ビジネス体験のワークを行う。	
	Integrated English a	The theme of this course is enhancing students' English speaking and reading skills in meaningful and practical ways. この授業は、言語が実際に使われる実践場面を体験しながら、「話す(発表)」「読む」能力を向上させることをテーマにしている。 This course aims to help students, through active learning methodology, advance their English speaking, and reading skills to a CEFR A2 or B1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem solving skills to gain deeper insights into the course content. この授業では、アクティブラーニングの手法を通じて、「話す(発表)」「読む」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高め、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。	
	Integrated English b	The theme of this course is enhancing students' English speaking and listening skills in meaningful and practical ways. この授業は、言語が実際に使われる実践場面を体験しながら、「話す」「聞く」能力を向上させることをテーマにしている。 This course aims to help students, through active learning methodology, advance their English speaking (interaction) and listening skills to a CEFR A2 or B1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem solving skills to gain deeper insights into the course content. この授業では、アクティブラーニングの手法を通じて、「話す(やりとり)」「および「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高め、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。	
	データサイエンス入門	数理・データサイエンス・AIに関する知識を得ることを目的とする。具体的には、数理データサイエンスAIが社会の変化や自らの生活に密接に結びついていること、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになること、新たな価値を創出すること、情報セキュリティや個人情報保護など活用する上での留意事項などについて、様々な現場におけるデータ活用の事例を含めて、講義する。	

実践スタンダード科目	情報リテラシー基礎	<p>本学での学習活動（レポート・資料等の作成）をはじめ、情報化社会で生活する上で欠かすことのできない情報リテラシーを学ぶ。情報リテラシーとは、コンピュータを使ってさまざまな情報を集めたり、それを役立てたりする能力のことである。本学における情報環境を理解し、学内・学外を問わずコンピュータ、インターネットを活用し、レポート作成においてWord、Excel、PowerPointなどのソフトを活用するために必要な基本スキルを身につけることを目標とする。それらは、学生として修得すべき【研鑽力】のうち、学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり学問を続ける基礎力を養う。また、現状を正しく把握し、課題を発見できる【行動力】の基礎となる。</p>	
	キャリアデザイン	<p>目まぐるしく変化する社会情勢にあつて、就職活動戦線を勝ち抜き、社会で輝き続ける女性となるために必要な「人間力」とは、知識・スキルとは何か、また、社会は今、何を求めているのかなどを深く考える。</p> <p>「自ら選択し、考え、行動し、やりきる」ための主体性を育み、そしてチームでディスカッションを重ね、多様性が重視される現代社会で活躍するための、自らの可能性の発見とコミュニケーション力を身につける。常に産業界の動向に注視し、社会が求める人材について深く学ぶとともに、実際の社会人からの講話なども通じ、できる限りリアリティの感じられる授業内容を通じ、社会人基礎力について修得する。</p> <p>学部学科を横断した学生が、幅広い社会や企業について講義や実際の課題解決のワークショップを経験することで、多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度を身につけることなどでディプロマ・ポリシーの達成を目指す。</p>	
	グローバル・キャリアデザイン	<p>この科目では、「キャリアデザイン」を発展させ、グローバル化が一層加速する21世紀の日本社会で、実践女子大学の卒業生らしく働くための具体的なヒントを提示するとともに、国際社会で必要とされる「主体性」について共に学んで行くことをテーマとする。就職活動のテクニックやスキルを身につけるための講義ではなく、学生総合支援センターとも連携して、就職活動に活きる内容を構築する。この授業科目を終えたときには、働くことにワクワク感を覚え、21世紀の社会を生き抜くための強さとしなやかさ、そして知性がさらに磨かれていることを目標とする。主体的な学生の受講を期待している。産業界で求められている人材像を意識し、とりわけ加速度的にニーズの高まる女性として必要なキャリア意識を身につけると共に、数々の社会人のレクチャーから多様な働き方を理解し、社会人として活躍できる素養を修得する。</p>	
	短期インターンシップ	<p>前半は、組織の一員として活躍するために必要な態度やスキルをグループワーク等を通して身に付け、学生が修得すべき「協働力」を修得する。</p> <p>後半は企業、地方公共団体等における就業体験を通じて、課題を発見する力を修得する。インターンシップは以下、実習とする。</p> <p>I. 実習期間及び時間数</p> <p>大学が許可した受入先で5日間以上、各日7時間を目安とした実習を終了することにより単位を認定する。原則として夏期休暇中の日程を設定し、実習のための欠席は公欠扱いにはならない。</p> <p>II. 実習内容</p> <p>実業務に近い就業体験を行う。具体的な内容は、企業よりインターンシップ受入計画書を提出してもらい、実習内容決定後、受入機関と大学とでインターンシップに関する協定書等を締結する。</p> <p>III. 教員の役割と分担</p> <p>授業全体の管理及び一部講義を教員が担うが、前期の講義及び実習の運営はキャリアサポート部が行う。</p>	

共通教育科目

実践アドバンスト科目

キャリア教育科目

<p>長期インターンシップ</p>	<p>前半授業は、組織の一員として活躍するために必要な態度やスキルをグループワーク等を通して身に付け、学生が修得すべき「協働力」を修得する。 後半は企業、地方公共団体等における就業体験を通じて、社会人として働くために必要なジェネリックスキル全般を身に付ける。インターンシップは以下、実習とする。 I. 実習期間及び時間数 大学が許可した受入先で14日間以上、各日7時間を目安とした実習を終了することにより単位を認定する。実習のための欠席は公欠扱いにはならない。 II. 実習内容 実業務に近い就業体験を行う。具体的な内容は、企業よりインターンシップ受入計画書を提出してもらい、実習内容決定後、受入機関と大学とでインターンシップに関する協定書等を締結する。 III. 教員の役割と分担 授業全体の管理及び一部講義を教員が担うが、前期の講義及び実習の運営はキャリアサポート部が行う。</p>	
<p>キャリア開発実践論</p>	<p>社会が求める力とは何か、企業研修レベルの内容で、社会人基礎力の中でも、とりわけ今、社会が求めている～「リーダーシップ」と「ファシリテーション」を学ぶ、また今の社会を知る（ダイバーシティとインクルージョンについて学ぶ）ことを軸に、夏期休業期間中に2泊3日で外部研修施設を利用しての集中講義形式で実施する授業である。4年生の参加も歓迎する。企業研修レベルの内容で、「リーダーシップ」と「ファシリテーション」を学ぶことで、今、社会で必要とされる力、とりわけ企業のリーダーレベルの内容を身に付けることが出来る。また、ディプロマ・ポリシーに照らし合わせた時、研鑽力、行動力、協働力の3つの能力が磨かれることを到達目標とする。</p>	
<p>ビジネスのスキルとマナー</p>	<p>社会では、みなさんがどんなに「やる気」や「能力」を持っていても、それをアピールするコミュニケーション能力やマナー（態度等）を知らなければ、みなさんの想いを伝えることができず、仕事で成果を十分に発揮することはできない。 この講義では、入社後、即戦力として活躍してもらうために、そして自分らしく幸せなキャリアを築くために、社会に出た際に必要な常識・情報・知識・スキルを学ぶ。 ① 会社・組織・役割について理解する ② 社会人として評価されるビジネスマナーを学ぶ ③ 働く人のための労働法規のポイントを理解する 以上により、社会に必要な「研鑽力」「行動力」「協働力」を身につけることを到達目標とする。</p>	
<p>国際理解とキャリア形成</p>	<p>IT社会の急速な発展や深刻化する人口減少・高齢化社会への突入で社会・経済のみならず私たちの日常生活においても今後益々国際的なつながりが求められる。 こうしたなか国際感覚溢れる人材を目指し、よき日本人としてまずは改めて日本のことをよく知り、そして世界主要諸国の歴史や直近の動静を学ぶ。 またリアルに国際感覚を感じるために外部スピーカーを招聘し、自らの国際ビジネス体験などを語ってもらう。 本科目は本年より、「EXPO 2025」を題材に取り上げ、実践力アップのためのアクティブラーニング型の授業を行っている。本年についてもより発信力のある内容にて実施する。 グローバル業務経験者を招き、自らの国際経験を語ってもらう。今後のグローバル社会でどう自分を活かしていくかを考える。（国際的視野・研鑽力・協働力）</p>	
<p>女性とキャリア形成</p>	<p>「人生100年時代」をどう生きるか、大学でいかに学び、社会でいかに活躍をするか。「大学の価値は、卒業生が決める」とも言われているように、学生の皆さん一人ひとりのキャリアこそが実践女子大学の価値を決める。激動の社会の中で、トップとして活躍されている方をお招きし、ご自身のキャリアや、考える視点、これから社会人となる大学生にとって必要なことは何なのか、広い視座、高い視点からの講演を通して、語りかけてもらう。企業の第一線で活躍されているトップの講演を通して、多様性を受容し、多角的な視点を以ってグローバル社会に挑む態度を身に付けることを目指す。講演の前後に行われる、インプット&アウトプットの時間を通じ学ぶ楽しみを知るとともに、スピーカーが伝えたかったことを探求することで、物事の本質を見抜く力を修得する。</p>	

キャリア教育科目	キャリア・ショーケース	「人生100年時代」をどう生きるか、大学でいかに学び、社会でいかに活躍をするか。「大学の価値は、卒業生が決める」とも言われているように、学生の皆さん一人ひとりのキャリアこそが実践女子大学の価値を決める。激動の社会の中で、トップとして活躍されている方をお招きし、ご自身のキャリアや、考える視点、これから社会人となる大学生にとって必要なことは何なのか、広い視座、高い視点からの講演を通して、語りかけてもらう。		
	ライフデザイン	あなたは大学を卒業してからどんな人生を歩むのだろうか？もし不安があるとしたらそれはどんなことだろうか？就職すると今までの生活とどう変わるのか？結婚したら仕事はどうなるのだろうか、出産したらどうなるのか？仕事を辞めて専業主婦になるとどうなるのだろうか？ずっと働き続けたらどうなるのだろうか？様々な人生の岐路に立った時にあなたはどのように判断するのか？最終的にあなたが自分の人生で大事なことを決める時に判断材料にする経済の知識と金融に関する知識、そしてそのベースとなる制度を理解しているかどうかは重要なポイントである。この授業を通して経済のしくみ、基本的な金融に関する知識を学び、あなたがあなた独自の人生をデザインするための基盤の一つを得ることを期待している。		
	実践企業分析論	情報化社会において大量に流通する情報の中から、情報の種類を概念として理解、整理しその信頼度を測りながら対象を多角的に分析する力は、ビジネスパーソンとして活躍するために、重要な能力である。また多くの大学生にとってキャリアのファーストステップとなる新卒時の就職において、対象企業を多様な角度から分析、理解する事は自分が働く企業を決める上で大きな判断要素となる。本授業では有価証券報告書を軸に様々な情報を追加収集し、その分析を行う事で、情報を種類に応じて使いこなし、自らの考えや説明に論理的根拠を持たせる力を高める。またプレゼンテーションとディスカッションを通じて、自分の考えを言語化し第三者を納得させるための実践的なトレーニングを行う。		
実践アドバンス科目	実践企業分析論演習	企業分析論講義を通じて得た情報収集力、分析力とプレゼンスキルの実践を通じたさらなる向上。授業における到達目標は、「企業分析論の基本的知識を前提に、自身で企業分析を行える。」「自分の分析の結果を他者にわかりやすく伝える事ができる。」「他者の分析に対して、自分なりの見解から指摘、質疑を行う事ができる。」である。		
	外国語教育科目	Effective Writing	日常生活からアカデミックな場面で最低限必要な「書くこと」に関する知識および技能の習得を目的とする。具体的には、パラグラフ・ライティング、エッセイ、基本的なリサーチペーパー等の書き方に加えて、英語による、メール、履歴書、あるいは報告書等の基本的な書き方に関する知識および技能を習得する。	
		Effective Speaking	The goal of speaking another language is communicating with others. Students will practice, activate their own English, while also improving their vocabulary, confidence, response, and reaction speed. In-class students will speak and practice using English weekly through role-plays and discussions. Important in this class is that students create and maintain an atmosphere where everyone feels comfortable to freely share their opinions on weekly topics. 外国語を話す最終目標は相手とのコミュニケーションである。反復練習し、自信の英語を活性化させる。また語彙、自信、対応、そしてリアクションスピードを向上させる。授業では週ごとにロールプレイやディスカッションを通して英語を使いながら会話し学修する。この授業で大切なことは、毎週のトピックでそれぞれの意見を自由に共有できるような雰囲気を作り、維持することである。	
Active Reading		読解に関する基本的な技能とストラテジーを習得することを目的とする。具体的には、多読・速読・精読等による基本的な読解能力を向上させるトレーニングに加えて、アカデミック・ペーパー、ニュース記事等を取り上げて、効果的な読み方の技能やストラテジーを習得することを目的とする。さらに、学生自身が読んだ内容について発表させる機会を設けることで、習得した技能やストラテジーを実践的な場面で利用する機会を設ける。		
共通教育科目				

Active Listening	<p>聴解に関する基本的な技能とストラテジーを習得することを目的とする。具体的には、聴解能力を向上させるトレーニングに加えて、英語の講義やスピーチ、会議等での効果的なメモの取り方や質問の方法等、より実践的な場面で必要な技能やストラテジーを習得することを目的とする。</p>	
CEFR B1	<p>CEFR B1 レベルを目指した資格試験対策を通じて、5 技能（「読むこと」、「聞くこと」、「書くこと」、「話すこと（発表）」、「話すこと（やりとり）」をバランスよく向上させることを目的とする。具体的には、TOEIC® L&Rに加えて、TOEIC® S&W、TOEFL、TEAP、あるいは英検等幅広い資格試験に対応できる授業を開講する。なお、この科目は、資格認定科目としても開講する。</p>	
Global Studies a	<p>【Psychology】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically, be creative, communicate and collaborate about the course content 【心理学】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。学生は授業内容について批判的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。</p>	
Global Studies b	<p>【 Intercultural Competence】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically, be creative, communicate and collaborate about the course content 【異文化理解能力】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。学生は授業内容について批判的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。</p>	
Global Studies c	<p>【World Culture / Sociolinguistics】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically, be creative, communicate and collaborate about the course content 【世界文化/社会言語学】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。学生は授業内容について批判的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。</p>	
Global Studies d	<p>【Japanese Culture / Nutrition】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically, be creative, communicate and collaborate about the course content 【日本文化/栄養学】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。学生は授業内容について批判的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。 (オムニバス方式・一部共同/全14回) 54 山崎壮 8回 日本食を説明する語彙・日本食のマナーとコツ 15 於保 祐子 8回 健康によい日本食・お弁当</p>	オムニバス方式・一部共同
Global Studies e	<p>【Media / Education】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically, be creative, communicate and collaborate about the course content 【メディア/教育】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。学生は授業内容について批判的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。</p>	

Global Studies f	<p>【World Heritage】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically, be creative, communicate and collaborate about the course content</p> <p>【世界遺産】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。学生は授業内容について批判的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。</p>	
Global Studies g	<p>【Travel Industry】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically, be creative, communicate and collaborate about the course content</p> <p>【旅行業】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。学生は授業内容について批判的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。</p>	
Global Studies h	<p>【Fashion and Cosmetics】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically, be creative, communicate and collaborate about the course content</p> <p>【ファッションとコスメティック】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。学生は授業内容について批判的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。</p>	
Global Studies i	<p>【Global Business Communication / Preparation for Internship】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically, be creative, communicate and collaborate about the course content</p> <p>【グローバルビジネスコミュニケーション/インターンシップ準備】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。学生は授業内容について批判的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。</p>	
Global Studies j	<p>【Career Design】 This course is focused on a specific subject for which English is the medium of instruction. Course content will vary depending on the instructor. Students are expected to think critically, be creative, communicate and collaborate about the course content</p> <p>【キャリアデザイン】 本科目では英語が教育手段である特定の課題に焦点をあてたものである。学生は授業内容について批判的に考え、創造し、コミュニケーションをとり協力することが期待される。</p>	
フランス語 1 a	<p>フランス語の最も初歩的な表現や文法事項を学び、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、フランス人と簡単なコミュニケーションをとるときに活用できるフランス語を身に付ける。</p> <p>フランス語と同時に、動画や音楽、写真などを鑑賞しながら、フランス語圏の文化・社会、フランス語圏の現地情報等についても理解を深めていく。フランス語の簡単な日常会話の修得、及びフランス語の学習を通じてフランス語圏の文化・社会に対する理解を深めることで、国際的視野を広げ、研鑽力を身に付けることを目標とする。</p>	

フランス語 1 b	<p>「フランス語1a」からの継続授業である。「フランス語1a」の内容を踏まえ、より内容豊かな口語表現と文法事項を学び、EU諸国やフランス語圏を旅行したり、フランス語圏の人と簡単なコミュニケーションをとるときに活用できるフランス語を身に付ける。</p> <p>フランス語と同時に、動画や音楽、写真などを鑑賞しながら、フランス語圏の文化・社会、フランス語圏の現地情報等についても理解を深めていく。簡単な日常会話の修得、及びフランス語の学習を通してフランス語圏の文化・社会に対する理解を深めることで、国際的視野を広げ、研鑽力を身に付けることを目標とする。</p>	
ドイツ語 1 a	<p>The theme of this course is to introduce students to basic German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways. This course aims to help students through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, writing skills to a CEFR A1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion. この授業のテーマは有意義、実践的な方法で日常会話の基礎ドイツ語の学修である。目標はCEFR A1レベルのスピーキング、リスニング、リーディング ライティング力をアクティブラーニングを通して身につける事である。この授業で国際的な視点を広め、授業でより深い洞察力を身につけて積極的な問題解決能力を養う。授業はドイツ語、英語、日本語のコンビネーションで行われる。</p>	
ドイツ語 1 b	<p>The theme of this course is to introduce students to basic German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways. This course is a continuation of ドイツ語 1a. This course aims to help students, through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, writing skills to a CEFR A1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion. この授業のテーマは有意義、実践的な方法で日常会話の基礎ドイツ語の学修である。ドイツ語1aから引き続いていく。目標はCEFR A1レベルのスピーキング、リスニング、リーディング ライティング力をアクティブラーニングを通して身につける事である。この授業で国際的な視点を広め、授業でより深い洞察力を身につけて積極的な問題解決能力を養う。授業はドイツ語、英語、日本語のコンビネーションで行われる。</p>	
中国語 1 a	<p>基礎発音を習得した上、簡単な会話勉強を通じて基礎的な文法を勉強する。毎回、文法ポイントの語彙や慣用句をしっかり勉強し、会話練習をするほか、短文の読み書きなどの練習もする。それを通じて、中国語の日常的な表現を覚え、中国語の基礎力を身につける。この授業を履修して多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を身につけることを目指す。目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする力「研鑽力」、学修成果を実感して、自信を創出する能力を身につけることを目指す。</p>	
中国語 1 b	<p>中国語1aで習った中国語の基礎知識を踏まえて、日常会話と短文の読み書きなどの練習をしながら、引き続き基礎文法を勉強する。それを通じて中国語の日常的な表現を覚え、中国語の基礎力を高める。この授業を履修して多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を身につけることを目指す。目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする力「研鑽力」、学修成果を実感して、自信を創出する能力を身につけることを目指す。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情を学び、国際的視野を広げ国際感覚を身につけるようにする。</p>	
韓国語 1 a	<p>韓国語を初めて学ぶ人を対象に、文字と発音、あいさつ言葉と簡単な文型を学ぶ。ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる。自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べるができるようになる。</p> <p>学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得する。</p>	

<p>コリア語 1 b</p>	<p>コリア語1aで既習した文法知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高める。ごく簡単な短文レベル程度の文章理解力があり、簡単な内容であれば、自分の意思を単語あるいはフレーズで伝えられる。自分について、自分が何をしているか、自分が住んでいる場所を、述べるができるようになる。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得する。</p>	
<p>スペイン語 1 a</p>	<p>This course aims to help students through active learning methodology, advance their Spanish speaking, listening, reading, writing skills to a CEFR A1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in Spanish. この授業ではアクティブラーニングを通してスペイン語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティング力をCEFR A1レベルまで向上させる事を目的としている。それにより国際的視野を広げ授業内容をより深く洞察できる問題解決スキルを積極的に応用する能力を養う。この授業はスペイン語で行われる。</p>	
<p>スペイン語 1 b</p>	<p>This course continues to help students, through active learning methodology, advance their Spanish speaking, listening, reading, writing skills to a CEFR A1 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in Spanish. この授業ではアクティブラーニングを通してスペイン語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティング力をCEFR A1まで向上させることを継続していく。それにより国際的視野を広げ問題解決スキルを応用することで授業内容をより深く洞察できる能力を養う。この授業はスペイン語で行われる。</p>	
<p>フランス語 2 a</p>	<p>すでに学んだフランス語の基本的な表現をもとに、さらなるフランス語力の習得を目指す。 簡単な読み物、料理のレシピなどを通して総合的な語学能力を身につけましょう。さまざまな文法事項を整理し、より複雑なフランス語の文を理解できるようになる。CEFR水準のA2に相当する語学力を身につけることを目標とする。 フランス語とフランス文化の学習を通して、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけ、国際的視野を養う。また、目標を設定して計画を立案・実行できる行動力を修得する。</p>	
<p>フランス語 2 b</p>	<p>すでに学んだ基本をもとに、さらなるフランス語力の習得を目指す。文法だけではなく、読み物を通してある程度の長さの文章を理解し、総合的な語学力を身につける。条件法などを学び、より複雑な文章を理解できるようになる。CEFR水準のA2に相当する語学力を身につけることを目標とする。 フランス語とフランス文化の学習を通して、異なる価値観や文化を持つ人々と相互理解を深めようとする態度を身につけ、国際的視野を養う。また、目標を設定して計画を立案・実行できる行動力を修得する。</p>	
<p>ドイツ語 2 a</p>	<p>The aim of this course is to introduce students to intermediate German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways. The course aims to help students, through active learning methodology, advance their German speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and Japanese on occasion. この授業の目標は有意義、実践的な方法で日常会話を目指す中級ドイツ語の学修である。目標はCEFR A2レベルのスピーキング、リスニング、リーディング、ライティング力をアクティブラーニングを通して身につける事である。この授業で国際的な視点を広め、授業でより深い洞察力を身につけて積極的な問題解決能力を養う。授業はドイツ語、英語、日本語のコンビネーションで行われる。</p>	

ドイツ語 2 b	<p>The theme of this course is to introduce students to intermediate-level German as spoken on a daily basis in meaningful and practical ways. This course is a continuation of ドイツ語 2 a. The course aims to help students, through active learning methodology, advance their low-intermediate German speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in a combination of German and English and also Japanese on occasion. この授業の目標は有意義、実践的な方法で日常会話を目指す中級ドイツ語の学修である。ドイツ語2aから引き続いている。目標はCEFR A2レベルのスピーキング、リスニング、リーディング、ライティング力をアクティブラーニングを通して身につける事である。この授業で国際的な視点を広め、授業でより深い洞察力を身につけて積極的な問題解決能力を養う。授業はドイツ語、英語、日本語のコンビネーションで行われる。</p>	
中国語 2 a	<p>この授業では、いままで習得した中国語の基礎知識を踏まえて、簡単な文章の読解と実用的な会話を勉強する。授業での練習を通じて、必要な表現と文法を勉強し、中国語の基礎力を身につけるようにする。この授業を履修して多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を身につけることを目指す。目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする力「研鑽力」、学修成果を実感して、自信を創出する能力を身につけることを目指す。 中国語能力においては次のことを目指す。簡単な意思表示を中国語で伝えるような能力を身につけ、いざという時（旅行、仕事など）に役に立つ。初級から中級程度の中国語を勉強し、中国語2a2bを習得した段階で検定試験 4 級以上の語学力を身につける。また、CEFR のレベル A2 を目標とする。</p>	
中国語 2 b	<p>この授業では、今まで習得した中国語の基礎を踏まえて、簡単な文章の読解と実用的な会話を勉強する。授業での練習を通じて、必要な表現と文法を勉強し、中国語の基礎力を身につけるようにする。この授業を履修して多様な価値観を持つ国内外の人々との交流を通して、相互の理解と協力を築こうとする態度を身につけることを目指す。目標達成を目指す過程においては学修を通して自己成長をする力「研鑽力」、学修成果を実感して、自信を創出する能力を身につけることを目指す。また、中国語を学びながら背景知識となる中国の現代事情を学び、国際的視野を広げ国際感覚を身につけるようにする。</p>	
韓国語 2 a	<p>韓国語 1a・b で既習した文法知識をもとに、初級から中級レベルで必要となる新しい語彙や文型を学ぶとともに、韓国語 a・b に比べて会話の練習と韓国文化の理解に重点を置く。日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行える。韓国語能力試験 (TOPIK) 初級語彙のうち、1,000語程度の語彙を用いた文章を理解できるようになる。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得する。</p>	
韓国語 2 b	<p>韓国語 2a で既習した文法知識を拡大しつつ、より新しい場面における会話の練習を通じ、韓国語のコミュニケーション能力を総合的に高める。そして韓国の文化への理解をもさらに深めていく。日常の出来事程度の文章理解力があり、意思疎通が文レベルで行える。韓国語能力試験 (TOPIK) 初級語彙のうち、2,300語程度の語彙を用いた文章を理解できるようになる。学生が修得すべき「国際的視野」のうち、相互理解と協力を築こうとする態度を修得する。</p>	
スペイン語 2 a	<p>The course aims to help students, through active learning methodology, advance their low-intermediate Spanish speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in Spanish. この授業ではアクティブラーニングを通して中級以下のスペイン語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティング力を CEFR A2 まで向上させることを目的とする。それにより国際的視野を広げ問題解決スキルを応用することで授業内容をより深く洞察できる能力を養う。この授業はスペイン語で行われる。</p>	

スペイン語 2 b	<p>The course continues to help students, through active learning methodology, advance Spanish speaking, listening, reading, and writing skills to a CEFR A2 level. In doing so, students will broaden their international perspectives and cultivate their ability to actively apply problem-solving skills to gain deeper insights into the course content. The class will be instructed in Spanish.</p> <p>この授業ではアクティブラーニングを通してスペイン語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティング力をCEFR A2まで向上させることを継続していく。それにより国際的視野を広げ問題解決スキルを応用することで授業内容をより深く洞察できる能力を養う。この授業はスペイン語で行われる。</p>	
海外語学研修a	<p>この研修は、4技能と文法をコアとする学習に加え、日常表現や正式な表現を学ぶ。授業は各国からの学生と共に受講する。様々なアクティビティーも用意されている。滞りはホームステイを予定しており、日常生活の中からも文化や言語を習得できる環境である。この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。</p> <p>※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級</p>	
海外語学研修b	<p>オーストラリアに4つのキャンパスをもつディーキン大学の付属英語学校は、1998年から留学生向けの英語集中プログラムを提供している。実際の生活や大学の授業で役立つ実践的な英語のプログラムが初心者レベルから上級者レベルまで用意され、自分に合ったレベルのクラスに参加する。この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。</p> <p>※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級</p>	
海外語学研修c	<p>この研修は、中国語運用能力向上と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした、北京大学主催の夏期集中講義である。研修初日にクラス分けテストを実施され、レベルごとに1クラス15名前後で授業が行なわれる。授業以外には、中国文化講義や名所旧跡の見学、京劇等の見学など、悠久の歴史・文化に触れる機会が設けられている。この研修は、中国語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養う。また、中国の歴史・文化への理解を深めることが目的である。</p> <p>※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級</p>	
海外語学研修d	<p>この研修は、韓国語の習得と韓国文化の理解を深めることを目的とした檀国大学校主催の夏期韓国語・文化集中プログラムである。午前のクラスでは韓国語を集中的に学び、午後のクラスでは様々な内容の韓国文化（韓国の料理、工芸、伝統音楽・K-POPダンス、テコンドー等）を体験する。この研修は、韓国語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養う。また、韓国の歴史・文化への理解を深めることが目的である。</p> <p>※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級</p>	
海外語学研修e	<p>アメリカの名門 ワシントン大学が実施するこのプログラムは、通常の語学留学のコンテンツを「そのまま」オンラインで行うユニークな研修である。アメリカ文化と生活に関する身近なテーマについてSpeaking & Listening アクティビティーを通じて、ボキャブラリーと様々な場面での表現方法を学ぶ。ワシントン大学の学生との会話、ゲストスピーカーによるレクチャー、シアトル周辺のバーチャルツアーやグループワークとプレゼンテーションを行い、楽しみながら実践的な英語を学べる。この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。</p> <p>※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級</p>	

海外語学研修f	オーストラリアに4つのキャンパスをもつディーキン大学の付属英語学校は、1998年から留学生向けの英語集中プログラムを提供している。実際の生活や大学の授業で役立つ実践的な英語のプログラムが初心者レベルから上級者レベルまで用意され、自分に合ったレベルのクラスに参加できる。日本にいながらにして、リアルタイムで世界各国からのクラスメイトと一緒に授業が受けられることが最大の魅力である。この研修は、英語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につけるべき態度・能力のうち、「国際的視野」と「問題解決のために主体的に行動する力」を養う。 ※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級	
海外語学研修g	この研修は、ドイツ語運用能力向上とドイツの歴史・文化に対する理解を深めることを目的とした、フライブルク大学主催のオンライン集中講義である。授業は、一クラス20名弱の小人数で行われる。この研修は、ドイツ語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養う。また、ドイツの歴史・文化への理解を深めることが目的である。 ※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級	
海外語学研修h	この研修は、フランス語運用能力向上とフランスに興味をもつことを目的とした、西部カトリック大学付属語学センター主催のオンライン集中講義である。授業は、一クラス最大15名の小人数で行われる。この研修は、フランス語運用能力のうち主に「話す」「聞く」能力をCEFR水準のA2あるいはB1レベルまで高める一助であるとともに、卒業するまでに身につける態度・能力のうち国際的視野と問題解決のために主体的に行動する力を養う。 ※CEFR ヨーロッパ言語共通参照枠 A2：初級、B1：中級	
海外短期インターンシップ	急速な社会のグローバル化に伴い、海外企業等においてダイバーシティ環境の中での就業経験等を有するチャレンジ精神のある材が求められている。この科目では、大学があらかじめ認めた海外インターンシップのうち、一定の条件を満たしたものに単位を認定する。海外インターンシップを通じて、多言語環境下での異文化コミュニケーションや業務遂行に際して、自ら主体的に学ぶことで、「国際的視野」、「協働力」、「行動力」、「チャレンジ精神」を養う。海外の企業等において、45時間以上～90時間未満の就業を体験し、活動終了後にその内容を活動報告書にまとめ、指定の期間内に「単位認定願」と合わせて学生総合支援センターに提出する。それにより、単位を認定する。	
海外長期インターンシップ	急速な社会のグローバル化に伴い、海外企業等においてダイバーシティ環境の中での就業経験等を有するチャレンジ精神のある材が求められている。この科目では、大学があらかじめ認めた海外インターンシップのうち、一定の条件を満たしたものに単位を認定する。海外インターンシップを通じて、多言語環境下での異文化コミュニケーションや業務遂行に際して、自ら主体的に学ぶことで、「国際的視野」、「協働力」、「行動力」、「チャレンジ精神」を養う。海外の企業等において、90時間以上の就業を体験し、活動終了後にその内容を活動報告書にまとめ、指定の期間内に「単位認定願」と合わせて学生総合支援センターに提出する。それにより、単位を認定する。	
情報リテラシー教育科目	情報スキル基礎 本学での学習活動（レポート・資料等の作成）をはじめ、情報化社会で生活する上で欠かすことのできない情報リテラシーを学ぶ。情報リテラシーとは、コンピュータを使ってさまざまな情報を集めたり、それを役立てたりする能力のことである。とくに、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関して、社会での実例も題材にして、実際にデータや課題を用いた演習を行う。	

実践アドバンス科目 共通教育科目	情報リテラシー教育科目	情報リテラシー応用 a	<p>本科目では、「デジタル画像の編集技術」をテーマに学習する。実習には、世界標準の画像加工ソフトのAdobe社のPhotoshopを使用する。このソフトによる「画像編集」スキルの習得は、「資料やレポート作成」、「趣味や学習」、「企業の広報部門や雑誌編集などメディアの仕事」に役立つ。</p> <p>制作課題1では、身近な「ポストカード」を制作する。印刷用原稿の制作には、同じAdobe社のIllustratorを使用する。制作課題2では「ブックカバー」を制作する。こちらは、A4サイズの文庫本用のオリジナルブックカバーをデザインし、質感のある用紙に印刷することでアナログのもつ温かみも実感することができる。</p>	
		情報リテラシー応用 b	<p>Officeスイート (Word、Excel、PowerPoint) を統合的に使い、効率の良い文書作成技能を身につけると共に、企業で必要とされるデータ処理スキルやプロジェクトの進捗状況報告などに必要なプレゼンテーションスキルを修得することを目標とする。MOS (マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト) の準備にもなる。Officeスイートのいろいろな機能を理解することにより、適切なツールを選び、活用することができるようになる。グローバルスタンダードのOfficeスイートを統合的に使い、社会に必要なドキュメントを効率的に作成する技能が身につく。</p>	
		情報リテラシー応用 c	<p>データベースは、大量の情報(データ)を蓄積・管理し、その中から目的のデータを簡単に検索・分析できるしくみである。現在の社会では、あらゆるところにデータベースが活用されており、私たちが意識しなくとも日常的にデータベースを利用しているはずである。身近なところでは、インターネットの検索システムや、ネットショップなどでの商品購入システムがあげられる。</p> <p>他にも大量のデータを扱う場面ではほぼデータベースが活用されている。この授業では、データベースの仕組みから、データベースの基本的な操作、さらにはデータベースを活用したシステムの構築までを学んでいく。</p>	
		情報リテラシー応用 d	<p>代表的なオブジェクト指向プログラミング言語であるJavaを用い、プログラミングの考え方、プログラミングの方法および実行にかかわるコンピュータの使用法を、講義と演習により修得し、コンピュータシステムについての理解を深める。Java言語を用いて基本的なプログラムが自分で作成できるようになることを目的とする(行動力)。条件分岐や繰り返しなどのプログラミング言語としての国際的に基本とされる構造を理解する(国際的視野・研鑽力)。クラス、オブジェクトを作成し、利用できる。</p>	
		情報リテラシー応用 e	<p>変動的で多様性のある社会環境において課題解決をし活躍をするためには、人々の共通認識である「情報」を表現し共有活用していく力が重要になる。</p> <p>本授業では「可視化」を通し、共創や創造を高めるコミュニケーションのデザインを学ぶ。本授業における「可視化」とは、非言語を含め情報を表現し人と伝え合うことである。</p> <p>目的に応じた情報を戦略的に可視化する技術を習得するために、前半では非言語ビジュアル表現の基礎を学び、後半ではグラフィックレコーディングやビジュアルファシリテーション、インフォグラフィックスなどの応用技術を実践する。</p> <p>スケッチなどの絵画表現の得意不得意は不問。授業はワークショップスタイルで実施する。</p>	
実践プロジェクト科目	実践プロジェクト a	<p>企業からの課題やテーマに対し、学生がグループ内で議論を重ね、企画策定したアイデアを企業に対してプレゼンテーションし、その内容を企業が評価するPBL (Project Based Learning) 形式の授業を通して、ビジネス・社会で重視され必要とされる能力である「主体性・チームワーク・論理思考」を習得することを目的とする。</p> <p>1年次に課題解決型の授業を履修することにより、2年次以降の大学の学び方を学び社会人としての基礎力を身に付けることを目標とする。</p>		

<p>実践プロジェクトb</p>	<p>企業・地域と連携したプロジェクトを進めていく中で、情報科目で学んだ文書作成・データ分析・プレゼンテーションやメディアの取り扱いなどのスキルをより高度に、実践的なものとして身に付けることを目指す。 またグループワークやプロジェクトにおいて重要視されているリーダーシップやファシリテーション、リフレクションなどの技法・スキルについても学ぶ。 ①企業・地域からの課題に対し、グループで問題を抽出・分析した上で、課題解決への方策を効果的にプレゼンテーションできるようになる。 ②グループワークの意味・個人の強みを理解した上で、グループワークにおいて「権限なきリーダーシップ」を発揮できるようになる。</p>	
<p>実践プロジェクトc</p>	<p>グローバル社会では、様々な文化をもつ人々と理解しあい、協働できるコミュニケーション力や多角的な視野が大切になってくる。そのようなスキルを、知識だけではなく、体験することによって学ぶ授業である。 SDGsを通してグローバルな課題について考え、実際に異文化理解を深めるプロジェクトに参加して、国際的な視野を広げる。 グローバルプロジェクトとして、アイアーン(iEARN)のHoliday Card Exchange プロジェクトの企画運営を体験し、体験を通し、学生のコミュニケーション力、行動力や協働力も向上することをめざす。</p>	
<p>ボランティアプロジェクトa</p>	<p>大学があらかじめ認めた学内外でのボランティア活動や研修のうち、一定の条件を満たしたものに単位を認定する。ボランティア活動や研修を通して、自ら主体的に学ぶことで、協働力、行動力、国際的視野を養う。 学内外において、45時間以上のボランティア活動を体験し、活動終了後にその内容を活動報告書にまとめ、指定の期間内に「単位認定願」と合わせて学生総合支援センターに提出することで、単位を認定する。 なお、「単位認定願」の申請時期は、年2回(4月・9月)を予定しており、ボランティア活動時間が45時間未満の場合、また、指定の申請期間を過ぎた場合は、単位認定を認めない。単位認定の申請は、当年度に参加したボランティアのみとする。 1回目の申請時をボランティアプロジェクトaとする。</p>	
<p>ボランティアプロジェクトb</p>	<p>大学があらかじめ認めた学内外でのボランティア活動や研修のうち、一定の条件を満たしたものに単位を認定する。ボランティア活動や研修を通して、自ら主体的に学ぶことで、協働力、行動力、国際的視野を養う。 学内外において、45時間以上のボランティア活動を体験し、活動終了後にその内容を活動報告書にまとめ、指定の期間内に「単位認定願」と合わせて学生総合支援センターに提出することで、単位を認定する。 なお、「単位認定願」の申請時期は、年2回(4月・9月)を予定しており、ボランティア活動時間が45時間未満の場合、また、指定の申請期間を過ぎた場合は、単位認定を認めない。単位認定の申請は、当年度に参加したボランティアのみとする。 2回目の申請時をボランティアプロジェクトbとする。</p>	

共通教育科目 教養教育科目 ジェンダーについて学ぶ	ジェンダー論入門	<p>「ジェンダー」は、社会のなかで見られる男女差が生物学に根差す自然なものではなく、力関係の中で意味づけられるものだという見方を示す。本授業は女性の抑圧、生きづらさを可視化し、異議申し立てをしてきたフェミニズムの歴史を整理し、彼女たちによって見出されたジェンダー概念を解説する。授業の主題は、1) ジェンダーの権力関係を可視化してきたフェミニズムが果たした貢献を考察する。2) 男性学の知見を検討しその可能性を考察する。3) 現代社会における「男/女」という区別のもつ課題を考察する。三つの主題をとおしてジェンダーが「女性の問題」「男女の二項対立」にとどまらないことを理解し、性を巡る差異と政治の問題として論考できることが目標である。</p>	
	女性の歴史	<p>女性の歴史を学ぶことを通じて、自身の生き方を考える。かつて女性たちは、どう生きていたのか。第2次世界大戦後の新憲法や民法改正は、女性の生き方をどう変えたのか。江戸から明治期、戦後の、女性の生き方を振り返ることで過去の女性の前に立ちほだかった壁、それを女性がどう乗り越えたのかを学ぶ。具体的な個人の生き方にもフォーカス。</p> <p>男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法が成立した過程や背景を学び、現状や課題を考える。女性と労働、女性と家庭、女性と教育などのテーマに沿って歴史をたどることで、今に至る道筋が見えてくる。まだ残された課題もある。それを知ることは、現代に生きる私たちがどう生きるべきかの、ヒントを与えてくれるはずだ。日本にとどまらず、世界の女性の置かれた状況や国際的な女性の活動、歴史を知ることで、広い視野も培う。最新の新聞記事も紹介。</p>	
	女性の健康	<p>女性の身体と心に対して、「やせてきれいに」や「女子力を高めよう」などと、あるべき像が押し付けられ、それらを実現するために「すべきこと」や「おすすめ」が、根拠や効果、意義があいまいなものも含めて、ネットやSNS、テレビなどに大量に溢れている。一方で、女性の性と生殖の健康（リプロダクティブ・ヘルス）に関する社会の注目が高まり、この健康についての様々な問題を見聞きする機会が増えた。この授業では、女性のリプロダクティブ・ヘルスを中心に、女性の身体と健康について押し付けられてくる身の回りの情報や言説、出来事を手がかりに、ジェンダー視点からの理論と広い知識の習得を目指す。途上国の女性たちのリプロダクティブ・ヘルスについても学び、考える。そして、現在と将来にわたり、女性の健康に関する「すべきこと」や「した方がいいと言われること」を自分自身で見直していける態度を身に付ける。</p>	
	文学とジェンダー	<p>近年、フェミニスト・ディストピアというジャンルが、特に#MeToo運動と共鳴する形で英語圏、そして日本でも注目されている。この授業ではコロナ禍というディストピア的な現在を、特にフェミニスト、そしてクィアな視点から批判的に分析し、同時に「ニュー・ノーマル」への想像力を養うことを目指す。また、「誰にとって、どのようにディストピア的なのか？」という社会的想像力におけるポジショナリティ（立ち位置）の問題を探っていく。</p>	
	国際社会とジェンダー	<p>私たちはこれからの国際社会において、どのように生き、どのように振る舞い、どのように活躍することが可能なのか。また、女性の活動を制約したり促進したりする要因にはどのようなものがあるのか。さまざまな地域の具体的な事例を扱いながら、政治的、経済的、社会的、文化的、宗教的、歴史的な要因、さらに人、ひとりひとりのライフステージの中に織り込まれたジェンダーを紐解いていく。国際機関や各国政府、NGOsによる「ジェンダー平等」を目指すための取り組みの経緯と内容について理解する。</p> <p>我が国における「ジェンダー平等」の達成状況と克服すべき課題について理解する。</p> <p>さまざまな地域におけるさまざまな立場の女性の活動について知り、私たちの身近な女性の活動事例と比較して相対化できるようになる。自分自身の生き方について、今日の国際社会の状況を鑑みて考えられるような見識を身につける。</p>	

共通教育科目	教養教育科目	ジェンダーについて学ぶ	女性教育とジェンダー	<p>(概要)</p> <p>女性はこれまで何のために何をどのように学んできたのか。あるいはどのような教育を受けてきたのか。この授業の前半では、古代から近代にいたるまでの女性の学びについて概観するとともに、本学を始めとした近代女子教育が、女性の社会的地位の向上にどのような役割を果たしてきたのかについて考察する。</p> <p>後半では、戦後の男女共学化、女子大学と女子短大の発足、女性の高等教育進学率の推移、男女の進学格差などについて取り上げる。また、世界の女子大学の動向や国連のSDGsの取組みを概観する中で、今後の日本の女子大学のありかたについて考察する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全14回)</p> <p>前後期：69 久保 貴子 (7回)</p> <p>①日本語表記と女性を書くということ ②女房と漢籍 ③宮廷女子教育の実態 ④行動する女性の誕生 ⑤江戸時代の女子教育 ⑥文明開化と下田歌子 ⑦本学開学と新しい女たち まとめ</p> <p>前期：33 清田 夏代 (7回) 後期：44 広井多鶴子 (7回)</p> <p>⑧戦後史証言「男女共同参画社会—女性たちは平等をめざす」 ⑨戦後教育改革と男女共学 ⑩戦後新制大学の発足と進学率の上昇 ⑪日本の高等教育のジェンダー格差 ⑫性の多様性と女子大学 ⑬SDGs：ジェンダー平等と教育の平等 目標と実践 ⑭ジェンダーと教育の平等を実現するためには まとめ</p>	オムニバス方式
			ジェンダーと心理	<p>一般に、男女には様々な違いがあると言われているが、その中には生物的な、遺伝子に由来する差だけでなく、文化・社会的な後天的に形成される差(ジェンダー)も含まれている。この講義では、生物的な差と文化・社会的な差とを区別し、男女にはどのような性差があると認識されてきたか、なぜそのような性差があると認識されているのか、また文化や社会と関わるなかで自身の性別をどのように取り込んで発達していくかなど、ジェンダーを心理学の視点からとらえて考察する。</p>	
			哲学入門	<p>西洋で生まれた哲学という学問のなりたちを知ることで、ヨーロッパという文明の総体的な特質を理解する。古代ギリシアで生まれた哲学といういとなみは、もともとは自然すなわち世界全体のしくみを理解しようとする壮大な試みのはじまりであった。その展開過程を知ることは、なんであれ学問的いとなみとはどのようなものであり、またなにをめぐしているのかの理解に通じると考えられる。だから哲学を知ることは、ある程度の国際的視野をもってものごとを見る鍛錬になるばかりでなく、学問のみならず文化や芸術といった広く人間的いとなみの多様性について学びることにもつながってゆくことだろう。</p>	
	人間を究める		現代の思想	<p>本科目では、19世紀から21世紀にかけての哲学的な立場を概観し、現代社会について考えるひとつの視座として、現在の状況をもたらした起源、哲学的な思想について考察する。現代社会では、国際的な政治状況の不安定さ、宗教における対立、経済の予測困難さ、AI技術の急激な発展、気候の大幅な変動などが複雑に絡み合っており、わたしたちの日常生活に覆いかぶさっている。現代に通じる哲学の基本的立場を理解し、自分なりの批判点や観点をもてるようにする。</p>	
		言語学入門	<p>皆さんは、「おなかすいた」と誰かに言われれば、きっと発言者が「私はおなかですきました」という事を伝えたいのだとすぐに理解出来るはずである。「夏目漱石を読んでる」という発言も、「夏目漱石の作品を読んでいる」と瞬時に理解するであろう。だが、実はこれらの何と言う事のない日常行われる発言の背景には、言語学的な問題が横たわっている。</p> <p>本科目では、我々の日常生活の中で自然に用いていることばや表現をヒントとし、その中に潜む様々な言語学的事象を取り上げながら、言語学の基本的な考え方や知識、言語学という学問分野が内包する種々の学問的な観点を紹介していく。我々が何とはなしに使っている「言語」の背景にある様々な問題について、理解を深め、概観を得る事を目標とする。本科目では、ことばについて言語学的な観点から捉え、分析する力の習得と、言語学の基礎的な知識と基本的な考え方の理解を目指す。</p>		

倫理学入門	<p>こんにち従来の価値観が崩壊し、対人関係の希薄化とともにモラルの低下が顕在化しつつある。どうすれば社会の成員すべてに妥当する倫理を見出し創出することができるのか。本科目のねらいは、そうした価値について考察しそれを自らの行動に活かすこと、つまり損得だけではない「よく生きる」ことの意味を学ぶことである。まずは何が問題なのかを知ることが最初の目的であり、それをどう解決すべきかを自ら考えることが次の目的である。授業では過去の代表的思想を解説し、最後に再び現代の問題（正義論）を考え、格差社会と公正な社会について考察する。</p>	
生命と環境の倫理	<p>こんにち従来の価値観が崩壊し、対人関係の希薄化とともにモラルの低下が顕在化しつつある。どうすれば社会の成員すべてに妥当する倫理を見出し創出することができるのか。本科目のねらいは、損得だけではない「よく生きる」ことの意味を学ぶことである。まずは何が問題なのかを知ることが最初の目的であり、それをどう解決すべきかを自ら考えることが次の目的である。中心テーマは他者をどのように見、扱うべきか、ということである。生命倫理では自己決定がまだできない生命の始まりの段階や終わりの段階では、社会は何を認め、何を認めるべきでないのか、環境倫理では人間以外の種・未来世代・第三世界の権利をどのように尊重するべきか、こうしたことについてを概説する。</p>	
社会思想入門	<p>現代社会の変化は、じつにめまぐるしいものがある。しかし人間の社会を根本となるのは、ほかならぬ人間の思想と行動である。本科目では、現代社会を築くうえで礎となった思想の変遷、さまざまな思想的な立場について紹介する。こうして、わたしたちの社会がどこからきてどこへとむかうのかについての手がかりを得てみたい。</p> <p>①時代ごとの人間観、社会観を理解して説明できるようにする。 ②思想の変遷を踏まえて現代社会について考察する。</p> <p>全学ディプロマシーとの関連においては、「多様性を受容し、多角的な視点を以って世界に臨む態度」や「人文・社会・自然の中に価値を見出し、感受性を深めようとする態度」を身に付けることがこの科目の目標になる。</p>	
東洋思想入門	<p>この授業では、中国先秦時代の諸子百家から清代までの代表的な思想を概観するとともに、インドから伝来した仏教や、中国で生まれた道教などの宗教思想を学ぶ。また、日本における中国の思想や文化の受容についても学習していく。</p> <p>【美の探究】中国思想に関する基礎的な知識を身に付け、自分の言葉で説明できる。 【国際的視野】中国・インド・日本の思想文化交流の歴史を理解し、国際的な視野を涵養する。 【研鑽力】意欲的に授業に参加し、自律的に予習と復習を行うことで、自ら学修を継続する力を養う。</p>	
世界の宗教	<p>宗教学的な視点から、「世界宗教」と言われているキリスト教、イスラム教、仏教を理解し、これらの宗教が現代社会においてどのように現れているかを考察する。宗教学的な視点を身につけ、キリスト教、イスラム教、仏教といった「宗教」を背景にもつさまざまな文化現象・社会現象を理解し、考えるための基礎的な知識を習得する。</p>	
日本の古典文学	<p>古典文学を毎週1作品ずつ取り上げて、パワーポイントを用いて解説していくので、皆さんは毎回講師の出す「お題」に基づいて、簡単なレポートをmanabaに提出してもらおう。</p> <p>大学生の教養として、これくらいは是非知っておいて欲しいと思われる作品を取り上げる。作品の時代背景を探りながら内容を分析し、世界の古典文学と比較して、日本古典文学の底流に流れる特質について、皆さんと一緒に考えていく。</p> <p>①古典文学を楽しむこと ②文学史を理解し、作品と時代背景の関連性を理解できるようになること ③日本の古典文学について、またそこに垣間見られる私たち日本人の特質について、自分の意見を述べられるようになること ④授業の最後では、海外の人に向かって、あなたが一押し古典文学について、語ってもらうことにする</p>	

日本の近現代文学	<p>「近現代文学」ということばから想像されるものは何だろうか。夏目漱石・芥川龍之介・三島由紀夫・安部公房・村上春樹一、この想像は正しいものである。しかし、それだけでだろうか。「文学」ということば、その概念はもっと広いもの、より多くのものを指し示すことが出来るのではないだろうか。国語科の教科書には載っていない小説、載せられることのなかったジャンル、妙な先入観を押しつけられてしまっている作品。この、いわゆる「文学」からはこぼれ落ちてしまったものもやはり文学作品、日本の近現代文学を支える重要なものである。そういった作品を扱う上で四つのジャンルを設定し、それぞれを丁寧に読んでいく。それによってジャンルの特性、その表現でなければならなかった必然を見つけ出す。</p>	
西洋の文学	<p>西洋の文学作品をとおして、欧米の人間観、世界観、自然観、普遍的価値意識の表現を学ぶ。前半はシェイクスピアの作品群、後半は時代を代表する作家の作品を読解していく。</p> <p>具体的な人間の直接経験の世界、忘れ去られ、消し去られてしまう〈生の世界〉の愛と悲しみと情熱と喜びを結晶化させている文学作品に照明をあてる。文学作品の構造、人物像の表現、異なる視点の置き方、社会の持つ勢力と個人の夢想、歴史に深く根ざした人間のありよう、出来事とものの見方の多様性、人間関係、内面に生起する感情、意識の流れ、心理描写、決断や行為に介入してくる非合理的なもの、過去と現在の捉えがたい瞬間、時代の深層にある集合無意識、理性と感性の言葉、メタファー、イメージ、価値観の相剋、未来から投影されるもの、状況の異にはまった人間の姿、不条理、異化、カタルシス、パロディ、幻影、ユーモア、意味の転換リアリティーの描き方など、文学の中で試みられてきた思考実験のプロセスと語りの技法を辿り、西洋の文学が見出してきた表現形式を読み解いていく。</p>	
児童文学入門	<p>「昔ばなし」「おとぎ話」「童話」をキーワードに、日本児童文学の始まりを概観する。</p> <p>初めに、耳で聞く文芸である「昔ばなし」の特徴を学び、子どもの物語受容について考察する。次に、日本で初めて子どもに向けて物語が創作された時に注目し、子どもと文学の関係について考察する。</p> <p>現代の児童文学を考察するために必要な知識や考え方を得ることが目的である。口承文芸である昔ばなしの基礎知識を修得する。日本児童文学黎明期についての基礎知識を修得する。これらを修得することにより、児童文学を学ぶ楽しみを知り、学問を続ける事が出来る。また、児童文学についての視野を広め、新たな視点を獲得することが出来る。</p> <p>児童文学作品や、児童文学に関する資料を読むことを通じ、人文・社会・自然の中に価値を見だし、感受性を深める機会となる。</p>	
文化人類学入門	<p>文化人類学とは、世界各地の生活様式・言語・習慣・ものの考え方など文化の比較研究を通して、人間文化の多様性と共通性を理解しようとする学問である。この授業では、文化人類学を学ぶことにより、多文化共生時代を生きるうえで不可欠な、自文化を相対化し異文化を理解する力を身につけることを目指す。</p> <p>授業では、いくつかのトピックを取り上げ、文化人類学の方法論や世界中の多様な文化について紹介する。学期末にはこれまで学んだテーマのなかから一つを選んで、自ら観察し分析した内容についてレポートにまとめる。これらを通じて、文化人類学的に考察・議論する訓練を行う。</p> <p>(1) 文化人類学の方法論を知る (2) 自分たちの「あたりまえ」を相対化する力を修得する (3) 異文化を理解し想像する力を修得する (4) 文化人類学の考え方を社会にどうにかせるのか考える</p>	
美術の世界	<p>西洋の絵画や彫刻をみて、わからないと思ったことはないだろうか？本授業は、西洋美術史を初めて学ぶ方を対象にした、入門の講義である。西欧の美術は、東洋や日本とは異なる文化基盤や前提から制作されている。そのため、この前提を知らないとわからない、遠い存在になってしまう。しかし、ほんの少しの「ルール」を知っただけで、全く知らない外国語をよく知った言語に翻訳するかのようになれる身近なものへと変化するのはである。</p> <p>古代ギリシア美術から20世紀まで時間を追いながら、絵画や彫刻、建築等の代表的作品、時代の特徴を学んでいく。</p> <p>西洋美術をより深く知るため、ギリシア・ローマ神話や聖書についても学ぶ。神話や聖書は、西洋美術において多く扱われるテーマやエピソードの源泉であるからである。</p>	

音楽の世界	<p>一見、とらえどころのないようなクラシック音楽の世界だが、様々な切り口でアプローチしてみると、それぞれの音楽作品の成立事情が浮かび上がっている。長い歴史の中で、音楽の場やあり方、そして音楽家の役割は、社会の変遷とともに多様化している。クラシック音楽の社会性を理解することは、ヨーロッパの歴史や文化、精神性を学ぶことにもつながっている。</p> <p>こうした背景をもとに、この授業では、社会と音楽との関わりについて、各回、録音資料で作品を觀賞しながら紐解いていく。作品は、時代、国、ジャンルとも、広い範囲を扱うので、クラシック音楽の多彩さを体験できるはずである。</p>	
映像文化論	<p>現在私たちの身の回りにあふれ、当たり前になっている映像を「写真」、「映画」、「現代社会の映像」の3つの観点から考察する。「写真」、「映画」のセクションでは発明から出発し、その様々な発展形式を追う。実際の映像だけでなく、ヴァルター・ベンヤミン、アンドレ・バザン、クリスチャン・メッツ、ロラン・バルト、ロザリンド・クラウス、アンドレ・マルローらによる美術理論を取り入れながら、人間の手によるデッサンや絵画しか存在しなかった時代と比較し、写真、映画が望まれた理由、それらがもたらした知覚の変化について考える。「現代社会の映像」のセクションでは現在に普及する映像を取り上げ、私たちがどのように向き合うべきかについても考察する。</p>	
日本の伝統文化	<p>能楽、歌舞伎、文楽などの日本の伝統芸能、および茶道・和食などの生活文化に関する基礎知識や歴史を学ぶ。それぞれの芸能・文化についての概略的な講義とともに、実際の映像などを視聴しそれらを疑似的に体感することを通して、日本の伝統芸能や生活文化に関する基礎的な知識を身につける。</p>	
心理学入門	<p>各種マスメディアの悪影響により心理学を誤解している人がとても多い。心理学は決して読心術ではなく、またカウンセリングや心理検査ばかりが心理学ではない。この授業では、心理学の各領域において得られている幅広い研究成果を分かりやすく解説し、心理学を学ぶことの意義やその活用方法についての理解を深める。それにより、心理学の基礎的な知識が幅広く身につく、人間相互の心の共通性と異質性が理解できるようになる、心を科学的に探求することの面白さ、奥深さ、美しさを知る。、心理学を日常生活に活用することができるようになる。</p>	
人間関係の心理学	<p>私たちは、他者との関わりの中で生きている。たとえば、自分がいかなる人物であるかを認識する作業も、他者との関わりの中で行われる。「人間関係の心理学」では、人間の相互関係や、人間と組織の関係について、実際の社会における事象を取り上げながら解説し、理解を深める。単に心理学の知識を習得するだけではなく、心理学的な視点を理解することを目指す。</p> <p>人間関係についての理解を深めることにより、身近な人のみならず、自分と異なった背景や価値観を持つ人との関係を理解・構築する能力の獲得を目指す。</p>	
心の健康	<p>ストレス社会と呼ばれる現代では、心の不調は誰にとっても無縁なものではない。こうした問題から身を守るためには、メンタルヘルスの知識や不調への対処法、必要に応じて受けることのできるケアについて知っておくことが重要といえる。本科目では、臨床心理学の枠組みからストレスをはじめとした心の問題について理解を深め、セルフマネジメントに役立てられるようになることを目指す。</p> <p>ストレスや代表的な精神病理に関する基礎知識、各発達段階で起こりうる心の問題について学ぶ。加えて、いくつかの心理技法を実際に体験し、具体的なストレス・不安・抑うつなどへの対処法を習得していくことも目指す。本科目を通して、自分自身の心の状態を適切に把握して問題に対処する能力、また周囲の他者に対しても必要に応じたケアを行えるような能力を身につけることを目標とする。</p>	
日本のポップカルチャー	<p>日本のポップカルチャーは、映画、演劇、音楽、漫画、アニメ、ゲームなど多岐にわたり、海外からの関心も高い。この科目では、日本のポップカルチャーの多様性を知り、グローバルに展開した日本の大衆文化のありようと国内外における評価について考察する。また、これらの文化を生み出した時代(主に昭和、平成、令和)についての理解を深める。</p>	
ファッションの世界	<p>ファッションとアイデンティティは密接に関わっている。この科目では、絵画やポスター、雑誌、映画・舞台衣装など視覚文化の中のファッションを読み解いていく。それぞれの装いを時代、地域、ジェンダー、年齢、社会階層、宗教といった複数の視点から考察する。</p>	

人間を究める 社会を捉える 共通教育科目 教養教育科目	世界のファンタジー	ファンタジーのジャンルは、文学、美術、映画、アニメ、ゲームと幅広い。この科目では、世界各国の多彩なファンタジー作品の分析を通して、作品に登場する「異世界」を時代、地域、思想などを考慮に入れながら、批判的に解釈していく。	
	地域研究 a	<p>本科目では、私たちの属している社会とは異なる文化をもった地域社会との比較研究を通して、「地域」と「文化」に迫る。本科目では、主にメコン河流域諸国（タイ・ラオス・ミャンマー・中国雲南省）、東南アジア（インドネシア）と東アジア地域などの諸社会に注目する。本科目では、地域社会の写真・映像・新聞などの様々な資料を使用して、各社会の家族・言語・婚姻・観光など具体的な事例から、「世界観」や「社会生活」の多様性を考察する。これらの作業を通して、世界を複眼的に捉える視点を養うことを目的とする。</p> <p>1) 【態度：国際的視野を養う】世界には多様な価値観や文化が存在していることを知る</p> <p>2) 【態度：知的好奇心をもって人間成長を育む／美の探究】多角的な視野をもって地域社会を捉え、理解する</p> <p>3) 【能力：研鑽力／協働力】文化を相対的に見る視点を養うことで自文化を捉えなおし、国際感覚を身につける</p> <p>4) 【能力：研鑽力／協働力】課題に対して深い洞察力、好奇心をもって向きあい、学びを深化させる</p>	
	地域研究 b	<p>それぞれの地域の文化や社会は、その地域の自然環境や地理条件、民族などで大きく異なり、そしてこれらは様々な要因によって歴史的に形成されてきた。この授業では、インドについての文化・歴史・社会・地理・民族等を学ぶことを通して、相対的にものごとを考えることを学び、国際的な視野を養う。</p> <p>現在、インドは大きく変動している。経済成長は著しく、特に中間層の急激な成長により都市文化は劇的な変化を遂げている。このように目覚ましい発展を続けるインドであるが、一方で社会経済問題が深刻化していることも事実である。この授業では、まず地域研究の重要性について考え、そして、インドの基礎的知識（地理、宗教、言語、周辺地域とのつながり）について学ぶ。これらは歴史的資料や映像資料、音楽など様々な資料を使い、多様で複雑なインドへの理解を深めてもらう。</p>	
	食文化論	<p>2013年12月に「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録され、国内外で日本の食べ物・食文化に対する関心が高まっている。</p> <p>和食の成り立ちは、日本文化の成り立ちと歩を同じくしている。その特色は、外来文化の受容と変容によって形成されてきたことであり、そのような食文化を理解するには、歴史的なアプローチが必須である。</p> <p>本授業は、教科書を使用し、社会背景、異文化接触の影響に触れながら、時代別に特色ある食文化について概説する。国際化社会の一員として、食を通じた異文化に理解を深め、異文化コミュニケーション力をつける。また、日本の食文化の成り立ちと特徴を知り、自国を理解する助けにする。そして、日本の食文化を他者に伝えられるように、自分で「感じて」「考えて」「伝える」能力を高める。</p>	
	衣文化論	<p>「衣＝ファッション」について、フランスや日本を中心に、その歴史を踏まえて、それぞれの時代に表出してきたファッションの社会的・文化的背景について学ぶ。各時代を追いながら、世界各国のファッションの形成過程の特徴や、現代ファッションを捉える上での様々な視点についても学ぶ。</p> <p>1. フランスを中心とする、各時代のファッションの社会との関連性を理解し、国際的視野を持つことができるようになる。</p> <p>2. ファッション史上、重要なデザイナー達の活動を通して、歴史に残る製品について学び、ファッションに対する研鑽力を高める。</p> <p>3. 各時代の様々な事象を通して、知を求め、心の美を育む態度、そして、美を探究する力を付ける。</p>	
生活とデザイン	<p>私たちは生活をおくるうえで情報の多くを視覚から得ている。その情報を整理し、視覚情報に変換し整えるのがグラフィックおよびビジュアルデザインの役割である。現在まで、伝える内容や目的にかなった手法が先人たちにより検討され、あらたな視覚表現として定着してきた。</p> <p>そのために、情報の発信者は人々の興味を引き、正しく伝え、記憶に残るビジュアルの制作につとめている。そして、流行やコミュニティーの慣習を取り入れるなど様々な工夫をし、円滑なビジュアルコミュニケーションを成立させている。この授業では日常成果活におけるこうした視覚伝達を目的としたデザイン表現を中心に、国内外の事例を通して、視覚を通じたデザインに対する理解を深める。事例を通じ、ビジュアルコミュニケーションの手法が理解できるようになる。</p>		

<p>社会とデザイン</p>	<p>デザインは、色や形など見た目を考えることだけではない。様々な物事をどのように認識させたいか、機能させたいかなどを計画・設計することこそが本来のデザインである。現代では社会やビジネスもデザインの対象となっており、モノやコトに新たな意味や価値を見出し、組織や社会をより良い方向に導くための手段として重要視されている。本科目では、何が、どのような意図で、どのようにデザインされているのか、様々な物事や出来事のデザインについて考察し、社会におけるデザインの役割について理解を深める。</p>	
<p>メディア論</p>	<p>本科目は、メディア社会への理解を深めるために、伝統的なメディアの発達史を系譜的に抑えつつ、それらがネットによってどのように変化しつつあるかについて、理論的／実証的に講義をおこなう。 とりわけ、メディア産業論の観点から「新聞」「放送」「雑誌」「映画」「音楽」などの伝統的なメディア作用と、「ネットメディア」への展開や再組織化について理解を深めることが本授業の目的である。既存のメディアがどのように今日の社会観や人間観、そしてライフスタイルを成立させ、さらに伝統メディアやネットメディアを再構成してきたのかが重要なテーマである。これらに基づいて「メディアを系譜的かつ実践的に理解する」ことが本授業の到達目標である。</p>	
<p>サブカルチャー論</p>	<p>1980年代から「サブカルチャー」ということばが一般化する。日本では「サブカル」と省略され、アニメやアイドルなどに代表される「オタク文化」と同一視されるようになる。さらに、それは音楽やファッションなどの他分野にも広がる。 けれど、日本と海外とでは、「サブカルチャー」の意味合いが大きく異なる。この授業では、多様な事例・素材に触れながら、グローバルな視点から学んでいく。 そうして、今日の社会と文化のあり方に気づくとともに、そこに生きる「わたしたち自身」を理解する手がかりを求めていく。一見「くだらない」とされるものも、人々の営みの所産であり価値あるものだということを理解できるようにする。そうして、欧米と日本との比較を中心に、さまざまな時代のさまざまな「くだらないモノゴト」の事例を知ることで、国際的な視野と多面的な学びのための研鑽力を身につける。</p>	
<p>教育学</p>	<p>授業の概要は「教育学」という学問に対する知見を深め、教育の本質、意義、影響などについて理解することである。授業では、教育原理、教育の意義、現代の教育問題など広範囲に渡って概説する。本授業の目的は、教育の起源、発達と教育、幼児教育、偉大な教育学者などを主要なテーマとする。また海外の教育の事例やエピソードなどをふまえ、国際的な視点を習熟し、「モンスターペアレント」「いじめ問題」など現代の教育問題について講義する。そのため、教育に関する知識を深め、将来の社会人、保護者として求められる教育について理解することとする。また教職に就きたい学生、教職に就くか検討している学生、今まで自分が受けてきた教育を振り返りたい学生など、何らかの形で教育に興味、関心のある学生の履修を推奨する。</p>	
<p>日本国憲法</p>	<p>日本国憲法が保障する基本原理（国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）とはどのようなものか。本科目では、とりわけ、基本的人権を中心に学んでいきたい。また、ビデオを鑑賞して憲法について考えてもらう。基本的人権について理解し、さまざま社会問題を人権規定から考察し課題を発見する力を修得する。</p>	
<p>法学入門</p>	<p>本科目では、「法」の特質・目的・形式・効力・解釈・運用などについて学び、わたしたち国民の生活を規律する「法」について理解できるようにする。 授業においては、法と道徳の違いや関わり、法の安定性、成文法と不文法、法の効力の範囲と根拠、法の解釈という「法」の基本概念を学ぶ。そのうえで、具体的な事例として、相続問題を取り上げ、相続という事象と現在の法がどのように定められており、どのように適用されるのかを事例をもとに考える。</p>	

日本の政治	<p>概要：日本の政治の仕組み、とくに、日本国憲法が定める政治制度についてまなぶ。</p> <p>目的：日本の政治の仕組み（政治制度）をまなぶことにより、政治に関する基本的な知識と思考方法を身につける。到達目標：日本の政治の仕組みに関する基本的知識と思考方法を理解できるようになる。ディプロマポリシーとの関連：学生が取得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得する。</p>	
国際政治の基礎	<p>本科目では国際政治学の基礎知識を学び、実際の国際社会で起きている国際政治の主要な問題を理解することを目的とする。流動的で複雑化した現在の国際社会をより深く理解するためには、体系的に国際政治学を理解する必要がある。講義を通して現代社会においては国家間関係のみで国際社会が成り立っているのではなく、その他様々な行為主体が存在していることを理解していく。そのためにはまず国際政治理論を通して国際政治の基礎概念を学ぶ。次にその基礎概念を基に国際社会の現状を歴史・地域・新たな問題群（グローバル・イシュー）を通して考えていく。講義の際には現在起きている国際政治上の出来事を新聞やメディアを通して理解することも取り入れていきたい。そして最終的に本科目を通して国際政治は決して私たちから遠くはなれた場所で行われているのではなく、日々の私たちの生活も国際社会から影響を受けまた逆もありうるのだということを理解してもらいたい。</p>	
日本の経済	<p>日常の家庭生活から世界経済に拡がる「経済の諸問題」を考えていく。特に、コロナ禍の経済、社会問題を扱うことによって、経済学や日本経済史も学ぶ。可能な限り、動画や新聞記事などを活用する。</p> <p>内容は、コロナ下の財政や社会はどうなっていくのか、急速に変化する環境問題、グローバル化・税制・企業の在り方・労働・生命倫理・社会保障・企業倫理、ジェンダーなどである。そこから日本経済の現状と在り方を考えていく。キーワードは、持続可能性、稀少性、限定合理性、効率、正義、幸福、エージェンシー（行為主体性）などである。(1)経済社会問題に内包する多様な価値観を多面的に把握し、相互の理解と協力を築くことができるようになる。(2)社会経済問題に対して、経済学的側面のほか人文社会諸科学を基盤とした概念の習得と手順を踏んだ問題解決ができる。</p>	
国際経済の基礎	<p>私たちが取りまく経済活動は、様々な国や地域とのやりとりの中で成り立っている。国際的なやりとりの中で日本はどのような状況におかれているのだろうか。また、様々な資源を輸入する企業、製品を輸出する企業はどのような課題に直面しているのだろうか。TPPやフェアトレード、環境問題など、いくつかのトピックスを扱いながら、国際経済について考えよう。</p> <p>本科目の前半では、簡単なグラフを使って経済や貿易のしくみを説明する。また、交換のメリットを考えるために、経済実験（グループワーク）をする。そして、後半は現代の国際経済が直面している様々な状況を説明し、課題や解決策について考える。講義を通して、国際経済の基礎知識や考え方を身につけることが目標である。</p>	
日本史	<p>本科目では日本の文化や社会について通史的に扱い、過去の人々が取り巻かれていた社会環境を具体的に把握し、さらにはその中で彼ら（彼女）たちがどのように主体的に行動し、新たな文化を模索していたのかを考察する。授業では、縄文・弥生・古墳時代、平安京建設、鎌倉時代、室町将軍の朝貢と唐物、応仁の乱から戦国時代、江戸時代（人と動物、在村文化）、明治期の衣装改革、大正・昭和期の生活を日本史を通史で見極めながら、当該時代の生活・文化を現代文化と比較しつつ考察する。</p>	
西洋史	<p>現在の社会や文化は、過去の社会や文化、人間や自然の活動と切り離せるものではなく、過去の蓄積の上に成り立っている。この科目では欧米を中心とした西洋諸国の文化や社会について通史的に扱い、世界を歴史的な視点から捉えるための基礎的な知識と考え方を学ぶ。多様な価値観を持つ人々と共生し、相互理解を深めるために、国際社会で活躍する際に必要な歴史の知識を修得し、国際的視野を培い、行動する力を身につける。</p>	

東洋史	<p>アジアの歴史について、さまざまな時代・地域・分野の問題をとりあげ、王朝・国家の興亡や社会をゆるがした大事件から、生業や食事などの日常生活上の小さなことまで、東洋史上のさまざまな事象を学ぶことによって、アジアの歴史とその歴史を通じて形成されてきた多様な文化への理解を深め視野をひろげること、史料から史実を解明していく東洋史学の研究手法を知ることによって、情報を批判・検証する習慣・能力を養うこと、そして、歴史を知る意義について考える基礎を得ることができるように、講義をしていく。</p>	
地理学	<p>本授業のテーマは「現代社会の地理的な考察と理解に基づく行動力をつけること」である。グローバル化が進む現代社会において、人間社会は互いに影響を与えあい、地域は多様に変容している。地理学において、その地域をどうとらえるかは重要な課題である。そこで、授業ではまず地域の分析のためには地図や地形図の有効性が高いことを確認し、日本を事例にいくつかの主題図の作成を行う。次に「地域」「環境」「景観」をキーワードに地域の分析に必要な基礎的な地理学の視点・考え方を説明する。事例として、日本や世界各地を取り扱い、多角的な視点を持てるようにして国際的視野を養う。さらにそれら技能をもとに、主題図や統計資料、各自撮影した景観写真などを用いて、現代社会の地理的事象を多角的・多面的に考察し、地域の課題解決のために主体的に行動する力を養う。</p>	
社会学入門	<p>社会とは、言葉を通じ人々やモノが相互に関わり合い、分離する軌跡が織りなす場である。</p> <p>現在わたしたちが直面しているコロナ禍という危機は、その変化ゆえに、かえって当たり前とされていた、社会の有様を浮き彫りにした。</p> <p>コロナ禍において生じた社会現象を素材に、社会学の基本的な発想法の講義を通じ、現代社会を理解することを目指す。社会学の基本的発想（複眼的思考、情報の視覚化スキルなど）を身につけることで、以下の態度および力の修得を目指す。</p> <p>「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができる。「行動力」のうち、プロセスや成果を正しく評価し、問題解決につなげることができる。「美の探究」のうち、情報を他者に分かりやすく伝えるための視覚化スキルを修得できる。</p>	
社会保障論	<p>私たちの気がつかないところで、社会保障制度は機能している。病気になって受診する場合、皆さんは保険証を持って病院に行く。医療保険制度は、いちばん身近な社会保障制度である。また、選挙時には例外なく、社会保障の充実が公約に取り上げられる。他者今話題の年金制度、雇用保険、労災保険や介護保険等の社会保障制度は、私たちの日常生活維持にも深く関わっている。講義ではこれらわが国の社会保障制度を取り上げるとともに、生命保険、損害保険等の民間保険分野との関連性も含め、民主主義社会の根幹をなす制度の一つである社会保障制度を概観していくこととする。</p>	
日常生活と法	<p>本科目では、私たちの生活に法がどのようにかかわり、どのように法で守られているのかを公法、私法、社会法の観点から学び知識を習得する。</p> <p>まず、契約社会の仕組みと法的な観点からの注意点を学ぶ。また、アルバイトを含めて気持ち良く働き続けるための基礎知識を労働法を通じて学ぶ。</p> <p>つぎに、結婚について、婚姻に伴う法的なルールを学ぶ。さらに、健康と高齢化について社会保障法を通じて学ぶ。加えて、生活設計と生活上のトラブルを、犯罪という観点から法的に学ぶ。</p> <p>折に触れ、テーマごとに、他国の法的状況についても学ぶ。</p>	
金融リテラシー入門	<p>20代前半は、クレジットカードの利用、奨学金の活用、国民年金の加入、確定拠出年金の選択など、生涯にわたるオカネとの付き合いのすべてが一斉に始まる時期である。オカネの管理、預貯金、運用や借入など幅広く大学生の金融リテラシーを育成する。</p>	

共通教育科目 教養教育科目 自然と環境を探る	数学的思考	<p><オムニバス方式クラス> (概要)</p> <p>社会人になると「判断」や「交渉」はつきものである。仕事での交渉や判断は、直感や感性といった主観に頼るのではなく、筋道を立てて物事を考えた客観的・説得的なものが求められる。これは天賦の才能、ではなく、スキルskillである。そのため、ある程度、トレーニングによって誰でも習得できる。それをこの授業で実施する。数字に対してアレルギーが少ない態度は、就職活動で大きなポイントになるはずである。本科目を受講することで、理解を深めて、数学的センスを磨いていく。 (オムニバス方式/14回)</p> <p>35 高橋桂子 5回 ウォーミングアップを担当する。具体的には基礎的な計算力、図形問題に始まり、パズル問題や図表の読み取り。SPIの問題ではPPTを使ったフラッシュカードによる作問課題である。PPTのskillも一緒に磨く。</p> <p>171 畑農鋭矢 4回 統計学の基礎、データ分析入門(種類・入手方法、利用上の注意)、関係性(相関・散布図・単回帰、対数・弾力性)、データの加工(時系列・パネルデータ、ダミー変数)＋小テスト</p> <p>17 角本伸晃 5回 整数問題、図形問題、価格の持つマジック(行動経済学の紹介)</p> <p><通常クラス:64 渡辺 敏 14回></p> <p>本科目のテーマは数学的思考である、「割合の見方」、「関数の見方」「平面図形、立体図形の見方(空間認知)」、「図を用いた思考法」等の見方や考え方を数や図形の具体的な活動を通して身に付ける。この講義ではこのような見方考え方を「物差し」と呼び、自分の中に新たなものの見方、考え方としての「物差し」が身につくことをねらう。そして、日常的に求められる意思決定や判断に対して直観や感性に頼ることなく、より論理的・客観的・総合的な判断を考えることができるようになることを目標とする。このような思考方法を身に付けることにより、自分の判断に自信が持て、積極的に社会の問題に関わろうとすることができるようになる。</p>	オムニバス方式
	統計的思考	<p>AIやIoTがますます社会に普及し、データを活用する力が社会として必要とされている。このことは、産業界はもちろんのこと、これまでの学校教育でも毎学年で学ぶほど、重要視されている。本科目ではこれまでの学び直しも含めながら、数式をなるべくさげ、実際に体験しながら、統計概念の理解を目指す。特にだまされないための雑誌や新聞記事、論文等の社会的な統計図表(グラフ等)を読み解く力を身に付け、統計的なデータに基づいた意思決定を目指す。社会人としてデータに基づく意思決定を行う際のデータを読み取る力などの【研鑽力】、データを用いた情報発信力などの【行動力】、統計的リテラシーの修得を目指す。</p>	
	くらしの化学	<p><オムニバス方式クラス> (概要)</p> <p>私たちの生活の中の身近な現象、物質、科学技術にかかわる化学物質をとりあげて、物質の分子構造や化学的特性が物質の機能性や生体影響(有効性、毒性)などの現象、さらには、環境問題、社会問題、経済活動に密接に関係していることを学ぶ。また、日常製品を購入・使用する時の商品選択の基礎知識になることも取り上げる。食品、金属、プラスチック、繊維などのテーマを歴史的な視点も交えながら扱う。 (オムニバス方式/全14回)</p> <p>60 加藤木 秀章 7回 化学繊維の概説、衣服の染色、衣服の洗浄と界面活性剤 日常生活で使われるプラスチックの種類、身近な生活用品(金属・プラスチック製品)</p> <p>54 山崎 壮 7回 食の化学、環境の化学、ライフサイエンスの化学、工業製品の化学</p>	オムニバス方式

<p>くらしの人間工学</p>	<p>日常生活の中で、私たちは、モノを使っている。モノには、手袋や被服のように日本人向けに作られたサイズがあるものから、自動車やスマートホンの様に世界中で使われるものまである。モノづくりに関わる技術や人間行動を理解することで、私たちの暮らしがより安全で快適であることを理解していく。さらに、わかりやすいデザインや仕組みは、世界標準ではない場合もある。それぞれのライフスタイルにあった、くらしを支えるデザインや人間行動について考えることで、広く人間生活をとりえることを目標とする。自動車や家電製品なども例にあげて、電子レンジや洗濯機のスイッチ等の位置関係や色などでのインターフェースの構成についても具体的に学ぶ。</p>	
<p>生活環境の科学</p>	<p>生きものや生態系の理解には複数の回答があることが当たり前と考えられている。主に渋谷キャンパスで学ぶ文系の皆さんにも、自然や生きもの多様な視点や発想を理解してもらいたいと願って授業を進める。映像を中心にしながら、身の周りの自然を守る考え方や努力の実例について考え、我々でもできる取組みについて具体的に考えていく。文系でも理解できるように、少しでも自然環境や生きもの生活を理解して下さることを目指して展開していく。なお映像の殆どは私が撮影したもので、借用の場合はその旨を断ってから使用する。数学や化学では解答が一つになることが基本だが、生物学や生態学では正解は決して一つではないという多様な視点で物事を見ていく必要がある。受講生の皆さんにも多面的な見方ができるように、また自己の研鑽力を身に付け、柔軟な発想力を持てるようになるのがこの科目の目標である。</p>	
<p>生命の科学</p>	<p>「生命とは何か」という問いは、古くから人類が問い続けてきたテーマである。現代では、遺伝子や細胞を構成する分子の理解が進み、生命現象も物理学や化学の原理で成り立っていることや、多数の構成要素がシステムとして振る舞うことで生命のしくみが築かれていることが解き明かされてきた。生命科学を学ぶことは、健康長寿、再生医療、食料生産、エネルギー資源、地球環境、などの諸問題を理解し、地球市民として豊かな生活や持続可能な社会を支えていくために大切であり、人類の未来を考える上で切り離せない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の成り立ちを学び、生物の特性を理解する。 2. 生命の最小単位である細胞の構造と機能、増殖のしくみを理解する。 3. 生物進化のしくみと生物多様性について理解する。 4. バイオテクノロジーと生命倫理に関する問題を認識する。 	
<p>身体の科学</p>	<p>私たちの体や心の活動は、どのように営まれているのだろうか？身体の構造と機能やその調節の仕方、更にはそれらが不調になった状態を学ぶ事で、私たち自身について理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①身体について、興味を持つ。 ②生命の維持に働く仕組みを、理解する。 ③生命を維持する仕組みが作り出す、普遍的機能美に気づく。 ④生命維持機能の一つの例について、自分の言葉で説明できる。 	
<p>宇宙の科学</p>	<p>宇宙を知るために、宇宙物理学、天文学の知識が必要であり、物理学と天文学を中心に学ぶ。物理学と聞くと、日常生活や自分の成り立ちとは無関係なものと思いがちである。しかし、それは早計である。物理学は、私たちが住んでいる世界を理解するために必須なものである。</p> <p>天文学は最古の学問と呼ばれ、また私たちの住む世界を取扱い、宇宙観を醸成する学問である。天文学の知見から、物理学も誕生し育ってきた。この授業では、天文学のさまざまなトピックに触れ、天文学がどのように進歩してきたか、私たちはどのような世界に住んでいるかを概観する。宇宙や天体で起きていることを知り、物理的に理解する。学んだ内容を基に、自分の世界観・宇宙観を構築する。天文学に関して、自分の考えを文章などを通じて表現する。</p>	
<p>地球と環境の科学</p>	<p>持続可能な社会に関する科学の基礎として、気候変動、生物多様性、ゴミ・廃棄物、水・大気汚染といった主たる環境問題について概説をする。社会を持続可能なものにするための科学の基礎について、「自分の言葉」で他人に説明できる様にするための自然科学の基礎概念と考え方を体得するとともに、現在起こっている環境問題について正確に把握し、その解決に向けて必要な方策を主体的に検討・抽出できる様な能力を養成する。</p>	
<p>科学技術と人間</p>	<p>科学技術は普段の生活の向上と人類全体の福祉に貢献する一方、時にその存在価値と相反するように社会的問題を引き起こす。この授業では、科学と技術、人間社会との関わりの有り様を歴史的に辿り、それから現代社会やわれわれの生活と密接に結びついた科学技術にまつわる問題をテーマ別に取り上げる。ひいては未来社会における科学技術と人間とのより良い関係を探究する。・科学と社会の相互関係の変遷を辿ることを通して、過去から今日に至るまでの人間社会の発展の足跡を学ぶ。</p>	

自然と環境を 探る	農業と食料	食料は人間の生存に不可欠であり、その多くを生産する産業が農業である。さらに農業は自然に働きかける営みであり、持続的な食料生産・生活の維持の観点で私たちが快適に暮らす基礎となる水や土地などの環境や資源とも深く結びついている。 本授業では、これら「食料・農業・環境」と、人間・社会とのかかわりあいの一端にアプローチする。食料・農業の歴史の変遷と国際的差異ならびに現代の農業が直面する問題の背景と枠組みを総合的に理解することを目的とする。	
	バイオの世界	生命科学の新知見はすぐに技術として社会に応用され、日常生活に結びつくようになった。本科目ではヒトの生命科学、遺伝子発現、遺伝子操作技術の基礎知識を概観するとともに、バイオテクノロジーの産業利用や医療への応用、それらが社会に与える影響と生命倫理問題などに関するトピックスをとりあげる。	
	防災の科学	地震、津波、火山噴火、台風、集中豪雨、洪水、土砂崩れ、大雪など、さまざまな自然災害が大きな社会問題になっている。これらの自然災害を科学的に理解するとともに、それらの災害から人命を守り、災害に強い社会を実現するための防災・減災への取り組みから復旧・復興のあり方などを、自然科学、社会科学、行政や社会制度の観点から、多面的・複合的に捉える。	
健康な体を 創る	身体運動の科学 a	利便性・省力化の進む現代社会の中で、「健康」について心身両面からの理解を深め、運動に対する生体の応答や適応システムといった自らの身体を具体的に知り、生涯にわたって健康的な生活を営むための手段を「体育」的要素から学ぶ。さらに、身体活動や運動を生活の中に取り入れ、実践できる能力を培うことを目的として、本授業を通じて継続的な運動習慣の獲得に繋がれることを期待する。 ・基本的な身体の構造や運動にかかわる基礎的知識を修得する。 ・身体と運動の関係を理解することにより、自らの身体を生涯にわたって健康的に維持するための「研鑽力」を身に付ける ・学習した内容を日常生活に活かし、体現することで「行動力」を身に付ける。	
	身体運動の科学 b	日本は世界で1、2位を争う長寿国ではあるものの、現代社会の利便性や身体活動量の減少傾向は健康の維持・増進を妨げる要因の一つとなっている。そこで、本授業では身体活動と健康との関係について正しく理解し、各ライフステージにおける身体活動・運動の意味について考えることを目的とする。発育・発達と運動能力の関係や女性と運動の関係について理解を深め、自らの身体を生涯にわたって健康的に維持するための実践力を培うとともに、家族や他者への働きかけといった行動力の獲得を目指す。 ・各ライフステージにおける運動とからだの関係について正しく理解する。 ・身体活動の充実を目標とした生活習慣の獲得に繋がれるように「研鑽力」を身に付けるとともに、学習した内容を日常生活に活かし、体現することで「行動力」「実践力」を身に付ける。	
	スポーツ文化論	本科目では、スポーツという文化現象を、哲学的、政治的、経済的、歴史・社会史的視点から広範に考察し、スポーツ文化について「考える」ことで、スポーツをなんとなく「良いもの」として受け入れてしまう態度を一旦停止する。その上で、スポーツのあるべき姿はどのようなものかを模索し、その文化的発展に寄与する批判能力を養うことを目標として授業を行う。スポーツという文化の独自の価値を知り、日本のスポーツ界の現状を学ぶことで、これからのスポーツのあり方を模索し、私たちひとりひとりが東京オリンピック・パラリンピックを通じて社会にどのようなメッセージを伝えていくべきなのか創造的に取り組む態度を養う。 また、自然科学、社会科学、人文科学、それぞれの視点から総合的にスポーツを分析する洞察力を身につける。	
	健康運動実習 a	ヨーガ初心者のためのクラスである。4千年にわたるヨーガに関する基礎的な歴史・哲学と、生理学・解剖学的な知識を獲得する。心の三原色をコントロールするための腹式呼吸を実践し、12の基礎的なポーズを運動させながら、身体各部の緊張と弛緩を繰り返し、意識的に身体感覚を見つける。それによって、完全にリラックスしたポジティブな心の状態へと導き、学力向上のための集中力の強化を目指す。ヨーガの本質を学び、からだの構造を知り、各体位法を実践することによって、自分の体調を管理し、美しく生きることを握り下げる自主的な態度を養う。瞑想を通じてマインドフルネスの技術を獲得し、環境に左右されずに信念をもって選択し行動する態度を養う。	

共通教育科目

教養教育科目

健康な体を創る

健康運動実習 b	<p>本授業では、生涯健康に過ごすための身体作りをテーマに、運動の特性や効果について学び、運動を実施することによる健康・体力の向上を体験的に学ぶとともに、各種の測定技術の習得と測定結果の分析といった運動処方基礎を学ぶ。</p> <p>具体的には体力測定を行い、測定方法や測定結果の分析を行う。また姿勢の測定やトレーニングについても学び、自分にあったトレーニングメニュー作りを行い、実践する。体力測定を通して自分自身の体力・運動能力をきちんと把握し、今後健康な身体で生活していくための計画を立て、行動する。また健康を維持していくための運動にはどのようなものが必要なのかを知り、トレーニングについての理論を学び、自分自身にあったトレーニング計画を立案し、実行することが出来るようになる。また、様々な種類の運動実践方法を体験する。</p>	
基礎スポーツ実習 a	<p>本授業では、健康的な生活を送るために必要な「健康」に関する知識の習得とともに、身近な運動・スポーツを実施することによって各自の健康・体力の維持増進を図るための方法を学習する。数種類のスポーツを取り上げ、仲間とともに運動することの楽しさを通してコミュニケーション能力の向上、各種スポーツの基本的なルール・マナーなどを習得し、身体を動かすことの重要性や生涯にわたって心身ともに健康的な生活を構築するための知識を身に付けることを目標とする。さまざまなスポーツの実践を通して、基本的な技術を身に付けるとともに、自己や他者の役割を理解し、互いに協力しあうコミュニケーション力や「協働力」の修得を目指す。また、生涯スポーツとして継続できるよう、ライフステージに合わせたスポーツ活動への応用などを考えることにより、「研鑽力」を身に付ける。</p>	
基礎スポーツ実習 b	<p>本授業では、健康的な生活を送るために必要な「健康」に関する知識の習得とともに、身近な運動・スポーツを実施することによって各自の健康・体力の維持増進を図るための方法を学習する。屋外・屋内のスポーツを通して、コミュニケーション能力の向上、各種スポーツの基本的なルール・マナーなどを習得し、身体を動かすことの重要性や生涯にわたって心身ともに健康的な生活を構築するための知識を身につけることを目標とする。さまざまなスポーツの実践を通して、各自のライフステージに合わせたスポーツ活動の継続に向けた応用力を高めることで、「研鑽力」の修得を目指す。また、各種目の基本的な技術を身に付け、自己や他者の役割を理解し、互いに協力し合うことで「協働力」やコミュニケーション力を身に付ける。</p>	
基礎スポーツ実習 c	<p>いろいろなダンス・エクササイズの実践を通して、からだを動かす楽しさを感じ、美しい姿勢や人間の多様な動きについて考え、基本動作の体得・習熟に努めるとともに、非言語コミュニケーション能力を高め、生涯を健康で豊かに過ごすための有用な知識と実践力を身につけることを本授業の主題とする。</p> <p>①自分のからだに気づき、こころとからだの調整ができ、仲間との交流ができる。 ②健康で豊かに過ごすための有用な知識と実践力を身につけることができる ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる</p>	
基礎スポーツ実習 d	<p>実践女子大学に於けるなぎなたの歴史と全日本なぎなた連盟の歴史的背景を考慮し、なぎなたの特性を学び、正確な基本技を修得する。最終授業にて審査を受けることができ、合格者は全日本なぎなた連盟の「級位」を取得することができる。</p> <p>日本の伝統文化「武道」を通して礼儀作法を学び、心・技・体を鍛えることができる。</p> <p>①態度…日本の文化・精神を知り世界に発信しようとする態度を習得できる。 ②能力…自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができるようになる。</p>	

共通教育科目 教養教育科目 健康な体を創る	健康体力科学演習	<p>健康的な生活を維持するために、身体活動は必要であると考えますが、「運動・スポーツ」が苦手であったり経験が少なく習慣化されていない人もいるのが現状である。</p> <p>本授業では、実施する運動の運動強度や運動量についての理解を深めるとともに、各自が設定した目標に向けて継続的に運動を実施し、その成果の分析を通して運動処方基礎を学習する。体力や日常の活動状況について分析し、各自の目的に合わせた身体づくり（運動不足対策、健康的なダイエット、体力アップなど）、日常生活における運動習慣づくりを目指す。毎時間の活動状況を記録することにより、自分の健康や体力の現状を正しく把握し、各自の目的や状況にあった運動プログラムを作成し、実践する「行動力」の修得を目指す。</p>	
	ヘルスプロモーション 実践実習 a	<p>自らの健康をコントロールし改善する方法を身につけることは生活の質（QOL）向上と積極的な健康行動のために大変重要である。この授業では、健康運動の実施方法について理論と実践の問題点や留意点を相互に検討しながら実習し、生涯にわたり自分で健康管理できるようにすることを主題とする。</p> <p>①基本の動きを習得することができる ②目標を設定し、計画を立案・実行できる ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる</p>	
	ヘルスプロモーション 実践実習 b	<p>自らの健康をコントロールし改善する方法を身につけることは生活の質（QOL）向上と積極的な健康行動のために大変重要である。この授業では、健康運動の実施方法について理論と実践の問題点や留意点を相互に検討しながら実習し、その運動効果についても他者と共有できる程度のヘルスリテラシーを身につけられるようにする。大学時代は健康管理の自立が促される時期である。健康への知識を深め、実用性に富んだ健康運動の実施方法を身につけ、仲間や家族、社会にも目を向けながら生涯にわたり自分で健康管理できるようにすることを主題とする。</p> <p>①健康に関する情報を精査し、自らの健康やその決定要因をコントロール、改善できる実践力を身につけることができる ②目標を設定し、計画を立案・実行できる ③自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる</p>	
	アダプテッドスポーツ	<p>障がいを持つ人は全国に約936万人、国民の7%以上が何らかの障がいを持っているという現代社会において、障がいがあるもしくは支援を必要とする人が身近な存在であるにもかかわらず、社会の理解はまだまだ十分であるとは言えない状況である。2020年東京パラリンピックをきっかけに、どのような「障がい」があっても、その人に合ったスポーツ活動を展開することで、さまざまなチャレンジが可能となり、社会や他者との交流へと発展させることができると思われる。そのための「アダプテッド」な視点を理解し、体験することで障害などがある人やその人を取り巻く環境の理解を深めるとともに、自らの体力や運動能力に合わせた運動実施を通じて健康増進に繋げることを目標とする。</p>	

共通教育科目 教養教育科目 知を拓く	健康な体を創る	スポーツ応用科学実習 出来る限り、競技能力の向上を目指す。近代バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速は大変顕著で、ラリーを続けることがとても容易であり、老若男女、誰でも簡単にプレーを楽しむことが出来る特徴を有している。そんなことから、本授業は、学校・企業・社会体育の指導現場等で、羽根つき遊びから、バドミントン競技に至る技術習得の追体験を実践しながら、技能向上を目指すとともに、対象に応じた指導方法について実習を行う。また、将来教育実習生として教育実習期間中に課外活動の支援を行う際に、バドミントンの練習方法に関して一応の理解をすることを目標にしておく。	
	実践教養講座 a	代表的な伝統文化の講義を通し「本物を体で感じ覚える」をテーマに、日本の伝統文化の精神とは何か、そこにつながる儀礼文化・有職故実（古来のきまり事）の年中行事・歳時記を学び、学祖下田歌子先生の「凛とした品格をそなえた女性」をめざし、社会に対応できるマナー・教養を身につけた「大人の女性」の出発点になる事を目標に学習する。 (1) 伝統文化と精神を理解し、今後の実社会の行動に役立つようにする。 (2) 伝統文化の体験を通じて、物事の真理を探究する態度を深め、他者を思いやる態度と伝統を継承する心構えを高め、国内外の人々との交流を通じ世界に発進する力をつける。	
	実践教養講座 b	日本の芸術から、文学・仏像・建築という3つの分野を取り上げ、それらが成立した文化的背景や特色、魅力等について学び、語れるようになることを目標とする。3名の講師が講義するほか、縁のある土地に出向き、その芸術・文化に触れる旅に参加することで、経験による深い理解をめざす。 ・日本の文学とその文化的背景について語れるようになる。 ・日本における仏像の時代ごとの特色と歴史の変遷について語れるようになる。 ・日本の建築・庭園・都市の特色を西欧の建築との対比で位置づけると共に、歴史の変遷について語れるようになる。 ・それぞれの芸術に魅力を見出し、自身の言葉で語れるようになる。 以上の目標を達成することにより、国際的視野と研鑽力および美を探究する力を身に付ける。	共同
	実践教養講座 c	(概要) 開発と発展により暮らしが便利になる一方、世界と地球は貧困、飢餓、気候変動、エネルギー、健康、福祉、教育、産業、陸と海の豊かさ、ジェンダーなど様々な問題を抱えている。これらを解決する目標であるSDGsについて学び、国や地域、自治体、企業での取り組みと、現状、そして私たち一人ひとりに何ができ、何をしなければいけないかを考える。 (オムニバス方式 / 全14回) 50 松島 照彦 3回 SDGsとは・世界の人々と地球の課題、生き物からSDGsを考える、縄文文化と持続型社会 31 白尾 美佳 1回 世界の食料生産と栄養 20 佐々木 溪円 1回 COVID-19だけが重要な感染症ではありません 23 佐藤 健 2回 プラスチックと人体、100歳までウォーキング 60 加藤木 秀章 2回 生活における材料と数値、繊維と環境 25 塩川 宏郷 1回 東ティモールの女性と子ども 65 大澤 朋子 1回 女性の貧困と人権 61 倉持 一 3回 クリーンなエネルギーをみんなにーカーボンニュートラルの実現に向けた世界の動きと企業の取組みー、企業の行動変容を促すための生活者の役割、気候変動に具体的な対策をー世界と企業の新たな動きー	オムニバス方式
	実践教養講座 d	120年余りの歴史を持つ実践女子学園は、いつどのように設立され、どのように発展してきたか。また、これから本学はどのように進むべきか。 ①創立者下田歌子の歩みと本学の歴史をたどるとともに、 ②本学が果たしてきた役割について明らかにし、 ③さらには、本学がこれから果たすべきミッションについて、学生や卒業生とともに考える。学生のみならずには、この授業を通じて大学生生活をいかに過ごすかを考えてもらいたい。	

実践教養講座 e	<p>コンピュータやネットワークを用いたデータサイエンス作業を体験する科目である。コンピュータやネットワーク（特に、インターネット）の仕組みを理解し、そのうえで、具体例として、①Webサイトの作成、②Webアンケート収集、③その結果の分析、④結果のプレゼンテーション、の一連の作業を個々の学生が行う。その後、結果の分析手法として、どのような統計手法、機械学習手法が適切であったかを全員で議論し、必要に応じて適切な手法で再分析してみる。</p>	
実践教養講座 f	<p>コロナ禍を体験している今、「生きにくさ」を抱えている人は、決して少なくない。特に、若年者の生きにくさは、深刻ではないだろうか。それはしばしばその人個人の不器用さなど、個人的な責任とされがちだが、実は、大きな構造の中で起きていると私は考えている。コロナ禍の中で、そのことが前面に出てきている印象がある。これまでルポライターとして書いてきた著書や取材活動などとともに、なぜ、私がそのように考えるように至ったのかを伝えるとともに、学生のみなさんにも、自身の日常の中にある現代社会の「生きにくさ」について考えていく。現代社会の「生きにくさ」に関する様々な現象や事例について、具体的な事例を通じて考えることによって、社会を理解し、分析し、評価する力を身につけることができるようになる。さらに、自分自身を客観的に見る力を得て、過剰に「生きにくさ」とらわれずに生きる力を養う。</p>	
実践教養講座 g	<p>将来社会に出て自立・自営していくためには、社会の状況を理解し、その状況に対して流されずに判断できる意見をもつことが大事である。この授業では、社会の中で起きている、話題となっているさまざまなトピックを取り上げ、現代の社会で何が起きているのか、その意味や背景について考えていく。自分でそのような出来事について調べ、討論を通して、そこから自分なりの視点を見出していくことを目指す。・授業で取り上げたトピック（時事問題）の内容について理解できるようになる。 ・それぞれのトピックの背景にある現代の社会的状況について、興味と批判的視点をもって探求できるようになる。 ・議論を通してさまざまな考え方に触れるとともに、自分なりの視点を確立できるようになる。</p>	
実践教養講座 h	<p>(概要) 映画は一つの作品であり、そこには映画を作る側の意図や思想が組み込まれているが、同時に作られた時代や社会も色濃く反映している。この授業では、専門分野の異なる5人の教員がそれぞれ関心のある映画を取り上げ、それを題材にして映画に描かれた文学作品や時代、社会を読み解いていく。</p> <p>(オムニバス方式 / 全14回) 44 広井多鶴子/3回 映画で読み解く家族 24 椎原 伸博/3回 バリ映画という視点 28 下山 肇/2回 映画で読み解くフューチャーヴィジョン 12 稲垣 伸一/3回 映画の中の19世紀アメリカ 21 佐々木真理/3回 映画の中のアメリカ</p>	オムニバス方式

共通教育科目 教養教育科目 知を拓く	実践教養講座 i	<p>(概要)</p> <p>食に関連して広い視野と多角的な視点をもって知識と教養を深める科目である。</p> <p>食と健康について、食のおいしさ、楽しさ、健康に必要な栄養、食の安全と安心、特種な食品や成分の機能と健康性、食にまつわる問題や社会的な課題など、最新のまた身近なテーマを中心にトピックスを学修する。食と健康についての様々な情報があるなか、「学術的に正しい解釈」をし、真偽を見極めるとともに、身の回りの事象について適切な判断をして対応できる能力、また、第三者に対しても正しい情報を伝えることができる能力を養う。</p> <p>ディプロマポリシーの中の、①美の探究：物事の真理を探究することによって、新たな知を創造しようとする態度。②研鑽力：広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜くことができるようになる。食に関する幅広い知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全14回)</p> <p>50 松島照彦 / 2回 コレステロールと動脈硬化 肥満とメタボリックシンドローム</p> <p>40 中村彰男 / 2回 がんは食事で予防できるのか？ ゲノム編集食品の裏側に潜むデザイナーベビー問題</p> <p>54 山崎 壮 / 2回 お菓子作りに欠かせない卵パワーを科学する 健康食品は効くのか、その利用のしかたを考える</p> <p>32 杉山靖正 / 1回 体によい食品成分とは</p> <p>42 奈良一寛 / 1回 農産物の生理学「貯蔵すると食品成分はどうなるの？」</p> <p>15 於保祐子 / 2回 栄養と子供の成長・発達 蛋白質・ミネラル・ビタミンと強い骨</p> <p>22 佐藤幸子 / 1回 美味しさの科学：「美味しい料理とは！」</p> <p>20 佐々木溪田 / 1回 小児の食物アレルギー</p> <p>62 奈良典子 / 1回 アスリートの食事から学ぶ～丈夫な身体を作る栄養・食事</p> <p>31 白尾美佳 / 1回 SDGsと食料安全保障</p>	オムニバス方式
	オープン講座 a	<p>(概要)</p> <p>絵本読み聞かせボランティアとして読書お楽しみ会を企画・実施するためのスキルや知識を学。実際に小学校の放課後クラブに出向き、ボランティア活動を行う。</p> <p>前半では、絵本読み聞かせに必要な朗読スキルや絵本に関する知識を学ぶ。受講生全員が読み聞かせの発表を行い相互評価することで、実践的な力の習得を目指す。</p> <p>後半では、アニメーションという読書プログラムを組み込んだ読書お楽しみ会を企画・実施する。</p> <p>(オムニバス方式 / 全14回)</p> <p>66 鹿島 千穂 / 10回 アニメーション作戦の考察、お楽しみ会の立案</p> <p>63 橋詰 秋子 / 10回 読み聞かせの方法、アニメーション作戦の実施</p>	オムニバス方式・一部共同

共通教育科目 教養教育科目 知を拓く	オープン講座 b	<p>人間は自然環境、生活空間の中で、人間の身体・五感に基づく独特の距離感覚、尺度感覚を持って暮らしている。私たちは、生活空間や生活道具に対して、人間の肉体、生理、心理、行動などが程よい距離感覚や尺度感覚に適応し、その環境下で快適な生活を過ごすことができるように「人間尺度」の規格化を試みている。</p> <p>その一方で、国際会議において「アクセシブルデザイン」と名称を統一するようになったが、日本の「共用品」のアイデアは、「だれかの不便さをみんなの使いやすさにかえる」ために、＜モノ・ひと・サービス＞のあり方を探求し、具現化してきた。そこで、この授業では、「人間尺度」や「共用品」の取り組みを踏まえて、グローバル化し、少子高齢化する社会における配慮点に照らして「デザイン」の役割について理解を深めることをめざしている。</p>	
	オープン講座 c	<p>我が国における「布の絵本」の先駆者である「ふきのとう文庫」（北海道札幌市）や「むつき会」（東京都品川区）は1970年代に活動を創始して「さわる絵本」の世界を築いた。2003年には国際児童図書評議会障害児図書資料センターが選本する本の巡回展が開始し、この活動は今日まで継続される。そこで、この授業では、布による手づくりの絵本・エプロンシアター・タペストリーなどに着目して「さわる絵本の世界」の意味や意義を探る。また、いわゆる「バリアフリー絵本の世界」と呼ばれる諸活動も併せて紹介する。</p>	
	クォーターオープン講座 a	<p>小学生のヤフー検索第1位は「ルイ・ブライユ」が連続していた記録がある。ルイ・ブライユが考案した「六点点字」は、1890年に石川倉次によって翻案された。「指で読む日本語」である点字は、私たちの身の周りのいろいろなモノにも表記されている。そこで、この授業では「指で読む日本語」である「点字のしくみ」を学び、点字を読むための基礎知識を身につけることをめざす。</p> <p>なお、点字本に関連する活動にも着目し、点字図書館や点字出版所などについても紹介する。</p>	
	クォーターオープン講座 b	<p>小学生のヤフー検索第1位は「ルイ・ブライユ」が連続していた記録がある。ルイ・ブライユが考案した「六点点字」は、1890年に石川倉次によって翻案された。「指で読む日本語」である点字は、私たちの身の周りのいろいろなモノにも表記されている。そこで、この授業では点訳者に求められる「点字の良心」を学び、墨字（私たちが読み書きする文字）を「点訳」して点字を書くために必要な「点訳」のルールを習得する。そして、実際に点字器で「点字を書く」演習を実施して基礎知識を身につけることをめざす。</p>	
	クォーターオープン講座 c	<p>私たちは何かを口頭で伝える際、メッセージの内容（言語情報）には注意を払うが、メッセージをのせる声や話し方（聴覚情報）にまで気を配ることは少ないものだ。ところが、たとえ同じ内容の話をしたとしても、声や話し方により、相手に与える印象や伝わりやすさが変わってしまうほど、コミュニケーションにおいて聴覚情報は重要なものである。実際に放送現場でアナウンサーが行っている発声・滑舌練習や原稿読みレッスンを通して、声や話し方に磨きをかけ、一生の財産となる「話す力」の育成を目指す。</p>	

専門教育科目	演習科目	演習 I	前期の「実践入門セミナー」での学びを基盤にして、大学での学びの方法（スキル）の向上を目指す。演習では、課題の発見→資料・データの収集と分析→発表→討論→レポート作成（グループワークを含む）という学習過程を通して、行動力と協働力のほか、思考力・分析力・プレゼンテーション力を磨く。「課題発見→資料・データの収集と分析→発表→討論→レポート作成（グループワークを含む）」という一連の行動の習慣化と、それを目標とする。併せて、個人でも協働でも物事を進められる能力を養成する。	
		演習 II a	演習 I にひきつづき、課題の発見→資料・データの収集と分析→発表→討論→レポート作成という学習過程を通して、行動力・思考力・分析力・プレゼンテーション力を磨く。1年生の演習で学んだ「読み、書き、聞き、話す」の基礎的な能力をさらに伸ばし、3年生からの専門的な学習に円滑に移行できるレベルに到達することを目標とする。 大学生活とその後の社会生活で必要となるスキルや学び続ける研鑽力を身につけることを目的とする。さらに、与えられた課題だけでなく自ら課題を発見し、解決のために資料・データを収集して分析する行動力を育成し、グループワークを通して協働することの重要性も学ぶ。	
		演習 II b	演習 II A に続いて3年生からのより専門的な学びから卒業研究を視野に入れて、さらなる学びのスキルを身につけることを目的とする。これまでの演習で学んできたアカデミック・スキルをさらに磨き、批判的に文献を読み込む、建設的な議論をするといった力を身につけることを目標とする。課題の発見、課題解決のための資料・データの収集、分析を主体的かつ行動的にを行い、状況に応じて協働する能力を養い、研鑽力の育成を目指す。	
		演習 III a	これまでの専門科目等で学んだ様々な現代社会における諸問題に対して、それらの真の課題を見つけ、多面的・複合的な観点で考察を行う。それらの考察をもとに、各自課題研究のテーマを設定し、調査や分析等のスキル等を活用して、当該課題研究を遂行する。具体的には2年次までの基礎ゼミで学んだ、課題の発見→資料・データの収集と分析→発表→討論→レポート作成（グループワークを含む）という学習過程を踏まえ、より現実社会に即した課題解決を目指し、行動力と協働力のほか、思考力・分析力・プレゼンテーション力を磨く。	
		演習 III b	演習 III A に引き続き、これまでの専門科目等で学んだ様々な現代社会における諸問題に対して、それらの真の課題を見つけ、多面的・複合的な観点で考察を行う。それらの考察をもとに、各自課題研究のテーマを設定し、調査や分析等のスキル等を活用して、当該課題研究を遂行する。具体的には2年次までの基礎ゼミで学んだ、課題の発見→資料・データの収集と分析→発表→討論→レポート作成（グループワークを含む）という学習過程を踏まえ、より現実社会に即した課題解決を目指し、行動力と協働力のほか、思考力・分析力・プレゼンテーション力を磨く。	
		演習 IV a	本演習では、3年次までの演習や講義等で学んだ専門知識を用いて、自ら社会問題に対する研究テーマを設定し、関連する先行研究や関連事例の紹介や論点整理を行い、リサーチクエストの設定、仮説構築など、研究立案を行う。またこれらの研究課題を解決するために、量的・質的データ収集を行い、分析、考察、論文執筆を自ら研鑽しながら遂行する。加えて、ゼミナール内での議論やピアレビューを通して、自らの研究を批判的に検討すると共に、他者の研究の質向上にも貢献することも目指す。	
		演習 IV b	演習 IV A に引き続き研究課題を解決するために、量的・質的データ収集を行い、分析、考察、論文執筆を自ら研鑽しながら遂行する。加えて、ゼミナール内での議論やピアレビューを通して、自らの研究を批判的に検討すると共に、他者の研究の質向上にも貢献することも目指す。	
		卒業研究	「卒業研究」では、テーマ設定から、文献・資料の収集・整理方法、そして論文を完成させるために必要な能力を身につけることを目標とする。各担当教員による指導を通じて、より良い論文を完成させることを目指す。論文の作成を通じて、自己成長する「研鑽力」を培う。	

専門教育科目 基礎科目 人間を学ぶ	人間社会学入門	<p>この「人間社会学入門」は、人間社会学部に入学した学生のための入門科目である。この授業の第1の目的は、人間社会学部で学ぶ様々な学問の概要を把握し、人間社会学部での学びとはどのようなものかを大まかに理解することである。そして、第2の目的は、現代社会におけるさまざまな問題・課題を総合的・学際的・多角的に捉え、それらに対し、自分なりの問題関心を持つことである。</p> <p>そのために、この授業では人間社会学部の様々な専門分野の教員がオムニバス形式で講義を行う。物事の真理を追究し、新たな知を創造しようとする態度（美の探究）と、自らを成長させる研鑽力を身につけることができるようになる。</p> <p>（オムニバス方式 / 全14回）</p> <p>2 竹内 光悦 / 1回 人間社会学部で学ぶとはどのようなことか、様々な学問分野を学ぶということは、学ぶことに興味をもち、どう面白いと思えるか。</p> <p>44 広井 多鶴子 / 1回 創立者下田歌子と実践女子学園の歴史について学生に伝える。</p> <p>58 井上 綾野 / 2回 マーケティング論とはどのような学問で、どのように活用されているのか、マーケティング論の導入部分を伝える。</p> <p>9 田中 瑛 / 1回 メディア・スタディーズとして情報社会における様々なメディア学ぶ。</p> <p>18 駒谷真美 / 2回 情報社会論の導入として、高度情報社会と情報セキュリティについて学ぶ。</p> <p>8 今田一希 / 1回 ソーシャル・データサイエンスという学問分野は何を行い、社会でどのように活用されるのか、具体的な事例を含めて学。</p> <p>70 神山 静香 / 2回 グローバル化する現代社会において、国際ビジネス法がなぜ必要となるのか。</p> <p>6 筒井 晴香 / 1回 データ・AI時代の倫理とはどのようなものか、学問分野としての応用倫理について学ぶ。</p> <p>37 高橋 美和 / 2回 文化人類学を、異文化理解は現代の必須教養の視点から説く。</p> <p>7 標葉 靖子 / 1回 社会デザイン： より良い未来を共創しよう</p>	オムニバス方式
		<p>心理学Psycho・logyは「精神Psyche」を「論理的にlogos」探索することを目指している。概論では「心理学」の基本すなわち客観的に捉えにくい「心」という対象をどのように科学として扱うべきか知り、変動し続ける人と環境、社会の課題に、主体的に向き合うのに役立つ基本知識を探索する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 客観性や再現可能性が実証的な心理学研究で重視される理由が理解できるようになる。 2. 人間が環境との関係性の中で、自己を調整し続ける予測と制御の「生体システム」であることがわかる。 3. 人の心の基本的な仕組みと働きについて概説できるようになる。 4. 新たな知識を創造しようとする態度、生涯を通して自己研鑽し続ける力、人のシステムの美しさを知り、主体的に他者と協働して課題を解決する力を習得する。 	
		<p>コミュニケーションは人間の営みには欠かせない。しかし、今日のように、グローバル化した社会や複雑な人間関係では考えや価値観を異にする人ともうまくコミュニケーションを図っていく必要がある。では、コミュニケーションとは何だろうか。それは人に何をもちたらずのだろうか。意識的に、人ともうまくコミュニケーションを図ろうと振る舞う時、そこに実体はあるのだろうか。人が自らに備わった器官と機能を使い、人間同士で行うやり取りが人間コミュニケーションの基本である。人はそのコミュニケーション手段や力を使って、何かを成し遂げたり、希望を叶えたりもする。人から人へと無意識的に何かが伝わり、空気さえ醸成してしまうのもコミュニケーションである。</p> <p>本授業では日常的、でも実体のよくわからない、このコミュニケーションについて基礎から学ぶだけでなく、あなたの疑問や迷いにも応えながら、国際的な視野から、どんな人ともコミュニケーションが図れるような問題解決の方法を考えていく。</p>	

専門 教育 科目	人間 を 学 ぶ	教育学概論	教育現場における問題意識に基づき、事例をもとに、教育の基本的概念、理念、歴史、そして思想について考察する。特に、子供の形成におけるなかで課題となっている不登校、児童虐待、少年非行、子どもの貧困など、今日の子ども・若者・家族・学校をめぐる諸問題について、歴史社会的に分析する。様々なデータを分析する中で、問題を把握するための研鑽力を獲得するとともに、新たな知を創造し、問題の解決に貢献する視点を身につける。	
		発達心理学	人を「生涯にわたり発達し、変化し続ける存在」としてとらえ、それぞれの年齢・時期に出遭う課題を心身の特性や健康や社会文化的役割の視点で学ぶ。主体的に自身の人生を考える態度を養うことを科目の目標とする。授業では、生涯発達の概要、認知機能の発達及び感情・社会性の獲得過程、幼児期の特性と能力、児童期・思春期の発達と仲間、現代社会の中の思春期、青年期の発達課題・自我同一性獲得と心の健康、成人期の自立、社会性とコミュニケーション、老年期の特性を学ぶ。	
		異文化理解	(概要) グローバル化社会で他者をどのように理解するかという課題は、これからの社会を発展させていく核となるものである。本授業では、異文化理解に必要なアプローチや考え、自・他の文化理解、文化摩擦などを議論し、今日グローバル化が加速的に進行する中で自・他の文化の違いを理解するとはどういうことか、自文化の中で自己のアイデンティティをどのように確立するか、身近な存在である在日外国人とどのように理解を深められるかを考える。 (オムニバス方式 / 全14回) 57 阿佐美 敦子/7回 異文化コミュニケーションとは何かを、コミュニケーションの基本概念を学びながら考えていきます。 71 時田 朋子/7回 異文化理解・国際理解を深めるために避けては通れない人権、言語、教育などについて、カナダの事例を用いて考えていきます。	オムニバス方式
		文化人類学	人類が他の動物と決定的に異なるのは、言語を土台とした文化を持つという点である。文化があるからこそ、人類は多様な環境に適応して生き延びてきただけでなく、新しい文明を次々に生み出しながら世界を発展させて来た。文化は私たちが前進させるすばらしいものだが、その反面、各地域の文化は私たちの考え方や行動を拘束もしている。文化のもつ、この相反した本質を考察するために、人の一生の様々な局面について、世界諸地域によってどれほどの多様性があるのか、その一方で、日本人である我々の行動を拘束しているものは何なのかを論じる。	
	社会 を 学 ぶ	社会学概論	この授業は、家族生活、地域社会、職業生活といった日常生活のトピックを取り上げながら、社会的なものを見方を学ぶ科目である。具体的には、さまざまな社会学理論や実証データにもとづいて、家族の構造と機能、ライフコースとライフスタイル、都市化と地域社会の変容、就業形態の多様化、生産・労働のグローバル化などについて学ぶ。到達目標は、さまざまなデータから現代社会の諸特性を理解し、研究方法としての社会調査の重要性をふまえながら、社会的な発想を身につけることである。課題解決に向けた「行動力」を高めるために、現状を正しく把握する知識を修得する。	
		法学概論	法律は、堅苦しい、冷たい、そして縁遠いなどと思われ、また自由を奪うものと非難されることもある。しかし、社会生活の秩序を維持するためには必須のものであり、身近に存在しているのである。「社会あるところ法あり」という言葉で表現される法律について理解を深める。法制度の概要について理解し、さまざまな社会課題を法的側面から考察する能力を修得する。すなわち、本学DPにおける学生が修得すべき「行動力」のうち、課題を発見する力を修得することを目的とする。	
		ジェンダー論	「ジェンダー」は社会的文化的につくられた「女らしさ」「男らしさ」を示す概念として普及している。しかしジェンダーは、単に男女間の「違い」を意味するだけではない。ジェンダーは、「男性＝普遍/女性＝特殊」「男性＝支配/女性＝被支配」という男女間の関係を説明する概念として発展してきた。「ジェンダー」という視点をもつことによって、こうした男女間の関係をつくりだしている社会のしくみを解明し、解決することが求められてきた。 本授業では、なぜ「ジェンダー」という概念が重要であるのか、女性解放を求めるフェミニズム運動の流れとともに、「知の変容」のプロセスとその意義を学ぶ。	

	<p>地理学概論</p>	<p>本科目のテーマは「現代社会の地理的な考察と理解に基づく行動力をつけること」である。 グローバル化が進む現代社会において、人間社会は互いに影響を与えあい、地域は多様に変容している。地理学において、その地域をどうとらえるかは重要な課題である。 そこで、授業ではまず、地域の分析のためには地図や地形図の有効性が高いことを確認し、日本を事例にいくつかの主題図の作成を行う。次に「地域」「環境」「景観」をキーワードに地域の分析に必要な基礎的な地理学の視点・考え方を説明する。事例として、日本や世界各地を地誌的に取り扱い、多角的な視点を持てるようにして国際的視野を養う。さらにそれら技能をもとに、主題図や統計資料、各自撮影した景観写真などを用いて、現代社会の地理的事象を多角的・多面的に考察し、その地域特色の理解、地域の課題解決のために主体的に行動する力を養う。</p>	
<p>社会を学ぶ</p>	<p>女性と労働</p>	<p>労働市場と家庭における女性の労働の社会的位置づけと課題を、歴史的過程を踏まえながら説明する。 男性を家庭の中心的な稼ぎ手とみなす男性稼ぎ手構造が形成された歴史的背景、また男性稼ぎ手を前提にした雇用関係や社会保障制度が、家庭と労働市場において女性の脆弱な地位をつくりだしているのか、国際的な比較データや各種統計調査を用いて考える。また保育士や介護職など女性職の雇用問題、福祉サービスの市場化が孕む問題点についてもとりあげる。 1) 女性の労働にかかわる日本と労働政策、社会保障政策について基礎的な知識を獲得する。 2) 国際比較をとらえて日本の現状と課題について、主体的に考える力を養成する。 3) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。</p>	
	<p>メディア社会論</p>	<p>現代社会は、情報が氾濫するメディア社会でもある。本授業では、メディア社会の様相について深層を読み解いていく。メディアによる社会現象の例を取り上げ、過去の背景から現在の問題、そして未来への影響や可能性まで解明する。本授業の目的は、情報社会参画の基盤となるメディア情報リテラシー（MIL）の育成である。MIL基礎段階の目標は、[メディア理解] ①active audienceとしてメディア社会への参画意識を高めることができる②メディアの利便性と危険性について認識できることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき[研鑽力・美の探究]「洞察力と倫理観を身につけ、本質を見抜き新たな知を創造する力」を蓄積する。</p>	
	<p>国際関係概論</p>	<p>本科目では、企業の経済活動に関するテーマを中心に、国際社会における法やルールについて基本的な知識を修得する。企業の経済活動に関するテーマを中心に、国際社会における法やルールの枠組みを理解し、国際関係法に関する基本的な知識を修得する。ディプロマ・ポリシーとの関連については、国際感覚を身につけて世界に踏み出し社会を動かそうとする態度を核として、「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力を修得する。「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。</p>	
	<p>経済学概論</p>	<p>日本を初めとして今日ほとんどの国は、市場経済を採用している。この市場を通じてわれわれ一人一人は、消費者として企業や政府、さらに外国と結びついており、相互に経済的に影響を及ぼし合っている。そのため、一国全体の経済的なメカニズム（マクロ経済学）の基礎を学び、次いで個々の消費者や企業の行動メカニズム（ミクロ経済学）の基礎を学ぶ。講義に際しては、具体的な事例を用いてみなさんの理解の助けとなるよう配慮する。理解を深めてもらうための小テストを行ったり、レポート課題を提出してもらおう。経済学の基礎を学ぶことによって、現代社会における経済問題を論理的に理解する研鑽力を身につけ、広い視野と深い洞察力を修得することを目標とする。</p>	
<p>ビジネスを学ぶ</p>	<p>経営学概論</p>	<p>経営学の基礎を学習することを通して、経営学の対象である企業の仕組みや活動についての理解を深める。また、製品やサービスを購入する「消費者」の視点、働く先を検討する「就職活動生」の視点、実際に働く「労働者」や取引をする「パートナー企業」としての視点など多様な角度から観察し、企業との関わり方を考える機会にする。経営学の基礎概念の修得と企業の仕組みの理解を目標とする。あわせて、企業の存続や成長につながる取り組みについての理解を深める。授業内で提示する課題への対応を通して、情報収集、分析、観察、まとめを含む行動力の養成を図る。</p>	

簿記論Ⅰ	<p>簿記は企業の経済活動を貨幣数値によって組織的に記録、計算、報告する技術を用いることにより、企業の状況を日常的に把握できるばかりでなく、損益計算書や貸借対照表などの財務諸表により、企業の経営成績や財務状況を明らかにすることができる。この授業では、簿記の種類、基礎概念、取引と仕訳、損益計算などの基本を理解するとともに、商品の売買や現金取引などを学び、企業活動におけるお金の動きや管理を理解する。</p>	
簿記論Ⅱ	<p>本科目では、簿記論Ⅰにひきつづいて、複式簿記の基本的なルールを学習する。特に、個別論点をより詳細に取扱い、最終的に総合問題にも対応できるようにする。簿記論Ⅰと本科目を合わせて、日商簿記検定3級に合格するレベルの実力を身につけることを目標とする。</p> <p>学生が修得すべき「研鑽力」のうち、1. 学ぶ楽しみを知り、生涯にわたり知を探究し、学問を続ける力を修得する。また、同様に、2 学修成果を実感して、自信を創出する力を身につける。</p> <p>さらに、学生が修得すべき「行動力」のうち、目標を設定して、計画を立案・実行する力、また「協働力」のうち、自己や他者の役割を理解し、互いに協力して物事を進めることができる力を修得する。</p>	
民法概論	<p>民法は、われわれ市民の日常生活における紛争が訴訟になった場合、その解決の判断基準を示す基本となる法律である。本法は、取引の中心となる権利主体や、どのような取引においても問題とされる規定などからなる民法総則、人の財産の支配および取引に関する財産法および家族関係に関する家族法から構成されている。この民法に関して、現代的な諸問題を視野に入れ、関連する裁判例をも踏まえ、国際的視点にも触れ、具体的に概説する。民法は日常生活上最も身近な法律である。民法上規定されている諸制度を概観し、外国企業との契約上の諸注意にも触れ、民事紛争を未然に予防する法的思考力を身につけることを到達目標とする。研鑽力、行動力、協働力が身につく。</p>	
マーケティング論	<p>企業にとって、市場との関係性はマーケティングの基礎となりうる。本科目は、市場をベースにしたマーケティングの基本概念を理解し、多角的な視点で企業・消費者・社会との関係性を捉えることを目指す。マーケティングの定義やケーススタディーを通して、マーケティングの各論へと繋げていくために、企業や社会において、マーケティングがどのような役割を果たしているのか、深く洞察し本質を見抜く力を養うことを目標としている。</p>	
商法概論	<p>グローバル化が急速に進む現代社会で、企業が競争に打ち勝ち利益を生み出すためには、ビジネス（商取引）や企業に関する法律やルールを知り、知識を使いこなしてビジネスを発展させる力が求められる。また、消費者として企業と取引をする際にも、基本的な法知識が必要になるだろう。</p> <p>本科目では、ビジネス（商取引）を規律する「商法」と会社を組織的側面から規律する「会社法」を中心に解説する。商法・会社法の基本的知識を得ることでビジネスや会社のしくみを理解し、現代社会において身につけておくべき基本的な法知識と法的思考力を修得することを目的とする。1. 商法と会社法の基礎的知識を修得する、2. 商法や会社法の条文を解釈して具体的事案に適用し結論を導くことができるようになる、3. ビジネス（商取引）や会社の組織・経営に関わる問題に対して、法的な考え方や法律に基づく判断ができるようになることを目標とする。ディプロマ・ポリシーとの関連については、学生が修得すべき「研鑽力」のうち、広い視野と深い洞察力、本質を見抜く力及び「行動力」のうち、現状を正しく把握し、課題を発見する力を修得する。</p>	
キャリア・マネジメント論	<p>世の中には社会的ニーズによってさまざまな職業や仕事作り出され、それらを通して人びとは多様な生き方や働き方をしている。こうした多様な職業や仕事は、社会的ニーズと個人の必要性、つまり個人の働き方がマッチングして生まれる。</p> <p>本科目では、まずこうした職業の意義やその要素、職業観の変化を明らかにすることから始め、次に主に若年層と女性に焦点をあてて、生き方と職業の関係を解説し、最後に働く人にとって望ましいキャリア形成のあり方を解説する。講義のなかでは、最新のキャリア論の紹介やニート、フリーター問題などの若年層をめぐるトピックスなども取り上げ、解説をする。</p> <p>また、自己の職業適性やキャリア志向の診断なども講義のなかに入れていきたいと考えている。</p> <p>本科目を通して、学生の皆さんは自分にとって働く意味とは何かを理解するとともに、望ましいキャリア形成やキャリアマネジメントのあり方を学ぶことができる。</p>	

<p>キャリア・デザイン論</p>	<p>本科目では、キャリア・デザインの理論を学び、仕事ができるとはどういうことか、仕事と出産・子育ての両立をどう考えれば良いか、就職活動の実際、人間社会学部での学びが仕事・キャリアにどう結び付くかを学修したのちに、企業研究の方法を学ぶ。キャリア・デザインの理論と応用、企業が持つ機能、業種などについて、具体的に工業技術に関する企業情報を事例として学ぶ。さらに、文系学生が就職する企業・職種などについて読み解く。</p>	
<p>実践デザインラボ I</p>	<p>本授業は、デザイン思考入門として位置付けられるプロジェクト授業である。デザイン思考とは、Human（人間、ユーザー）を中心に据え、共感（洞察）・課題定義・創造・プロトタイプ化・検証の各プロセスを迅速に往復・循環することにより社会に新たな価値を創造・届ける方法論のことで、イノベーションを必要とする様々な領域で注目されている。本授業では、グループ編成をして、各グループで課題を設定し、実際のデザイン・プロジェクト体験を通して、デザイン思考の考え方や技法、プロセスの基本を理解するとともに、チームで協働する力を身につけることを目指す。</p>	
<p>アントレプレナーシップ論</p>	<p>本授業では、イノベーションをもたらす新しい価値を生み出す思考・行動要素として注目されている「アントレプレナーシップ」について概説し、アントレプレナーシップはビジネスで起業する人特有のものではなく、リスクに挑戦し、創造性の発揮により新しい価値を創造していく姿勢のことであること、経済の領域に限定されない社会の広範な領域で必要とされる行動要素であることを理解する。また、アントレプレナーシップ開発のために必要な基礎知識・スキルの習得を事例研究を通し行う。</p>	
<p>アントレプレナーシップ演習</p>	<p>本授業は、課題を主体的に解決して事業を推進していくアントレプレナーシップを開発することを目的としたプロジェクト型授業である。授業の中で、グループを編成して、興味関心のあるテーマにそって、他者と協力しながら新しい事業やプロジェクトを実現したり、社会問題をビジネスのアプローチで解決する社会事業を立案したりする。これらの活動をとおして、新しい価値を創造し、よりよい社会へと変革するために求められる起業をするとはどういうことかを学ぶ。</p>	
<p>リーダーシップ開発 a</p>	<p>本授業では、リーダーシップとはどのようなものか、「権限なきリーダーシップ」や「シェアド・リーダーシップ」などを含めてリーダーシップについて議論する。具体的なプロジェクトを運営する模擬チームを編成し、チームをどのように運営するか、役割を変えながら企画・実践し成果をあげるための取り組みを行う。この取り組みを通して、学生が自身自分の資質を自覚し、自分の特性を活かしたリーダーシップやフォロワーシップを開発・発揮できるようになることを目指す。</p>	
<p>リーダーシップ開発 b</p>	<p>変化が激しく、不確実性が増している現代、多様な場面・チームで個々人が「実践知のリーダーシップ」を発揮していくことが期待されています。メンバーそれぞれが自分の特性を活かしつつ、チームとしての力を発揮することがチーム/プロジェクトをより良い成果に導くと言われていた。そこで本授業では、学生自身がプロジェクト課題を設定し、その課題解決に向けた企画、実施案の策定、チーム内の議論を通して活動・学習の振り返りを行う、さらに「学生のためのPBLガイドブック」の作成を実際に行う。これらを通じて、履修者それぞれの強みや資質を発見し、互いに特性を活かしたチームングや「実践知のリーダーシップ」の発揮について学ぶ。</p>	
<p>社会と統計</p>	<p>社会において現状を測る、知る、行動するためには、様々なデータに基づく意思決定が求められる。実社会においてもこれらのデータを適切に処理する、分析する、表現するスキルは重要視され、ほとんどの部署で、その基礎的な知識を必要とされており、それらの習得は自分を助ける道具といえる。本科目では、企業、団体活動はもちろんのこと、大学4年間における調査・実験系の講義・演習や卒業研究に必要なデータ処理、分析に必要な基礎的なデータ分析を紹介する。特に実社会における実データを活用し、そのデータの適切な処理、分析、表現方法を学ぶ。ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身につけることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。</p>	

<p>社会調査概論</p>	<p>社会調査はあらゆる社会現象の解明に利用され、公開されている公的統計、調査票を利用した調査票調査から、インターネットを利用したウェブ調査等、調査法の形態も様々である。これらはそれぞれ利点と欠点があり、これらを把握しながら目的に合わせ利用することが重要である。 社会問題をテーマに、社会情報を集めるプロセス「調べる」「分析する」「まとめる」を体系的に学ぶことが大切である。 本科目では、社会調査を行なう際に実際に展開することになる一連の体系（調査の企画・設計、標本設計、調査票作成、調査実施、データ作成、集計・分析、調査結果の検討・報告書作成等）を踏まえ、卒業研究を踏まえた社会調査の基礎を紹介する。ビジネスパーソンの素養とする調査力・観察力の修得を目指す。自ら問題設定し、そのことに関連する情報を収集するなど、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。</p>	
<p>社会調査方法論</p>	<p>この授業は、社会調査によってデータを収集し、分析段階にまで整理していく具体的な方法を学ぶ科目である。自治体の意識調査から、内閣支持率・選挙予測調査、テレビ視聴率調査まで、さまざまな調査結果が日々報告されている。ところが、質問の仕方が不適切な調査、対象者に偏りがみられる調査などが少なくない。社会調査は、その方法がでたらめだと、まったく意味のないものになってしまう。この授業では、ゼミや卒論で自ら調査を実践できる力を身につけることを目標とする。社会調査の方法論を通じて、「研鑽力」の養成に資する本質を見抜く力、「行動力」に必要な現状を正しく把握する能力を高める。</p>	
<p>社会の基礎数学</p>	<p>現代社会は、多くの情報があふれ、多くの情報の中から必要なデータを選択して自ら判断するという機会が増えている。日常生活から企業活動においていたるところで、客観的なデータにもとづいた分析を実行できる能力が重要となっている。そのためには社会における情報システムを理解することが重要になる。そこで、本科目では、社会における組織体（または社会、個人）の活動に必要な情報の収集、蓄積、処理、伝達・利用にかかわる仕組みである情報システムについて数学的に解説し、その仕組みについての理解を目標とする。たとえば「数値の規則性の表現—数列の考え方—」「社会情報の数値化」「数学記号の利用したモデル表現」「数字を使った社会情報の表現」といった基礎数学を学ぶ。</p>	
<p>調査・実験データ処理法</p>	<p>知識基盤社会といわれる現在、様々なタイプや大きさのデータを適切に扱える能力は重要である。特に、問題解決を行う際には、調査や実験によるデータの取得、またそのデータの処理・分析は社会人として基礎的であり、必須の知識やスキルといえる。 本科目では表計算ソフト (Microsoft Excel) や統計ソフト (R) を用いて、社会調査や心理実験などで得られるデータを処理、分析する知識やスキルの習得を踏まえ、多様な現場での即戦力育成を目指す。ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理、データ分析ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身につけることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。</p>	
<p>プログラミング基礎</p>	<p>高度情報化社会の現在において、社会科学の諸分野においても、データ処理・分析はもちろんのこと、プログラミングの知識や技能の習得は重要である。またプログラミングに関しては、高等学校「情報」などですでに履修済みのケースもみられるが、これらの知識や技能は専門家に頼るのではなく、誰もがプログラミングに関する基礎的な知識や技能を持つことが社会問題の解決においても大切である。本科目では、これらのことを踏まえ、R や Python などを用いて、基礎的なプログラミングから始め、実際にプログラムを自分で作ることを目指す。本科目では、1) プログラミングの基礎を知り、自らプログラムを体系的に開発することができる、2) 自ら課題を見つけ、それを解決する基礎的なプログラムを開発、その特徴を説明することができる、などを到達目標とする。</p>	
<p>データベース基礎</p>	<p>コンビニレジのデータや twitter のデータ、スポーツデータや人の行動データなど、様々な分野でデータの規模や形式が変わってきている。このような高度情報化が進む情報化社会では、これらの大規模なデータを適切に処理するスキルが必要とされており、今後さらにこれらを扱える人材が期待されている。そこで本科目ではこれらのデータを扱える人材育成を視野に、はじめてデータベースを触る入門部分から基礎的なレベルまでを段階的に紹介し、R や Microsoft Excel を用いた基礎的なデータベースおよび BI (ビジネスインテリジェンス) ツールの Tableau などのビジネススキルの取得を目指す。ビジネスパーソンの素養とする基礎的なデータ処理ができるようになる。多様化する社会問題を客観的に把握する知識や技能を身につけることにより、課題解決のために主体的に行動する力【行動力】を修得する。</p>	

英語コミュニケーションⅠa	<p>人間社会学部の理念に沿い、国際的感覚を持って広く、社会・ビジネスの場で使える英語力の獲得を演習形式の授業により目指す。</p> <p>1. 社会の基本的な情報を英語で理解し、それについて英語で簡単に説明したり自分の意見を英語で表現したりできるようになる。</p> <p>2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につける。</p> <p>3. TOEICテストで高得点を取得し、自分の英語力を示すことができるようになる。</p> <p>以下は、各技能あるいは知識の到達目標である。</p> <p>Vocabulary - 基礎的な単語力を伸ばし、日常の場で適切に使えるようになる。</p> <p>Grammar - 文法知識を整理し、正確に使えるようになる。</p> <p>Reading - 社会で起こっている様々な話題について英語で読んで理解できるようになる。</p> <p>Writing - 英語で書く基本を学び、目的に応じて簡単な文が書けるようになる。</p> <p>Critical thinking - 上記の活動を通して批判的な目や批評力を身につけ、自分の意見を英語で表現することができるようになる。</p> <p>具体的な到達目標として、CEFR基準のB1～B2レベルの英語力獲得を目指す。</p>	
英語コミュニケーションⅠb	<p>人間社会学部の理念に沿い、国際的感覚を持って広く、社会・ビジネスの場で使える英語力の獲得を演習形式の授業により目指す。</p> <p>1. 社会の基本的な情報を英語で理解し、それについて英語で簡単に説明したり自分の意見を英語で表現したりできるようになる。</p> <p>2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につける。</p> <p>3. TOEICテストで高得点を取得し、自分の英語力を示すことができるようになる。</p> <p>以下は、各技能あるいは知識の到達目標である。</p> <p>Vocabulary - 基礎的な単語力を伸ばし、日常の場で適切に使えるようになる。</p> <p>Grammar - 文法知識を整理し、正確に使えるようになる。</p> <p>Listening and Speaking - 日常的话题について正しく聞き、簡潔かつ適切に話せるようになる。</p> <p>Critical thinking - 上記の活動を通して批判的な目や批評力を身につけ、自分の意見を英語で表現することができるようになる。</p> <p>具体的な到達目標として、CEFR基準のB1～B2レベルの英語力獲得を目指す。</p>	
英語コミュニケーションⅡa	<p>人間社会学部の理念に沿い、国際的感覚を持って広く、社会・ビジネスの場で使える英語力の獲得を演習形式の授業により目指す。</p> <p>1. 社会で起こっている様々な情報を英語で理解し、それについて自分の意見を英語で表現したり議論したりできるようになる。</p> <p>2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につけ、英語でコミュニケーションできるようになる。</p> <p>以下は、各技能あるいは知識の到達目標である。</p> <p>Vocabulary - 単語の知識を増やし、適切に使えるようになる。</p> <p>Grammar - 文法知識を整理し、正確に使えるようになる。</p> <p>Reading - 社会で起こっている様々な話題について英語で読み、多角的に考えることができるようになる。</p> <p>Writing - 英語で書く基本的な規則を学び、テーマに関して様々なスタイルで文章が書けるようになる。</p> <p>Critical thinking - 上記の活動を通して批判的な目や批評力を身につけ、自分の意見を英語で表現することができるようになる。</p> <p>具体的な到達目標として、CEFR基準のB1～B2レベルの英語力獲得を目指す。</p>	
英語コミュニケーションⅡb	<p>人間社会学部の理念に沿い、国際的感覚を持って広く、社会・ビジネスの場で使える英語力の獲得を演習形式の授業により目指す。</p> <p>1. 社会で起こっている様々な情報を英語で理解し、それについて自分の意見を英語で表現したり議論したりできるようになる。</p> <p>2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につけ、英語でコミュニケーションできるようになる。</p> <p>以下は、各技能あるいは知識の到達目標である。</p> <p>Vocabulary - 単語の知識を増やし、適切に使えるようになる。</p> <p>Grammar - 文法知識を整理し、正確に使えるようになる。</p> <p>Listening and Speaking - 聞く力をつけ、効果的に英語で話せるようになる。</p> <p>Critical thinking - 上記の活動を通して批判的な目や批評力を身につけ、自分の意見を英語で表現することができるようになる。</p> <p>具体的な到達目標として、CEFR基準のB1～B2レベルの英語力獲得を目指す。</p>	

専門教育科目 基礎科目 コミュニケーション・スキル	英語コミュニケーションⅢ a	<p>人間社会学部の理念に沿い、国際的感覚を持って広く、社会・ビジネスの場で使える英語力の獲得を演習形式の授業により目指す。</p> <p>1. 社会で起こっている様々な情報を英語で理解し、それについて自分の意見を英語で表現したり議論したりできるようになる。</p> <p>2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につけ、英語でコミュニケーションできるようになる。</p> <p>3. TOEICテストで高得点を取得し、自分の英語力を示すことができるようになる。</p> <p>以下は、各技能あるいは知識の到達目標である。</p> <p>Vocabulary－単語力を伸ばし、適切に使えるようになる。</p> <p>Grammar－文法知識を整理し、正確に使えるようになる。</p> <p>Reading－社会で起こっている様々な話題について英語で読み、多角的に考えることができるようになる。</p> <p>Writing－英語で書くルールや基本を学び、テーマに関して様々なスタイルで文章が書けるようになる。</p> <p>Critical thinking－上記の活動を通して批判的な目や批評力を身につけ、自分の意見を英語で表現することができるようになる。</p> <p>具体的な到達目標として、CEFR基準のB1～B2レベルの英語力獲得を目指す。</p>	
	英語コミュニケーションⅢ b	<p>人間社会学部の理念に沿い、国際的感覚を持って広く、社会・ビジネスの場で使える英語力の獲得を演習形式の授業により目指す。</p> <p>1. 社会で起こっている様々な情報を英語で理解し、それについて自分の意見を英語で表現したり議論したりできるようになる。</p> <p>2. 英語を通して異文化を理解し、国際人となるべき基礎力を身につけ、英語でコミュニケーションできるようになる。</p> <p>3. TOEICテストで高得点を取得し、自分の英語力を示すことができるようになる。</p> <p>以下は、各技能あるいは知識の到達目標である。</p> <p>Vocabulary－単語力を伸ばし、適切に使えるようになる。</p> <p>Grammar－文法知識を整理し、正確に使えるようになる。</p> <p>Listening and Speaking－聞く力をつけ、効果的に英語で話せるようになる。</p> <p>Critical thinking－上記の活動を通して批判的な目や批評力を身につけ、自分の意見を英語で表現することができるようになる。</p> <p>具体的な到達目標として、CEFR基準のB1～B2レベルの英語力獲得を目指す。</p>	
	日本語コミュニケーション基礎	<p>日本を生活の場とする我々は、普段日本語を使ってコミュニケーションをしている。しかし、多くの場合、自分がコミュニケーションの場をどう認識し、どうふるまっているかを意識的に考えることはない。</p> <p>この授業では、普段の自分の言語行動、および、自文化を形成しているものを意識化し、同時に、自分と異なるコミュニケーションパターンを持つ人を理解し、さまざまな場面に対処できるような「頭作り」をする。普段無意識に使用している日本語とそのコミュニケーションについて、さまざまな観点から意識化することにより、学生が修得すべき「国際的視野」のうち「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」、「研鑽力」のうち「本質を見抜くことができる能力」、および、「協働力」のうち「互いに協力して物事を進めることができる能力」を身につけることを目標とする。</p>	
	日本語コミュニケーション実践	<p>さまざまなコミュニケーションの場を想定し、それぞれの場面での困難点・問題点を意識しつつ、どのようにふるまうのが望ましいのかを考える。それらの実践と観察を通し、より広い視野と、自身をモニタリングできる能力を得ることを目指す。学生一人一人が自身の言語行動を振り返り、授業時にお互いの言語行動を評価し合うことにより、学生が修得すべき「国際的視野」のうち「日本の文化・精神を知り、世界に発信しようとする態度」、「研鑽力」のうち「本質を見抜くことができる能力」、および、「協働力」のうち「互いに協力して物事を進めることができる能力」を身につけることを目標とする。</p>	
基礎科目	社会情報学概論	<p>「社会情報学」とは、メディアやコミュニケーションに関わる社会現象・文化現象、そして情報社会における諸問題を、「社会情報」の視点から学際的に分析する学問である。本授業では、社会に存在する様々なコミュニケーション（通信や意思疎通）や情報の保管・管理（図書やデータベース）といった情報の扱いを「社会情報」としてとらえ、デジタルを中心とした社会情報をめぐる多様な課題を解決するために必要な基本的な知識・視座の獲得を目指す。</p>	

<p>情報と職業</p>	<p>情報化の進展により、企業活動・社会活動のあらゆる場面で情報技術を活用できる人材が求められている。本授業では、情報技術(ICT)をコアとする情報関連産業はもちろんのこと、一般の企業活動等における情報技術の現状や実態を概観し、求められる人材・能力、労働環境等をめぐる課題についての基礎的な理解を深める。さらに、Society 5.0 (ICTを活用し多様な人々が想像と創造する社会)におけるキャリア開発の多様性にも触れ、情報に係わる職業人として必要なコミュニケーション能力やプロジェクトマネジメント能力、情報技術者としての職業倫理についても理解を深める。これらを学ぶことで、高度情報化社会で活躍できる人材としての基礎を身につけることができる。</p>	
<p>サステナビリティ論</p>	<p>「SDGs」とは、持続可能な開発可能目標 (Sustainable Development Goals) のことで、「貧困をなくそう」を最初の目標に、全部で 17 のゴールから構成された 2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。本科目では、SDGs への国内外の取り組みを知り、これらの目標を自分事として、何が自分たちでできるか、どうすれば具体的に実現できるかについて、グループ活動を通じて、データに基づいて議論する。本科目の履修を通じて、1) 現在の世界がどのような状況になっているかをデータに基づき広い視野で検証できる、2) 持続可能な開発目標について理解し、他者に説明できる、3) SDGs の目標達成に向けて、自ら何ができるかを議論し、実行に向けて企画を立てることができること、などを到達目標とする。</p>	
<p>社会システム論</p>	<p>これまで皆さんが経験してきたことを議論の俎上に載せて進めていく。社会を「コミュニケーションの連鎖」と捉えることで理解を深めるとともに、社会システムとして機能していない部分を発見し、機能していない理由、機能するための方策について検討を行う。時代の趨勢に考慮しながら、コミュニケーションの連鎖という視点で社会を分析する視点の修得を図る。各自の経験や文献等に基づく積極的な情報収集をもとにディスカッションを行い(行動力)、さらに各自で調べ続けることを通じて各テーマについての理解の深める(研鑽力)。</p>	
<p>社会・集団・家族心理学</p>	<p>社会心理学は、社会の中における人間の行動や態度を、調査や実験等の科学的な手法で研究する学問である。日常生活で出会うような場面、感じるような疑問を扱うことも多く、非常に興味深い学問である。しかし社会心理学から見た日常現象は、今まで思っていた常識とは異なるかもしれない。本科目では社会心理学の基礎知識について広く学ぶ。目標は①対人関係や、集団における人の意識・行動についての心の過程を説明できるようになる、②人の態度や行動についてさまざまな理論を用いて説明できるようになる、③家族、集団、文化が個人に及ぼす影響について説明できるようになることである。ディプロマ・ポリシーとの関連では、学生が修得すべき「研鑽力」のうち「学ぶ楽しみ」「広い視野と深い洞察力」を修得する。</p>	
<p>社会言語学</p>	<p>人にとってことばとは何か。世界の諸言語はどうその国や地域、社会環境と関わっているのか。そこに生活し、活動する人間の行動とどう結びついているのか。これらことばを巡る問いに答えようとする時、ことばの機能だけに注目しても説明や解明はできない。対人関係が複雑さを増す中、異なる場面や状況下で、人はどうことばを使い分け、相手の行動や心理に働きかけようとしているのか。社会言語学は、このような社会的文脈の中で捉える言語研究として登場し、ことばに関する疑問や研究での問いに答えようとしてきた。授業では、社会言語学とは何かから始まり、ことばがいつ・どこで・誰と・どう話すのかにより、聞き手の態度を変えること、また、社会環境の違いや置かれた立場により、話し方や与える印象、人間関係さえ変わることも学ぶ。今日のことばを通じた社会現象や言語環境の変化にも注視しながら、言語研究を行うための批判的思考とことばに関する質的調査法の基礎を学ぶ。</p>	
<p>都市フィールドワーク論</p>	<p>この授業は、さまざまな質的データの収集や分析方法について解説し、実際にインタビュー調査などを実施するアクティブ科目である。具体的には、観察法にもとづく質的データの収集方法や、KJ法/グラウンデッド・セオリー・アプローチといった分析方法を、おもに社会学における研究事例を通して学ぶ。そして自ら設定したリサーチ・クエスチョンに基づいて質的データを収集し、その分析結果をまとめる。この授業の目標は、ゼミや卒論で自ら質的調査を実践する力を修得することである。フィールドワークを通じて「研鑽力」にかかわる広い視野と洞察力を身につけ、自ら調査テーマを決めて質的分析を進めることができる「行動力」を育む。</p>	

<p>課題解決プロセス基礎</p>	<p>一見すると複雑・難解と感じられる事項に遭遇することがある。しかし、それを落ち着いて細分化して観察してみると、ありふれた事項の集合体で成り立っていることがほとんどであり、実は恐れるに足りない。巨大に見える課題を解決するには、我々はどうのように対処していけば良いのであろうか。本科目では「上手なプレゼンテーション」を課題例に、これがどのようなスキルから成り立っているかを解き明かすと共に、伝えることの背景にまで踏み込むことで、物事の捉え方や論理的に考えるということがどういう行為なのかを探り、課題解決の道筋を紹介する。最終的には主体的にプレゼンテーションを組み立て、自分の考えを聞き手に誤解なく理解してもらえるスキルを身に付けることを目標とする。</p>	
<p>社会科学におけるAI・機械学習</p>	<p>社会科学の諸分野でも近年の AI (人工知能、Artificial Intelligence) の発展は目覚ましく、さまざまな業界で導入されている。一方、AI を実現するためのひとつの方法として、機械学習と呼ばれる技術がある。これらの知識や活用技術の習得は今後、社会人としてますます必要とされている。本科目では、AI の歴史から現代社会での導入事例に触れ、具体的に R や Python 等のプログラムを用いて、基礎的な機械学習を学び、実際のリアルデータ・リアル課題解決を踏まえた実践を行う。本科目を通じて、1) AI に関する基礎的な知識から最新の導入事例について、広く知ることができ、他者に説明できる、2) 実際に機械学習の基礎的なプログラムを習得し、自ら設定した課題を達成することができる、などを到達目標とする。</p>	
<p>マルチメディア処理</p>	<p>近年、メディアの発展は目覚ましく、モバイル端末を用いて自らコンテンツを作成することも可能になっている。この場合、新聞や雑誌、テレビやラジオなどの旧来から存在するメディアだけでなく、Web で公開されているニューメディアなども含み、複合的に、また静的・動的問わずの情報を扱い、今後もますます利活用されるであろう。本科目では、これらのマルチメディアに対して、それらの基礎的な知識の習得から実際のコンテンツ作成までを目指す。具体的には、1) マルチメディアに関する基礎的な知識を習得し、他者にその特徴やメディアの違いを説明することができる、2) 実際にツール等を用いて、簡単なメディアコンテンツを自ら開発することができる、などを到達目標とする。</p>	
<p>実践デザインラボ II</p>	<p>本授業は、デザイン思考応用として位置付けられるプロジェクト授業である。本授業では、デザイン思考をベースとしつつ、少子高齢化、地域、防災、環境・エネルギー、健康、教育、格差、ダイバーシティ等、現代社会を取り巻くさまざまな社会的イシューを出発点とした「ソーシャル・デザイン」に挑戦する。ソーシャル・デザインとは、社会の中の課題を発見し、その解決をデザインする一連のプロセスを言い、デザインする対象は、モノだけでなく、社会制度や活動、サービスなど多岐にわたる。本プロジェクト学習を通して、デザイン思考を実際の社会課題解決のために活用できる力を身に付ける。</p>	
<p>デザイン思考とデータ活用</p>	<p>社会課題を解決するためには、調査データの活用による実態把握はもちろんのこと、直面する課題を解決するためには、アイデアを出して試行錯誤する必要がある。その思考方法の一つにデザイン思考という手法があり、今後実社会に出て物事を推進していく際の有効な手段と成りうる。本科目ではこのデザイン思考の実現方法を紹介すると共に、この作業を進めていく過程で下支えとなる調査データの利活用も踏まえながら実践的な社会問題解決力の育成を目指す。講義を通して、直面する課題にどの様に向き合えば良いのかについて考えてもらおう。最終的には課題解決の手法であるデザイン思考を体得し、自分で課題に取り組めるスキルを身に付けることを目標とする。</p>	
<p>地域社会学</p>	<p>この授業は、地域をとらえる理論と方法を理解し、今日の地域社会がかかえている諸問題を検討しながら、住民と自治体の協働（パートナーシップ）について学習することを目的とする。具体的には、郊外社会の理想と現実、インナーシティ問題、グローバリゼーションと世界都市、地方都市の衰退と中心市街地活性化、市町村合併と限界集落などの論点を検討する。この授業の目標は、大都市から農山漁村まで、それぞれの地域特性に応じた「まちづくり」の現状と今後の課題について考える知識を習得することである。グローバリゼーションと都市に関する「国際的視野」を身につけるとともに、地域社会の現状を正しく把握し問題解決につなげる「行動力」を養成する。</p>	

基幹科目	応用経済学	<p>私たちの身の回りに存在している様々な問題の多くは一見すると経済学とは無関係のように見えるが、経済学的にかなり解明されている。そこで、経済学概論で学んだミクロ経済学とマクロ経済学の基礎の上にそれらが経済学的にどのように扱うことができるかを経済学の応用分野の知見（例えば、ゲーム論など）を加えながら解説していく。</p> <p>また、リアクションペーパーに書いていただいた質問や意見を次の授業の最初に解説することにより、受講者の関心に合わせて授業を進めていくため、学生それぞれが、この社会で生活を営んで行く中で便利なツールとなり得る「経済学的なものの考え方」の応用を身につける。</p>	
	行動経済学	<p>従来の経済学では合理的経済人を仮定して理論体系が構築されてきたが、実際には人間には不合理な面が多々あり、特に心理的な要素が経済行動にかなり影響を与えている。行動経済学はこれらの面に焦点を当てて、従来の経済学では説明できなかった事象を解明し、ノーベル経済学賞を受賞した研究者が何人も出ていることで近年注目を浴びている。コロナ禍の感染症対策においても行動経済学の知見が役に立っていることがあるのも有名である。この授業では身近な例を題材として、一見不合理に見える経済行動を行動経済学的に解説し、ビジネスやマーケティングにおいて企業側がそれらの知見をどのように利用しているかも解説する。</p>	
	特別講義 a	<p>現代社会は、ビックデータやインターネットが影響しあう複雑な社会であり、そこで注目される課題も多種多様で複雑化している。本科目では現代社会において代表的なまたは最新のトピックに触れ、それらのトピックにおけるの社会課題に対して、データサイエンス、メディア・イノベーション、共創デザインなどの視点で、それらの課題を知り、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、解決策を検討する。本科目では、特に他科目で学んだ知識や技能を活用し、課題発見力の向上を到達目標とする。</p>	
	特別講義 b	<p>現代社会は、ビックデータやインターネットが影響しあう複雑な社会であり、そこで注目される課題も多種多様で複雑化している。本科目では現代社会において代表的なまたは最新のトピックに触れ、それらのトピックにおけるの社会課題に対して、データサイエンス、メディア・イノベーション、共創デザインなどの視点で、それらの課題を知り、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、解決策を検討する。本科目では、特別講義 A で学んだ課題発見力を活用し、実践的な課題解決力の習得を達成目標とする。</p>	
専門教育科目	表象メディア論	<p>表象とは、世の中に存在する事物、観念、出来事などに何らかのイメージを与え、別の形にして表されたものをいう。そうしたイメージを媒介するのがメディアである。本科目では、多種多様な芸術文化活動に焦点を当て、メディアや身体感覚、イメージを手がかりに、それらの表象を生んだ社会的・文化的状況を検証する。芸術文化の諸相に多角的にアプローチすることで、現代社会における表象の理解を深める。</p>	
	メディア・コミュニケーション論	<p>現代社会に生きる私たちは、多種多様なメディアを介して他者とコミュニケーションをしている。そうしたなか、近年の情報技術の進展は、従来の情報伝達のあり方を大きく変容させ、メディア・コミュニケーションを多様化させてきた。とりわけデジタルコミュニケーションの発展は、私たちの生活様式や働きかたにも大きな影響を与えていると言われている。一方で、利便性の向上や選択肢の増大といったことと同時に、Fake Newsや分断、情報過多や情報格差など、新たな社会課題も顕在化してきている。本授業では、デジタル化社会におけるメディア・コミュニケーションの多様化がもたらす影響について、近年の国内外での研究動向を踏まえつつ、国内外のさまざまな具体的な事例をもとに人間・社会・科学技術・政治・文化・倫理などの側面から考察していく。</p>	
	メディア情報学	<p>本授業では、飛躍的に進展する情報技術と人間・社会との共生を目指し、多様化が進む情報メディアとコミュニケーションを対象として、心理・言語・文化・社会・教育などの多角的視点から情報学に関する知識・理論を身に付ける。特に本授業では、これまでの中央集権的な情報管理システムからの解放を目指すWeb 3.0やブロックチェーン技術、またそれを活用したNFT、さらには拡張現実（AR）や仮想現実（VR）、メタバースの可能性と課題といった最新の動向を取り扱う。</p>	
展開・応用科目			

情報セキュリティ	高度情報社会は、スマホひとつで何でもできる利便性と同時に、SNSなどで自分の大切なプライバシーが侵害される深刻な危険性ももたしている。そこで本授業では、Society 5.0 (ICTを活用し多様な人々が想像と創造する社会) を生き抜くために、前半は、最新の情報セキュリティ・情報倫理の基礎を学修し、知識の定着に基づいたソーシャルメディアコミュニケーション (SMC) のスキルを促進する。後半は、企業と連携し、PBLに基づく課題解決のスキルを体得していく。本授業を通して、Society 5.0に必要不可欠なメディア情報リテラシー (MIL) を育成する。	
応用倫理学	応用倫理学においては、倫理学の知識で他分野の倫理上の問題や時事を考察する。本授業では、萌芽的な科学技術の進展、とりわけデータサイエンスの著しい発展に注目し、Society 5.0における企業の責任、保護されるべき個人情報やデータビジネスにおける倫理的課題、大規模なデータを持続可能かつ責任ある形で活用するデータビリティをめぐる国内外の議論動向などを取り扱う。その他、医療・動物・技術など主要な応用倫理学上の話題を通して、現代社会の諸問題を倫理的に検討するための基礎知識・視座を獲得し、自由・責任・平等といった根本的な価値にまで掘り下げた課題検討ができるようになることを目指す。	
国際政治論	国際政治学は社会科学のなかでも比較的新しい学問であり、現在進行形でその学問上のデータやパターンが蓄積されている。グローバル化が深化している現代ではその質も以前のそれとは変化しつつある。それだけに国際政治学が分析しなければならない”現実”や”課題”は膨大な量になっているが、その中でも本科目は国際政治を始めて学ぶ学生でも理解できる内容を扱っていく。実際の授業では国際政治を理解する上で必要な基礎概念を説明し、現在の国際社会が抱える諸問題を理論的な観点から考察していく。またその際にはその諸問題の歴史的・政治的背景や原因を理解したうえで国際社会についての知識を深めていくこととする。また講義を通して国際政治の理解と同時に現在の日本の国際社会における立ち位置を知る機会としていきたい。	
身体論	本科目では、現代社会における「身体」および「身体性」をめぐる多様な議論を取り扱う。とりわけ、デジタル化社会における身体性やポストヒューマンに関する近年の議論を参照しつつ、身体情報がプラットフォーム上に流通する社会やデジタル空間において様々な身体性を伴うサービス等が出現する社会における「身体」の価値を再検討する。本科目を通して、仮想空間と現実空間が高度に融合した複雑な社会における人間の在り方を問う。	
テクノロジーと性	本科目は、〈女性〉とテクノロジーの関わり、あるいは科学・技術の発展の中での〈女性〉の扱われ方について、科学技術の現代史や社会史の観点から読み解いていくものである。〈女性〉というカテゴリーにとらわれない多様な性の存在・あり方も議論しながら、本科目を通して、テクノロジーの進展がどう社会を変えてきたのか、その中でどのような人々が不可視化され、周縁とされてきたのかの歴史的経緯を知ること、テクノロジーが社会に包摂性をもたらすために必要なことについて自ら考え、議論できるようになることを目指す。	
共創デザイン論	「共創 (Co-Creation) 」とは、多様な立場・ステークホルダーと対話しながら、ともに新しい価値を創出していくこと、またそのための手法・考え方のことである。本授業では、近年社会課題解決だけでなくビジネスでも注目されている「共創」に関して、オープン・イノベーション、インクルーシブ・デザイン、コミュニケーション・デザインなどの国内外の具体的な事例を取り上げ、その背景にある理論や方法論について体系的に学ぶ。	
社会ネットワーク論	伝統的な社会ネットワークから、ソーシャルメディアによって生まれるコミュニティに代表される新しいネットワーク構築まで、人々のつながり方と社会の有り様について、社会関係資本やメディア論などの基礎理論に基づいて解説する。 また、具体的な事例を交えて、社会ネットワークの分析手法についても紹介し、実際にフィールド調査や分析に取り組んでもらう。 ①様々な社会ネットワークを論じる基礎理論を理解する。 ②具体的な事例を主体的に探求し、理論の理解を深める。 ③理論を応用して、フィールド調査や事例分析を主体的に行う行動力を身につける。	

広告・PR論	近年、ソーシャルメディアの発展にともなって、広告・PRは企業からのマスメディアを通じた一方的なコミュニケーション活動ではなく、双方向のコミュニケーションが重視されるようになった。本科目では、グループを編成して従来の広告・PRの役割、広告計画とその効果測定、ソーシャルメディアを通じたマーケティング・コミュニケーションの広がり、広告と社会との関係性について議論を通して理解を深める。また、マーケティング論の視点から広告やPRについて議論することにより、広告が果たす役割やその変化を、経営学の視点のみならず幅広い視野で捉え、広告が何を伝えたいのか本質を見抜く力を養うことを目標としている。	
福祉社会学	福祉社会学の基礎概念と、介護・障害者ケア・貧困をめぐる社会科学の諸議論を説明する。国際比較のデータや各種統計データを用いて、日本型の福祉社会の問題点や課題について考えある。相互依存的な生のあり方を前提に、そうした生を支える望ましい社会制度のあり方について考えることを目的とする。1) 社会福祉学の概念や福祉に関わる現代社会の諸問題について基本的知識を獲得する。2) 広い視野と深い洞察力を身につけ、本質を見抜く「研鑽力」を獲得する。3) 自らの視点で問題を把握し解決を導く「行動力」を獲得する	
メディア心理学	人は、乳児期から老年期まで生涯において発達する存在である。同時に高度情報社会の中で、メディアの受け手・使い手・作り手・送り手としても発達していく。そこで本授業では、生涯発達心理学の観点から、世代別特徴を踏まえたメディア観を把握し、各時期の発達の特徴や課題と関連する情報行動について、系統的かつ包括的理解を深めていく。本授業では、メディア観や情報行動と密接するメディア情報リテラシー (MIL) の育成を目的とする。MIL基礎段階の目標は、[メディア理解] ①ライフサイクルに関わるメディア観と情報行動を認識可能になる②メディアの特性と役割について基本的な理解ができることである。①②の達成により、本学の学生が修得すべき「研鑽力・美の探究」「洞察力と倫理観を身につけ、広い視野で知を探究し創造する力」の基礎を固める。	
マスメディア論	インターネットの普及など、メディアや娯楽媒体の多様化の影響もあり、いわゆる「テレビ離れ」の現象が拡大している。特に若年層を中心に「見るものがない」といった、テレビ番組に対する不満度も上昇しており、実際に全体的な「視聴率」や「売り上げ高」も低下傾向にある。 テレビの現状は、社会的影響力や営業的数値の側面からは、まだ基幹メディアにあると推察されるが、2020年にはネット広告費が地上波を抜かれるなど、その将来像は不透明である。昨今は番組の画一化も見られ、「放送文化の多様性」を遵守した創造性豊かな番組群の放送ができなくなれば、近い将来にテレビが「多様なメディアの選択肢の一つ」に脱落する可能性もあるだろう。 この授業では、まずテレビの歴史を検証し、その上で現状のドラマ・バラエティー・報道など各ジャンルの番組制作過程を、VTRや現場の「作り手」の話を交えて現場目線から考察していく。	
メディア・ワークショップ	ワークショップとは「創ることで学ぶ」手法であり、地域の活性化やまちづくり、企業の商品開発・人材育成などの領域で盛んに行われている。本演習では、自分たちの問題意識等を出发点に社会課題等をテーマとして選定し、グループでメディアのデザイン・試作品制作を行う。一連のプロセスを実践することを通して、「創ることで学ぶ」手法に関連する知識・スキルの習得を目指す。	
社会科学におけるデータと数理	高度な社会問題の解決には、数理的な知識や思考が必要になる。本科目では、社会科学における数理的なアプローチにフォーカスを当て、線形代数や微積分分の基礎的な部分からはじめ、必要な数理的知識や思考を取り扱う。なお必要に応じて、Excel や R、Python 等を用いて実際の計算を体験し、視覚的に概念理解を促進する。本科目では、基礎的な数理的知識や技能を習得すると共に、それらを用いて、多変量解析等のより複雑な理論構造を理解できるようにすることを達成目標とする。	
データに基づく地域創生	現代社会において、東京一極集中を避け、地方の人口減少問題を解決する動きがあり、地域における Society5.0 の推進・地域創生を目指すことが期待されている。また公的統計のオープンデータが進み、地域経済分析システム (RESAS) などのツールも利用可能になっている。特に地域の政策決定においてもデータに基づく意思決定が必要とされ、EBPM (証拠に基づく政策立案。Evidence-based policy making) への取り組みも期待されている。本科目では、公的統計、オープンデータの利活用の基礎的な知識や技能を学び、それらを活用した政策立案を目指す。この授業科目を通じて、データに基づく地域の実態把握および課題を見つけ、それらの解決・提案力の向上を達成目標とする。	

<p>データ時代の女性キャリア開発</p>	<p>Society5.0 を迎え、データに基づく社会が展開されている。また多くの業界でDX（デジタルトランスフォーメーション）が進み、企業が AI や IoT、ビッグデータの活用を目指している。これらを受け、データを利活用できる人材を求めており、これらの業界では、ジェンダーフリーが言われているが、いまだにその状況が達成しているかといわれると、十分とは言い難い。本科目ではデータサイエンスにおける女性の活躍支援を目標に現状や課題等について、研究者や実務家を招き、履修者とともに議論を行う。本科目を受け、データを活用する業界への就業意識やその課題について、問題意識を持ち、意識改善に向けた議論ができることを達成目標とする。</p>	
<p>シリアスゲーム・デザイン演習</p>	<p>本授業では、複雑な問題がさまざまに絡み合う社会課題解決/コミュニケーション技法の一つとして近年注目されている「シリアスゲーム」づくりにチームで挑戦する。実際にチームで新たなシリアスゲーム制作に向けてコンセプトやテーマ、ターゲットなどを定め、制作に取り組む。「シリアスゲーム」とは、さまざまな社会問題における問題解決（認知・伝達、関心喚起、教育・学習、対話、共創など）のために利用されるゲームのことである。狭義ではデジタルゲームを指すが、本授業では「シリアスゲーム」をより広義にとらえ、カード/ボードゲームといったアナログゲームを対象とする。シリアスゲームをデザイン・プロトタイプ制作することを通して、社会課題の構造のモデル化や課題解決技法としてのデザイン手法についての理解を深める。</p>	
<p>ソーシャル・マーケティング・プロジェクト</p>	<p>マーケティングは、社会と密接な関係にあるが、一方で社会的な要因を企業がコントロールすることは容易ではない。この授業では、企業が抱える様々なマーケティング課題を概観し、その中でも社会的な課題に焦点を当て、それらをチームで議論し、結論を導くというプロセスを繰り返し行うアクティブ・ラーニングを中心とした企業を実施する。 1) マーケティング課題を把握し、課題解決へと導く「行動力」を身につける 2) チームでのアクティブラーニングを通して、「協働力」を身につける</p>	
<p>社会科学におけるWebデータ収集技術論</p>	<p>社会科学の諸分野においても、近年、オープンデータ化が進み、ウェブにおいても公的統計の公開や株価のようにリアルデータが取得しやすくなった。これらはウェブスクレイピングと呼ばれる技術を用いることで、専門家に頼らなくても収集することが可能になった。本科目ではこれらのウェブ上でのデータに関する基礎知識を学び、その収集方法や実際の活用方法について学ぶ。また使用に関しても著作権等への対応法も学ぶ。具体的には習得した知識や技能を用いて、各自課題を設定し、その有効活用事例を発表することを達成目標とする。</p>	
<p>社会科学データ分析</p>	<p>人は何に基づいて行動しているか？身近な人は何を考えているのか？など行動の原因と結果の因果関係の解明、社会集団における行動傾向の把握などが社会科学の諸分野においては解明すべきテーマにあげられる。それらのテーマ研究においては、調査や実験により得られたデータを用いた分析、検証が重要視される。特にこれらは実社会や学術研究など、より高度な分析を必要とする際には、多変量データなどのより情報をもつデータの分析が必要とされる。本科目では、これらの社会科学データを用いた分析を基礎から応用までの一連の体系を紹介する。なお、卒業研究を踏まえて、データの基礎処理から高度な処理（多変量解析）等まで、実際にPCを利用した実践的なスキルの習得を目指す。</p>	
<p>共創デザイン・プロジェクト</p>	<p>「共創 (Co-Creation) 」とは、多様な立場・ステークホルダーと対話しながら、ともに新しい価値を創出していくこと、またそのための手法・考え方のことである。社会が複雑化・多様化し、また変化も激しい時代において、知見・成果を共有しながら進めるオープン・イノベーションを実現する共創の考え方は、ビジネスや社会的課題解決において注目されている。本授業では、実際に多様な人々との対話を通じた共創プロジェクトに挑戦し、問題定義から価値提案までの一連のプロセスを実践する。本プロジェクト学習を通して、【行動力】および【協働力】を身につける。</p>	
<p>メディア情報リテラシー</p>	<p>情報社会において、情報強者と弱者の関係性は表裏一体である。例えば、SNSで#MeTooが拡散され、今までサイレントマジョリティであったセクハラ被害者が立ち上がり、世界中に運動が波及している。本授業では「メディアと女性」に焦点化し、情報社会が抱える課題を追究し、クリティカル・シンキングの基盤となるメディア情報リテラシーを育成していく。メディア情報リテラシーの基礎 [批判的思考] ①情報を批判的に読み解き評価する。②情報の信頼性を識別する。①②の達成により、本学の学生が修得すべき [行動力] 「現状を正しく把握し、課題発見できる力」を修得する。</p>	

<p>イノベーション論</p>	<p>企業の競争力の源泉であり、また社会に変革をもたらす源でもあるイノベーションについて、成り立ち、主たるアクター、支える仕組み、社会的影響などについて学習する。イノベーションの多様なケースについてディスカッションを行い理解を深めるとともに、変化社会に私たちがどのように関わっていけるのかを検討する。イノベーションとは何かを理解し、各自任意のイノベーションの事例を取り上げ、形成プロセスと社会的影響をデータに基づいて説明できる能力を養成する。</p> <p>理解を深めるために多様な情報収集が必要となることから、行動力が養われる。また、変化社会への各自の関わり方について履修者間でディスカッションを行うとともに、各自で検討することからを通して研鑽力が身につく。</p>	
<p>メディアとインターセクショナリティ</p>	<p>「インターセクショナリティ（交差性）」とは、人種、階級、ジェンダー、セクシュアリティ、ネイション、アビリティ/ディサビリティ、エスニシティ、年齢などさまざまな要素の交差する権力関係と社会的立場の複雑性を捉えるための概念である。本授業では、私たちの価値観に大きな影響を及ぼしているメディアやエンターテインメントのコンテンツに関して、国内外の実例や理論研究を参照しつつ、「インターセクショナリティ（交差性）」の視点から批判的な検討を行う。それにより、多様なメディアが重層的に影響しあう現代社会におけるメディアのあり方や今後の課題について考えるための知識や国際的視野を身につける。</p>	
<p>社会科学におけるプログラミング</p>	<p>社会科学の諸分野においても実践的なプログラミングスキルの活用が近年期待されている。「プログラミング基礎」で学んだ基礎的な内容を補完的・発展的に学修し、学生自らの専門分野においてこれらの知識や技能を活用するための応用力の習得を目指す。特に学内外での課題を自ら見つけ、課題の定義・説明し、これまでに他教科等で学んだ専門知識等を用いて、それらを踏まえたプログラムを開発し、より実践力の習得を目指す。本科目では、単独またはグループでの活動を通じて、これらの課題解決型のプログラミング開発を目指し、より精度の高いプログラムを開発し、その特徴等を他者に説明することができることを達成目標とする。</p>	
<p>社会科学におけるソフトウェア設計</p>	<p>社会における様々な問題を解決するためにはソフトウェアの開発が重要視されている。家を作る際には設計図が必要なように、ソフトウェアを開発する際には、まずソフトウェアの設計図が必要になる。本科目ではソフトウェア設計に関する歴史やその方法の紹介を行い、特にオブジェクト指向技術を用いた方法を学ぶ。具体的にはUMLの基本技術を理解し、それらの知識や技能を利用してソフトウェア設計を行い、検証して知識や技能の修得につなげる。本科目では、1) ソフトウェア設計の基礎的知識を学び、他者に説明できること、2) UMLの概念を学び、各種図等を用いて課題にあったソフトウェア設計ができること、などを到達目標とする。</p>	
<p>課題解決プロセス応用</p>	<p>「課題解決プロセス応用」では「課題解決プロセス基礎」で学んだ基礎的な内容を補完的・発展的に学修し、学生自らの専門分野においてこれらの知識や技能を活用するための応用力の習得を目指す。特に学内外の企業・団体との連携を踏まえ、Project based learning (PBL) を通じたリアル課題かつリアルデータを用いた課題解決を行う。本科目では、チーム活動を中心とし、他科目で学んだデータ分析、プログラミングスキルを用いて、データに基づく課題発見、データに基づく課題解決を目指す。本科目を通じて、より実践的な課題解決プロセススキルの習得を達成目標とする。</p>	
<p>ソーシャル・マーケティング論</p>	<p>情報技術の発展に伴い、マーケティングで利用できるデータも定量・定性など多種多様化し、その規模も拡大化している。これらのことを踏まえ、マーケティングの知識はもちろんのこと、フィールドワークやデータ収集、プログラムスキルやデータサイエンススキル、などを駆使して、現在のビジネスに関する現在の課題を解決する方法を習得する。本科目では、1) ビジネスにおける課題を発見し、その解決を目指した分析設計ができること、2) 分析の結果をまとめ、他者に適切に説明すること、などが達成目標である。</p>	
<p>ジェンダード・イノベーション</p>	<p>ジェンダード・イノベーション(Gendered Innovations)とは、「研究開発や製品・サービス提供等において、生物学的性別、社会学的性別、それらと他の要因(年齢や宗教等)の交差分析を行うことで、イノベーションを創出する概念」を指す。これまで、研究開発プロセスで生物学的性別や社会学的性別等の性差が考慮されてこなかったことにより、多くのステークホルダーが見落とされてきた反省から、近年では欧米に拠点をおくテック系企業のみならず、パブリックセクターなど多様な領域での製品・サービス等の研究・設計、開発段階から性差分析を取り入れるようになってきている。本授業では、具体的な事例について、グループを作って検討や調査・提案を行い、クラス全体に対しての発表などを通して、ジェンダード・イノベーションの理論・方法論についての理解を深めることを目指す。</p>	

リスク・コミュニケーション	リスク・コミュニケーションとは、あるリスクについて関係者間で情報を共有し、対話や意見交換を行い、意思の疎通をはかること、またそのための理論・手法を扱った学問領域である。我々は日常的にリスク情報の受信者でもあり、発信者でもある中、リスク・コミュニケーションによってリスクの相互理解を深め、信頼関係を構築することが重要であると考えられている。本授業では、放射線、ワクチン、温暖化、自然災害、感染症、環境汚染等の実際の事例をケーススタディとしつつ、演習形式でリスク・コミュニケーションの実践に必要な基本的な考え方・知識の習得を目指す。	
社会調査実習Ⅰ	情報化社会においては、自ら問題を見つけ、情報を集め、情報を分析し、まとめる力が必要である。そのため本科目では、フィールドワークを行うことで調査設計からデータ収集までを体系的に体験・理解してもらう。グループ単位で、問題意識を立ち上げ、仮説や調査課題を作り、それを解明するに適切な調査手法・調査対象を選定し、実査の方法・心構えなど、一連の検証プロセスをいかに展開していくのかを指導する。調査地点の実態把握やどのような切り口やテーマを持って調査を行うのかといった予備情報の収集・読み込み過程を前半に手厚く配置し、それぞれの問題設定に応じて定量的、定性的調査いずれも体験できるように配慮する形で進行する。	
社会調査実習Ⅱ	情報化社会においては、自ら問題を見つけ、情報を集め、情報を分析し、まとめる力が必要である。本科目では、前期に続き、フィールドワークで収集したデータの加工・処理から実際の報告書作成までの過程を主体的に行えるような能力を身に付けることをめざす。定量的・定性的なデータそれぞれの処理について、グループワークを通してデータを加工・分析していくプロセスを体験する。クロス集計・独立性の検定のほか、クラスター分析、因子分析など基礎的な多変量解析までを行う。また最終的なアウトプット（報告会での発表資料、報告書執筆）の仕方の指導も行う。	
デジタルメディア論	デジタルメディアおよびコミュニケーション技術の進展は、生活者の情報意識や行動、メディアビジネス・広告のあり方にも大きな変化をもたらしている。本科目では、デジタルメディアの進展がもたらしたメディアビジネスや社会・価値観の変化などについて、国内外の具体的な事例、実証データを参照しながら、メディア・イノベーション論の観点から読み解いていく。	
メディア表現	ICTとSNSの急速な発展と普及に伴い、メディア表現も変容の途にある。本授業では、メディア制作の視点から、メディアから得られる情報を主体的に読み解き活用し、情報セキュリティやモラルを踏まえながら、コミュニケーションを創造していく。学部学科や学生生活を紹介するSNS作品をチームで企画・取材・撮影・編集・制作し、実践的な経験を蓄積する。最終的には、大学HPやオープンキャンパス・SNS等の公開を目指す。本授業では、21世紀のソーシャルメディア表現者として必要不可欠なメディア情報リテラシー（MIL）の育成を目的とする。	
メディアデータ分析	多種多様なメディアが重層的に影響しあう現代社会において、メディアデータを分析することは、現代社会のメディア環境を理解する上でも、またビジネスにおける顧客分析・戦略立案においても重要な意味を持つ。本授業では、演習形式での授業を通して、ソーシャルメディアを中心に、メディアデータを量的・質的に分析・考察するために必要な基本知識・スキルの習得を目指す。	
社会科学におけるAI・機械学習応用	社会科学の諸分野においても AI や機械学習の発展が目覚ましい。「AI・機械学習応用」では「AI・機械学習」で学んだ基礎的な内容を補完的・発展的に学修し、学生自らの専門分野においてこれらの知識や技能を活用するための応用力の習得を目指す。特に学内または学外の企業・団体と連携し、現実社会に即した課題を想定し、その解決を目指す。具体的には連携企業や団体からの課題のインプットからはじめ、資料検索やフィールドワーク等を実施し、課題を明確化、AI・機械学習の手法を用いたデータの収集・処理・分析、得られた結果を現場にフィードバックする力を、体験を通じて身につける。これらの体系的な体験を通じて、実社会での AI・機械学習の手法の利活用を目標とする。	
社会科学における質的データ分析	現代社会において、様々なデータが収集可能になった。twitter のデータなどの大規模な SNS データやビデオカメラ等で撮影した動画データや音声データなど、定量・定性を問わず、収集・分析が可能であり、これまで分析できなかった潜在的な心理や行動に関する情報も分析できるようになった。このことを踏まえ、本科目では、「社会科学データ分析」の内容に加え、特にテキストマイニングや画像解析等に関するデータの収集・分析手法を学び、R や Python を用いて具体的にデータ収集・分析を行う。	

展開・応用科目	社会的価値創造論	現在の社会では、企業・団体が社会の持続可能な発展に寄与する活動を行うことによって社会全体が享受できる社会的価値が求められている。本授業では、これらの社会的価値創造の理解を含め、データ分析を活用して価値を創造するための知識・理論を身につける。例えば、企業がこれらの社会的価値創造を考える際には、企画・提供商品・サービスを考える際に、「ユーザー、ライバル企業、売れ筋、社会・経済動向」等の幅広いデータを整理・分析し、そこにアイデアや想いを加えて新しい商品・サービスを創り出している。授業はケーススタディを通して学ぶことで理解を深め、社会的価値を創造し、それを相手に伝えるプレゼンテーション能力までを身につけることを目標とする。	
	心理学統計法	心理学は人間の行動や思考、人格などを理解しようとする。しかし心理学を学んでいなくとも、私達は日頃から他人の人物や行動について考え、理解しようとしている。学問としての心理学と日常的な人間判断との違いは、客観的なデータに基づき、知識があれば誰もが納得できるプロセスで、判断するかどうかにある。このための思考方法の一つが、統計学であり、心理学でも統計学的思考を多用する。この授業では、統計に関する基礎知識、数値として得られたデータを解釈する手法、特に、限られた人数からわかったことをそれ以外の人にも拡大してよいかどうか判断する手法（統計的検定）を扱う。	
	人工知能と人間・社会	人工知能（AI）は、我々の社会と日常生活のさまざまな側面に大きな変革をもたらす技術である。AI はすでに数多くの恩恵をもたらしており、今後、さらに大きな経済的繁栄をもたらすと考えられる。その一方で、雇用不安、データの機密性、プライバシー、倫理的価値の侵害、結果の信頼性欠如など、AIに対する懸念も顕在化している。本授業では、最先端の人工知能研究の動向について知るとともに、そのことによって逆照射される「人間」「社会」「文化」のあり方について、人文・社会科学の観点から考察する。なお、この授業で扱うAIにはロボットやサイボーグなども含む。	
	科学技術社会論	科学技術社会論（STS）とは、科学と技術と社会のインターフェイスに発生する問題について、人文・社会科学の方法論を用いて探求する学問である。たとえば、人工物環境の拡大によって深刻化する地球環境問題、情報技術や生命技術の発展に伴う伝統的生活スタイルや価値観との相克、科学技術イノベーションへの市民関与などがSTSの議論の対象となる。本科目では、近年のSTSでの議論を踏まえて、科学と技術と社会のインターフェイスに発生する諸問題がいかに我々の身近な問題であるのかについての理解を深める。	
	リスク社会論	本科目は、現代社会の特質を「リスク社会」という視点から明らかにしていくものである。リスク社会とは「富の生産と分配ではなく、リスクの生産と分配が大きな社会が立ち向かうべきテーマとなった社会」を指す。授業ではリスク社会論、コスモポリタン化論、個人化論といった社会理論について学ぶとともに、地球温暖化やエネルギー問題、パンデミック等をめぐる具体的な議論を参照することで、現代社会におけるリスク（不確実性とその影響）やその向き合い方について考察する。それにより、不確実性の時代とも言われる現代社会の諸問題に対する深い洞察力、国際的視野を涵養する。	
専門資格科目	関係行政論	本科目は、公認心理師として社会で活躍する上で必要となる法制度や関連する行政の仕組みをわかりやすく解説することを目的としてすすめていく。 公認心理師を規定した「公認心理師法」をはじめ、公認心理師資格者が知識として持つべき関連法制度や行政のしくみの理解することにより、スムーズな心理的支援が可能になることを体得していただきたい。以下の点が、本科目の到達目標である。 ①心理的支援に関連する法制度について修得する。 ②心理的支援に関連する行政のしくみについて理解することができるようになる。 ③心理的支援に関連する各種専門職や関連諸制度について修得する。 ④公認心理師が活躍する社会のシステム全体を理解する。	

専門 教育 科目	専門 資格 科目	言語コミュニケーション開発 支援実習	日本が「外国人材の受入れ・共生のための総合的対応策」を打ち出す中、皆さんの母語である「日本語」を、在住外国人や国内外のビジネスパーソン等に対し、第二言語または外国語として教えられ、かつ、適切なコミュニケーションが図れるよう支援できる、日本語教員の養成を目指す。授業では、実践的指導法を学ぶと共に、このための教育実習を行う。まずは言語コミュニケーションとしての包括的な能力を養成するために、自身の言語力を向上させ、必要な指導力を修得する。次いで、高度なコミュニケーション力、及び、求められる国際的な感覚や態度、行動力等を身に付け、本格的な外国人材支援や活動に寄与できるようにする。	
		公認心理師の職責	公認心理師の職責を修得するために、 ①公認心理師の役割について修得する。 ②公認心理師の法的義務及び倫理について修得する。 ③心理に関する支援を要する者等の安全の確保ができる。 ④情報の適切な取扱いについて修得する。 ⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務について修得する。 ⑥自己課題発見・解決能力を身につける。 ⑦生涯学習への準備ができる。 ⑧多職種連携及び地域連携について修得する。	
		心理実習	本科目は、大学卒業後に実務経験を経て試験の受験資格を取得することを前提として開講されている。心理的支援の実態への理解を深めるために履修者が資格要件において規定された時間数の現場体験をする。保健医療、福祉、教育、司法、産業・労働等の関連機関・団体において見学・研修・実習を行う。公認心理師の職域と業務のための準備学習を行う。1. 大学卒業後に実務経験を経て試験の受験資格を取得するために、自己訓練への目的意識が持てるようになる。 2. 公認心理師の職域としての主要5分野(保健医療、福祉、教育、司法、産業・労働関連施設)の現場における心理支援の実態や価値を理解する。 3. 「心理的支援の現場で働いている自分」の将来像を持ち、自己訓練と研鑽の必要性が具体的に「わかる」ようになる。 4. 新たな知識を創造しようとする態度、生涯を通して自己研鑽し続ける力、人のシステムの美しさを知り、主体的に他者と協働して課題を解決する力を習得する。	共同
		精神疾患とその治療	臨床心理学は精神医学と密接な関係にある。心理臨床の実践にあつては精神医学的な知識を必要とする。本科目においては、精神医学を中心に医学と心理学の関係について講義する。統合失調症や通病、心身症や発達障害を含め医学の今日的な問題について討論する。本講では下記を到達目標とする。 ①臨床心理学を学ぶにあたり必要な医学的知識を身につける。 ②精神医学の基礎を理解し、代表的な精神疾患についての知識を持つ。 ③医学的な問題について心理学的な見地から調べ問題点を明らかにし解決する行動力、研鑽力を身につける。	

学校法人実践女子学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由	
実践女子大学				実践女子大学					
文学部				文学部					
国文学科	110	3年次	9	458	国文学科	110	3年次	9	458
英文学科	110	3年次	9	458	英文学科	110	3年次	9	458
美学美術史学科	90	3年次	2	364	美学美術史学科	90	3年次	2	364
生活科学部				生活科学部					
食生活科学科				食生活科学科					
管理栄養士専攻	70	-	280	管理栄養士専攻	70	-	280		
食物科学専攻	75	-	300	食物科学専攻	75	-	300		
健康栄養専攻	40	-	160	健康栄養専攻	40	-	160		
生活環境学科	80	3年次	2	324	生活環境学科	80	3年次	2	324
生活文化学科				生活文化学科					
生活心理専攻	40	3年次	2	164	生活心理専攻	40	3年次	2	164
幼児保育専攻	45	-	180	幼児保育専攻	45	-	180		
現代生活学科	60	-	240	現代生活学科	60	-	240		
人間社会学部				人間社会学部					
人間社会学科	100	-	400	人間社会学科	100	-	400		
現代社会学科	100	-	400	<u>ビジネス社会学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>	名称変更、定員変更(△20)	
				<u>社会デザイン学科</u>	<u>80</u>	-	<u>320</u>	学科の設置(届出)	
				<u>国際学部</u>				学部の設置(届出)	
				<u>国際学科</u>	<u>120</u>	-	<u>480</u>		
計	920	3年次	24	3,728	計	1,100	3年次	24	4,448
実践女子大学大学院				実践女子大学大学院					
文学研究科				文学研究科					
国文学専攻(M)	10	-	20	国文学専攻(M)	10	-	20		
国文学専攻(D)	3	-	9	国文学専攻(D)	3	-	9		
英文学専攻(M)	6	-	12	英文学専攻(M)	6	-	12		
美術史専攻(M)	6	-	12	美術史専攻(M)	6	-	12		
美術史専攻(D)	2	-	6	美術史専攻(D)	2	-	6		
生活科学研究科				生活科学研究科					
食物栄養学専攻(M)	6	-	12	食物栄養学専攻(M)	6	-	12		
食物栄養学専攻(D)	2	-	6	食物栄養学専攻(D)	2	-	6		
生活環境学専攻(M)	6	-	12	生活環境学専攻(M)	6	-	12		
人間社会研究科				人間社会研究科					
人間社会専攻(M)	7	-	14	人間社会専攻(M)	7	-	14		
計	48	-	103	計	48	-	103		
実践女子大学短期大学部				実践女子大学短期大学部					
日本語コミュニケーション学科	80	-	160		0	-	0	令和6年4月学生募集停止	
英語コミュニケーション学科	100	-	200		0	-	0	令和6年4月学生募集停止	
計	180	-	360	計	0	-	0		

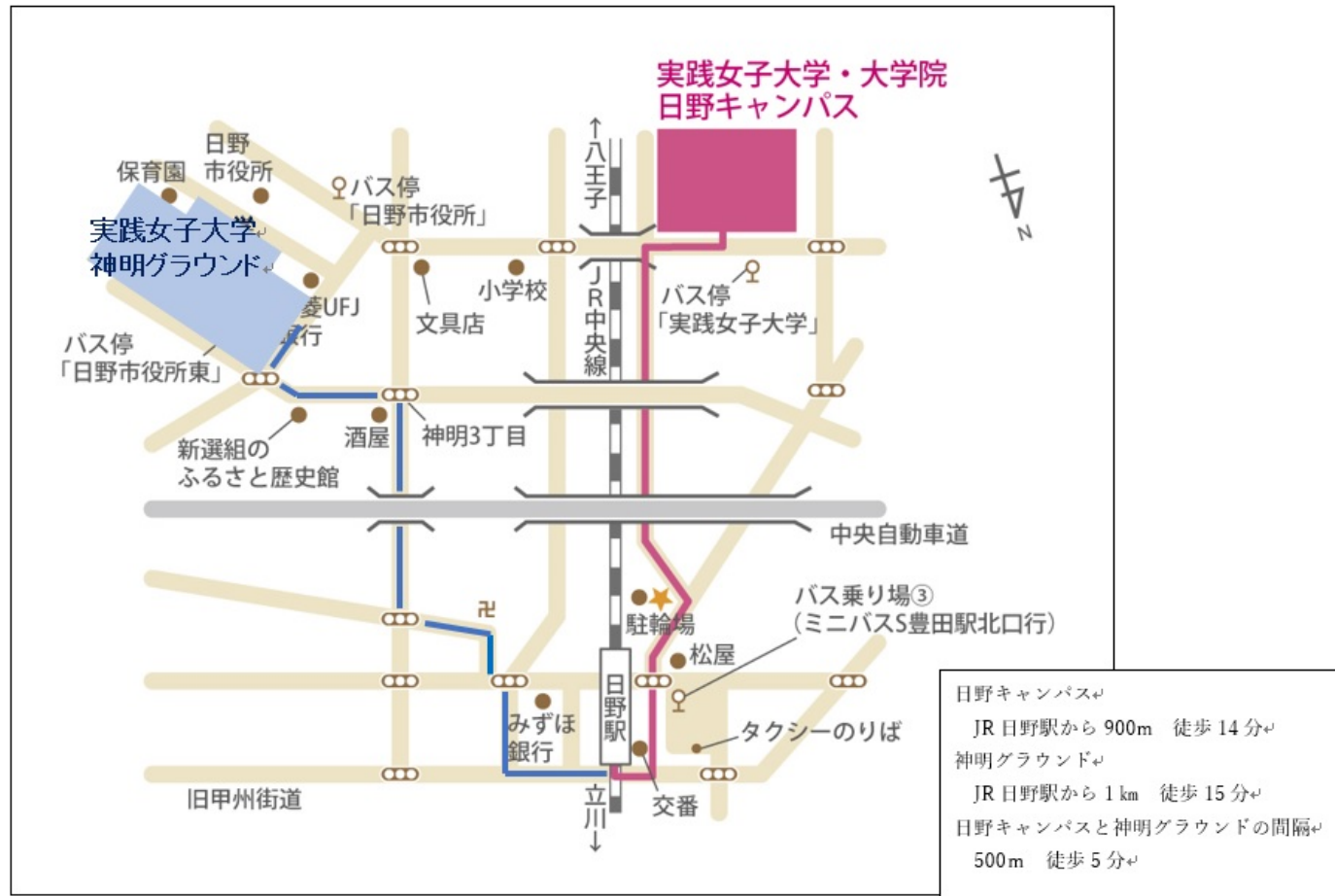
都道府県内における位置関係の図面



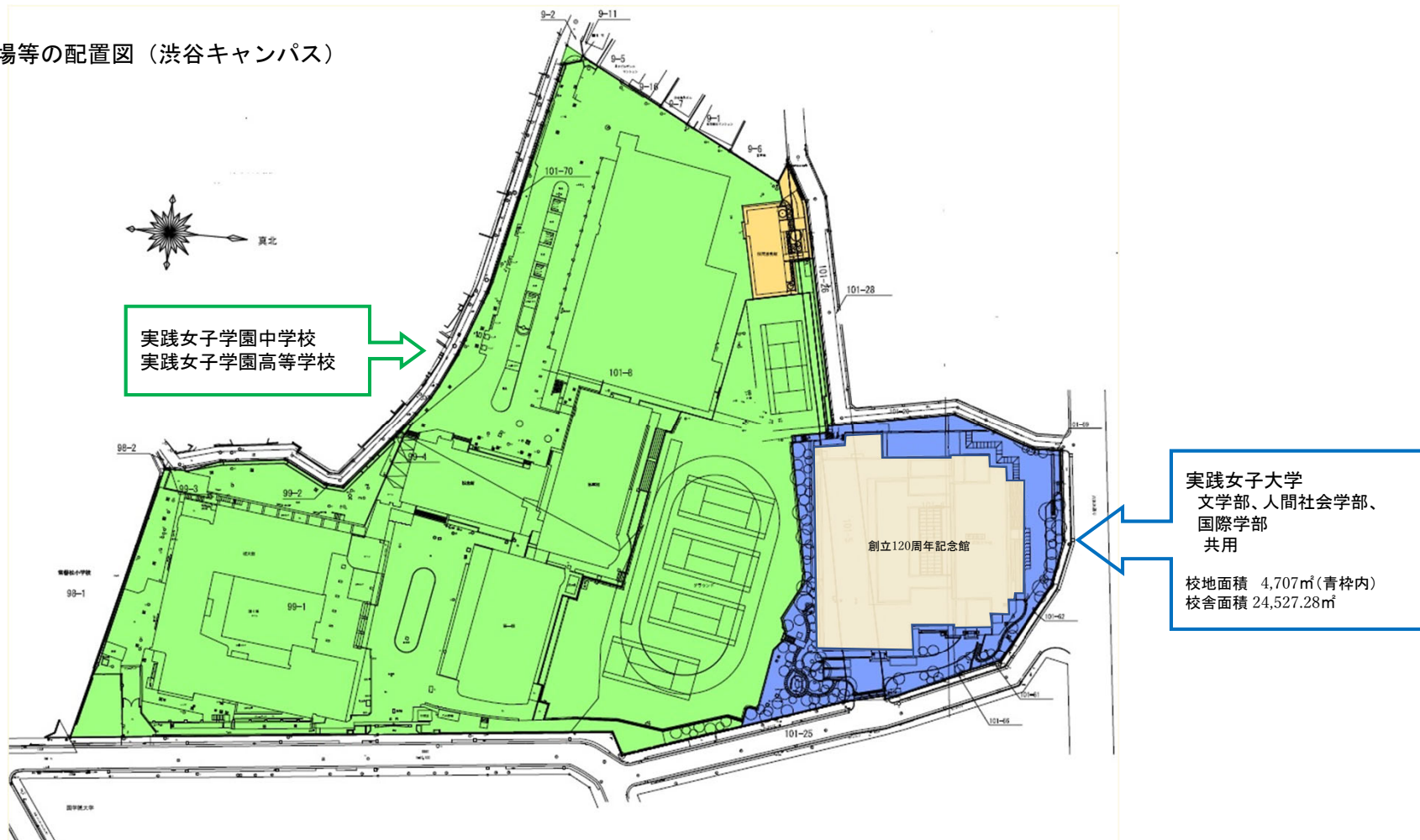
最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面（渋谷キャンパス）



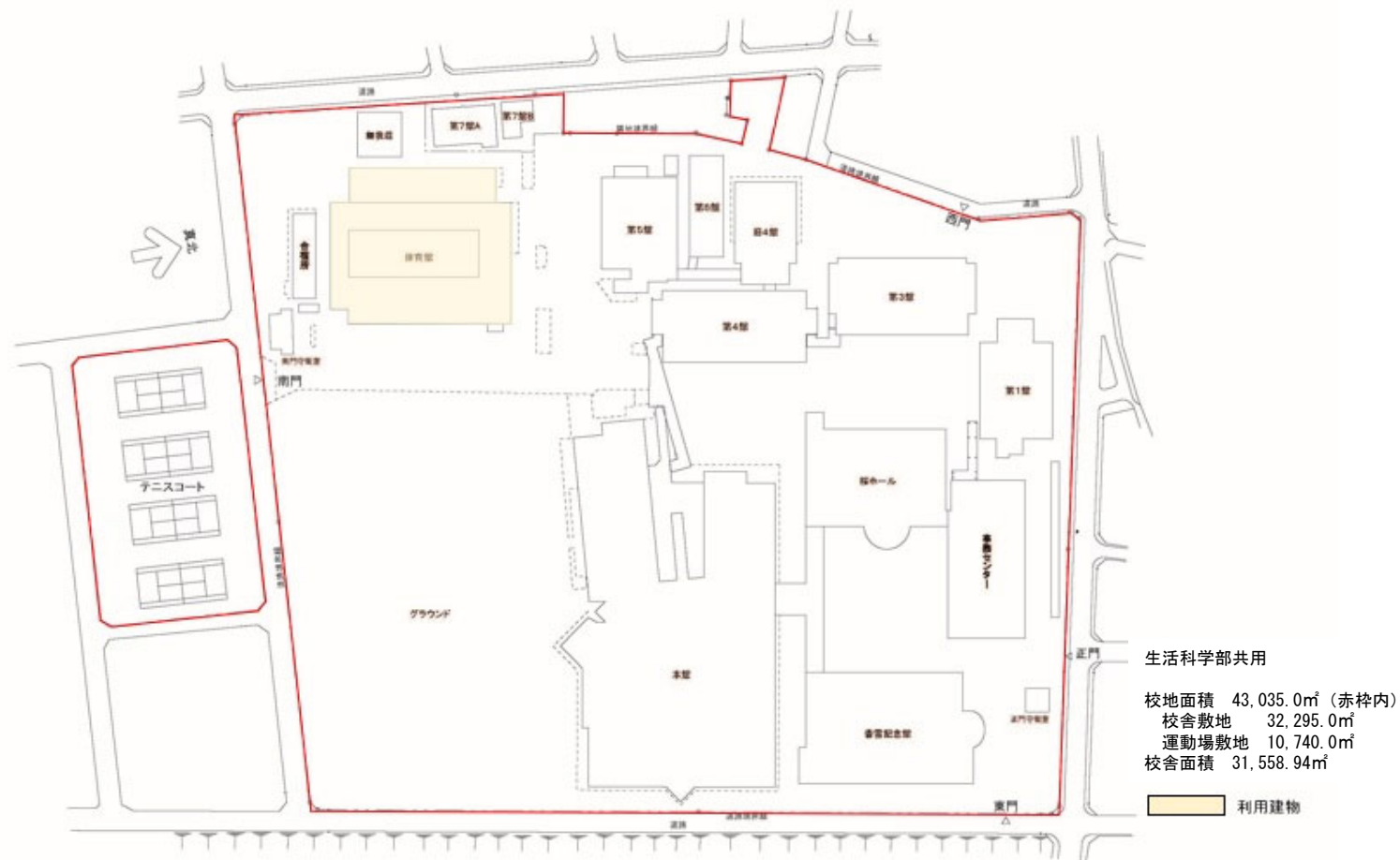
最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面（日野キャンパス、神明グラウンド）



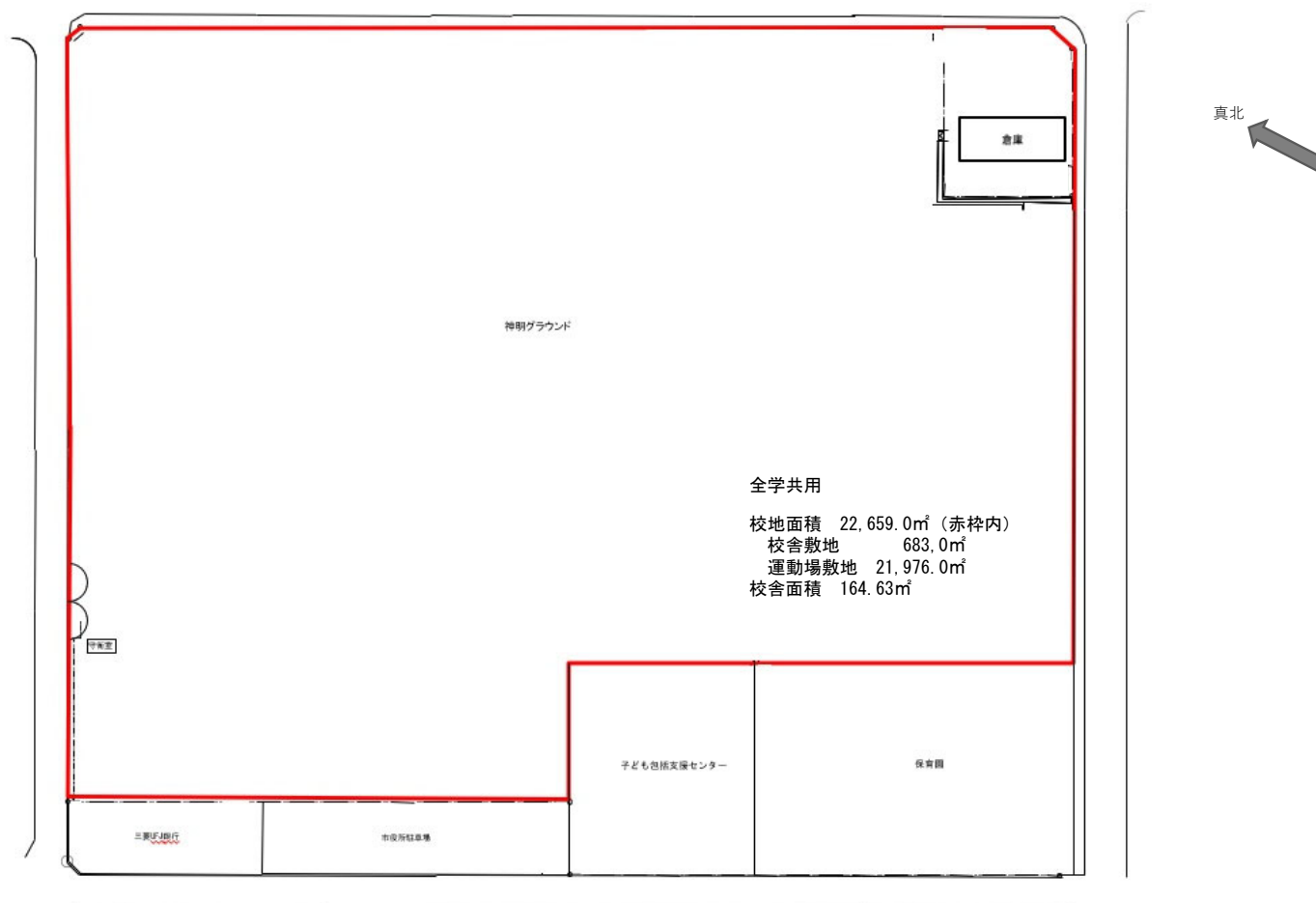
校舎, 運動場等の配置図 (渋谷キャンパス)



校舎、運動場等の配置図（日野キャンパス）



校舎、運動場等の配置図（神明グラウンド）



実践女子大学学則(案)

2024（令和6）年4月

実践女子大学

○実践女子大学学則

(昭和 24 年 4 月制定)

改正 昭和 56 年 4 月 1 日	昭和 57 年 4 月 1 日	昭和 58 年 4 月 1 日
昭和 59 年 4 月 1 日	昭和 60 年 4 月 1 日	昭和 61 年 4 月 1 日
昭和 62 年 4 月 1 日	昭和 63 年 4 月 1 日	平成元年 4 月 1 日
平成 2 年 4 月 1 日	平成 3 年 4 月 1 日	平成 4 年 4 月 1 日
平成 5 年 4 月 1 日	平成 6 年 4 月 1 日	平成 7 年 4 月 1 日
平成 8 年 4 月 1 日	平成 9 年 4 月 1 日	平成 10 年 4 月 1 日
平成 11 年 4 月 1 日	平成 12 年 4 月 1 日	平成 13 年 4 月 1 日
平成 14 年 4 月 1 日	平成 15 年 4 月 1 日	平成 16 年 4 月 1 日
平成 17 年 4 月 1 日	平成 18 年 4 月 1 日	平成 18 年 12 月 15 日
平成 19 年 3 月 23 日	平成 19 年 4 月 11 日	平成 19 年 12 月 19 日
平成 20 年 3 月 28 日	平成 21 年 3 月 27 日	平成 21 年 7 月 22 日
平成 22 年 3 月 26 日	平成 22 年 7 月 28 日	平成 22 年 12 月 17 日
平成 23 年 4 月 1 日	平成 24 年 3 月 23 日	平成 24 年 7 月 20 日
平成 24 年 10 月 19 日	平成 25 年 3 月 22 日	平成 25 年 3 月 22 日
平成 26 年 3 月 22 日改正	平成 27 年 3 月 28 日改正	平成 28 年 3 月 26 日改正
平成 29 年 3 月 25 日改正	平成 30 年 3 月 24 日改正	2019 年 3 月 23 日改正
2020 年 3 月 21 日改正	2021 年 3 月 27 日改正	2022 年 3 月 26 日改正
2023 年 2 月 18 日改正		

※昭和 24 年 4 月から昭和 56 年 4 月 1 日の間の沿革は省略

第 1 章 総則

第 1 条 本学は、教育基本法、学校教育法及び実践女子学園の建学精神に則り、深く専門の学芸を教授研究し、かつ人格の完成を目標として幅広く深い教養を培い、国際的視野に立つ社会人として自己の信ずるところを實踐し、もって文化の創造と人類の福祉とに寄与する人材を育成することを目的とする。

第 2 条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検、評価を行うこととする。

2 前項の点検、評価の方法等については、別に定める。

第 2 章 大学院、学部、学科等の組織、目的

第 3 条 本学に文学部、生活科学部、人間社会学部、国際学部をおき、修業年限は各 4 年とする。

2 文学部に国文学科、英文学科、美学美術史学科をおく。

3 生活科学部に食生活科学科、生活環境学科、生活文化学科、現代生活学科をおき、食生活科学科には管理栄養士専攻、食物科学専攻、健康栄養専攻を、生活文化学科には生活心理専攻と幼児保育専攻をおく。

- 4 人間社会学部に人間社会学科、ビジネス社会学科、社会デザイン学科をおく。
- 5 国際学部国際学科をおく。
- 6 学生は、8年を超えて在学することはできない。

第4条 本学に大学院をおく。

- 2 大学院に関する事項は、別に定める。

第5条 文学部及び文学部各学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。

- 2 文学部では、日本、東洋、西洋の文学、言語、美術の各分野における幅広い学識を授け、現代社会に寄与しうる人材の育成に努めることを目的とする。
- 3 国文学科では、日本文学を体系的、理論的、総合的に研究し、日本語の本質と変遷を解明することにより、日本文化の進展に寄与しうる人材を育成することを目的とする。そのため、研究の対象を広げることにも努め、古典を重視するとともに近代現代の文学、さらにはそれらに大きな影響を与えた中国の思想と文学に深く配慮し、現代の我々の言語生活に直結する歴史的課題にも留意した教育を実践する。
- 4 英文学科では、大学生としてのしっかりとした基礎の上に英語の運用能力を養成し、英語圏文化に関する幅広い知識と教養を身につけることにより、知的好奇心を備え、主体的に国際化社会で活躍できる人材の育成を目的とする。
- 5 美学美術史学科では、日本、東洋、西洋各地域の美術史と美学及び日本芸能史について、幅広い知識と教養を身につけ、美術の実技を学ぶことも含めて、芸術についての総合的な理解力と自己表現力を養い、芸術、文化とそれを生み出した社会に対する理解と洞察力を備えた人材の育成を目的とする。

第6条 生活科学部及び生活科学部各学科・専攻の教育研究上の目的は次のとおりとする。

- 2 生活科学部では、食物、栄養、健康、衣服、もの、住まい、ライフスタイル、幼児・保育に関する広い学識を授け、各々の専門に係る職業に必要な知識と能力の養成を目的とする。
- 3 食生活科学科では、社会で必要とされる健康と栄養、食と暮らしのスペシャリストを育成する。さらに、食関連の職業に就いたときに活躍できる能力と、取得した資格に相応しい実力の養成を目的とする。
 - (1) 管理栄養士専攻
食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、管理栄養士として、また、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。
 - (2) 食物科学専攻
食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、フードスペシャリスト、家庭科教員、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。
 - (3) 健康栄養専攻

食物、栄養、健康に関する広い学識を授け、栄養士、栄養教諭、食品衛生監視員・管理者として実務に適用できる人材の育成を目的とする。

4 生活環境学科では、衣服、もの、住まいに関する広い学識を授け、専門性を要する職業に就いたときに活躍できる能力の養成を目的とする。

5 生活文化学科では、人の生涯発達、家族・家庭、保育・教育に関する広い学識を授け、生活を探究し、専門性を要する職業に就いた時に活躍できる人材の育成を目的とする。

(1) 生活心理専攻

生活の営みと人間の生涯発達を総合的にとらえ、社会の変化に伴う家庭経済や家族関係、ならびに心身の健康に関する生活課題について、心理学的方法を基礎として理解、考察し、生活の向上を図る能力の養成を目的とする。

(2) 幼児保育専攻

家族とともにある子どもの発達を理解し、子どもと家族を総合的に支援する観点から、必要な基本的知識・技能・態度を身につけた保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の育成を目的とする。

6 現代生活学科では、現代生活の問題を構造的に捉えクリエイティブに解決できる人材の育成を目的とする。

第7条 人間社会学部及び人間社会学部各学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。

2 人間社会学部では、国際化の進展、情報化の進展、社会の成熟化が進むなかで、社会の要請と国民の多様で高度な学びの要求に応える学部教育を目指す。学生が自ら主体的に学び、考え活動できる能力の養成を願い、「共に学び合う共同体」づくりを目指す。

3 人間社会学部では、社会に対する学びとしての社会学、人間行動・人間関係・心理に対する学びとしての心理学を基礎にしつつ、教育学やジェンダー論、メディア論などを学ぶことを通して、現代社会に生きる人と人、人と社会の関係について理解を深めるとともに、社会調査の技法や課題解決能力、コミュニケーション能力を身につけ、ビジネス社会や地域社会、教育・福祉などの分野で力を発揮しうる人材を育成することを目的とする。

4 ビジネス社会学科では、多様化・複雑化するビジネス社会に求められる経営学、マーケティング論、経済学、法律学、コミュニケーション学を中心とする専門的な知識・理論を活用し、現代社会における企業や地域・国際社会で発生する諸問題に取り組み、それらを解決できる能力を修得し、企業組織や地域・国際社会で活躍し貢献できる人材の育成を目的とする。

5 社会デザイン学科では、高度情報化する知識基盤社会に求められるソーシャル・データサイエンス、社会情報学、メディア論、デザイン思考などを中心とする専門的な知

識・理論を学び、社会情勢・環境が変化し続ける創造社会で発生する諸問題を解決できる能力を修得し、社会で主体的に活躍し貢献できる人材の育成を目的とする。

第7条の2 国際学部及び国際学科の教育研究上の目的は以下のとおりとする。

- 2 国際学部では、国際語である英語の運用能力とコミュニケーション能力を身につけるとともに、英語以外の外国語に慣れ親しみ、異なる民族、宗教、言語、価値観が交差する国際社会に対応した専門知識を修得し、国際交流を推進できる人材の育成を目的とする。
- 3 国際学科では、国際語である英語の高い運用能力と様々な人々に対応したコミュニケーション能力を背景に、学問としての言語・コミュニケーション研究、国際文化研究、日本文化研究、地域・観光研究という4つの研究領域に関する幅広い知識を活用し、国際社会で他者と協働しながら目標に向かうことのできる人材の育成を目的とする。

第8条 文学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
国文学科	110名	9名	458名
英文学科	110名	9名	458名
美学美術史学科	90名	2名	364名

第9条 生活科学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	専攻	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
食生活科学科	管理栄養士専攻	70名	-	280名
	食物科学専攻	75名	-	300名
	健康栄養専攻	40名	-	160名
生活環境学科		80名	2名	324名
生活文化学科	生活心理専攻	40名	2名	164名
	幼児保育専攻	45名	-	180名
現代生活学科		60名	-	240名

第10条 人間社会学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
人間社会学科	100名	-	400名
ビジネス社会学科	80名	-	320名
社会デザイン学科	80名	-	320名

第10条の2 国際学部の学生定員を次のとおりとする。

学科	入学定員	編入学定員(第3年次)	収容定員
国際学科	120名	-	480名

第11条 本学に大学教育研究センター、大学言語文化教育研究センター、大学教職センターをおく。

- 2 大学教育研究センターに関する規程は、別に定める。
- 3 大学言語文化教育研究センターに関する規程は、別に定める。
- 4 大学教職センターに関する規程は、別に定める。

第12条 本学に文芸資料研究所、香雪記念資料館及び下田歌子記念女性総合研究所を附置するとともに、これらを統括し、本学の学術研究を推進するために実践女子大学研究推進機構を置く。

- 2 実践女子大学研究推進機構、文芸資料研究所、香雪記念資料館及び下田歌子記念女性総合研究所に関する規程は、別に定める。

第3章 授業科目

第13条 授業科目は、各学科共これを必修科目と選択科目とに分け、学年の始めに定める。

第14条 文学部、生活科学部、人間社会学部、国際学部の共通教育科目は、別表第1のとおりとする。

第15条 文学部国文学科、英文学科、美学美術史学科の専門科目は、別表第3のとおりとする。

- 2 生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻、同食物科学専攻、同健康栄養専攻、生活環境学科、生活文化学科生活心理専攻、同幼児保育専攻、現代生活学科の専門科目は、別表第4のとおりとする。

- 3 人間社会学部人間社会学科、ビジネス社会学科、社会デザイン学科の専門科目は、別表第5のとおりとする。

- 4 国際学部国際学科の専門科目は、別表第6のとおりとする。

第16条 教育職員免許状取得希望者、図書館司書、学校図書館司書教諭資格取得希望者及び博物館学芸員資格取得希望者は、学部学科で定めた授業科目以外に、教職は別表第7、司書及び司書教諭は別表第8、学芸員は別表第9の授業科目を履修しなければならない。

- 2 本学の各学科において取得できる教育職員免許状の種類は、次のとおりとする。

学部	学科		取得できる教育職員免許状の種類	
文学部	国文学科		中学校教諭1種免許状	国語
			高等学校教諭1種免許状	国語・書道
	英文学科		中学校教諭1種免許状	外国語(英語)
			高等学校教諭1種免許状	外国語(英語)
	美学美術史学科		中学校教諭1種免許状	美術
			高等学校教諭1種免許状	美術
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	栄養教諭1種免許状	
		食物科学専攻	中学校教諭1種免許状	家庭
			高等学校教諭1種免許状	家庭

		健康栄養専攻	栄養教諭2種免許状	
	生活環境学科		中学校教諭1種免許状	家庭
			高等学校教諭1種免許状	家庭
			高等学校教諭1種免許状	情報
	生活文化学科	生活心理専攻	中学校教諭1種免許状	家庭
				高等学校教諭1種免許状
		幼児保育専攻	幼稚園教諭1種免許状	
			小学校教諭1種免許状	
	現代生活学科		中学校教諭1種免許状	家庭
			高等学校教諭1種免許状	家庭
人間社会学部	人間社会学科		中学校教諭1種免許状	社会
			高等学校教諭1種免許状	公民
	現代社会学科		中学校教諭1種免許状	社会
			高等学校教諭1種免許状	公民

- 3 管理栄養士の資格を取得しようとする者は、食生活科学科管理栄養士専攻に在籍し、第26条の規定によるほか、第15条別表第4に定める所定の授業科目を履修し、国家試験を受験しなければならない。
- 4 栄養士の資格を取得しようとする者は、食生活科学科管理栄養士専攻又は同健康栄養専攻に在籍し、第26条の規定によるほか、第15条別表第4に定める「栄養士資格取得に必要な単位」を修得しなければならない。
- 5 一級建築士試験又は二級建築士試験の受験資格を取得しようとする者は、生活環境学科に在籍し、建築士法に定める必要な単位を修得しなければならない。
- 6 保育士の資格を取得しようとする者は、生活文化学科幼児保育専攻に在籍し、第26条の規定によるほか、第14条別表第1及び第15条別表第4に定める「保育士資格取得に必要な単位」を修得しなければならない。なお、履修方法の詳細は別に定める。
- 7 その他の資格について、取得に必要な要件は別に定める。

第4章 履修方法、単位算定

第17条 学生は、履修しようとする授業科目を毎学年又は毎学期の始めに登録しなければならない。登録していない授業科目には単位を与えない。

第18条 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、この限りでない。

第19条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義・演習については、15時間をもって1単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30時間をもって1単位とすることができる。
- (2) 実験、実習及び実技については、45時間をもって1単位とする。ただし、授業科目の内容によっては、教育効果を考慮して必要があるときは、30時間をもって1単位とすることができる。
- 3 卒業論文又はこれに代る授業科目は、国文学科では6単位、英文学科では6単位、美学美術史学科では6単位、食生活科学科では6単位、生活環境学科では6単位、生活文化学科では6単位、現代生活学科では4単位、人間社会学科では4単位、ビジネス社会学科では4単位、社会デザイン学科では4単位、国際学科では6単位とする。
- 4 本学は、文部科学大臣が別に定めるところにより、第2項に規定する講義・演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第20条 本学が教育上有益と認めるときは、あらかじめ他の大学又は短期大学と協議したところにより、学生が当該の他大学等において履修した授業科目を本学において修得したものとして認めることができる。

- 2 本学が教育上有益と認めるときは、短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修、その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学において修得したものとして認めることができる。
- 3 本学が教育上有益と認めるときは、本学が留学先として適当と認めた外国の大学あるいはこれに相当する高等教育機関において履修した授業科目を本学において修得したものとして認めることができる。
- 4 留学に関する規程は、別に定める。
- 5 1項、2項及び3項において認めることのできる単位数の合計は次条で認めた修得単位と合わせて60単位を超えないものとし、単位の取り扱いに関しては別に定める。

第21条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する以前に大学又は短期大学において修得した単位(第58条に規定する科目等履修生として修得した単位を含む。)を本学において修得した単位として前条で認めた修得単位と合わせて60単位を超えない範囲で認めることがある。なお、単位認定と関連して修業年限の短縮は行わない。なお、単位認定と関連して修業年限の短縮は行わない。

- 2 編入学・転入学の場合は、前項の単位認定とは別に認めることができる。
- 3 単位の取り扱いに関しては、別に定める。

第5章 学習評価、卒業の認定

第22条 定期試験は、毎年2回各学期の終わりに行う。ただし、休学中の者は試験を受けることはできない。

第23条 病気又は事故により試験に欠席したときは、願い出により追試験を許可することがある。

2 追試験に関する規程は別に定める。

第24条 試験等の評価は、+A・A・B・C・Dの五段階とし、C以上を合格とする。卒業論文についても同様である。

第25条 卒業論文又はこれに代る授業科目の制作物は、専門科目の範囲内で題目を定め、所定の期日までに提出しなければならない。

第26条 本学を卒業するためには、4年以上在学し、次表に定める単位を修得しなければならない。

学部・学科		授業科目の区分	共通教育科目	専門科目	選択自由単位	合計
文学部	国文学科		28	68	28	124 単位以上
	英文学科		28	76	20	124 単位以上
	美学美術史学科		28	76	20	124 単位以上
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	20	100	4	124 単位以上
		食物科学専攻	28	76	20	124 単位以上
		健康栄養専攻	24	90	10	124 単位以上
	生活環境学科		28	76	20	124 単位以上
	生活文化学科	生活心理専攻	24	90	10	124 単位以上
		幼児保育専攻	20	86	18	124 単位以上
	現代生活学科		36	76	12	124 単位以上
人間社会学部	人間社会学科		28	76	20	124 単位以上
	ビジネス社会学科		28	76	20	124 単位以上
	社会デザイン学科		28	76	20	124 単位以上
国際学部	国際学科		28	76	20	124 単位以上

2 前項の単位修得に関しては、別に定める。

第27条 大学に4年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

2 学長は、卒業を認定した者に次の学位を授与する。

- 文学部卒業者 学士(文学)
- 生活科学部卒業者 学士(生活科学)
- 人間社会学部卒業者 学士(人間社会学)
- 国際学部卒業者 学士(国際学)

第28条 在学8年(休学期間は除く。)を超えてなお所定の単位を修得できない者は、これを除籍する。

第6章 入学・転部・転科・退学・休学・転学

第29条 入学の時期は、学年の始めとする。

第30条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- (3) 通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者
- (4) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した、在外教育施設の当該課程を修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程による大学入学資格検定合格者を含む。)
- (8) その他本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達した者

第31条 次の各号の一に該当する者で、本学への編入学・転入学を志願する者があるときは、選考のうえ相当年次に入学を許可することがある。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 大学に2年以上在学した者
- (3) 短期大学を卒業した者
- (4) その他前各号と同等以上の学力があると本学で認めた者

2 本学学生で転部・転科を志願する者があるときは、選考のうえ相当年次に転部・転科を許可することがある。

第32条 入学志願者に対しては、選考試験を行う。その方法は、その都度定める。

第33条 入学志願者は、所定の入学願書に入学検定料を添えて願出しなければならない。

第34条 選考試験に合格した者は、指定の期日までに入学金その他の納付金を納入しなければならない。また、別に定める期日までに、保証人による保証書を提出しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。

第35条 保証人は、父又は母(父母のない場合は、独立の生計を営む身元確実の成年に達した者。外国人で父母が日本に居住していない場合は、我が国に在住する独立の生計を営む身元確実の成年に達した者。)とし、その学生の在学中における経済的負担を含む一切の責任を負うものとする。

第36条 保証人の身分に異動があったとき、又は死亡したときには、その旨直ちに届け出なければならない。

第37条 学生が病気又は事故によって欠席するときには、その旨届け出なければならない。ただし、欠席が1週間以上にわたるときには、保証人の連署を要し、病気のときには、医師の診断書を添えなければならない。

第38条 退学しようとする者又は転学しようとする者は、その理由を具し、保証人の連署で願い出なければならない。

第39条 病気又は事故によって、引き続き3か月以上学習することができない者は、その理由を具し、保証人の連署で休学を願い出ることができる。

2 休学期間は、通算して2年を超えることができない。

第40条 休学期間は、第3条第5項の在学年数に算入しない。

第41条 休学している者が復学しようとするときは、保証人連署のうえ願い出て許可を得なければならない。

第42条 いったん退学した者が再入学しようとするときは、退学後2年以内に限り選考のうえ許可することがある。

2 再入学については、「実践女子大学再入学に関する規程」による。

第43条 授業料その他の学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納付しない者は、除籍する。

第7章 学費

第44条 本学の学費は、次のとおりである。ただし、場合によりこれを変更することがある。

		入学金	授業料 (年額)	施設設備費 (年額)	実験実習費 (年額)
文学部	国文学科 英文学科 美学美術史学科	240,000円	770,000円	320,000円	—
生活科学部	食生活科学科	240,000円	810,000円	320,000円	80,000円
	管理栄養士専攻	240,000円	790,000円	320,000円	60,000円
	食物科学専攻	240,000円	790,000円	320,000円	70,000円
	健康栄養専攻	240,000円	790,000円	320,000円	70,000円
	生活環境学科	240,000円	790,000円	320,000円	40,000円
	生活文化学科	240,000円	790,000円	320,000円	—
人間社会学部	生活心理専攻	240,000円	790,000円	320,000円	—
	幼児保育専攻	240,000円	810,000円	320,000円	40,000円
	現代生活学科	240,000円	790,000円	320,000円	—
人間社会学部	人間社会学科	240,000円	770,000円	320,000円	—
	ビジネス社会学科	240,000円	770,000円	320,000円	—
	社会デザイン学科	240,000円	770,000円	320,000円	—
国際学部	国際学科	240,000円	830,000円	320,000円	—

第45条 授業料の納入期限は、前期分4月末日、後期分10月末日までとする。

第46条 授業料その他の学費は、出席の有無にかかわらず、学籍のある間は納めなければならない。ただし、休学期間中の授業料、実験実習費は免除することができる。この場合、次条本文の規定はこれを適用しない。

第47条 既納の学費は、いかなる理由でも返還しない。ただし、入学時の納入金に限り所定期間内に本人及び保証人の連署による「入学辞退及び納入金返還申出」のあるものについては、入学金を差し引いた納入金を返還する。

第8章 教職員組織

第48条 本学に学長をおく。

2 学長は大学を統括し、これを代表する。

3 学長は、別に定める規程により選任する。

第49条 本学に副学長をおく。

2 副学長は、学長を助け、学長の命を受けて校務をつかさどる。

3 副学長は、別に定める規程により選任する。

4 副学長は、学長に事故あるとき、又は学長が欠けたときは、学長の職務を行う。

第50条 本学に教授、准教授、講師、助教及び助手をおく。

2 講師を分けて専任と兼任とする。

3 教授、准教授、講師及び助教の任免は、教授会の議を経て、学長が決定し、理事会がこれを行う。

第50条の2 本学に特別任用教員をおく。

2 特別任用教員に関する規程は、別に定める。

第51条 各学部に学部長をおく。

2 学部長は学長を補佐し、学部に関する校務をつかさどる。

3 学部長は、別に定める規程により選任する。

第52条 各学科、課程に主任を置き、教授の中から任命する。

2 主任に関する規程は、別に定める。

第53条 本学に教授会を設ける。

2 教授会に関する規程は、別に定める。

第54条 教授会は、必要に応じ委員会を設けることができる。

2 委員会に関する規程は、別に定める。

第55条 本学に事務職員その他必要な職員をおく。

第9章 賞罰

第56条 在学中、人格、学術共に優秀な者を教授会の議を経て特待生とし、授業料その他を免除することがある。

第57条 学長は、学生が学則又は学内規定に違反し、学生の本分に反する行為があると認めるときは、教授会の議を経て懲戒を行うことができる。

2 前項の懲戒は訓告、停学及び退学とし、退学は学生が次の各号の一に該当するときに限る。

- (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められるとき
- (2) 学力劣等で、成業の見込みがないと認められるとき
- (3) 正当な理由なく出席常でないとき
- (4) 学園の秩序を乱し、その他学生の本分に反したとき

第10章 科目等履修生・特別聴講学生・委託生・外国人留学生

第58条 本学の授業科目の修得を目的として願出のあった者(以下、科目等履修生という。)については、授業に支障のない範囲において選考のうえ科目の履修を許可し、試験に合格した者に、第19条に定めるところにより単位を与えることがある。

2 科目等履修生に関する規程は、別に定める。

第59条 本学の授業科目の聴講を希望する他大学又は短期大学等の学生があるときは、当該の大学又は短期大学等との協議に基づき所定の手続きを経て、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生に関する規程は、別に定める。

第60条 委託生として入学又は聴講を希望する者があるときは、その研修しようとする授業科目の教授者、学部長、学長協議のうえ許可するものとする。

2 委託生に関する規程は、別に定める。

第61条 外国籍を持ち、教育を受ける目的をもって入国し、第30条第4号又は第8号に規定する要件を満たして入学を願出た者は、選考のうえ外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生の入学及び履修に関する規程は、別に定める。

3 外国人留学生のために、外国人留学生特設科目として、別表第10を設ける。

4 前項の科目を履修し、単位を修得した場合には、共通教育科目の単位に代えることができる。

第11章 公開講座

第62条 本学は、必要に応じ公開講座を開設する。

第12章 学期及び休業日

第63条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第64条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたるものとする。

第65条 学年を分けて、次の2学期とする。

前期 4月1日から9月20日まで

後期 9月21日から翌年3月31日まで

第66条 休業日は、次のとおりとする。

日曜日

国民の祝日に関する法律に規定する休日

本学創立記念日(5月7日)

春期休業日 3月21日から4月4日まで

夏期休業日 7月30日から9月20日まで

冬期休業日 12月21日から翌年1月7日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、学長は臨時に休業日を設け、又は休業日を変更することができる。

第13章 図書館

第67条 本学に図書館を設ける。

- 2 図書館に関する事項は、別に定める。

第14章 生涯学習センター

第68条 本学に生涯学習センターを附置する。

- 2 生涯学習センターに関する規程は、別に定める。

第15章 雑則

第69条 学則の改廃については、全学教授会の議を経て、学長が決定し、理事会に付議する。

附 則

この学則は、昭和24年4月から適用する。

(中略)

附 則(昭和61年4月1日)

- 1 この改正学則は、昭和61年4月1日から施行する。
- 2 第2章第3条及び第4条の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

文学部			家政学部			計
国文学科	英文学科	美学美術史学科	食物学科		被服学科	
			管理栄養士専攻	食物学専攻		
150名	150名	100名	60名	120名	120名	700名

- 3 第3章第6条別表(2)家政学部授業科目(被服学科)及び第7章第29条の規定は、昭和61年度入学生から適用し、昭和60年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(昭和62年4月1日)

- 1 この改正学則は、昭和62年4月1日から施行する。

- 2 第3章第6条別表(2)家政学部授業科目の食物学科基礎教育科目並びに専門教育科目は昭和62年度入学生から適用し、昭和61年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第5章第16条及び第7章第29条の規定は昭和62年度入学生から適用し、昭和61年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(昭和63年4月1日)

- 1 この改正学則は、昭和63年4月1日から施行する。
- 2 第3章第5条別表(1)文学部授業科目の外国語科目並びに英文学科専門教育科目は昭和63年度入学生から適用し、昭和62年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第7章第29条の規定は、昭和63年度入学生から適用し、昭和62年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成元年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 第3章第5条別表(1)文学部授業科目の美学美術史学科専門教育科目は平成元年度入学生から適用し、昭和63年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第7章第29条の規定は平成元年度入学生から適用し、昭和63年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成2年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成2年4月1日から施行する。
- 2 第3章第5条別表(1)文学部授業科目中、国文学科「中世近世文学史」、「漢字書法ⅠⅡ」及び英文学科「比較文化」については、平成2年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第3章第5条別表(2)家政学部授業科目並びに第3章第8条別表(3)教職課程授業科目は、平成2年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。
- 4 第7章第29条の規定は平成2年度入学生から適用し、平成元年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成3年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 第3章第5条別表(1)文学部授業科目の英文学科基礎教育科目及び専門教育科目、美学美術史学科専門教育科目、第3章第8条別表(7)博物館学芸員関係授業科目は、平成3年度入学生から適用し、平成2年度以前の入学生については従前の規定による。

- 3 第7章第29条の規定は、平成3年度入学生から適用し、平成2年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成4年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成4年4月1日から施行する。ただし、第5章第19条第2項の規定は、平成3年9月24日から適用する。
- 2 第7章第36条の規定は、平成4年度入学生から適用し、平成3年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成5年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 第21条及び第7条別表第1、第8条別表第2、第9条別表第3、第11条別表第7並びに第39条の規定については平成5年度入学生から適用し、平成4年度以前の入学生は従前の規定による。

附 則(平成6年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 第7条別表第1、第8条別表第2、第9条別表第3並びに第39条の規定については平成6年度入学生から適用し、平成5年度以前の入学生は従前の規定による。

附 則(平成7年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成7年4月1日から施行する。
- 2 第3条、第6条、第7条、第9条、第11条2項、第14条3項、第20条、第21条、第22条2項、第39条及び第7条別表1、第8条別表2、第9条別表3、第11条別表4、別表5、別表6、別表7の規定については平成7年度入学生から適用し、平成6年度以前の入学生については従前の規定による。ただし、生活科学部、食生活科学科管理栄養士専攻、食生活科学科食物科学専攻および生活環境学科の名称については平成7年度入学生から適用し、平成6年度以前の入学生については平成9年度までの間は従前どおりとする。
- 3 第6条に規定する入学定員は、平成11年度までの間は次のとおりとする。

生活科学部			
食生活科学科		生活環境学科	生活文化学科
管理栄養士専攻	食物科学専攻		
40名	90名	90名	80名

附 則(平成8年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成8年4月1日から施行する。

- 2 第3章第7条別表第1文学部・生活科学部総合教育科目、第8条別表第2文学部専門科目国文学科、英文学科及び第9条別表第3生活科学部専門科目食生活科学科管理栄養士専攻・食物科学専攻については、平成8年度入学生から適用し、平成7年度入学以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第5章第21条の規定のうち文学部及び生活科学部食生活科学科管理栄養士専攻については、平成8年度入学生から適用し、平成7年度入学生以前の入学生については、従前の規定による。
- 4 第7章第39条の規定については、平成8年度入学生から適用し、平成7年度入学以前の入学生については、従前の規定による。ただし、冷暖房費については、平成7年度入学以前の入学生にも適用する。

附 則(平成9年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 第4章第15条2項3項の規定については、平成8年度入学以前の入学生についても適用する。
- 3 第5章第21条の規定のうち生活科学部食生活科学科食物科学専攻、生活環境学科については、平成9年度入学生から適用し、平成8年度入学以前の入学生については従前の規定による。
- 4 第7章第39条の規定については、平成9年度入学生から適用し、平成8年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第3章第8条別表第2文学部専門科目国文学科、美学美術史学科及び第9条別表第3生活科学部専門科目食生活科学科管理栄養士専攻・食物科学専攻、生活環境学科については、平成9年度入学生から適用し、平成8年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成10年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 第7章第39条の規定については、平成10年度入学生から適用し、平成9年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第3章第8条別表第2文学部専門科目美学美術史学科及び第9条別表第3生活科学部専門科目生活環境学科については、平成10年度入学生から適用し、平成9年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成11年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成11年4月1日から施行する。

- 2 第7章第39条の規定については、平成11年度入学生から適用し、平成10年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第3章第9条別表第3生活科学部専門科目生活環境学科については、平成10年度入学生から適用し、平成9年度以前の入学生については従前の規定による。生活文化学科については、平成11年度入学生から適用し、平成10年度以前の入学生については従前の規定による。別表第6学校図書館司書教諭科目及び単位数については平成11年度から適用する。

附 則(平成12年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成12年4月1日から施行する。
- 2 第5条及び第6条に規定する入学定員は、平成16年度までの間は次のとおりとする。

	学部・学科	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
文学部	国文学科	145名	137名	130名	125名	120名
	英文学科	145名	137名	130名	125名	120名
	美学美術史学科	100名	100名	100名	100名	100名
生活科学部	食生活科学管理栄養士専攻	70名	70名	70名	70名	70名
		食物科学専攻	57名	57名	54名	51名
	生活環境学科	85名	83名	82名	77名	75名
	生活文化学科	80名	80名	80名	80名	80名

- 3 第7章第39条の規定については、平成12年度入学生から適用し平成11年度以前の入学生については従前の規定による。
- 4 第3章第7条別表第1全学共通科目、別表第2文学部・生活科学部共通科目、第8条別表第3文学部専門科目国文学科、英文学科、美学美術史学科、第9条別表第4生活科学部専門科目食生活科学管理栄養士専攻、食生活科学食物科学専攻、生活環境学科及び生活文化学科については平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については従前の規定による。第11条別表第5教職課程科目、別表第8博物館学芸員科目及び単位数については、平成12年度入学生から適用し、平成11年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成13年4月1日)

- 1 この改正学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 第3章第8条別表第3文学部専門科目美学美術史学科については平成13年度入学生から適用し、平成12年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成 14 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 6 条に規定する入学定員は、平成 16 年度までの間は次のとおりとする。

学部・学科		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	
生活科学部	食生活科学科	管理栄養士専攻	70 名	70 名	70 名
		食物科学専攻	84 名	81 名	75 名
	生活環境学科		87 名	82 名	80 名
	生活文化学科		85 名	85 名	85 名

- 3 第 21 条の規定については、平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 4 第 39 条の規定については、平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第 9 条別表第 4 生活科学部専門科目食生活科学管理栄養士専攻、食生活科学科食物科学専攻については、平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成 15 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 3 章第 8 条別表第 3 文学部専門科目美学美術史学科については平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第 3 章第 11 条別表第 8 博物館学芸員関係授業科目については平成 13 年度入学生から適用し、平成 12 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成 16 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 10 条別表第 4 生活環境学科の授業科目のうち「消費生活学」については平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成 17 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 10 条別表第 4 食生活科学科管理栄養士専攻及び食物科学専攻の授業科目のうち「毒性学」については平成 14 年度入学生から適用し、平成 13 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第 10 条別表第 5 人間社会学科の授業科目については、平成 16 年度入学生から適用する

附 則(平成 18 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 11 条第 2 項の規定のうち美学美術史学科については、平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 3 第 10 条別表第 3 美学美術史学科の授業科目のうち次の科目については、平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。

アジアの美術 c	2	アジアの美術 d	2	デザイン史 a	2	デザイン史 b	2
身体文化論 a	2	身体文化論 b	2	絵画入門 a	1	絵画入門 b	1
絵画実習 a	2	絵画実習 b	2	絵画実習 c	2	絵画実習 d	2
デザイン入門 a	1	デザイン入門 b	1	デザイン実習 a	2	デザイン実習 b	2
デザイン実習 c	2	デザイン実習 d	1	デザイン実習 e	1	工芸実習 a	2
工芸実習 b	2	彫刻実習 a	2	彫刻実習 b	2		

- 4 第 10 条別表第 4 食生活科学科食物科学専攻の授業科目のうち「生理学」については平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第 11 条別表第 6 教職課程授業科目及び単位数のうち美学美術史学科教育職員免許状に関わる科目については、美学美術史学科平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 6 第 11 条別表第 6 教職課程授業科目及び単位数のうち「教育原理」については、平成 17 年度入学生から適用し、平成 16 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 7 第 11 条別表第 9 博物館学芸員関係授業科目については、平成 16 年度入学生から適用し、平成 15 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 8 第 10 条別表第 1-1 文学部・生活科学部共通科目のうち「コリア語 a」「コリア語 b」については、平成 15 年度入学生から適用し、平成 14 年度以前の入学生については従前の規定による。
- 9 第 10 条別表第 1-2 人間社会学部総合教養科目のうち次の科目については、平成 16 年度入学生から適用する。

コリア語 A	1	コリア語 B	1	フランス語 A	1	フランス語 B	1
フランス語 C	1	フランス語 D	1	ドイツ語 A	1	ドイツ語 B	1
ドイツ語 C	1	ドイツ語 D	1				

附 則(平成 18 年 12 月 15 日)

この改正学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 19 年 3 月 23 日)

- 1 この改正学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 10 条別表第 4 生活文化学科幼児保育専攻の授業科目のうち幼稚園教諭免許状に関わる科目については、生活文化学科保育士コース平成 17 年度入学生から適用する。

- 3 第11条第2項の規定のうち生活文化学科幼児保育専攻については、生活文化学科保育士コース平成17年度入学生から適用する。
- 4 第10条別表第1-1文学部・生活科学部共通科目のうち「コア語会話a」「コア語会話b」については平成16年度入学生から適用し、平成15年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成19年4月11日)

この改正学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成19年12月19日)

この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月28日)

- 1 この改正学則は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 第14条別表第1-2人間社会学部総合教養科目のうち次の科目については、平成18年度入学生から適用し、平成17年度以前の入学生については従前の規定による。

健康運動実習 2	1健康体力科学演習	1ヘルスプロモーション実践実習 2	1レクリエーションナルスポーツ	1
----------	-----------	-------------------	-----------------	---

- 3 平成18年度入学生及び平成19年度入学生については、第15条別表第3英文学科の授業科目から次の科目を削除する。

セミナーc	1	セミナーd	1	セミナーe	1	セミナーf	1
-------	---	-------	---	-------	---	-------	---

- 4 第15条別表第4食生活科学科食物科学専攻の授業科目のうち「健康運動論演習」については、平成19年度入学生から適用し、平成18年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第15条別表第5人間社会学科の授業科目のうち次の科目については、平成17年度入学生から適用し、平成16年度以前の入学生については従前の規定による。

心理学研究法	2	社会調査方法論	2	社会調査実習 I	2	社会調査実習 II	2
認知心理学	2	社会科学データ分析	2	特別講義 B	2		

附 則(平成21年3月27日)

- 1 この改正学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第3美学美術史学科の授業科目のうち次の科目については、平成20年度入学生から適用し、平成19年度以前の入学生については従前の規定による。

西洋古代・中世美術 a	2	西洋古代・中世美術 b	2	西洋古代・中世美術 c	2	西洋古代・中世美術 d	2
西洋現代美術 a	2	西洋現代美術 b	2	絵画実習 e	2		

- 3 平成 20 年度入学生については、第 15 条別表第 3 美学美術史学科の授業科目から次の科目を削除する。

西洋古代美術 a	2	西洋古代美術 b	2	西洋中世美術 a	2	西洋中世美術 b	2
デザイン実習 e	1						

- 4 第 16 条別表第 9 博物館学芸員関係の授業科目のうち「文化財保存学 a」「文化財保存学 b」の単位数については、平成 19 年度入学生から適用し、平成 18 年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成 21 年 7 月 22 日)

- 1 この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 15 条別表第 4 生活文化学科生活文化専攻の授業科目については、平成 22 年度入学生から適用する。
- 3 第 15 条別表第 4 生活文化学科幼児保育専攻の授業科目については、平成 22 年度入学生から適用する。

附 則(平成 22 年 3 月 26 日)

- 1 この改正学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 14 条別表第 1、第 15 条別表第 3、別表第 4、別表第 6、第 16 条第 2 項の規定は、平成 22 年度入学生から適用し、平成 21 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(平成 22 年 7 月 28 日)

- 1 この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 15 条別表第 4 は、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、従前の規程による。

附 則(平成 22 年 12 月 17 日)

- 1 この改正学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 15 条別表第 4 は、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、従前の規程による。

附 則(平成 23 年 4 月 1 日)

- 1 この改正学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 26 条、第 44 条の規定については、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生について従前の規定による。
- 3 第 15 条別表第 4、及び第 15 条別表第 5 は、平成 23 年度入学生から適用し、平成 22 年度以前の入学生については、従前の規定による。

- 4 第16条別表第6教職課程授業科目については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については従前の規定による。
- 5 第16条別表第7図書館司書関係授業科目については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については従前の規定による。
- 6 第16条別表第9博物館学芸員関係授業科目については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度以前の入学生については従前の規定による。

附 則(平成24年3月23日)

- 1 この改正学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第4生活文化学科幼児保育専攻の授業科目のうち、次の科目については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については従前の規程による。

道徳の指導法	講義	2	特別活動の指導法	講義	2
介護支援基礎論	講義	2	介護等体験	実習	1
教育実習指導(幼稚園)	演習	1	教育実習指導(小学校)	演習	1
教育実習 a(幼稚園)	実習	4	教育実習 b(幼稚園)	実習	2
教育実習 a(小学校)	実習	4	教育実習 b(小学校)	実習	2

- 3 平成23年度入学生については、第15条別表第4生活文化学科幼児保育専攻の科目から次の科目を削除する。

道徳・特別活動の指導法	講義	2	教育実習指導	演習	1
教育実習	実習	4			

- 4 第16条別表第6教職課程授業科目については、平成23年度入学生から適用し、平成22年度以前の入学生については従前の規程による。
- 5 第49条第1項、第2項及び第4項については、平成25年4月1日から適用する。
- 6 学長の職務の代理及び代行に関しては、平成24年度は従前の規程による。
- 7 平成19年4月11日制定の「学長の職務の代理及び代行に関する規程」は、平成25年3月31日をもって廃止とする。

附 則(平成24年7月20日)

- 1 この改正学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 第8条、第9条、第10条に規定する編入学定員(第3年次)は、平成25年度及び平成26年度については次のとおりとする。

文学部

	平成25年度	平成26年度
国文学科	13名	13名
英文学科	13名	13名

美学美術史学科	8名	8名
---------	----	----

生活科学部

学科	専攻	平成 25 年度	平成 26 年度
食生活科学科	管理栄養士専攻	2名	2名
	食物科学専攻	2名	2名
	健康栄養専攻	-	-
生活環境学科		2名	2名
生活文化学科	生活文化専攻	2名	2名
	幼児保育専攻	2名	2名

人間社会学部

	平成 25 年度	平成 26 年度
人間社会学科	10名	10名
現代社会学科	10名	10名

附 則(平成 24 年 10 月 19 日)

- 1 この改正学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 14 条別表第 1 共通教育科目及び第 15 条別表第 4 生活文化学科幼児保育専攻の授業科目は、平成 25 年度入学生から適用し、平成 24 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(平成 25 年 3 月 22 日)

- 1 この改正学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 14 条別表第 1、第 15 条別表第 3、第 15 条別表第 4、第 15 条別表第 5、第 16 条別表第 6、第 16 条別表第 9、第 19 条、第 26 条、第 44 条の規定については、平成 25 年度入学生より適用し、平成 24 年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(平成 25 年 3 月 22 日)

この改正学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 26 年 3 月 22 日改正)

- 1 この改正学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 3 条、第 6 条、第 9 条、第 15 条、第 16 条、第 26 条の規定については、平成 26 年度入学生から適用し、平成 25 年度以前の入学生については、従前の規程による。
- 3 第 15 条別表第 4 は、平成 26 年度入学生から適用し、平成 25 年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、食生活科学科食物科学専攻の授業科目のうち、次の科目は平成 24 年度入学生に適用する。

スポーツと健康科学 a	講義2	スポーツと健康科学 b	講義2
-------------	-----	-------------	-----

- 4 第16条別表第6教職課程授業科目については、平成26年度入学生から適用し、平成25年度以前の入学生については従前の規程による。

附 則(平成27年3月28日改正)

- 1 この改正学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 第26条の規定については、平成27年度入学生から適用し、平成26年度以前の入学生については、従前の規定による。
- 3 第15条別表第3、第4及び第5の授業科目については、平成27年度入学生から適用し、平成26年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、別表第4現代生活学科授業科目については、平成26年度入学生から適用する。

附 則(平成28年3月26日改正)

- 1 この改正学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第4食生活科学科授業科目については、平成28年度入学生から適用し、平成27年度以前の入学生については、従前の規定による。
- 3 第19条第3項の卒業論文又はこれに代る授業科目のうち、人間社会学科及び現代社会学科については、平成27年度入学生から適用し、平成26年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(平成29年3月25日改正)

- 1 この改正学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 第14条別表第1、第15条別表第4、第44条の規定については、平成29年度入学生から適用し、平成28年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(平成30年3月24日改正)

- 1 この改正学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 第7条、第15条別表第3、第15条別表第4、第16条、第16条別表第7、第26条及び第61条の規定については、平成30年度入学生から適用し、平成29年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(2019年3月23日改正)

- 1 この改正学則は、2019年4月1日から施行する。
- 2 第14条別表第1、第15条別表第4及び第15条別表第5の規定については、2019年度入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、従前の規定による。

- 3 第16条別表第6の規定については、2019年度入学生から適用し、2018年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、教職課程授業科目のうち、次の科目は2017年度入学生から適用する。

特別支援教育論	講義	1
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	講義	2

附 則(2020年3月21日改正)

- 1 この改正学則は、2020年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第3及び第15条別表第4の規定については、2020年度入学生から適用し、2019年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則(2021年3月27日改正)

- 1 この改正学則は、2021年4月1日から施行する。
- 2 第14条別表第1及び第15条別表第4の規定については、2021年度入学生から適用し、2020年度以前の入学生については、従前の規定による。ただし、共通教育科目のうち、次の科目については2018年度入学生から適用する。

附則別表

海外語学研修 e	実習	1
海外語学研修 f	実習	1
海外語学研修 g	実習	1
海外語学研修 h	実習	1

附 則(2022年3月26日改正)

- 1 この改正学則は、2022年4月1日から施行する。
- 2 第15条別表第4及び第16条別表第6の規定については、2022年度入学生から適用し、2021年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則 (2023年2月18日改正)

- 1 この改正学則は、2023年4月1日から施行する。
- 2 第44条の規定については、2023年度入学生から適用し、2022年度以前の入学生については、従前の規定による。

附 則 (2023年2月18日改正)

- 1 この改正学則は、2024年4月1日から施行する。

- 2 第3条、第7条、第7条の2、第10条、第10条の2、第14条、第15条、第16条、第19条、第26条、第27条、第44条及び第61条の規定については、2024年度入学生から適用し、2023年度以前入学生については、従前の規定による。

別表第1

第14条別表第1 共通教育科目

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
実践入門セミナー	演習	2	
実践キャリアプランニング	講義	2	
Integrated English a	演習	1	
Integrated English b	演習	1	
データサイエンス入門	講義	1	
情報リテラシー基礎	演習	1	
選択科目			
キャリアデザイン	講義	2	
グローバル・キャリアデザイン	演習	2	
短期インターンシップ	実習	1	
長期インターンシップ	実習	2	
キャリア開発実践論	演習	2	
ビジネスのスキルとマナー	講義	2	
国際理解とキャリア形成	講義	2	
女性とキャリア形成	講義	2	
キャリア・ショーケース	講義	2	
ライフデザイン	講義	2	
実践企業分析論	講義	2	
実践企業分析論演習	演習	2	
Effective Writing	演習	1	
Effective Speaking	演習	1	
Active Reading	演習	1	
Active Listening	演習	1	
C E F R B 1	演習	1	
Global Studies a	講義	2	
Global Studies b	講義	2	
Global Studies c	講義	2	
Global Studies d	講義	2	
Global Studies e	講義	2	
Global Studies f	講義	2	
Global Studies g	講義	2	
Global Studies h	講義	2	
Global Studies i	講義	2	
Global Studies j	講義	2	
フランス語 1 a	演習	1	
フランス語 1 b	演習	1	

ド	イ	ツ	語	1	a	演習	1								
ド	イ	ツ	語	1	b	演習	1								
中	国	語		1	a	演習	1								
中	国	語		1	b	演習	1								
コ	リ	ア	語	1	a	演習	1								
コ	リ	ア	語	1	b	演習	1								
ス	ペ	イ	ン	語	1	a	演習	1							
ス	ペ	イ	ン	語	1	b	演習	1							
フ	ラ	ン	ス	語	2	a	演習	1							
フ	ラ	ン	ス	語	2	b	演習	1							
ド	イ	ツ	語	2	a	演習	1								
ド	イ	ツ	語	2	b	演習	1								
中	国	語		2	a	演習	1								
中	国	語		2	b	演習	1								
コ	リ	ア	語	2	a	演習	1								
コ	リ	ア	語	2	b	演習	1								
ス	ペ	イ	ン	語	2	a	演習	1							
ス	ペ	イ	ン	語	2	b	演習	1							
海	外	語	学	研	修	a	実習	2							
海	外	語	学	研	修	b	実習	2							
海	外	語	学	研	修	c	実習	2							
海	外	語	学	研	修	d	実習	2							
海	外	語	学	研	修	e	実習	1							
海	外	語	学	研	修	f	実習	1							
海	外	語	学	研	修	g	実習	1							
海	外	語	学	研	修	h	実習	1							
海	外	短	期	イ	ン	タ	ー	ン	シ	ッ	プ	実習	1		
海	外	長	期	イ	ン	タ	ー	ン	シ	ッ	プ	実習	2		
情	報	ス	キ	ル	基	礎	演習	1							
情	報	リ	テ	ラ	シ	ー	応	用	a	演習	2				
情	報	リ	テ	ラ	シ	ー	応	用	b	演習	2				
情	報	リ	テ	ラ	シ	ー	応	用	c	演習	2				
情	報	リ	テ	ラ	シ	ー	応	用	d	演習	2				
情	報	リ	テ	ラ	シ	ー	応	用	e	演習	2				
実	践	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	a	演習	2					
実	践	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	b	演習	2					
実	践	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	c	演習	2					
ボ	ラ	ン	テ	ィ	ア	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	a	演習	1	
ボ	ラ	ン	テ	ィ	ア	プ	ロ	ジ	ェ	ク	ト	b	演習	1	
ジ	ェ	ン	ダ	ー	論	入	門	講義	2						
女	性	の	歴	史	講義	2									

女 性 の 健 康	講義	2	
文 学 と ジ ェ ン ダ ー	講義	2	
国 際 社 会 と ジ ェ ン ダ ー	講義	2	
女 性 教 育 と ジ ェ ン ダ ー	講義	2	
ジ ェ ン ダ ー と 心 理	講義	2	
哲 学 入 門	講義	2	
現 代 の 思 想	講義	2	
言 語 学 入 門	講義	2	
倫 理 学 入 門	講義	2	
生 命 と 環 境 の 倫 理	講義	2	
社 会 思 想 入 門	講義	2	
東 洋 思 想 入 門	講義	2	
世 界 の 宗 教	講義	2	
日 本 の 古 典 文 学	講義	2	
日 本 の 近 現 代 文 学	講義	2	
西 洋 の 文 学	講義	2	
児 童 文 学 入 門	講義	2	
世 界 の フ ァ ン タ ジ ー	講義	2	
文 化 人 類 学 入 門	講義	2	
美 術 の 世 界	講義	2	
音 楽 の 世 界	講義	2	
フ ァ ッ シ ョ ン の 世 界	講義	2	
映 像 文 化 論	講義	2	
日 本 の 伝 統 文 化	講義	2	
日 本 の ポ ッ プ カ ル チ ャ ー	講義	2	
心 理 学 入 門	講義	2	
人 間 関 係 の 心 理 学	講義	2	
心 の 健 康	講義	2	
地 域 研 究 a	講義	2	
地 域 研 究 b	講義	2	
食 文 化 論	講義	2	
衣 文 化 論	講義	2	
生 活 と デ ザ イ ン	講義	2	
社 会 と デ ザ イ ン	講義	2	
メ デ イ ア 論	講義	2	
サ ブ カ ル チ ャ ー 論	講義	2	
教 育 学	講義	2	
日 本 国 憲 法	講義	2	
法 学 入 門	講義	2	
日 本 の 政 治	講義	2	
国 際 政 治 の 基 礎	講義	2	

日 本 の 経 済	講義	2	
国 際 経 済 の 基 礎	講義	2	
日 本 史	講義	2	
西 洋 史	講義	2	
東 洋 史	講義	2	
地 理 学	講義	2	
社 会 学 入 門	講義	2	
社 会 保 障 論	講義	2	
日 常 生 活 と 法	講義	2	
金 融 リ テ ラ シ ー 入 門	講義	2	
数 学 的 思 考	講義	2	
統 計 的 思 考	講義	2	
く ら し の 化 学	講義	2	
く ら し の 人 間 工 学	講義	2	
生 活 環 境 の 科 学	講義	2	
生 命 の 科 学	講義	2	
身 体 の 科 学	講義	2	
宇 宙 の 科 学	講義	2	
地 球 と 環 境 の 科 学	講義	2	
科 学 技 術 と 人 間	講義	2	
農 業 と 食 料	講義	2	
バ イ オ の 世 界	講義	2	
防 災 の 科 学	講義	2	
身 体 運 動 の 科 学 a	講義	2	
身 体 運 動 の 科 学 b	講義	2	
ス ポ ー ツ 文 化 論	講義	2	
健 康 運 動 実 習 a	実技	1	
健 康 運 動 実 習 b	実技	1	
基 礎 ス ポ ー ツ 実 習 a	実技	1	
基 礎 ス ポ ー ツ 実 習 b	実技	1	
基 礎 ス ポ ー ツ 実 習 c	実技	1	
基 礎 ス ポ ー ツ 実 習 d	実技	1	
健 康 体 力 科 学 演 習	演習	1	
ヘルスプロモーション実践実習 a	実技	1	
ヘルスプロモーション実践実習 b	実技	1	
ア ダ プ テ ッ ド ス ポ ー ツ	実技	1	
ス ポ ー ツ 応 用 科 学 実 習	実技	1	
実 践 教 養 講 座 a	演習	2	
実 践 教 養 講 座 b	演習	2	
実 践 教 養 講 座 c	演習	2	
実 践 教 養 講 座 d	演習	2	

実 践 教 養 講 座 e	演習	2	
実 践 教 養 講 座 f	演習	2	
実 践 教 養 講 座 g	演習	2	
実 践 教 養 講 座 h	演習	2	
実 践 教 養 講 座 i	演習	2	
オ ー プ ン 講 座 a	講義	2	
オ ー プ ン 講 座 b	講義	2	
オ ー プ ン 講 座 c	講義	2	
ク ォ ー タ ー オ ー プ ン 講 座 a	講義	1	
ク ォ ー タ ー オ ー プ ン 講 座 b	講義	1	
ク ォ ー タ ー オ ー プ ン 講 座 c	講義	1	

別表第3

第15条別表第3 文学部専門科目 国文学科

必修科目							
授業科目	授業形態	単位数	備考				
国語学概論 a	講義	2		中世文学基礎演習 1	演習	2	
国語学概論 b	講義	2		中世文学基礎演習 2	演習	2	
国文学概論 a	講義	2		近世文学基礎演習 1	演習	2	
国文学概論 b	講義	2		近世文学基礎演習 2	演習	2	
古典文学基礎講読 a	講義	2		近現代文学基礎演習 1	演習	2	
古典文学基礎講読 b	講義	2		近現代文学基礎演習 2	演習	2	
近代文学基礎講読 a	講義	2		漢文学基礎演習 1	演習	2	
近代文学基礎講読 b	講義	2		漢文学基礎演習 2	演習	2	
漢文学基礎講読 a	講義	2		国語学研究 a	講義	2	
漢文学基礎講読 b	講義	2		国語学研究 b	講義	2	
特殊演習 1	演習	1		上代文学研究 a	講義	2	
特殊演習 2	演習	1		上代文学研究 b	講義	2	
卒業論文		6		中古文学研究 a	講義	2	
選択科目				中古文学研究 b	講義	2	
国語史 a	講義	2		中世文学研究 a	講義	2	
国語史 b	講義	2		中世文学研究 b	講義	2	
上代文学史 a	講義	2		近世文学研究 a	講義	2	
上代文学史 b	講義	2		近世文学研究 b	講義	2	
中古文学史 a	講義	2		近現代文学研究 a	講義	2	
中古文学史 b	講義	2		近現代文学研究 b	講義	2	
中世文学史 a	講義	2		中国文学研究 a	講義	2	
中世文学史 b	講義	2		中国文学研究 b	講義	2	
近世文学史 a	講義	2		国語学演習 1	演習	2	
近世文学史 b	講義	2		国語学演習 2	演習	2	
近現代文学史 a	講義	2		上代文学演習 1	演習	2	
近現代文学史 b	講義	2		上代文学演習 2	演習	2	
中国文学史 a	講義	2		中古文学演習 1	演習	2	
中国文学史 b	講義	2		中古文学演習 2	演習	2	
国語学基礎演習 1	演習	2		中世文学演習 1	演習	2	
国語学基礎演習 2	演習	2		中世文学演習 2	演習	2	
上代文学基礎演習 1	演習	2		近世文学演習 1	演習	2	
上代文学基礎演習 2	演習	2		近世文学演習 2	演習	2	
中古文学基礎演習 1	演習	2		近現代文学演習 1	演習	2	
中古文学基礎演習 2	演習	2		近現代文学演習 2	演習	2	
				中国文学演習 1	演習	2	
				中国文学演習 2	演習	2	
				日本語教育学演習 1	演習	2	
				日本語教育学演習 2	演習	2	
				正しい文章を書く a	演習	2	

正しい文章を書く b	演習	2	
美しい文字を書く a	演習	1	
美しい文字を書く b	演習	1	
日本語表現を極める a	演習	2	
日本語表現を極める b	演習	2	
書芸を極める a	演習	1	
書芸を極める b	演習	1	
礼法 a	講義	2	
礼法 b	講義	2	
伝統芸能 a	講義	2	
伝統芸能 b	講義	2	
茶道 a	講義	2	
茶道 b	講義	2	
有職 a	講義	2	
有職 b	講義	2	
香道 a	講義	2	
香道 b	講義	2	
文学散歩プロジェクト	演習	2	
名所旧跡プロジェクト	演習	2	
国文学マーケティングプロジェクト	演習	2	
国際発信実習	実習	1	
Japanese Literature	講義	2	
Japanese Linguistics	講義	2	

Japanese Culture	講義	2	
Seminar on Global Studies	講義	2	
日本語教授法—初級—	講義	2	
日本語教授法—中級—	講義	2	
日本語教育文法—初級—	講義	2	
日本語教育文法—中級—	講義	2	
日本事情	講義	2	
日本語のバリエーション	講義	2	
第二言語習得研究	講義	2	
日本語の音声	講義	2	
日本語教授法演習 a	演習	2	
日本語教授法演習 b	演習	2	
日本語文法論 a	講義	2	
日本語文法論 b	講義	2	
日本文学史 a	講義	2	
日本文学史 b	講義	2	
漢文学 a	講義	2	
漢文学 b	講義	2	
書道史	講義	2	
書学概論	講義	2	
漢字書法 1	演習	1	
漢字書法 2	演習	1	
仮名書法 1	演習	1	
仮名書法 2	演習	1	

別表第3

第15条別表第3 文学部専門科目 英文学科

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
Basic Grammar a	演習	1	
Basic Grammar b	演習	1	
Basic Reading a	演習	1	
Basic Reading b	演習	1	
Basic Speaking a	演習	1	
Basic Speaking b	演習	1	
英文入門セミナー	演習	2	
Paragraph Writing a	演習	2	
Paragraph Writing b	演習	2	
Intensive Reading a	演習	1	
Intensive Reading b	演習	1	
イギリス文学史 a	講義	2	
イギリス文学史 b	講義	2	
アメリカ文学史 a	講義	2	
アメリカ文学史 b	講義	2	
英語学概論 a	講義	2	
英語学概論 b	講義	2	
プレセミナー	演習	2	
Academic English	演習	2	
卒論セミナー a	演習	1	
卒論セミナー b	演習	1	
卒業論文		6	
選択科目			
イギリスの文化と社会	講義	2	
アメリカの文化と社会	講義	2	
ことばと社会	講義	2	
特別講義	講義	2	
多読演習	演習	2	
Introduction to TOEFL	演習	2	
English Studies	演習	2	
英語圏の詩	講義	2	
英語圏の演劇	講義	2	
女性と英語圏文学 a	講義	2	
女性と英語圏文学 b	講義	2	

イギリス文学・文化講義 a	講義	2	
イギリス文学・文化講義 b	講義	2	
アメリカ文学・文化講義 a	講義	2	
アメリカ文学・文化講義 b	講義	2	
女性と言語文化	講義	2	
英語音声学	講義	2	
Intermediate Speaking a	演習	2	
Intermediate Speaking b	演習	2	
English Presentation a	演習	2	
English Presentation b	演習	2	
時事英語演習	演習	2	
翻訳演習	演習	2	
イギリス文学・文化講義 c	講義	2	
イギリス文学・文化講義 d	講義	2	
アメリカ文学・文化講義 c	講義	2	
アメリカ文学・文化講義 d	講義	2	
言語習得論	講義	2	
英語史	講義	2	
英文法論	講義	2	
西洋古典 a	講義	2	
西洋古典 b	講義	2	
Advanced Speaking a	演習	2	
Advanced Speaking b	演習	2	
English Presentation c	演習	2	
English Presentation d	演習	2	
イギリス文学・文化演習 a	演習	2	
イギリス文学・文化演習 b	演習	2	
イギリス文学・文化演習 c	演習	2	
イギリス文学・文化演習 d	演習	2	
イギリス文学・文化演習 e	演習	2	
イギリス文学・文化演習 f	演習	2	
イギリス文学・文化演習 g	演習	2	
イギリス文学・文化演習 h	演習	2	
アメリカ文学・文化演習 a	演習	2	
アメリカ文学・文化演習 b	演習	2	
アメリカ文学・文化演習 c	演習	2	
アメリカ文学・文化演習 d	演習	2	
アメリカ文学・文化演習 e	演習	2	
アメリカ文学・文化演習 f	演習	2	

アメリカ文学・文化演習 g	演習	2	
アメリカ文学・文化演習 h	演習	2	
英語学演習 a	演習	2	
英語学演習 b	演習	2	
英語学演習 c	演習	2	
英語学演習 d	演習	2	
特殊演習 a	演習	2	
特殊演習 b	演習	2	
特殊演習 c	演習	2	

特殊演習 d	演習	2	
イギリス文学・文化講読演習 a	演習	2	
イギリス文学・文化講読演習 b	演習	2	
イギリス文学・文化講読演習 c	演習	2	
アメリカ文学・文化講読演習 a	演習	2	
アメリカ文学・文化講読演習 b	演習	2	
アメリカ文学・文化講読演習 c	演習	2	
英語学講読演習 a	演習	2	
英語学講読演習 b	演習	2	

別表第3

第15条別表第3 文学部専門科目 美学美術史学科

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
日本美術史入門 a	講義	2	
日本近代美術史入門 a	講義	2	
中国美術史入門 a	講義	2	
仏教美術史入門 a	講義	2	
西洋美術史入門 a	講義	2	
西洋近代美術史入門 a	講義	2	
美学入門 a	講義	2	
民俗芸能入門 a	講義	2	
卒論ゼミ a	演習	1	
卒論ゼミ b	演習	1	
卒業論文		6	
選択科目			
日本美術史入門 b	講義	2	
日本近代美術史入門 b	講義	2	
中国美術史入門 b	講義	2	
仏教美術史入門 b	講義	2	
西洋美術史入門 b	講義	2	
西洋近代美術史入門 b	講義	2	
美学入門 b	講義	2	
民俗芸能入門 b	講義	2	
入門演習	演習	2	
基礎演習	演習	2	
日本美術史特講 a	講義	2	
日本美術史特講 b	講義	2	
日本美術史特講 c	講義	2	
日本美術史特講 d	講義	2	
日本近代美術史特講 a	講義	2	
日本近代美術史特講 b	講義	2	
日本近代美術史特講 c	講義	2	
日本近代美術史特講 d	講義	2	
中国美術史特講 a	講義	2	
中国美術史特講 b	講義	2	
中国美術史特講 c	講義	2	
中国美術史特講 d	講義	2	
仏教美術史特講 a	講義	2	
仏教美術史特講 b	講義	2	
仏教美術史特講 c	講義	2	
仏教美術史特講 d	講義	2	
西洋美術史特講 a	講義	2	
西洋美術史特講 b	講義	2	
西洋美術史特講 c	講義	2	
西洋美術史特講 d	講義	2	
西洋近代美術史特講 a	講義	2	
西洋近代美術史特講 b	講義	2	
西洋近代美術史特講 c	講義	2	
西洋近代美術史特講 d	講義	2	
美学特講 a	講義	2	
美学特講 b	講義	2	
美学特講 c	講義	2	
美学特講 d	講義	2	
民俗芸能特講 a	講義	2	
民俗芸能特講 b	講義	2	
民俗芸能特講 c	講義	2	
民俗芸能特講 d	講義	2	
日本の美術 a	講義	2	
日本の美術 b	講義	2	
日本の美術 c	講義	2	
日本の美術 d	講義	2	
東洋の美術 a	講義	2	
東洋の美術 b	講義	2	
東洋の美術 c	講義	2	
東洋の美術 d	講義	2	
西洋の美術 a	講義	2	
西洋の美術 b	講義	2	
西洋の美術 c	講義	2	
西洋の美術 d	講義	2	
美術と社会 a	講義	2	
美術と社会 b	講義	2	
美術と社会 c	講義	2	
美術と社会 d	講義	2	
民俗学	講義	2	
デザイン史	講義	2	
デザイン論	講義	2	
メディア芸術論	講義	2	

現代美術論	講義	2	
世界の美術 a	講義	2	
世界の美術 b	講義	2	
アートマネジメント論	講義	2	
アートコミュニケーション論	講義	2	
グローバル・アートスタディズ a	演習	2	
グローバル・アートスタディズ b	演習	2	
グローバル・アートスタディズ c	演習	2	
グローバル・アートスタディズ d	演習	2	
グローバル・アートスタディズ e	演習	2	
グローバル・アートスタディズ f	演習	2	
美術史実地研究 a	実習	1	
美術史実地研究 b	実習	1	
美術史実地研究 c	実習	1	
日本美術史演習 a	演習	2	
日本美術史演習 b	演習	2	
日本近代美術史演習 a	演習	2	
日本近代美術史演習 b	演習	2	
中国美術史演習 a	演習	2	
中国美術史演習 b	演習	2	
仏教美術史演習 a	演習	2	
仏教美術史演習 b	演習	2	
西洋美術史演習 a	演習	2	
西洋美術史演習 b	演習	2	

西洋近代美術史演習 a	演習	2	
西洋近代美術史演習 b	演習	2	
美学演習 a	演習	2	
美学演習 b	演習	2	
民俗芸能演習 a	演習	2	
民族芸能演習 b	演習	2	
絵画入門 a	実習	1	
絵画入門 b	実習	1	
絵画実習 a	実習	2	
絵画実習 b	実習	2	
絵画実習 c	実習	2	
絵画実習 d	実習	2	
絵画実習 e	実習	2	
デザイン入門 a	実習	1	
デザイン入門 b	実習	1	
デザイン実習 a	実習	2	
デザイン実習 b	実習	2	
デザイン実習 c	実習	2	
デザイン実習 d	実習	2	
工芸実習 a	実習	2	
工芸実習 b	実習	2	
彫刻実習 a	実習	2	
彫刻実習 b	実習	2	

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 食生活科学科管理栄養士専攻

規則等規定科目	授業科目	授業形態	単位数		備考	
			必修	選択		
専門基礎分野	社会・環境と健康	公衆衛生学 a	講義	2		** a
		公衆衛生学 b	講義	2		** a
		健康管理論	講義	2		** a
		栄養疫学実習	実習	1		
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	解剖生理学 a	講義	2		** b
		解剖生理学 b	講義	2		** b
		栄養生理学 (運動生理学を含む)	講義	2		
		生化学 a	講義	2		** b
		生化学 b	講義	2		** b
		臨床医学概論	講義	2		
		感染と防御	講義	2		
		解剖生理学実験	実験	1		** b
	生化学実験	実験	1		** b	
	食べ物と健康	食品学 a	講義	2		** c
		食品学 b	講義	2		** c
		調理学	講義	2		** f
		食品機能論	講義	2		** c
		食品加工学 a	講義	2		** c
		食品衛生学 a	講義	2		** c
		食品学実験 a	実験	1		
食品衛生学実験		実験	1		** c	
食品加工学実習		実習	1		** c	
調理学実験		実験	1		** f	
基礎調理 1		実習	1		** f	
基礎調理 2		実習	1			
専門分野	基礎栄養学	基礎栄養学	講義	2		** d
		基礎栄養学実習	実習	1		
	応用栄養学	栄養マネジメント論	講義	2		
		ライフステージ栄養学 a	講義	2		** d
		ライフステージ栄養学 b	講義	2		** d
		栄養マネジメント実習	実習	1		** e
		ライフステージ栄養学実習	実習	1		** e
	栄養教育論	栄養教育総論	講義	2		
		栄養教育各論 a	講義	2		** e
		栄養教育各論 b	講義	2		** e
		栄養教育論実習 a	実習	1		** e
栄養教育論実習 b		実習	1		** e	
臨床栄養学	臨床栄養学 a	講義	2		** d	

		臨床栄養学 b	講義	2		** d	
		臨床栄養管理学総論	講義	2			
		臨床栄養管理学各論	講義	2			
		臨床栄養学実習 a	実習	1		** d	
		臨床栄養管理実習	実習	1		** d	
	公衆栄養学	公衆栄養学 a	講義	2		** e	
		公衆栄養学 b	講義	2		** e	
		公衆栄養学実習 a	実習	1		** e	
	給食経営管理論	給食経営管理 a	講義	2		** f	
		給食経営管理 b	講義	2		** f	
		給食マネジメント実習	実習	2		** f	
	総合演習 (管理栄養士国家 試験受験資格 4単位必修)	総合演習 a	演習	1			
		総合演習 b	演習	1			
		総合演習 c	演習		1		
		総合演習 d	演習		1		
	臨地実習	校外給食実習	臨地実習	1		** f	
		臨床栄養学実習 b	臨地実習	2		** d	
	(選択必修1単位) 専門分野	臨地実習 (1単位必修)	臨床栄養学実習 c	臨地実習		1	* d
			公衆栄養学実習 b	臨地実習		1	* e
		食べ物と健康 (1単位必修)	調理学実習 a	実習		1	
調理学実習 b	実習			1			
その他の科目 (選択科目)	微生物学	講義		2			
	バイオテクノロジー概論	講義		2			
	基礎化学	講義		2			
	食品学実験 b	実験		1			
	食品分析学	講義		2			
	食品加工学 b	講義		2			
	毒性学	講義		2			
	食品衛生学 b	講義		2			
	調理学特別講義	講義		2			
	食事摂取基準論	講義		2			
	食事計画演習	演習		1			
	社会福祉概論	講義		2			
	スポーツ栄養学 a	講義		2			
	スポーツ栄養学 b	講義		2			
	特別講義 a	演習		1			
	特別講義 b	演習		1			
	特別講義 c	演習		1			
	特別講義 d	演習		1			
	特別講義 e	演習		1			
	卒業論文				6		

- ※1 管理栄養士専攻の学級数（1学級50人以下）は2学級とする。
- ※2 栄養士資格取得に必要な単位
 - ※印：「栄養士養成課程」必修科目66単位
 - ※印：「栄養士養成課程」選択必修科目1単位以上
 - a～fは栄養士法施行規則に定める教育内容
 - a：社会生活と健康
 - b：人体の構造と機能
 - c：食品と衛生
 - d：栄養と健康
 - e：栄養の指導
 - f：給食の運営

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 食生活科学科食物科学専攻

必修科目							
授業科目	授業形態	単位数	備考				
食生活論	講義	2		西洋料理実習	実習	1	
フードスペシャリスト論	講義	2		社会・環境と健康	講義	2	
フードコーディネーター論	講義	2		微生物学	講義	2	
フードシステム総論	講義	2		食品衛生学実験	実験	1	
基礎栄養学	講義	2		食品安全学	講義	2	
食品学 a	講義	2		食商学	講義	2	
食品学 b	講義	2		プレゼンテーション演習	演習	1	
食品加工学 a	講義	2		フードシステム各論	講義	2	
食品加工学 b	講義	2		品質管理統計演習	演習	1	
調理科学	講義	2		食品開発論	講義	2	
調理学実験 a	実験	1		フードマーケティング論	講義	2	
食品衛生学 a	講義	2		マーケティング演習	演習	1	
食品衛生学 b	講義	2		フードビジネス研究	講義	2	
卒業論文		6		食産業演習	演習	2	
選択科目				栄養生理解論	講義	2	
基礎化学	講義	2		栄養と健康	講義	2	
生化学	講義	2		疾患・老化と栄養・食品	講義	2	
理化学実験	実験	1		スポーツと健康科学 a	講義	2	
バイオサイエンス入門	講義	2		スポーツと健康科学 b	講義	2	
食品機能論	講義	2		スポーツ医科学実習	実習	1	
食品分析学	講義	2		健康づくり運動実習 a	実習	1	
食品学実験	実験	1		健康づくり運動実習 b	実習	1	
食品分析学実験	実験	1		健康づくり運動実習 c	実習	1	
機器分析実験	実験	1		健康づくり運動実習 d	実習	1	
食品加工学実習	実習	1		学校健康教育論	講義	2	
日本の食文化	講義	2		家庭経営学	講義	2	
テーブルマネジメント演習	演習	1		家族関係論	講義	2	
食品鑑別論	講義	2		生活学原論	講義	2	
調理学実験 b	実験	1		衣料学	講義	2	
食品物性論	講義	2		衣料学演習	演習	2	
基礎調理 1	実習	1		被服製作実習 a	実習	2	
基礎調理 2	実習	1		被服製作実習 b	実習	2	
中国料理実習	実習	1		被服製作実習 c	実習	2	
日本料理実習	実習	1		調理学及び実習	実習	2	
				家庭工学	講義	2	
				住居学	講義	2	
				商業空間デザイン	講義	2	
				保育学	講義	2	
				育児学	講義	2	

看	護	学	講義	2	
---	---	---	----	---	--

社	会	福	祉	概	論	講義	2	
---	---	---	---	---	---	----	---	--

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 食生活科学科健康栄養専攻

規則等規定科目	授業科目	授業形態	単位数		備考	
			必修	選択		
専門科目	社会生活と健康	公衆衛生学 a	講義	2		**
		社会と福祉	講義	2		**
	人体の構造と機能	解剖生理学 a	講義	2		**
		人体の構造と疾病	講義	2		**
		生化学 a	講義	2		**
		生化学 b	講義	2		**
		解剖生理学実験	実験	1		**
		栄養生化学実験	実験	1		**
	食品と衛生	食品学 a	講義	2		**
		食品学 b	講義	2		**
		食品学実験 a	実験	1		**
		食品衛生学 a	講義	2		**
		食品衛生学実験	実験	1		**
	栄養と健康	基礎栄養学	講義	2		**
		食事摂取基準論	講義	2		**
		ライフステージ栄養学 a	講義	2		**
		ライフステージ栄養学 b	講義	2		**
		ライフステージ栄養学実習	実習	1		**
		臨床栄養学 a	講義	2		**
		臨床栄養学 b	講義	2		**
		臨床栄養学実習 a	実習	1		**
	臨床栄養学実習 b	実習	1		**	
	栄養の指導	栄養指導論 a	講義	2		**
		栄養指導論 b	講義	2		**
		公衆栄養学 a	講義	2		**
		栄養指導実習 a	実習	1		**
		栄養指導実習 b	実習	1		**
	給食の運営	調理学	講義	2		**
		給食計画論	講義	2		**
		給食実務論	講義	2		**
		基礎調理	実習	2		**
		給食実務学内実習	実習	2		**
		給食実務校外実習 a	実習		2	*
給食実務校外実習 b		実習		3	*	
健康栄養科目	食計画群	献立学	講義	2		
		給食計画演習	演習	1		
		応用調理	実習	2		
	食育群	食文化と食育	講義		2	
		ライフステージと食育	講義		2	
		食育と調理	実習		1	
		食のリスク管理	講義		2	

	健康支援群	スポーツと健康科学 a	講義		2	
		スポーツと健康科学 b	講義		2	
		スポーツ栄養学 a	講義		2	
		スポーツ栄養学 b	講義		2	
		スポーツ医科学実習	実習		1	
		健康づくり運動実習 a	実習		1	
		健康づくり運動実習 b	実習		1	
		健康づくり運動実習 c	実習		1	
		健康づくり運動実習 d	実習		1	
	レベルアップ群	解剖生理学 b	講義		2	
		食品機能論	講義		2	
		臨床栄養管理学	講義		2	
		公衆栄養学 b	講義		2	
		総合演習	演習		2	
	関連科目	微生物学	講義		2	
		バイオテクノロジー概論	講義		2	
		基礎化学	講義		2	
		分子生物学	講義		2	
理化学実験		実験		1		
食品加工学 a		講義		2		
食品加工学 b		講義		2		
食品加工学実習		実習		1		
食品衛生学 b		講義		2		
毒性学		講義		2		
栄養生理学		講義		2		
卒業論文				6		

※1 栄養士資格取得に必要な単位

※※印：「栄養士養成課程」必修科目 55 単位

*印：「栄養士養成課程」選択必修科目 2 単位もしくは 3 単位

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 生活環境学科

必 修 科 目			
授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	備 考
生 活 環 境 学 演 習	演習	2	
生 活 環 境 学 セ ミ ナ ー	演習	2	
卒 業 研 究		6	
選 択 科 目			
生 活 環 境 基 礎 a	演習	2	
生 活 環 境 基 礎 b	演習	2	
生 活 環 境 基 礎 c	演習	2	
デ ザ イン 基 礎 演 習 a	演習	2	
デ ザ イン 基 礎 演 習 b	演習	2	
デ ザ イン 基 礎 演 習 c	演習	2	
デ ザ イン 基 礎 演 習 d	演習	2	
色 彩 学	講義	2	
色 彩 設 計 演 習 a	演習	2	
色 彩 設 計 演 習 b	演習	2	
生 理 学	講義	2	
統 計 の 基 礎	講義	2	
統 計 の 応 用	講義	2	
生 活 環 境 科 学	講義	2	
デ ザ イン 史	講義	2	
消 費 生 活 学	講義	2	
マ ー ケ テ ィ ン グ 論	講義	2	
消 費 科 学	講義	2	
情 報 環 境 論	講義	2	
情 報 通 信 ネットワーク概論	講義	2	
情 報 と 職 業	講義	2	
コンピュータとプログラミング演習	演習	2	
I C T 基 礎 演 習	演習	2	
織 維 高 分 子 材 料 学	講義	2	
織 維 高 分 子 材 料 実 験	実験	2	
テ キ ス タ イ ル 材 料 学	講義	2	
テ キ ス タ イ ル 材 料 実 験	実験	2	
機 能 材 料 学	講義	2	
テ キ ス タ イ ル 管 理 学	講義	2	
テ キ ス タ イ ル 管 理 実 験	実験	2	
染 色 加 工 学	講義	2	

被 服 衛 生 学	講義	2	
アパレルデザイン基礎実験	実験	2	
アパレルデザイン基礎	講義	2	
アパレル生産	講義	2	
パターン設計論	講義	2	
アパレルデザイン実習 a	実習	2	
アパレルデザイン実習 b	実習	2	
アパレル CAD	演習	1	
アパレルデザイン総合実習	実習	2	
伝統衣服実習	実習	2	
ファッションデザイン論	講義	2	
ファッショングラフィック演習	演習	1	
ファッションビジネスの世界	講義	2	
ファッション文化論	講義	2	
ファッション企画論	講義	2	
ファッションビジネス論	講義	2	
ファッションビジネス演習	演習	2	
衣料管理実習	実習	1	
プロダクトデザイン論	講義	2	
プロダクトデザイン演習	演習	2	
基礎造形論	講義	2	
基礎造形演習	演習	2	
プロダクトアメニティ演習	演習	2	
情報アメニティ論	講義	2	
ユニバーサルデザイン論	講義	2	
工業デザイン概論	講義	2	
生活機器設計演習	演習	2	
マルチメディアデザイン演習	演習	2	
感性と生活情報システム	講義	2	
人間工学	講義	2	
人間工学実験	実験	2	
生活気候学	講義	2	
生理人類学	講義	2	
生理人類学実験	実験	2	
生活材料学	講義	2	
インテリアデザイン論	講義	2	
インテリアデザイン演習	演習	2	
インテリアグラフィック演習	演習	1	
インテリアコーディネート論	講義	2	
インテリアコーディネート演習	演習	2	
建築概論	講義	2	

住居学	講義	2	
住居デザイン論	講義	2	
住環境デザイン論	講義	2	
建築デザイン論	講義	2	
生活空間計画	講義	2	
設計製図基礎	演習	2	
建築・インテリアCAD	演習	1	
生活空間設計製図1	演習	2	
生活空間設計製図2	演習	2	
生活空間設計製図3	演習	2	
建築構造	講義	2	
建築施工	講義	2	
建築・インテリア構法	講義	2	
材料力学	講義	2	
住環境・設備学	講義	2	
福祉住環境論	講義	2	
環境心理学	講義	2	
建築法規	講義	2	
デザインワークショップ	演習	2	
調理学及び実習	実習	2	
栄養学	講義	2	
食物学	講義	2	
衣料学	講義	2	
衣料学演習	演習	2	
被服製作実習a	実習	2	
被服製作実習b	実習	2	
被服製作実習c	実習	2	
生活学原論	講義	2	
生活経営論	講義	2	
家族関係論	講義	2	
保育学	講義	2	
育児学	講義	2	
看護学	講義	2	
家庭工学	講義	2	

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 生活文化学科生活心理専攻

区分	授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数		備 考	
			必 修	選 択		
基本 目 科 群	学 科 基 本 科 目	生 活 文 化 概 論	講義	2		
		生 活 文 化 史 1	講義	2		
		生 活 文 化 史 2	講義	2		
		基 礎 演 習 1 (言語表現とコミュニケーション)	演習	1		
		基 礎 演 習 2 (科学的思考法とコミュニケーション)	演習	1		
		ゼ ミ ナ ー ル (論理的判断とコミュニケーション)	演習	2		
		卒 業 論 文	演習	6		
		生 活 の 科 学	講義	2		
		生 涯 発 達 心 理 学 a	講義	2		
		生 涯 発 達 心 理 学 b	講義	2		
		家 庭 教 育 論	講義	2		
	専 攻 基 本 科 目	生 活 心 理 フ ィ ー ル ド ワ ー ク 1	演習	1		
		生 活 心 理 フ ィ ー ル ド ワ ー ク 2	演習	2		
		生 活 心 理 概 論	講義	2		
		生 活 心 理 演 習 (大 学 か ら 社 会 へ)	演習		1	
		心 理 実 習	演習 実習		2	
		生 活 心 理 研 究 計 画 法	演習		1	
		心 理 演 習	演習		2	
	基 盤 領 域 群	生 活 と 社 会	生 活 経 済 論	講義	2	
			生 活 経 済 論 演 習	演習		1
			関 係 行 政 論	講義		2
家 庭 生 活 と 政 治 経 済			講義		2	
消 費 者 安 全 論			講義		2	
消 費 者 安 全 論 演 習			演習		1	
少 子 高 齢 化 社 会 と 生 活			講義		2	
男 女 共 同 参 画 社 会 と 生 活			講義		2	
社 会 心 理 学 1 (社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学 a)			講義	2		
社 会 心 理 学 2			講義		2	
社 会 心 理 学 調 査 実 習			実習		2	
キ ャ リ ア 心 理 学 (産 業 ・ 組 織 心 理 学)			講義		2	
コ ミ ュ ニ テ イ 心 理 学			講義		2	
福 祉 心 理 学		講義		2		
司 法 ・ 犯 罪 心 理 学		講義		2		
家 族 と	家 族 関 係 論	講義	2			
	生 涯 発 達 心 理 学 演 習 a	演習		1		
	生 涯 発 達 心 理 学 演 習 b	演習		1		

社会	家族と生涯発達総論	講義	2			
	家族と生涯発達各論 a (乳幼児・児童期)	講義		2		
	家族と生涯発達各論 b (青年・成人・高齢期)	講義		2		
	家族社会学	講義		2		
	家族心理学 (社会・集団・家族心理学 b)	講義		2		
	家族心理学演習	演習		1		
	家族臨床心理学 1	講義		2		
	家族臨床心理学 2	講義		2		
	心身の健康	人体の構造と機能及び疾病	講義	2		
		脳と心 (神経・生理心理学)	講義		2	
		健康科学概論	講義	2		
		健康科学論 a (女性の体と心)	講義		2	
		健康科学論 b (健康と現代医療)	講義		2	
		医学概論	講義		2	
		健康・医療心理学	講義		2	
		臨床心理学 1 (臨床心理学概論)	講義	2		
		臨床心理学 2 (心理学的支援法)	講義		2	
		臨床発達心理学 1	講義		2	
臨床発達心理学 2		講義		2		
精神疾患とその治療		講義		2		
生活心理特論 (障害者・障害児心理学)		講義		2		
探求領域群		人と生活	生活デザイン入門	演習		2
	家庭経営論 1		講義	2		
	家庭経営論 2		講義	2		
	衣料学		講義		2	
	衣料学演習		演習		2	
	被服製作実習 a		実習		2	
	被服製作実習 b		実習		2	
	被服製作実習 c		実習		2	
	栄養学		講義		2	
	食物学		講義		2	
	調理学及び実習		実習		2	
	住居学		講義		2	
	保育学		講義		2	
	育児学		講義		2	
	看護学	講義		2		
	家庭工学	講義		2		
	保育・教育	教育学概論	講義		2	
		社会福祉	講義		2	
子ども理解とカウンセリング		講義		2		
方法基	心理	心理学概論 1	講義	2		
		心理学概論 2	講義	2		
		心理学演習 1	演習	1		

基礎領域	心理学演習 2	演習		1	
	心理学研究法入門 1 (心理学研究法)	演習	2		
	心理学研究法入門 2 (心理学統計法)	演習		2	
	心理調査法 1	演習		1	
	心理調査法 2	演習		1	
	心理検査法 1 (心理的アセスメント a)	演習		1	
	心理検査法 2 (心理的アセスメント b)	演習		1	
	心理学実験 1	演習		2	
	心理学実験 2	演習		2	
	知覚・認知心理学 a	講義	2		
	知覚・認知心理学 b	講義		2	
	学習・言語心理学	講義		2	
	感情・人格心理学	講義		2	
	教育・学校心理学	講義		2	
	発達心理学	講義		2	
	公認心理師の職責	講義		2	

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 生活文化学科幼児保育専攻

区分	授 業 科 目	授業 形態	単位数		備考	
			必修	選択		
基本 科目 群	学 科 基 本 科 目	生 活 文 化 概 論	講義	2		
		生 活 文 化 史 1	講義	2		
		生 活 文 化 史 2	講義	2		
		基 礎 演 習 1 (言語表現とコミュニケーション)	演習	1		
		基 礎 演 習 2 (科学的思考法とコミュニケーション)	演習	1		
		ゼ ミ ナ ー ル (論理的判断とコミュニケーション)	演習	2		
		卒 業 論 文	演習	6		
		生 活 の 科 学	講義	2		
		生 涯 発 達 心 理 学 a	講義	2	**	
		生 涯 発 達 心 理 学 b	講義	2	**	
		家 庭 教 育 論	講義	2	*	
	専 攻 基 本 科 目	保 育 原 理 1	講義	2	**	
		保 育 原 理 2	講義		2	*
		教 育 学 概 論	講義	2	**	
		子 ども の 保 健	講義	2	**	
		子 ども の 健 康 と 安 全	演習		1	**
		子 ども 家 庭 福 祉	講義	2	**	
		保 育 ・ 教 育 指 導 の 基 礎	演習	2		
	保 育 領 域	保 育 学 演 習	演習		1	*
		保 育 者 論	講義		2	**
社 会 福 祉		講義		2	**	
子 ども 家 庭 支 援 の 心 理 学		講義		2	**	
社 会 的 養 護 1		講義		2	**	
生 涯 発 達 心 理 学 演 習 a		演習		1	*	
生 涯 発 達 心 理 学 演 習 b		演習		1		
子 ども 理 解 と カ ウ ン セ リ ン グ		講義		2	*	
子 ども の 食 と 栄 養		演習		2	**	
子 ども 家 庭 支 援 論		講義		2	**	
保 育 内 容 総 論		演習		1	**	
保 育 内 容 指 導 法 (健 康)		演習		1	**	
保 育 内 容 指 導 法 (人 間 関 係)		演習		1	**	
保 育 内 容 指 導 法 (環 境)		演習		1	**	
保 育 内 容 指 導 法 (言 葉)		演習		1	**	
保 育 内 容 指 導 法 (表 現)		演習		1	**	
乳 児 保 育 1		講義		2	**	
乳 児 保 育 2		演習		1	**	

	特別な配慮を要する子どもの理解と支援 a	演習		1	**
	特別な配慮を要する子どもの理解と支援 b	演習		1	**
	社会的養護 2	演習		1	**
	子育て支援	演習		1	**
	子どもの理解と援助	演習		1	**
	保育活動の実際 a	演習		1	**
	保育活動の実際 b	演習		1	**
	保育活動の実際 c	演習		1	**
	保育活動の実際 d	演習		1	**
教育領域	教育学演習	演習		1	
	教職論	講義		2	
	教育思想史	講義		2	*
	教育・学校心理学	講義		2	*
	教育制度論	講義		2	*
	国語	講義		2	
	社会	講義		2	
	算数	講義		2	
	理科	講義		2	
	生活	講義		2	
	音楽	講義		2	
	図画工作	講義		2	
	家庭	講義		2	
	体育	講義		2	
	カリキュラム論	講義		2	
	保育カリキュラム論	講義		2	**
	幼児教育法	演習		1	
	児童教育法	演習		2	
	初等教科教育法（国語）	講義		2	
	初等教科教育法（社会）	講義		2	
	初等教科教育法（算数）	講義		2	
	初等教科教育法（理科）	講義		2	
	初等教科教育法（生活）	講義		2	
	初等教科教育法（音楽）	講義		2	
	初等教科教育法（図画工作）	講義		2	
	初等教科教育法（家庭）	講義		2	
	初等教科教育法（体育）	講義		2	
	初等教科教育法（英語）	講義		2	
	道徳の指導法	講義		2	
	特別活動の指導法	講義		2	
	総合的な学習の時間の指導法	講義		2	
	教育方法・技術（ICT活用含む）	講義		2	
	生徒・進路指導論	講義		2	
子どもと英語	講義		2	*	

	子どもと健康	講義		2	
	子どもと人間関係	講義		2	
	子どもと環境	講義		2	
	子どもと言葉	講義		2	
	子どもと表現	講義		2	
実習・実践演習領域	保育実習指導 1	演習		2	**
	保育実習 1 a (保育所)	実習		2	**
	保育実習 1 b (児童福祉施設)	実習		2	**
	保育実習指導 2	演習		1	**
	保育実習 2 a (保育所)	実習		2	*
	保育実習 2 b (児童福祉施設)	実習		2	*
	教育実習指導 (幼稚園)	演習		1	
	教育実習 a (幼稚園)	実習		4	
	教育実習 b (幼稚園)	実習		2	
	教育実習指導 (小学校)	演習		2	
	教育実習 (小学校)	実習		4	
	保育・教職実践演習 (幼稚園)	演習		2	**
教職実践演習 (幼・小)	演習		2		
生活心理領域	健康科学論 a (女性の体と心)	講義		2	
	臨床心理学 1 (臨床心理学概論)	講義		2	
	家庭経営論 1	講義		2	

**印:「保育士養成課程」必修科目 54単位

*印:「保育士養成課程」選択必修科目 9単位以上

別表第4

第15条別表第4 生活科学部専門科目 現代生活学科

必修科目			
授業科目	授業形態	単位数	備考
ビジネスプランニング	演習	2	
現代生活学	講義	2	
ゼミナール	演習	4	
ファイナルプロジェクト	演習	4	
コミュニティ概論	講義	2	
環境科学概論	講義	2	
メディア社会概論	講義	2	
グレートブックスセミナー1	演習	2	
ライフ・プランニング	講義	2	
ビジネス・スキル a	演習	2	
ビジネス・スキル b	演習	2	
企業研究 a	演習	2	
企業研究 b	演習	2	
選択科目			
プロジェクト基礎演習 a	演習	2	
プロジェクト基礎演習 b	演習	2	
プロジェクト基礎演習 c	演習	2	
プロジェクト基礎演習 d	演習	2	
プロジェクト実践演習 a	演習	2	
プロジェクト実践演習 b	演習	2	
家庭経営 a (食生活)	講義	2	
家庭経営 b (衣環境)	講義	2	
家庭経営 c (育児・介護)	講義	2	
基礎メディア技術	講義	2	
フィールドリサーチ a	演習	2	
フィールドリサーチ b	演習	2	
フィールドリサーチ c	演習	2	
統計とモデリング	講義	2	
現代社会を読み解く a (政治と経済)	講義	2	
現代社会を読み解く b (生活と産業)	講義	2	
現代社会を読み解く c (文化と市場)	講義	2	
現代社会を読み解く d (科学技術と社会)	講義	2	
グレートブックスセミナー2 a	演習	2	
グレートブックスセミナー2 b	演習	2	
地域文化形成論	講義	2	

コミュニティ経済演習	演習	2	
自立生活論 a (健康)	講義	2	
自立生活論 b (消費者)	講義	2	
自立生活論 c (安全と保障)	講義	2	
少子高齢化社会	講義	2	
グローバル社会	講義	2	
地域エネルギー論	講義	2	
地域エネルギー論演習	演習	2	
地域食料論	講義	2	
地域食料論演習	演習	2	
生活産業創出論	講義	2	
環境マーケティング論 a	講義	2	
環境マーケティング論 b	講義	2	
環境マーケティング論演習 a	演習	2	
環境マーケティング論演習 b	演習	2	
エコビジネス演習	演習	2	
環境の化学と工学	講義	2	
環境化学演習	演習	2	
環境マネジメント論	講義	2	
環境経済学	講義	2	
環境思想 a	講義	2	
環境思想 b	講義	2	
環境思想演習	演習	2	
ビジネス特論 a (環境ビジネス)	講義	2	
ビジネス特論 b (地域ビジネス)	講義	2	
ビジネス特論 c (起業論)	講義	2	
生活産業史	講義	2	
社会責任論	講義	2	
女性社会論 a	講義	2	
女性社会論 b	講義	2	
メディアコミュニケーション a	講義	2	
メディアコミュニケーション b	講義	2	
メディアアート論 a	講義	2	
メディアアート論 b	講義	2	
応用メディア技術	演習	2	
映像制作演習 a	演習	2	
映像制作演習 b	演習	2	
Webテクノロジー演習	演習	2	
プログラミング演習 1	演習	2	
プログラミング演習 2	演習	2	
メディア経営論	講義	2	

メディア経営論演習	演習	2	
メディアプロデュース論	講義	2	
メディアプロデュース論演習	演習	2	
情報セキュリティ社会	講義	2	
広告とメディア	講義	2	
ビジネス・マナー	演習	2	
家庭経営論	講義	2	
家族関係論	講義	2	
衣料学	講義	2	
衣料学演習	演習	2	
被服製作実習 a	実習	2	
被服製作実習 b	実習	2	
被服製作実習 c	実習	2	
栄養学	講義	2	
食物学	講義	2	
調理学及び実習	実習	2	
住居学	講義	2	
看護学	講義	2	
育児学	講義	2	
保育学	講義	2	
家庭工学	講義	2	

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目 人間社会学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
演習科目	演 習 I	演習	2		
	演 習 II A	演習	2		
	演 習 II B	演習	2		
	演 習 III A	演習	2		
	演 習 III B	演習	2		
	演 習 IV A	演習	2		
	演 習 IV B	演習	2		
	卒 業 研 究			4	
基礎科目	人 間 社 会 学 総 論	講義	2		
	心 理 学 概 論	講義	2		
	社 会 学 概 論	講義	2		
	経 済 学 概 論	講義	2		
	経 営 学 概 論	講義	2		
	法 律 学	講義	2		
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 概 論	講義	2		
	社 会 と 統 計	講義	2		
	ソ ー シ ョ ル ・ デ ザ イン ・ プ ロ ジ ェ ク ト A	演習		2	
	リ ー ダ ー シ ョ ン 開 発 A	演習		2	
	社 会 調 査 概 論	講義		2	
	社 会 調 査 方 法 論	講義		2	
	社 会 の 基 礎 数 学	講義		2	
	人 間 教 育 学 概 論	講義		2	
	ジ ェ ン ダ ー 論	講義		2	
	キ ャ リ ア ・ マ ネ ジ メ ン ト 論	講義		2	
	簿 記 論 I	講義		2	
	簿 記 論 II	講義		2	
地 理 学 概 論	講義		2		
基幹科目	女 性 と 労 働	講義		2	
	ダ イ バ ー シ テ ィ 論	講義		2	
	調 査 ・ 実 験 デ ー タ 処 理 法	講義		2	
	デ ー タ ベ ー ス 基 礎	講義		2	
	異 文 化 理 解	講義		2	
	文 化 人 類 学	講義		2	
	社 会 言 語 学	講義		2	
	メ デ ィ ア 社 会 論	講義		2	
	現 代 教 育 論	講義		2	
	応 用 経 済 学	講義		2	
	会 計 学 総 論 I	講義		2	

展開・応用科目	キャリア・デザイン論	演習	2	
	民法概論	講義	2	
	商法概論	講義	2	
	労働法	講義	2	
	国際関係概論	講義	2	
	行動科学	講義	2	
	発達心理学	講義	2	
	臨床心理学概論	講義	2	
	社会・集団・家族心理学	講義	2	
	人体の構造と機能及び疾病	講義	2	
	ソーシャル・デザイン・プロジェクトB	演習	2	
	リーダーシップ開発B	演習	2	
	特別講義A	講義	2	
	特別講義B	講義	2	
	家族社会学	講義	2	
	地域社会学	講義	2	
	福祉社会学	講義	2	
	ワーク・ライフ・バランス論	演習	2	
	社会政策論	講義	2	
	ジェンダーの人類学	講義	2	
	フィールドワーク論	演習	2	
	社会科学データ分析	講義	2	
	社会調査実習Ⅰ	演習	2	
	社会調査実習Ⅱ	演習	2	
	企業戦略論	講義	2	
	現代企業論	演習	2	
	経営組織論	講義	2	
	会社法	講義	2	
	現代日本経済論	講義	2	
	金融論	講義	2	
	保険論	講義	2	
	国際経済論	講義	2	
	国際政治論	講義	2	
	家族法	演習	2	
	マーケティング論	講義	2	
心理学実験Ⅰ	演習	2		
心理学実験Ⅱ	演習	2		
心理学的支援法	講義	2		
教育・学校心理学	講義	2		
知覚・認知心理学	講義	2		
司法・犯罪心理学	講義	2		

	応用心理学	講義		2	
	心理学統計法	講義		2	
	人間形成論	講義		2	
	心理学研究法	演習		2	
	学習・言語心理学	講義		2	
	健康・医療心理学	講義		2	
	感情・人格心理学	講義		2	
	心理演習	演習		2	
	神経・生理心理学	講義		2	
	産業・組織心理学	講義		2	
	教育社会学	講義		2	
	福祉心理学	講義		2	
	障害者・障害児心理学	講義		2	
	心理的アセスメント	講義		2	
	メディア・ワークショップ	演習		2	
	メディア・コミュニケーション論	講義		2	
	メディア文化論	演習		2	
	メディア心理学	講義		2	
	言語コミュニケーター開発支援論	講義		2	
	情報セキュリティ	演習		2	
	アジア文化論	講義		2	
	多文化社会論	講義		2	
	広告・PR論	演習		2	
	社会ネットワーク論	講義		2	
	マスメディア論	講義		2	
	メディア表現	講義		2	
	リーダーシップ論	講義		2	
	コーチング論	演習		2	
	メディア情報リテラシー	講義		2	
	ホスピタリティ論	講義		2	
	社会文化事業論	演習		2	
コミュニケーション系科目	英語コミュニケーションⅠ	演習	2		
	英語コミュニケーションⅡA	演習	2		
	英語コミュニケーションⅡB	演習	2		
	日本語コミュニケーション基礎	講義		2	
	日本語コミュニケーション実践	講義		2	
専門資格科目	公認心理師の職責	講義		2	
	関係行政論	講義		2	
	心理実習	演習		4	
	精神疾患とその治療	講義		2	
	言語コミュニケーター開発支援実習	演習		1	

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目 ビジネス社会学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
演習科目	演 習 I	演習	2		
	演 習 II a	演習	2		
	演 習 II b	演習	2		
	演 習 III a	演習	2		
	演 習 III b	演習	2		
	演 習 IV a	演習	2		
	演 習 IV b	演習	2		
	卒 業 研 究	演習	4		
基礎科目	人 間 社 会 学 入 門	講義	2		
	心 理 学 概 論	講義	2		
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 概 論	講義	2		
	教 育 学 概 論	講義		2	
	発 達 心 理 学	講義		2	
	異 文 化 理 解	講義		2	
	文 化 人 類 学	講義		2	
	社 会 学 概 論	講義	2		
	法 律 学 概 論	講義	2		
	ジ ェ ン ダ ー 論	講義		2	
	地 理 学 概 論	講義		2	
	女 性 と 労 働	講義		2	
	メ デ ィ ア 社 会 論	講義		2	
	国 際 関 係 概 論	講義		2	
	経 済 学 概 論	講義	2		
	経 営 学 概 論	講義	2		
	簿 記 論 I	講義		2	
	簿 記 論 II	講義		2	
	民 法 概 論	講義		2	
	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	講義		2	
	商 法 概 論	講義		2	
	キ ャ リ ア ・ マ ネ ジ メ ン ト 論	講義		2	
	キ ャ リ ア ・ デ ザ イン 論	演習		2	
	実 践 デ ザ イン ラ ボ I	演習		2	
	ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 論	講義		2	
	ア ン ト レ プ レ ナ ー シ ッ プ 演 習	演習		2	
	リ ー ダ ー シ ッ プ 開 発 a	演習		2	
	リ ー ダ ー シ ッ プ 開 発 b	演習		2	
社 会 と 統 計	講義	2			
社 会 調 査 概 論	講義		2		
社 会 調 査 方 法 論	講義		2		

	社会の基礎数学	講義		2	
	調査・実験データ処理法	講義		2	
	プログラミング基礎	講義		2	
	データベース基礎	講義		2	
	英語コミュニケーションⅠa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅠb	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡb	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢb	演習	1		
	日本語コミュニケーション基礎	講義		2	
	日本語コミュニケーション実践	講義		2	
基幹科目	社会言語学	講義		2	
	ワーク・ライフ・バランス論	演習		2	
	経営組織論	講義		2	
	社会システム論	講義		2	
	言語コミュニケーター開発支援論	講義		2	
	応用経済学	講義		2	
	企業戦略論	講義		2	
	会計学総論Ⅰ	講義		2	
	会計学総論Ⅱ	講義		2	
	労働法	講義		2	
	行動科学	講義		2	
	社会・集団・家族心理学	講義		2	
	教育・学校心理学	講義		2	
	ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	演習		2	
	債権法	講義		2	
	行動経済学	講義		2	
	特別講義 a	講義		2	
	特別講義 b	講義		2	
展開・応用科目	現代日本経済論	講義		2	
	会社法	講義		2	
	消費者保護論	講義		2	
	経済法	演習		2	
	家族社会学	講義		2	
	金融論	講義		2	
	財政論	講義		2	
	証券論	講義		2	
	国際経済論	講義		2	
	観光事業論	演習		2	
	地域経済論	講義		2	
	家族法	演習		2	

	知的財産法	講義	2	
	行政法	講義	2	
	原価計算論	講義	2	
	現代企業論	演習	2	
	広告・PR論	演習	2	
	人的資源管理	講義	2	
	応用心理学	講義	2	
	経営分析論	演習	2	
	経営管理論	演習	2	
	イノベーション論	講義	2	
	流通論	講義	2	
	消費者心理学	講義	2	
	ソーシャルマーケティング論	講義	2	
	リーダーシップ論	講義	2	
	コーチング論	演習	2	
	人材開発論	講義	2	
	ホスピタリティ論	講義	2	
	産業・組織心理学	講義	2	
	社会調査実習Ⅰ	演習	2	
	社会調査実習Ⅱ	演習	2	
	社会科学データ分析	講義	2	
	国際政治論	講義	2	
	地域社会学	講義	2	
	アジア文化論	講義	2	
	多文化社会論	講義	2	
	メディア文化論	演習	2	
	共生支援論	講義	2	
	国際企業論	講義	2	
	経済発展論	講義	2	
	社会文化事業論	演習	2	
	国際協力論	講義	2	
	国際ビジネスと法	講義	2	
	アジア経済・経営論	講義	2	
	メディア情報リテラシー	講義	2	
専門資格科目	公認心理師の職責	講義	2	
	関係行政論	講義	2	
	心理実習	演習	4	
	精神疾患とその治療	講義	2	
	言語コミュニケーション開発支援実習	演習	1	

別表第5

第15条別表第5 人間社会学部専門科目 社会デザイン学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
演習科目	演習 I	演習	2		
	演習 II a	演習	2		
	演習 II b	演習	2		
	演習 III a	演習	2		
	演習 III b	演習	2		
	演習 IV a	演習	2		
	演習 IV b	演習	2		
	卒業研究	演習	4		
基礎科目	人間社会学入門	講義	2		
	心理学概論	講義	2		
	コミュニケーション概論	講義	2		
	教育学概論	講義		2	
	発達心理学	講義		2	
	異文化理解	講義		2	
	文化人類学	講義		2	
	社会学概論	講義	2		
	法学概論	講義	2		
	ジェンダー論	講義		2	
	地理学概論	講義		2	
	女性と労働	講義		2	
	メディア社会論	講義		2	
	国際関係概論	講義		2	
	経済学概論	講義	2		
	経営学概論	講義	2		
	簿記論 I	講義		2	
	簿記論 II	講義		2	
	民法概論	講義		2	
	マーケティング論	講義		2	
	商法概論	講義		2	
	キャリア・マネジメント論	講義		2	
	キャリア・デザイン論	演習		2	
	実践デザインラボ I	演習		2	
アントレプレナーシップ論	講義		2		
アントレプレナーシップ演習	演習		2		
リーダーシップ開発 a	演習		2		
リーダーシップ開発 b	演習		2		
社会と統計	講義	2			
社会調査概論	講義		2		

	社会調査方法論	講義		2	
	社会の基礎数学	講義		2	
	調査・実験データ処理法	講義		2	
	プログラミング基礎	講義		2	
	データベース基礎	講義		2	
	英語コミュニケーションⅠa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅠb	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅡb	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢa	演習	1		
	英語コミュニケーションⅢb	演習	1		
	日本語コミュニケーション基礎	講義		2	
日本語コミュニケーション実践	講義		2		
基幹科目	社会情報学概論	講義		2	
	情報と職業	講義		2	
	サステナビリティ論	講義		2	
	社会システム論	講義		2	
	社会・集団・家族心理学	講義		2	
	社会言語学	講義		2	
	都市フィールドワーク論	講義		2	
	課題解決プロセス基礎	講義		2	
	社会科学におけるAI・機械学習	講義		2	
	マルチメディア処理	講義		2	
	実践デザインラボⅠⅠ	演習		2	
	デザイン思考とデータ活用	講義		2	
	地域社会学	講義		2	
	応用経済学	講義		2	
	行動経済学	講義		2	
特別講義 a	講義		2		
特別講義 b	講義		2		
展開・応用科目	表象メディア論	講義		2	
	メディア・コミュニケーション論	講義		2	
	メディア情報学	講義		2	
	情報セキュリティ	講義		2	
	応用倫理学	講義		2	
	国際政治論	講義		2	
	身体論	講義		2	
	テクノロジーと性	講義		2	
	共創デザイン論	講義		2	
	社会ネットワーク論	講義		2	
	広告・PR論	演習		2	
福祉社会学	講義		2		

	メディア心理学	講義	2	
	マスメディア論	講義	2	
	メディア・ワークショップ	演習	2	
	社会科学におけるデータと数理	講義	2	
	データに基づく地域創生	講義	2	
	データ時代の女性キャリア開発	講義	2	
	シリアスゲーム・デザイン演習	演習	2	
	ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	演習	2	
	社会科学におけるWebデータ収集技術論	演習	2	
	社会科学データ分析	演習	2	
	共創デザイン・プロジェクト	演習	2	
	メディア情報リテラシー	講義	2	
	イノベーション論	講義	2	
	メディアとインターセクショナリティ	講義	2	
	社会科学におけるプログラミング	演習	2	
	社会科学におけるソフトウェア設計	演習	2	
	課題解決プロセス応用	演習	2	
	ソーシャル・マーケティング論	演習	2	
	ジェンダード・イノベーション	演習	2	
	リスク・コミュニケーション	演習	2	
	社会調査実習Ⅰ	演習	2	
	社会調査実習Ⅱ	演習	2	
	デジタルメディア論	講義	2	
	メディア表現	講義	2	
	メディアデータ分析	演習	2	
	社会科学におけるAI・機械学習応用	演習	2	
	社会科学における質的データ分析	演習	2	
	社会的価値創造論	講義	2	
	心理学統計法	講義	2	
	人工知能と人間・社会	講義	2	
	科学技術社会論	講義	2	
	リスク社会論	講義	2	
専門資格科目	関係行政論	講義	2	
	言語コミュニケーター開発支援実習	演習	1	
	公認心理師の職責	講義	2	
	心理実習	演習	4	
	精神疾患とその治療	講義	2	

別表第6

第15条別表第6 国際学部専門科目 国際学科

区分	授業科目	授業形態	単位数		備考
			必修	選択	
アカデミック演習	基礎演習	演習	2		
	専門演習 a	演習	1		
	専門演習 b	演習	1		
	卒業研究	演習	6		
外国語科目	Effective Communication a	演習	2		
	Effective Communication b	演習	2		
	Effective Communication c	演習	1		
	English Workshop a	演習		1	
	English Workshop b	演習		1	
	English Workshop c	演習		1	
	English Workshop d	演習		1	
	English Grammar	演習	1		
	Basic Listening	演習		1	
	Advanced Listening	演習		1	
	Basic Reading	演習		1	
	Advanced Reading	演習		1	
	Basic Writing	演習		1	
	Advanced Writing	演習		1	
	Speaking & Presentation a	演習		1	
	Speaking & Presentation b	演習		1	
	English Education for Children	演習		1	
	Practical English a	演習		1	
	Practical English b	演習		1	
	イタリア語 1	演習		1	
イタリア語 2 a	演習		1		
イタリア語 2 b	演習		1		
専門基礎科目	異文化コミュニケーション論 a	講義	2		
	情報コミュニケーション論	講義		2	
	国際メディア論	講義		2	
	英語学入門 a	講義		2	
	英語学入門 b	講義		2	
	英語発音論	講義		2	
	認知文法論	講義		2	
	国際文化論 a	講義	2		

	国 際 文 化 論 b	講義		2	
	国 際 社 会 学 a	講義		2	
	国 際 社 会 学 b	講義		2	
	国 際 関 係 論	講義		2	
	比 較 文 化 論	講義		2	
	日 本 文 化 論 a	講義	2		
	日 本 文 化 論 b	講義		2	
	現 代 日 本 社 会 論	講義	2		
	日 本 語 学 入 門 a	講義		2	
	日 本 語 学 入 門 b	講義		2	
	海 外 の 日 本 文 学	講義		2	
	日 本 語 教 育 入 門 a	講義		2	
	地 域 経 営 学 入 門 a	講義	2		
	地 域 経 営 学 入 門 b	講義		2	
	観 光 学 入 門 a	講義	2		
	観 光 学 入 門 b	講義		2	
	観 光 地 理 学	講義		2	
専 門 応 用 展 開 科 目	異文化コミュニケーション論 b	講義	2		
	ポ ラ イ ト ネ ス 論	講義		2	
	対人コミュニケーション論	講義		2	
	集団・組織コミュニケーション論	講義		2	
	国際コミュニケーション特別講義 a	講義		2	
	国際コミュニケーション特別講義 b	講義		2	
	国際コミュニケーション演習 a	演習		2	
	国際コミュニケーション演習 b	演習		2	
	マ ス メ デ ィ ア 演 習	演習		2	
	ソ ー シ ャ ル メ デ ィ ア 演 習	演習		2	
	多 文 化 共 生 論	講義	2		
	国 際 経 営 学	講義		2	
	世 界 の 民 族 と 宗 教	講義		2	
	海 外 文 化 事 情 a	演習		2	
	海 外 文 化 事 情 b	演習		2	
	海 外 文 化 事 情 c	演習		2	
	海 外 文 化 事 情 d	演習		2	
	海 外 文 化 事 情 e	演習		2	
	海 外 文 化 事 情 f	演習		2	
	国 際 政 治 学	講義		2	
国 際 キ ャ リ ア 論	講義		2		

グローバルゼーション論	講義		2	
国際文化資源論	講義		2	
国際文化特別講義 a	講義		2	
国際文化特別講義 b	講義		2	
Global Seminar a	演習		2	
Global Seminar b	演習		2	
国際文化演習 a	演習		2	
国際文化演習 b	演習		2	
日本文化資源論	講義	2		
民俗伝統芸能論	講義		2	
日本語教育入門 b	講義		2	
日本文化事情 a	演習		2	
日本文化事情 b	演習		2	
日本文化事情 c	演習		2	
日本のメディア文化	講義		2	
コンテンツ産業論	講義		2	
東京文化論	講義		2	
日本文化特別講義 a	講義		2	
日本文化特別講義 b	講義		2	
日本文化演習 a	演習		2	
日本文化演習 b	演習		2	
地域社会論	講義	2		
社会統計学入門	講義		2	
マーケティング概論	講義		2	
地域政策論	講義		2	
ホスピタリティ論	講義		2	
地域観光事業 a	演習		2	
地域観光事業 b	演習		2	
観光英語	演習		2	
地域ブランディング	講義		2	
地域活動企画	講義		2	
地域文化特別講義 a	講義		2	
地域文化特別講義 b	講義		2	
地域観光演習 a	演習		2	
地域観光演習 b	演習		2	

オブキャンパス・プログラム	国際文化事前研修	演習	2		
	海外留学 a	実習		9	
	海外留学 b	実習		12	
	海外留学 c	実習		15	
	海外留学 d	実習		18	
	国内インターンシップ a	実習		1	
	国内インターンシップ b	実習		1	
	国内インターンシップ c	実習		1	
	国内インターンシップ d	実習		1	

別表第7

第16条別表第7 教職課程授業科目及び単位数

全学部共通

授 業 科 目		授業 形態	単位数	備 考
教	職 入 門	講義	2	
教	育 原 理	講義	2	
教	育 原 理 (栄 養)	講義	1	
発	達 ・ 学 習 理 論	講義	2	
教	育 制 度	講義	2	
教	育 制 度 (栄 養)	講義	1	
教	育 課 程 論	講義	1	
特	別 支 援 教 育 論	講義	1	
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		講義	2	
教 科 教 育 法	国 語 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	国 語 科 教 育 法 (2)	講義	2	
	国 語 科 教 育 法 (3)	講義	2	
	国 語 科 教 育 法 (4)	講義	2	
	書 道 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	書 道 科 教 育 法 (2)	講義	2	
	英 語 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	英 語 科 教 育 法 (2)	講義	2	
	英 語 科 教 育 法 (3)	講義	2	
	英 語 科 教 育 法 (4)	講義	2	
	美 術 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	美 術 科 教 育 法 (2)	講義	2	
	美 術 科 教 育 法 (3)	講義	2	
	美 術 科 教 育 法 (4)	講義	2	
	家 庭 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	家 庭 科 教 育 法 (2)	講義	2	
	家 庭 科 教 育 法 (3)	講義	2	
	家 庭 科 教 育 法 (4)	講義	2	
	情 報 科 教 育 法 (1)	講義	2	
	情 報 科 教 育 法 (2)	講義	2	
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法 (1)	講義	2		
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法 (2)	講義	2		
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法 (3)	講義	2		
社 会 科 ・ 公 民 科 教 育 法 (4)	講義	2		
道 徳 教 育 指 導 論	講義	2		
道 徳 教 育 指 導 論 (栄 養)	講義	2		
教 育 方 法 ・ 技 術 論 (ICT 活 用 含 む)	講義	2		

教育方法・技術論（栄養）	講義	1	
生徒・進路指導論	講義	2	
生徒指導論（栄養）	講義	2	
教育相談	講義	2	
教育実習 A	講義 実習	5	
教育実習 B	講義 実習	3	
栄養教育実習	講義 実習	2	
教職実践演習（中・高）	演習	2	
教職実践演習（栄養）	演習	2	
介護支援基礎論	講義	1	
介護等体験	実習	1	
教職研究 a	講義 演習	2	
教職研究 b	講義 演習	2	
教職研究 c	講義 演習	2	
教職研究 d	講義 演習	2	
教職研究 e	講義 演習	2	
児童・生徒栄養教育論（1）	講義	2	
児童・生徒栄養教育論（2）	講義	2	

別表第8

第16条別表第8 図書館学課程授業科目

全学部共通

		必修科目				
		授業科目	授業形態	単位数	備考	
図書館司書		生涯学習概論	講義	2		
		図書館概論	講義	2		
		図書館情報技術論	講義	2		
		図書館制度・経営論	講義	2		
		図書館サービス概論	講義	2		
		情報サービス論	講義	2		
		児童図書館サービス論 a	講義・演習	2		
		児童図書館サービス論 b	講義・演習	2		
		情報サービス演習 a	演習	1		
		情報サービス演習 b	演習	1		
		図書館情報資源概論 a	講義・演習	2		
		図書館情報資源概論 b	講義・演習	2		
		情報資源組織論 a	講義	2		
		情報資源組織論 b	講義	2		
		情報資源組織演習 a	演習	1		
		情報資源組織演習 b	演習	1		
			選択科目			
			図書館基礎特論	講義	2	
		図書・図書館史	講義	2		
		図書館施設論	講義	2		
		図書館総合演習	講義・演習	2		
		図書館実習	講義・実習	2		
学校図書館司書教諭	必修科目					
		学校経営と学校図書館	講義	2		
		学校図書館メディアの構成	講義	2		
		学習指導と学校図書館	講義	2		
		読書と豊かな人間性	講義	2		
		情報メディアの活用	講義・演習	2		
		学校図書館サービス論	講義	2		
		学校図書館情報サービス論	講義	2		
	学校教育概論	講義	2			

別表第9

第16条別表第9 博物館学芸員関係授業科目

文学部・人間社会学部共通

必修科目			
授業科目	授業形態	単位	備考
博物館学入門	講義	2	
博物館経営論	講義	2	
博物館資料論	講義	2	
博物館教育論	講義	2	
生涯学習概論	講義	2	
博物館情報・メディア論	講義	2	
博物館展示論	講義	2	
博物館資料保存論	講義	2	
博物館実習1 a	実習	1	
博物館実習1 b	実習	1	
博物館実習2	実習	1	
選択科目			
美術史概論 a	講義	2	
美術史概論 b	講義	2	
工芸史概論 a	講義	2	
工芸史概論 b	講義	2	
文化史概論 a	講義	2	
文化史概論 b	講義	2	
知的財産研究	講義	2	
アート&パブリッシング	講義	2	
パブリック・プログラム研究	講義	2	
保存修復 a	講義	2	
保存修復 b	講義	2	

別表第10

第61条別表第10

外国人留学生特設科目

選 択 科 目			
授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数	備 考
日 本 文 化 事 情 a	講 義	2	
日 本 文 化 事 情 b	講 義	2	
日 本 語 a	講 義	2	
日 本 語 b	講 義	2	
日 本 語 c	講 義	2	
日 本 語 d	講 義	2	

○実践女子大学人間社会学部教授会運営規程

(平成 16 年 12 月 15 日制定)

改正 平成 19 年 2 月 28 日 平成 20 年 3 月 28 日

平成 24 年 3 月 23 日 平成 26 年 4 月 1 日改正

2022 年 6 月 1 日改正

(趣旨)

第 1 条 この規程は、実践女子大学学則第 53 条第 2 項の規定に基づき、人間社会学部教授会(以下「教授会」という。)の組織及び運営に関して必要な事項を定めるものである。

(構成員)

第 2 条 教授会は、実践女子大学人間社会学部に所属する専任の教授、准教授、講師及び助教(以下「構成員」という。)をもって構成する。

(審議事項)

第 3 条 教授会は、人間社会学部に係る次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教員の人事に関する事項
- (2) 学部の授業科目等カリキュラムに関する事項
- (3) 学生の入学、休学、復学、卒業等学生の身分に関する事項
- (4) 学生の試験、学習評価及び単位修得に関する事項
- (5) 学生の賞罰及び学生支援に関する事項
- (6) その他学部の教育、研究及び運営に関する重要事項

(会議の開催)

第 4 条 教授会は、原則として毎月第 2 木曜日を定例の開催日とする。ただし、必要があるときは、臨時に開催することができる。

(会議の招集)

第 5 条 教授会は、学部長がこれを招集する。

- 2 学部長は、構成員の 3 分の 1 以上から議案を添えて開催の要求があったときは、教授会を招集しなければならない。
- 3 教授会において審議する議案は、緊急やむを得ない場合を除き、会議の 3 日前までに構成員に通知しなければならない。

(議長)

第 6 条 学部長は、教授会の議長となり、会議を主宰する。

- 2 学部長に事故あるときは、あらかじめ指名された者が議長の職務を行う。

(定足数)

第 7 条 教授会は、構成員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。ただし、6 か月以上の長期出張者及び休職中の者は構成員の数に算入しない。

(構成員以外の者の出席)

第8条 教授会は、必要があると認めるときは、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(議事及び議決)

第9条 教授会の議事は、他に特別の定めのある場合を除き、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(特別議決事項)

第10条 教員の採用及び昇任に係る事項は、別に定める内規によってその議決方法を定める。

(議事録)

第11条 教授会の議事については、議事録を作成し、これを次回教授会において確認しなければならない。

2 議事録は、教育総合サポート部が保管し、構成員から請求があった場合は閲覧させなければならない。

(専門委員会)

第12条 教授会は、必要に応じて専門委員会を置き、企画立案に当たらせることができる。

(事務)

第13条 教授会の事務は、教育総合サポート部において行う。

(細則)

第14条 この規程に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、教授会の議を経て、別に定める。

(規程の改廃)

第15条 この規程の改廃は、教授会において構成員の3分の2以上の同意を必要とする。

附 則

この規程は、平成16年12月15日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則(平成19年2月28日)

この改正規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月28日)

この改正規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月23日)

この改正規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成 26 年 4 月 1 日改正)

この改正規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(2022 年 6 月 1 日改正)

この改正規程は、2022 年 6 月 1 日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

目次

第1	設置の趣旨及び必要性	P. 3
1.	実践女子大学の沿革	P. 3
2.	社会デザイン学科設置等の経緯	P. 3
3.	人間社会学部社会デザイン学科設置の趣旨及び必要性	P. 4
4.	養成する人材像、教育上の目的	P. 6
5.	組織として研究対象とする中心的な学問分野	P.10
第2	学部・学科の特色	P.11
第3	学部・学科等の名称及び学位の名称	P.12
第4	教育課程の編成の考え方及び特色	P.12
1.	教育課程編成の基本方針	P.12
2.	教育課程及び科目区分の編成	P.14
3.	科目構成とその理由	P.15
4.	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との相関	P.18
第5	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	P.19
1.	教育方法	P.19
2.	卒業要件	P.21
3.	履修指導、履修方法	P.21
4.	履修モデル	P.21
5.	学修成果の評価方法	P.22
第6	多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修 させる場合の具体的計画	P.23
第7	取得可能な資格	P.23
第8	入学者選抜の概要	P.24
1.	アドミッション・ポリシー	P.24
2.	入学者選抜の方法	P.25
3.	入学者選抜の実施体制	P.27
第9	教員組織の編成の考え方及び特色	P.28
1.	教員組織編成の考え方	P.28
2.	教員組織の特色と教員配置	P.28
3.	教員組織の年齢構成	P.29

第 10	研究の実施についての考え方、体制、取組	P.29
第 11	施設、設備等の整備計画	P.30
1.	校地、運動場の整備計画	P.30
2.	校舎等施設の整備計画	P.30
3.	図書等の資料及び図書館の整備計画	P.31
第 12	管理運営及び事務組織	P.33
1.	人間社会学部教授会	P.33
2.	全学教授会	P.33
3.	大学協議会	P.33
4.	学科会議	P.34
5.	その他委員会	P.34
6.	教学事務組織	P.35
第 13	自己点検・評価	P.35
1.	実施体制	P.35
2.	自己点検・評価方法	P.37
3.	認証評価	P.37
第 14	情報の公表	P.37
第 15	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	P.40
1.	FD	P.40
2.	SD	P.40
第 16	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	P.41
1.	教育課程内の取組	P.41
2.	教育課程外の取組	P.42
3.	適切な体制の整備	P.45

第1 設置の趣旨及び必要性

1. 実践女子大の沿革

実践女子大学は、建学の精神として「女性が社会を変える、世界を変える」を掲げている。この建学の精神に基づき、昭和24年（1949年）実践女子大学文家政学部として発足した。その後昭和40年（1965年）に文学部、家政学部の2学部体制とした後、平成6年（1994年）家政学部を生活科学部に改めるなどの学部学科の改編を経て、平成16年（2004年）に3つ目の学部人間社会学部人間社会学科を設置した。その後、人間社会学部に現代社会学科を設置、生活科学部に現代生活学科を設置、平成26年（2014年）の渋谷キャンパス開設と時代が求める人材を輩出するために、学部学科の改編を進め、教育・研究を担ってきた。

本学は、平成26年（2014年）の渋谷キャンパス開設により、文学部、人間社会学部並びに併設の短期大学部において志願者増となったが、渋谷キャンパスの教育研究が落ち着くまで学部等の改編には着手してこなかった。また、日野キャンパスにおいても現代生活学科設置後の改編は行わなかった。また、この間に特定地域内の収容定員の抑制、入学定員の厳格化など、大学全体の学生数を維持するための施策の実施が求められてきた。

大学内では、令和6年（2024年）に向けて、既存学部学科の教育課程の見直しを行うとともに、共通教育科目の改編なども計画的に進められてきた。

大学全体で見れば、入学定員を確保してきたが、短期大学部では志願者の減少により入学定員の確保が厳しくなり、本学の教育資源を活用した新たな学部学科設置を構想することとなった。グローバル化が進展し、また社会情勢・環境が変化し続ける現代社会で発生する諸問題を解決できる能力を有する人材が求められている。本学では、英語教育はもとより、コミュニケーション力、観光を通じた地域貢献などの教育を行ってきた短期大学部の教育資源の活用が可能であること、また、現代社会が有する諸問題を解決するために必要な知識と情報化社会で必要とされる情報通信技術の知識などが求められており、人間社会学部の人材や教育手法の活用が可能であることから、新たな学科の設置を構想した。

このような社会情勢を踏まえ、令和6年（2024年）4月に、国際学部（入学定員120名）及び人間社会学部社会デザイン学科（入学定員80名）の設置を計画した。

2. 社会デザイン学科設置等の経緯

グローバル化の進展、社会の多様性、科学技術の発展などにより、社会は新たに「グローバル人材」を求める時代になり、グローバル人材の育成が必要となった。このような社会が求める人材像の変化に対応した人材育成を行うためには、本学の従来の学部学科構成だけでは不十分であり、社会が求める人材育成を行うための教育課程を有する学部学科の設置を検討した。現代社会が有する諸問題を解決するためには、人文社会科学系であっても先端技術や理数系の基礎的知識を学ぶことが重要であり、質の高い情報を取捨選択し、情報を課題解決のために使いこなす能力（情報活用能力）を身につけることが求められており、人間社会学部の教員や教育手法の活用が可能であることから新たな学科の設置を構想した。さ

らに、大学全体で見れば、本学はこれまで入学定員を確保してきたが、短期大学部では志願者の減少により入学定員の確保が厳しくなり、本学の教育資源を活用した新たな学部学科の設置を構想することになった。【資料 1】「学校法人実践女子学園 中期計画 2022～2026 年度（抜粋）」

現在、短期大学部は日本語コミュニケーション学科（入学定員 80 名）、英語コミュニケーション学科（入学定員 100 名）を有しているが、短期大学を取り巻く環境の変化により、短期大学の志願者が全国的に減少し続けており、本学短期大学部のような教養的文系学科の需要が大変低くなってきたことを受け、短期大学部の学生募集停止を決定し、入学定員 180 名を特定地域内学部等の収容定員増の特例を活用し、大学の収容定員に移行することとした。

本学の学部学科は、実社会が求める人材の育成に努めてきており、新たに設ける人間社会学部社会デザイン学科は、現代社会が求める人材の育成に寄与するものであるが、大学の志願者の中心である 18 歳人口が減少している今日において、新たな学科を設置し、将来的にも維持していくためには、学生の確保が今後も継続的に見込めなければならない。

3. 人間社会学部社会デザイン学科設置の趣旨及び必要性

現代社会においては、Society 5.0 などが提唱され、人工知能（AI: Artificial Intelligence）や IoT（Internet of Things）などの技術革新、メタバースをはじめとする仮想社会における人間活動など、これまでの社会における課題や問題、また企業が求めている人物像についても変わりつつある。これらの変化の激しい現代社会においては、これまでの問題解決の手法を適用することが適切とは言えず、柔軟にかつスピードをもって社会問題の解決を行うためにも、従来とは異なる新しいアプローチでの問題解決力が必要とされている。

社会のビッグデータを活用したデータ分析など、既存の社会学の知識をもとに様々な問題可決手法を取り入れて複雑な現代社会の課題を解決していく「ソーシャル・データサイエンス」、ソーシャルメディアやメタバースなど、デジタル技術の著しい進展によって激変する情報空間をめぐる人間社会での課題や問題、イノベーションへの対応となる「メディア・イノベーション」、異なる専門性や職業の人・団体、企業や行政、地域社会の多様な立場のステークホルダーが共に新しい価値を創出し、社会をより良くするための「共創デザイン」などのアプローチであり、これを学び、活用できる人材の育成が求められている。

このような人材が求められるなか、「人を知り、社会を知り、ビジネスを学んで、よりよい未来をデザインする。」を基本理念とする人間社会学部では、人間社会学科、ビジネス社会学科（現代社会学科から名称を変更予定）に加え、これらのニーズを踏まえた研究や教育を実践する社会デザイン学科を新たに設け、教育・研究を進めることとした。

社会デザイン学科では、現代社会の複雑化する社会情勢や社会システムを理解するための社会学的知識を学び、アクティブラーニングなどの主体的・協働的学習の繰り返しによって各種の課題解決手法の修得ができるとともに、社会学分野においてデータサイエンス知

識を活用しながら多様化する社会を分析し、新たな仕組みを構築する土台となる情報通信技術（ICT: Information and Communication Technology）をいかに活用していくかを学ぶことができる。社会デザイン学科で得られるこうした学びは、文部科学省が表明している「数理・データサイエンス・AI教育」を含め、社会が求める人材育成に一致すると考える。社会デザイン学科で学ぶICTに関する専門知識は、社会科学におけるデータ収集、データ処理と関連させ、様々な課題解決手法やイノベーションの創出につなげるものであり、企業が求めるデータサイエンス思考やビッグデータ処理などの知識に対応している。

また社会デザイン学科を展開する渋谷は、日本においても代表的なさまざまな文化が行き交う地域であるとともに、近年、渋谷区として、オープンデータ利活用を推進する動きやソーシャルメディアの活用が進められているなど、社会・文化に対するソーシャル・データサイエンスの発展が期待されている地域である。高等教育機関である本学が、これらの活動へ研究や人材育成に寄与することは重要であり、また諸外国における動きを見れば、早々の対応が期待される。特に単にデータを数値として扱うのではなく、社会的背景を踏まえ、その問題解決の文脈をもって、自ら問題を見つけ、解決策を提案できる社会科学でのデータを利活用する研究や社会科学の知己を持ったリアルデータの使い手を育成することは、これからのデータ・AI時代にまさに必要とされることである。

これらを踏まえ、社会デザイン学科を新たに設置する趣旨は、複雑な現代社会において、社会学ならびに周辺分野を基盤に人間社会を理解しつつ、現実空間・仮想空間が高度に融合したさまざまな新しい社会で起こりえる諸問題の解決に欠かせないアプローチである、ソーシャル・データサイエンス、メディア・イノベーション、共創デザインなどの社会科学の幅広い学問を学ぶことで、主体的に社会の問題を発見し、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、地域社会やビジネス社会、メディア社会などで活躍できる実務能力を有する人材を育成し、社会に輩出することに重点を置くものである。

本学は、開学以来一貫して女性のキャリア教育を重視してきた伝統と歴史がある。本学の創設者、下田歌子の建学の精神を示す言葉の一つに、女性が社会で生きてゆく上で「必須なる実学、技芸を教授し、兼ねて自営の道として講ぜしめる」がある。人間社会学部における人材育成方針の基底には、建学の精神である「必須なる実学、技芸」を磨きあげ、実社会において必要とされる素養を学生時代に身につけさせることが据えられている。特に人間社会学部が計画する社会デザイン学科は、建学の精神「必須なる実学、技芸」の教授を一層確かなものにしていく。

社会デザイン学科は、変化が激しい社会において活躍する人材育成を行うために、これまでの人間社会学部で行ってきた教育・研究を発展させていくものである。

人間社会学部では、多様化する社会で活躍するために、従前より人間社会学科での心理学ならびに社会学の基礎・応用展開の学び、ビジネス社会学科（現代社会学科から名称を変更予定）での経済・経営・法律等の実学とコミュニケーション能力を総合的に身につける幅広い教育をおこなってきた。こうした教育・社会や企業社会に関する体系的専門的な学びに加

え、社会が大きく変わっていく中、古い仕組みを変え、新しい製品やサービス、仕掛けを作り上げる力の育成が急務となっている。すなわち、デザイン思考を踏まえ、自ら課題を発見し、アイデアを出し、試行錯誤を繰り返していく創造的思考法や「データ」の活かし方、変化するメディアの活用、多様な人々と新しい価値を生み出す「共創」の仕方など、情報社会・仮想社会での問題解決も含め、今までとは異なるアプローチも学ぶ必要がある。以上のことから、人間社会学部を人間社会学科、ビジネス社会学科（現代社会学科から名称を変更予定）に加え、社会デザイン学科の3学科とする必要がある。

4. 養成する人材像、教育上の目的

人間社会学部の教育の目的は、国際化の進展、情報化の進展、社会の成熟化が進むなかで、社会の要請と国民の多様で高度な学びの要求に応える学部教育を目指すとともに、学生が自ら主体的に学び、考え活動できる能力の養成を願い、「共に学び合う共同体」づくりを目指すものである。

社会デザイン学科では、人間社会学部の教育目的に加え、高度情報化する知識基盤社会に求められるソーシャル・データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などを中心とする専門的な知識・理論を学び、社会情勢・環境が変化し続ける創造社会で発生する諸問題を解決できる能力を修得し、社会で主体的に活躍し貢献できる人材の育成を目的とする。特に専門ゼミおよび関連科目で自身の専門性を高めることはもちろんこと、それだけでなく学科の科目を広く履修し、幅広い知識を持つことで、自分の専門の知識や技能を高めながら、専門外の広い視野と発想力・実践力も身に付けた T 型人材の育成を目指す。

この教育研究上の目的を踏まえ、この目的に基づく養成する人材像は、複雑な現代社会において、社会学に関する分野はもちろん周辺分野も含め、人間社会を理解し、新しい取り組みに欠かせないソーシャル・データサイエンス、メディア・イノベーション、共創デザインなどの社会科学の幅広い学問を学び、主体的に社会の問題を発見し、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、地域社会やビジネス社会、教育・福祉などの分野で力を発揮しうる人材である。

教育研究上の目的及び養成する人材像にもとづき、社会デザイン学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）及び入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）を次の通り定めている。

ディプロマ・ポリシー

【人間社会学部】

人間社会学部は、「人を知り、社会を知り、ビジネスを学び、よりよい未来をデザインする」をモットーに、グローバル化や情報化が進展し、多様化・複雑化・成熟化する 21 世紀社会において活躍できる女性の育成をめざしています。

そのため、人間社会学部では、全学ディプロマ・ポリシーとして求める内容を含め、以下に掲げる態度と能力を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士（人間社会学）」の学位を授与します。

<態度>

多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度【国際的視野】

- ①豊かなコミュニケーション能力を身につけ、国内外の人々と相互理解と協力関係を築こうとする態度。〔学部学科共通〕
- ②国内外の多様な人間と社会のあり方について理解し、受容し、尊重しようとする態度。
- ③国内外で発生している様々な問題の解決に貢献しようとする態度。

知を求め、心の美を育む態度【美の探究】

- ①人間と社会とビジネスに関して学び、よりよい未来をデザインしようとする態度。
- ②人間と社会のあり方に関して望ましい価値観を探求しようとする態度。
- ③高い倫理観をもって、自己の言動・価値観を批判的に振り返りつつ、行動する態度。〔学部学科共通〕

<能力>

学修を通して自己成長する力【研鑽力】

- ①現代社会の諸課題について常に興味・関心を持ち、学び続けることができる。
- ②専門的知識とスキルを身につけ、社会人・職業人として活躍することができる。

課題解決のために主体的に行動する力【行動力】

- ①現代社会における様々な課題について自らテーマを設定し、情報を集め、多角的・総合的に分析することができる。
- ②課題を解決するために自らアクションプランを策定し、主体的に実践することができる。

相互を活かして自らの役割を果たす力【協働力】

- ①自己や他者の役割を理解し、他者と協働しながら自らの役割を果たすことができる。
- ②課題の遂行や解決にむけて、主体的にリーダーシップを発揮することができる。

【社会デザイン学科】

社会デザイン学科は、全学ディプロマ・ポリシー及び学部ディプロマ・ポリシーにおいて求める内容を含め、以下に掲げる態度、能力を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士（人間社会学）」の学位を授与します。

<態度>

多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度【国際的視野】

- ①データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などを学ぶことを通して、国内外の多様な人間と社会のあり方や現実空間と仮想空間とが高度に融合した創造社会について理解を深めようとする態度。

②国内外の創造社会で発生している様々な問題の解決に貢献しようとする態度。

知を求め、心の美を育む態度【美の探究】

①データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などを学ぶことを通して、創造社会と人間のあり方に関して新たな知を創造しようとする態度。

②創造社会と人間のあり方に関して、望ましい価値観を探究しようとする態度。

<能力>

学修を通して自己成長する力【研鑽力】

①データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などの専門的知識とスキルを身につけ、創造社会の様々な分野で社会人・職業人として活躍することができる。

②創造社会における様々な問題について常に興味・関心を持ち、学び続けることができる。

課題解決のために主体的に行動する力【行動力】〔学部学科共通〕

①現代社会における様々な課題について自らテーマを設定し、情報を集め、多角的・総合的に分析することができる。

②課題を解決するために自らアクションプランを策定し、主体的に実践することができる。

相互を活かして自らの役割を果たす力【協働力】〔学部学科共通〕

①自己や他者の役割を理解し、他者と協働しながら自らの役割を果たすことができる。

②課題の遂行や解決にむけて、主体的にリーダーシップを発揮することができる。

カリキュラム・ポリシー

人間社会学部では、全学ディプロマ・ポリシーと学部のディプロマ・ポリシーに基づき、教育課程編成と教育内容、教育方法、評価方法について、以下のとおり定めます。

<教育課程編成>

①1、2年次に学部の基本的な知識とスキルを習得するための学部共通科目を配置します。

②1年次から4年次まで必修の演習科目を配置します。

③学科の専門科目を「基幹科目」と「展開・応用科目」に分け、体系的に配置します。

④学部の授業を通して得られる資格科目を配置します。

⑤4年次に全員が履修する卒業研究を配置します。

⑥学科の枠を超えた他学科履修科目を設定します。

<教育内容>〔学部学科共通〕

①学部共通教育では、人間、社会、ビジネス、未来デザイン、リサーチ・スキル、コミュニケーション・スキルについて学びます。

②1、2年次の「基礎演習」では、大学で学ぶためのアカデミック・スキルを修得し、3、

4年次の「専門演習」では、専門的な知識とスキルを身につけます。

③2年次以降の「基幹科目」では、各学科の専門分野の基本となる科目や資格取得のための科目を配置し、段階的・系統的に専門的な知識・スキルを修得できるようにします。

④「展開・応用科目」では、各学科の専門分野の発展的・応用的な科目を配置し、専門的な学問分野を体系的に学びます。

<教育方法>〔学部学科共通〕

①講義科目では、現代社会の諸課題と最先端の学問動向を分かりやすく講義します。

②PBL(Project Based Learning)、フィールドワーク、ワークショップ、実験、実習、調査などのアクティブラーニングにより、学生が主体的に学び、考え、実践することのできる授業を行います。

③1年次から4年次までの演習では、アカデミック・スキルを身につけ、ディベート能力やプレゼンテーション能力を高める教育を行います。

④学外の企業や地域との連携を通じて、社会の様々な問題を解決し、よりよい未来をデザインするための教育を行います。

<評価方法>〔学部学科共通〕

①授業の学修到達目標及び成績評価の方法・基準に基づいて、客観的かつ公正に評価します。

②GPAを活用し、客観的・総合的に評価します。

【社会デザイン学科】

<教育課程編成>

①社会デザイン学科では、仮想空間と現実空間が高度に融合した創造社会と人間について多角的・総合的に理解し、社会の様々な分野で活躍する女性を育成します。そのために、データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などの多様な科目を専門科目として配置します。

②以下の3つの系より「展開・応用科目」を構成します。

〔ソーシャル・データサイエンス系〕社会調査、データサイエンス、統計科学、情報学など、ソーシャル・データサイエンスに関する科目群

〔メディア・イノベーション系〕メディア論、メディア情報学など、メディア・イノベーションに関する科目群。

〔共創デザイン系〕デザイン思考、科学技術社会論、コミュニケーション・デザイン技法など、共創デザインに関する科目群

<教育内容>〔学部学科共通〕

①学部共通教育では、人間、社会、ビジネス、未来デザイン、リサーチ・スキル、コミュニケーション・スキルについて学びます。

②1、2年次の「基礎演習」では、大学で学ぶためのアカデミック・スキルを修得し、3、

4年次の「専門演習」では、専門的な知識とスキルを身につけます。

③2年次以降の「基幹科目」では、各学科の専門分野の基本となる科目や資格取得のための科目を配置し、段階的・系統的に専門的な知識・スキルを修得できるようにします。

④「展開・応用科目」では、各学科の専門分野の発展的・応用的な科目を配置し、専門的な学問分野を体系的に学びます。

<教育方法>〔学部学科共通〕

①講義科目では、現代社会の諸課題と最先端の学問動向を分かりやすく講義します。

②PBL(Project Based Learning)、フィールドワーク、ワークショップ、実験、実習、調査などのアクティブラーニングにより、学生が主体的に学び、考え、実践することのできる授業を行います。

③1年次から4年次までの演習では、アカデミック・スキルを身につけ、ディベート能力やプレゼンテーション能力を高める教育を行います。

④学外の企業や地域との連携を通じて、社会の様々な問題を解決し、よりよい未来をデザインするための教育を行います。

<評価方法>〔学部学科共通〕

①授業の学修到達目標及び成績評価の方法・基準に基づいて、客観的かつ公正に評価します。

②GPAを活用し、客観的・総合的に評価します。

アドミッション・ポリシー

【人間社会学部】

人間社会学部は、グローバル化や情報化が進展し、多様化・複雑化・成熟化する21世紀の社会において活躍するために、正解のない多種多様な社会課題に対して、主体的に考え、協働し、意欲的に行動する人を求めます。

入学時に求める学力・態度・汎用能力

①現代の人間、社会、ビジネス、及び現実空間と仮想空間とが高度に融合した創造社会の動向に強い関心を持っている人。

②自分の考えをしっかりと持ち、他の人と協働しながら、積極的にリーダーシップとフォロワーシップを発揮できる人。

③人間社会学部で学ぶ上で必要な英語、国語、地理歴史、公民、数学、情報などに関し、高等学校卒業程度の学力を身につけた人。

5. 組織として研究対象とする中心的な学問分野

社会デザイン学科の教育研究の目的は、高度情報化する知識基盤社会に求められるソー

シャル・データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などを中心とする専門的な知識・理論を学び、社会情勢・環境が変化し続ける創造社会で発生する諸問題を解決できる能力を擁する人材の育成である。したがって、組織として研究対象とする学問分野は、社会学、統計科学、データサイエンス、社会情報学、情報科学、メディア学などである。

第2 学部・学科の特色

人間社会学部社会デザイン学科は、中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」(答申)における「高等教育の多様な個性・特色の明確化」に掲げられる7つの機能(1. 世界的研究・教育拠点、2. 高度専門職業人養成、3. 幅広い職業人養成、4. 総合的教養教育、5. 特定の専門的分野(芸術、体育等)の教育・研究、6. 地域の生涯学習機会の拠点、7. 社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等))のうち、「総合的教養教育」に重点を置きつつ、「幅広い職業人養成」「社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国際交流等)」とも深く関連させながら教育研究を実施する。

人間社会学部は、平成16年(2004年)4月に、実践女子大学3つ目の学部として人間社会学部1学科(入学定員140名)で発足した。その後、平成23年(2011年)4月に現代社会学部(入学定員100名)を設置するとともに、人間社会学部の入学定員を100名として、1学部200名の入学定員の学部とした。現代社会学部設置から10年が経ち、社会環境が大きく変化するとともに、求める人材像も多様化し、これまでの人間社会学部、現代社会学部の教育研究領域だけでは、社会が求める人材の育成には十分ではなくなってきた。これまで人間社会学部、現代社会学部が培ってきた社会を取り巻く様々な事象を研究するとともに、社会を変えるデザイン力のある人材が求められる時代になったため、新たな学科を設ける。

人間社会学部社会デザイン学科が実施する教育研究は、社会科学と情報学、科学技術論などを融合した、新たな知識や価値の創出につながり、既存の研究活動の枠を超えるものであり、本学の実施する学際的、学融合的な研究活動にも寄与する。

また人間社会学部では、既設学科と同様に、2年次に学科を選ぶ「学部一括募集」を実施する。入学前から学科を決めるのではなく、1年次は人間社会学部に所属して3学科の基礎分野を幅広く学び、3年以降の専門演習等で指導を受けたい専門分野に関する授業を受けて、2年次から個々の関心や目標に合わせて、専門分野の内容を理解したうえでの学科選択とする。学部全体での社会学および周辺分野に触れることはもちろんのこと、自身の興味・関心に応じて所属学科を選ぶことによって、専門分野の勘違いを避けることができる。また新入生の潜在的な学びの要求を掘り起こし、大学生活の支援を含めた大学での学び方を習得させることを重視して「実践入門セミナー」を1年次の前期に開講する。さらに演習を1年次から4年次に至る各セメスターで必修とし、演習授業を通して社会の動向や社会問題に対して「鋭敏に対応できる感性」と「鋭い問題意識」を磨くために対話・討論を積み重ね、科学的に筋道の通った論理的思考力と実際的な対処力を体得させる教育方針である。いわ

ば学生と教員との距離が近く学生が主体的に学びやすい少人数ゼミナールのなかで「共に学び合い、教え合う共同体」を形成し、大学での学びの大切さを実感できる教育システムを基本に置く。専任教員全員が演習を担当し、教員は自分の専門性を活かしながら、学生の多様な学びの要求に応じて教育を行い、卒業研究の指導に当たる。

これらの学部教育に加え、社会デザイン学科では以下のような特色を備える。

① 1年次から少人数ゼミナールでアカデミック基礎力を磨く

少人数制のゼミ（演習）を1年次から履修し、研究課題に取り組むための情報収集や論文作成、プレゼンテーションのスキルを段階的に養う。2年次には、プロジェクト型学習も取り入れる。担当の教員が、学生の研究発表について、思考や技能の面からサポートする。

② デザイン思考×データ分析で多面的な課題解決力を身につける

社会・ビジネスの問題を解決するための創造的思考法として注目されている「デザイン思考」の考え方を身につけるためのワークショップ・プロジェクト科目を設けている。また、社会調査を中心とした調査・分析の知識・技能の習得、各種ソーシャル・データサイエンスを学ぶことで論理的問題解決能力の向上を目指す。

③ 「実践の実践力」を踏まえた社会連携・PBLの充実

学生が自ら課題を発見し、その解決のために自ら行動できる「実践力」を磨くための社会連携・PBL等が充実したカリキュラムとし、失敗を恐れず踏み出し、価値創造にチャレンジするアントレプレナーシップ（起業家精神）や、チームをより良い成果達成に導くリーダーシップを涵養する。また積極的に学内外におけるビジネスコンテスト等に参加を推奨し、支援を行い、これらの「実践力」の向上を目指す。

第3 学部・学科等の名称及び学位の名称

本学科は、既存の人間社会学部人間社会学科、現代社会学科（令和6年（2024年）4月にビジネス社会学科に名称変更予定）の新たな3つ目の学科である。本学科では、社会を理解し新しい取り組みに欠かせないソーシャル・データサイエンス、メディア・イノベーション、共創デザインなどの社会科学の幅広い学問を学び、主体的に社会の問題を発見し、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、地域社会やビジネス社会、メディアなどの分野で力を発揮しうる人材を育成することを目的とするため、「社会デザイン学科」とする。

社会デザイン学科の授与する学位は、人間社会学部の他学科と同様に「学士（人間社会学）」とする。

第4 教育課程の編成の考え方及び特色

1. 教育課程編成の基本方針

人間社会学部社会デザイン学科の教育課程は、学部学科の目的並びにカリキュラム・ポリシーを踏まえて編成している。カリキュラム・ポリシーは次のとおり定める。

＜教育課程編成＞

- ①社会デザイン学科では、仮想空間と現実空間が高度に融合した創造社会と人間について多角的・総合的に理解し、社会の様々な分野で活躍する女性を育成します。そのために、データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などの多様な科目を専門科目として配置します。
- ②以下の3つの系より「展開・応用科目」を構成します。
〔ソーシャル・データサイエンス系〕社会調査、データサイエンス、統計科学、情報学など、ソーシャル・データサイエンスに関する科目群
〔メディア・イノベーション系〕メディア論、メディア情報学など、メディア・イノベーションに関する科目群。
〔共創デザイン系〕デザイン思考、科学技術社会論、コミュニケーション・デザイン技法など、共創デザインに関する科目群

＜教育内容＞

- ①学部共通教育では、人間、社会、ビジネス、未来デザイン、リサーチ・スキル、コミュニケーション・スキルについて学びます。
- ②1、2年次の「基礎演習」では、大学で学ぶためのアカデミック・スキルを修得し、3、4年次の「専門演習」では、専門的な知識とスキルを身につけます。
- ③2年次以降の「基幹科目」では、各学科の専門分野の基本となる科目や資格取得のための科目を配置し、段階的・系統的に専門的な知識・スキルを修得できるようにします。
- ④「展開・応用科目」では、各学科の専門分野の発展的・応用的な科目を配置し、専門的な学問分野を体系的に学びます。

＜教育方法＞

- ①講義科目では、現代社会の諸課題と最先端の学問動向を分かりやすく講義します。
- ②PBL(Project Based Learning)、フィールドワーク、ワークショップ、実験、実習、調査などのアクティブラーニングにより、学生が主体的に学び、考え、実践することのできる授業を行います。
- ③1年次から4年次までの演習では、アカデミック・スキルを身につけ、ディベート能力やプレゼンテーション能力を高める教育を行います。
- ④学外の企業や地域との連携を通じて、社会の様々な問題を解決し、よりよい未来をデザインするための教育を行います。

＜評価方法＞

- ①授業の学修到達目標及び成績評価の方法・基準に基づいて、客観的かつ公正に評価します。
- ②GPAを活用し、客観的・総合的に評価します。

2. 教育課程及び科目区分の編成

人間社会学部社会デザイン学科の教育課程は、学部学科の目的並びにカリキュラム・ポリシーを踏まえて全学共通の共通教育科目と社会デザイン学科の専門教育科目から編成している。【資料2】「人間社会学部社会デザイン学科 カリキュラムマップ」

1) 共通教育科目

共通教育科目は、令和6年(2024年)から新たな教育課程を編成し、従来の共通教育科目をさらに充実することとした。共通教育科目は、全学部学科の学生が履修できるよう、学生数や履修希望者数等に応じて、クラス編成を工夫し、多くの学生が履修できるようにしているとともに、メディア授業なども取り入れ、学生の選択の幅を広げている。

共通教育科目は、幅広く深い教養を身につけ、専門の学問を修めるための基礎とするとともに、広い視野と思考力の育成や国際性を身につけることを目的としており、「実践スタンダード科目」、「実践アドバンスト科目」、「実践プロジェクト科目」および「教養教育科目」の四つの科目群が設定されている。「実践スタンダード科目」は実践力のある女性を育成するための基幹となる科目群、「実践アドバンスト科目」は「実践スタンダード科目」で身につけた能力を展開・発展させる科目群であり、「実践プロジェクト科目」は、能動的な学びや社会と連携した学びを通じて行動力、協働力、問題解決能力等を身に付ける科目群そして、「教養教育科目」は、幅広い教養とものの見方、考え方、価値観を養う科目である。

「実践スタンダード科目」は本学学生全員が履修する必修科目「実践入門セミナー」「実践キャリアプランニング」「Integrated English a」「Integrated English b」「データサイエンス入門」「情報リテラシー基礎」の6科目からなる。これらの実践スタンダード科目は、学科ごとのクラス編成を基本としている。

「実践アドバンスト科目」は、キャリア教育科目、外国語教育科目、情報リテラシー教育科目からなり、学生時代また社会人として必要なスキルを身につける科目を配置しており、それぞれの授業科目に応じて履修上限人数を定めている。外国語教育科目には、英語以外のドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語などが開講される。

「教養教育科目」は、「ジェンダーについて学ぶ」「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」「健康な体を創る」「知を拓く」の科目区分にそれぞれ授業科目が配置されている。特に、「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」は学生の興味関心により選択ができるよう、各区分に10~20科目以上の授業科目を配置するなど、授業科目を増やし、人間社会学部社会デザイン学科の学生にとどまらず、既存の学部学科の学生にとっても教育内容を充実させている。

2) 専門教育科目

人間社会学部社会デザイン学科の専門教育科目は、「演習科目」「基礎科目」「基幹科目」「展開・応用科目」「専門資格科目」からなる。「演習科目」では、1、2年次の「基礎演習」で大学で学ぶためのアカデミック・スキルを修得し、3、4年次の「専門演習」で専門的な

知識とスキルを身につける。「基礎科目」は、「人間を学ぶ」、「社会を学ぶ」、「ビジネスを学ぶ」、「未来をデザインする」、「リサーチ・スキル」、「コミュニケーション・スキル」に関する基礎的科目を配置し、それぞれの分野について学ぶ。「基幹科目」では、人間社会学部各学科の専門分野の基本となる科目や資格取得のための科目を配置し、専門的な知識・スキルを段階的・系統的に修得する。「展開・応用科目」では、社会デザイン学科の専門分野の発展的・応用的な科目を配置し、専門的な学問分野を体系的に学ぶ。

3. 科目構成とその理由

1) 共通教育科目

1-1) 実践スタンダード科目

実践スタンダード科目は、いわゆる初年次教育科目として位置づけられる必修6科目計8単位からなる科目群である。

「実践入門セミナー」(2単位)は、大学生活を円滑にスタートさせ、「学びの目標」を見つけるとともに、「学びのスキル」を身につけることを目的として配置している。また、「実践キャリアプランニング」では、大学生活だけではなく、卒業後の将来を見据えた職業観・生き方を教授する。さらに、社会でグローバルに活躍するために必要とされる英語力を養う「Integrated English a」(1単位)および「Integrated English b」(1単位)、数理・データサイエンス・AIに関する知識を得ることを目的とする「データサイエンス入門」(1単位)、そして情報の処理・活用に関する汎用的スキルを身につけるための基礎となる「情報リテラシー基礎」(1単位)を展開している。

1-2) 実践アドバンスト科目

「実践アドバンスト科目」は、「実践スタンダード科目」で身につけた能力を展開・発展させる科目であり、「キャリア教育科目」、「外国語教育科目」、「情報リテラシー教育科目」の3分野に関わる科目を配置する。

「キャリア教育」科目群には「キャリアデザイン」や「ライフデザイン」、「ビジネスのスキルとマナー」等の講義科目、「インターンシップ演習」「キャリア開発実践論」などの演習科目に加え、「長期インターンシップ」「短期インターンシップ」の単位認定科目を配置している。

「外国語教育科目」は、英語をはじめとする外国語の運用能力を獲得し、国際的視野を広げることを目的として配置している。英語については四技能を磨くための科目が、また英語以外の外国語(フランス語、ドイツ語、中国語、韓国語、スペイン語)については、年次ごとに段階的に学びを深められるように科目を配置している。その他、語学研修プログラムへの参加・修了をもって単位認定を行う「海外語学研修」を研修先にあわせて8種類用意すると共に、「海外長期インターンシップ」「海外短期インターンシップ」を配置している。

「情報リテラシー教育科目」は「情報スキル基礎」のほか、目的に応じてスキルを高めるための「情報リテラシー応用 a~e」を配置している。

1-3)実践プロジェクト科目

「実践プロジェクト科目」は、能動的な学びや社会と連携した学びを通じて行動力、協働能力、問題解決能力等を身に付ける科目群であり、学内外での活動を含んだ「実践プロジェクト a～c」、認定されたボランティア活動を単位化する「ボランティアプロジェクト a・b」を配置する。

1-4)教養教育科目

「教養教育科目」は、幅広い教養とものの見方、考え方、価値観を養う科目であり、「ジェンダーについて学ぶ」「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探究」「健康な体を創る」「知を拓く」の6群で構成されている。このうち、人文・社会・自然分野に対応する「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探究」の3区分には、幅広い教養を身に付けることを目的として最低修得単位数（各2単位以上）を定めている。

「ジェンダーについて学ぶ」では、現代社会において自立した女性としてどう生きるか一人一人に問いかけ、「健康な体を創る」では、健康管理の重要性を学び、運動（身体）能力を育む。「知を拓く」では、オムニバス授業やアクティブ・ラーニング系の授業などの多彩な授業を通じて、受講生の知的好奇心を刺激することを目指す。

1-5)全学副専攻科目

全学副専攻として、「Global Studies」「女性キャリア・スタディーズ」のいずれか一方を選択して、共通教育科目や一部の学科専門科目を履修することができる。

「Global Studies」では、国際社会で活躍できる人材を育成するため、すべての授業を英語で行い、海外のことを学ぶのではなく「日本」を海外に発信することに重点を置いている。

「女性キャリア・スタディーズ」は女性がキャリアを形成していくために必要な知識、教養、スキルについて学び、現代社会において「自立自営」しうる力を習得することを目的とする。

2)専門科目

人間社会学部社会デザイン学科の専門教育科目は、「演習科目」「基礎科目」「基幹科目」「展開・応用科目」「専門資格科目」からなる。

2-1)演習科目

演習科目には、「演習Ⅰ」（1年後期）、「演習Ⅱa」（2年次前期）、「演習Ⅱb」（2年次後期）、「演習Ⅲa」（3年次前期）、「演習Ⅲb」（3年次後期）、「演習Ⅳa」（4年次前期）、「演習Ⅳb」（4年次後期）各2単位を配置し、全学年を通じてゼミナール授業を履修し、3年次以降は各自が専門とするテーマに従い演習を選択し、4年次の「卒業研究」（4単位）にて最終的な卒業論文を作成する。

2-2)基礎科目

基礎科目は、人間社会学部共通の授業科目群で、人間社会学部の3学科で学ぶ学問の基礎的な授業科目を配置している。

「人間を学ぶ」では、「人間社会学入門」「心理学概論」「コミュニケーション概論」(1年次前期又は後期、2単位)を必修とするほか、「教育学概論」(1年次後期)、「発達心理学」(2年次前期)、「異文化理解」(2年次後期)、「文化人類学」(2年次前期)各2単位を置く。

「社会を学ぶ」では、「社会学概論」「法律学概論」(1年次前期又は後期)各2単位を必修科目とするほか、「ジェンダー論」「地理学概論」(いずれも1年次後期、2単位)、「女性と労働」「メディア社会論」「国際関係概論」(いずれも2年次前期、2単位)を置き、社会学を中心に社会を考える基礎的科目を置く。

「ビジネスを学ぶ」では、「経済学概論」「経営学概論」(いずれも1年次前期又は後期、2単位)を必修とし、「簿記論Ⅰ」(1年次前期)、「簿記論Ⅱ」(1年次後期)各2単位により会計の仕組みを学び、その他「民法概論」「マーケティング論」「商法概論」(いずれも2年次前期、2単位)により企業等の運営を学ぶ。

「未来をデザインする」には、必修科目はないが、1年次前期に「アントレプレナーシップ論」、1年次後期に「キャリア・マネジメント論」「実践デザインラボⅠ」「リーダーシップ開発a」、2年次前期に「キャリア・デザイン論」「リーダーシップ開発b」、2年次後期に「アントレプレナーシップ演習」の各2単位の科目を配置し、学生一人一人の将来を設計できる力を身につけ。

「リサーチ・スキル」では、「社会と統計」(1年次後期、2単位)を必修とするほか、「社会調査概論」(1年次前期)、「社会調査方法論」(1年次後期)、「社会の基礎数学」(1年次前期)、「調査・実験データ処理法」(2年次後期)、「プログラミング基礎」(1年次後期)、「データベース基礎」(2年次前期)各2単位の科目をおき、社会科学におけるデータ処理の基本を学ぶ。

「コミュニケーション・スキル」では、「英語コミュニケーションⅠa、b」「英語コミュニケーションⅡa、b」「英語コミュニケーションⅢa、b」の各科目を必修科目として配置し、1年次後期から2年次後期まで各2科目を履修し、英語力を高める。また、「日本語コミュニケーション基礎」(1年次前期、2単位)、「日本語コミュニケーション実践」(1年次後期、2単位)を配置し、日本語について学ぶ。

2-3) 基幹科目

基幹科目は、人間社会学部3学科の専門分野の基本となる科目を配置し、段階的、系統的に専門的知識やスキルの修得を行う。

社会デザイン学科に関する科目としては、「社会情報学概論」「情報と職業」「サステナビリティ論」「社会システム論」「社会科学におけるAI・機械学習」「マルチメディア処理」「実践デザインラボⅡ」「デザイン思考とデータ活用」などの各2単位の科目を置く。

2-4) 展開・応用科目

社会デザイン学科の展開・応用科目は、学生の履修上の区分とし、「ソーシャル・データサイエンス系」科目群、「メディア・イノベーション系」科目群、「メディア・イノベーション系」科目群を置く。

ソーシャル・データサイエンス系〕社会調査、データサイエンス、統計科学、情報学など、ソーシャル・データサイエンスに関する科目群

〔メディア・イノベーション系〕メディア論、メディア情報学など、メディア・イノベーションに関する科目群。

〔共創デザイン系〕デザイン思考、科学技術社会論、コミュニケーション・デザイン技法など、共創デザインに関する科目群

2-5) 専門資格科目

専門資格科目群は、人間社会学部 3 学科共通の科目群であり、公認心理師の資格取得を希望する学生向けの科目として配置している。

4. 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)との関連

人間社会学部社会デザイン学科のカリキュラムは、学科ディプロマ・ポリシーを踏まえて構築している。【資料3】「人間社会学部社会デザイン学科 カリキュラムと3つのポリシーの関連図」

<態度>

多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度【国際的視野】

- ①データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などを学ぶことを通して、国内外の多様な人間と社会のあり方や現実空間と仮想空間とが高度に融合した創造社会について理解を深めようとする態度。
- ②国内外の創造社会で発生している様々な問題の解決に貢献しようとする態度。

知を求め、心の美を育む態度【美の探究】

- ①データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などを学ぶことを通して、創造社会と人間のあり方に関して新たな知を創造しようとする態度。
- ②創造社会と人間のあり方に関して、望ましい価値観を探究しようとする態度。

<能力>

学修を通して自己成長する力【研鑽力】

- ①データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などの専門的知識とスキルを身につけ、創造社会の様々な分野で社会人・職業人として活躍することができる。
- ②創造社会における様々な問題について常に興味・関心を持ち、学び続けることができる。

課題解決のために主体的に行動する力【行動力】【学部学科共通】

- ①現代社会における様々な課題について自らテーマを設定し、情報を集め、多角的・総合的に分析することができる。

②課題を解決するために自らアクションプランを策定し、主体的に実践することができる。

相互を活かして自らの役割を果たす力【協働力】〔学部学科共通〕

①自己や他者の役割を理解し、他者と協働しながら自らの役割を果たすことができる。

②課題の遂行や解決にむけて、主体的にリーダーシップを発揮することができる。

第5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法

社会デザイン学科の教育方法はカリキュラム・ポリシーで次のとおり定めている。

<教育方法>

①講義科目では、現代社会の諸課題と最先端の学問動向を分かりやすく講義します。

②PBL(Project Based Learning) 、フィールドワーク、ワークショップ、実験、実習、調査などのアクティブラーニングにより、学生が主体的に学び、考え、実践することのできる授業を行います。

③1年次から4年次までの演習では、アカデミック・スキルを身につけ、ディベート能力やプレゼンテーション能力を高める教育を行います。

④学外の企業や地域との連携を通じて、社会の様々な問題を解決し、よりよい未来をデザインするための教育を行います。

1) 共通教育科目

共通教育科目は、「実践スタンダード科目」「実践アドバンスト科目」「実践プロジェクト科目」及び「教養教育科目」からなる。

1-1) 実践スタンダード科目

実践スタンダード科目には、「実践入門セミナー」「実践キャリアプランニング」「Integrated English a」「Integrated English b」「データサイエンス入門」「情報リテラシー基礎」の7科目が必修科目として配置されている。

1年次に配置され、大学での学びの基礎を学ぶために、「実践入門セミナー」は学部の専任教員が担当し、20人1クラスで授業を行う。「情報リテラシー基礎」は大学での学習活動（レポート・資料等の作成）をはじめ、情報化社会で生活する上で必要な情報リテラシーを学ぶため1クラス40人で授業を行う。「Integrated English a」「Integrated English b」は、英語運用能力をつけ、専門科目の外国語科目と連動する科目であり、1クラス20人で実施する。「実践キャリアプランニング」および「データサイエンス入門」は講義型授業であり、学科単位で授業を行う。

1-2) 実践アドバンスト科目

実践アドバンスト科目は、「キャリア教育科目」「外国語教育科目」「情報リテラシー教育科目」からなる。

「キャリア教育科目」は、講義科目、演習科目、実習科目からなる。「キャリアデザイン」「ビジネスのスキルとマナー」などの講義科目は、履修人数の制限は設けていない一方、「グローバル・キャリアデザイン」などの演習型科目は1クラスの人数を40人以下とする。

「外国語教育科目」は、英語をはじめとした外国語を修得するための授業科目であるので、授業効果を高めるために、1クラスの上限人数を20人～30人とする。

「情報リテラシー教育科目」は、PCを使用した演習型授業であるので、PC演習室の収容人数を1クラスの数とし、40人規模とする。

1-3)実践プロジェクト科目

「実践プロジェクト科目」は、それぞれの授業科目でテーマを設けた課題解決型の授業を行うものであり、それぞれのテーマ、課題の方法により、クラス規模は異なる。

1-4)教養教育科目

教養教育科目は、「健康な体を創る」の実習型授業、「知を拓く」の実践教養講座の演習型授業科目以外は講義型授業科目であり、原則1クラスの上限人数は120人である。

2)専門教育科目

2-1)演習科目

1年次必修である「演習Ⅰ」は1クラス20人規模とし、人間社会学部260名を13クラスに分けて行う。2年次必修の「演習Ⅱa」「演習Ⅱb」はそれぞれ1クラス20人、社会デザイン学科の学生を4クラスに分けて行う。3年次必修の「演習Ⅲa」「演習Ⅲb」及び4年次必修の「演習Ⅳa」「演習Ⅳb」は、1クラス10人程度の規模となるよう、社会デザイン学科専任教員9名全員が1クラスずつ担当する。

2-2)基礎科目

「基礎科目」に配置される、「人間社会学概論」をはじめとする人間社会学部全学生が履修する1年次必修科目は、1クラス140名、2クラスで実施する。履修者数が他の選択科目等に比べて多いが、提示資料、授業運営方法等の工夫により、教育効果を高めるようにする。

また、「外国語科目」の「英語コミュニケーションⅠa、b」「英語コミュニケーションⅡa、b」「英語コミュニケーションⅢa、b」は、1クラス25人を上限となるよう11クラスで実施する。英語コミュニケーションは、2年次であっても人間社会学部全体でクラス分けを行う。

上記以外の授業科目については、選択科目であり、履修者数の上限は定めないが、講義科目が中心のため、提示資料などの工夫により教育効果を高める。

2-3)基幹科目、展開・応用科目

「基幹科目」「展開・応用科目」は、いずれも選択科目であり、学生は各自の興味関心により授業科目を選択する。授業科目の一部である「実践デザインラボⅡ」「広告・PR論」「メディア・ワークショップ」「シリアスゲーム・デザイン演習」「ソーシャル・マーケティング

ング・プロジェクト」などは課題解決型の授業内容であり、教育効果を高めるためには演習型科目とする。

2. 卒業要件

人間社会学部社会デザイン学科の卒業要件は、次のとおりである。

- ①共通教育科目：必修科目 8 単位、選択必修科目 6 単位以上（「人間を究める」「社会を捉える」「自然と環境を探る」の分野から各 2 単位以上）、合計 28 単位
 - ②専門教育科目：必修科目 40 単位、選択必修科目 20 単位以上（「基幹科目」と「展開・応用科目」から合計 20 単位以上）、合計 76 単位
 - ③その他：①、②の要件の他、共通教育科目、専門教育科目の選択科目から合計 20 単位以上
- ①、②、③の要件を満たし、合計 124 単位以上

①の共通教育科目の選択必修は、教養教育科目を満遍なく学ぶために設定した履修要件であり、卒業要件としている。また、②の専門教育科目の選択必修科目は基礎科目のみからではなく、「基幹科目」「展開・応用科目」からの修得を要件としたものである。

3. 履修指導、履修方法

大学に入学した 1 年次に対し、大学での学びの全体像、4 年間の学びの流れ、卒業までに必要な単位数等、授業科目の構成などを掲載した『履修要項』を配布するとともに、履修オリエンテーションを行い、履修指導を行う。また、学生総合支援センター学生総合サポート部には、カリキュラムアドバイザーを配置し、学生の履修相談等に対応する。

またシラバスには、授業のテーマ、授業における到達目標、授業の内容、事前・事後の学修、教科書・教材等、成績評価の方法・基準とフィードバック、参考書が記載されており、学生の授業科目選択の参考として活用している。

履修においては、学生が 4 年間を通して所属するゼミ（実践入門セミナー、演習 I、II a、II b、III a、III b、IV a、IV b）担当の専任教員がアカデミックアドバイザーとなり、履修指導をはじめとする学生生活について助言・支援を行う体制をとる。アカデミックアドバイザーは、各学生の GPA を参考にし、学習目標を設定するなど具体的な履修指導を行う。

各セメスターの履修単位の上限は 22 単位である。CAP 制には緩和要件は設けていないが、卒業要件に含まれない資格科目（学芸員、司書）の履修は CAP 外としている。

4. 履修モデル

社会デザイン学科では、学科の目指す人材育成像と教育課程より、3 つのモデルを策定し、さらに学生の履修希望をアカデミックアドバイザーと相談しながら、履修計画を立てていく。具体的な履修モデルについては、人間社会学部の教育目標を踏まえ、社会デザイン学科

の教育課程の特徴を活かした進路モデルを 3 種類示す。これらの履修モデルは、入学時のオリエンテーションや履修ガイダンスをはじめとする履修指導の機会に学生に提示し、大学の学びを将来の進路と関連付け将来設計をしながら履修計画ができるようにする。

①履修モデル（メディア・イノベーション系）【資料 4】「履修モデル：メディア・イノベーション系」

ソーシャルメディアをはじめとするニューメディアでの社会問題に興味を持ち、「メディア情報学」「メディア心理学」「イノベーション論」などでこの分野の基礎的な考え方や関連知識を学び、「マルチメディア処理」「情報セキュリティ」「メディアデータ分析」「メディア・ワークショップ」などでメディア社会に関わる技術等も学ぶ。将来はマスコミ・メディア関係企業などでの企画・事業開発、メディアデータを活用したアナリストなどをを目指す。

②履修モデル（共創デザイン系）【資料 5】「履修モデル：共創デザイン系」

人間社会での様々な課題を多面的に解決するためことに興味を持ち、「共創デザイン論」「社会情報学概論」「科学技術社会論」「応用倫理学」「国際政治論」などでこの分野の基礎的な考え方や関連知識を学び、「実践デザインラボ I・II」「共創デザイン・プロジェクト」などで共創デザインに関わる体系的な技術を学び、実際に自ら問題解決ができることを目指す。将来は企業における企画・事業開発者、データを用いた新しいサービスの開発・起業家、公務員、NPO 法人・公共分野での社会貢献事業への活動を目指す。

③履修モデル（ソーシャル・データサイエンス系）【資料 6】「履修モデル：ソーシャル・データサイエンス系」

人間社会における様々な社会課題において、データに基づく問題解決に興味を持ち、「社会科学におけるデータと数理」「データに基づく地域創生」「課題解決プロセス基礎」「課題解決プロセス応用」などでこの分野の基礎的な考え方や関連知識を学び、「社会科学データ分析」「社会科学における Web データ収集技術論」「社会調査実習 I・II」「社会科学における AI・機械学習入門」「社会科学における AI・機械学習応用」などでソーシャル・データサイエンスに関する技術や実践力を学び、主体的にデータに基づく問題解決ができることを目指す。将来はシンクタンク、コンサルティング会社でのリサーチャー・データアナリスト、IT・情報系などビッグデータを扱う企業でのデータ分析・プログラマーを目指す。

5. 学修成果の評価方法

社会デザイン学科の評価方法はカリキュラム・ポリシーで、次のとおり定めている。

1. 客観的・総合的評価のために GPA を活用する。

本学の成績評価基準

表記	点数基準	合否	GPA
+A	100 点～91 点	合格	4
A	90 点～80 点	合格	3

B	79点～70点	合格	2
C	69点～60点	合格	1
D	59点以下	不合格	0

また、上記表記とは別に、「合格」「単位認定」等の評価も用いている。

2. 学修到達目標および成績評価の方法・基準を明示し、評価に対する学生と教員との相互理解を深めるようにする。

学修到達目標には、当該授業科目で身につける内容やレベル、ディプロマ・ポリシーに定める能力、態度をどのように身につけるのかが記載され、成績評価の方法では、課題提出、授業内テストなどの割合が示されており、この基準により評価を行う。

また、課題やテストをどのように学生にフィードバックするのもシラバスに記載し、学修成果を高めることとしている。

第6 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる方法として、一部授業科目をオンデマンド型として実施することとする。

本学で行うオンデマンド型授業は、「毎回の授業の実施に当たって、指導補助者が教室等以外の場所において学生等に対面することにより、又は当該授業を行う教員若しくは指導補助者が当該授業の終了後すみやかにインターネットその他の適切な方法を利用することにより、設問解答、添削指導、質疑応答等による十分な指導を併せ行うものであって、かつ、当該授業に関する学生の意見の交換の機会が確保されているもの」のうち、当該授業を行う教員が当該授業の終了後すみやかに設問回答当による指導を行う形態とする。

具体的には、オンデマンド型の授業教材を学習管理システム（Learning Management System。以下、LMS）内に置き、履修学生がその教材にて学習し、不明点などを教員に質問する方式とする。LMSを活用することで、学習状況を把握することもでき、研究倫理に留意しながら学習データ分析により、授業デザインの標準化、最適化も目指す。

またオンデマンド型授業により、学生及び授業担当教員は授業実施の場所を教室に定める必要がなくなり、自由度が高まる。特に、本学ではBYOD（Bring Your Own Device）を実施していることから、オンデマンド型にすることにより履修目標とする学年で学ぶことができ、体系的な学びを実現しやすくなっている。そのほか、プログラミングに関する授業やデータ分析に関する授業においては、情報スキルの個人差が大きい場合もあり、オンデマンドで繰り返し、自分のペースで学習することも可能である。

第7 取得可能な資格

社会デザイン学科では、カリキュラムの特色や養成する人物像を踏まえ、教育課程を履修することで社会調査士の資格が取得可能である。社会調査士は社会調査を学び、実際に社会

調査ができることを示す社会調査協会が認定する民間資格である。なお、本資格は、卒業要件ではなく、資格取得を目指す学生が履修したうえで取得可能な資格である。

資格取得のためには、以下の表から、A から C までの科目をひとつずつ、D については 2 科目のうちどちらか 1 科目、E と F については 3 科目のうちいずれか 1 科目、G は 2 科目を履修すること。

社会調査士資格取得のための科目			
領域	科目	学年	単位
A：社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査概論	1	2
B：調査設計と実施方法に関する科目	社会調査方法論	1	2
C：基本的な資料とデータの分析に関する科目	社会と統計	1	2
D：社会調査に必要な統計学に関する科目	調査・実験データ処理法	2	2
	心理学統計法	3	2
E：多変量解析の方法に関する科目	社会科学データ分析	3	2
F：質的な調査と分析の方法に関する科目	社会言語学	2	2
	フィールドワーク論	2	2
G：社会調査を実際に経験し学習する科目	社会調査実習Ⅰ	3	2
	社会調査実習Ⅱ	3	2
申請に必要なではないが、調査理論の理解の助けにな	社会の基礎数学	1	2
	統計的思考	1	2
	情報リテラシー応用 e	1	2
	データベース基礎	2	2
	情報リテラシー活用	1	2

第8 入学者選抜の概要

1. アドミッション・ポリシー

人間社会学部は学部一括入試を実施するため、アドミッション・ポリシーは人間社会学部共通であり、次のとおりである。

【人間社会学部】

人間社会学部は、グローバル化や情報化が進展し、多様化・複雑化・成熟化する 21 世紀の社会において活躍するために、正解のない多種多様な社会課題に対して、主体的に考え、協働し、意欲的に行動する人を求めます。

入学時に求める学力・態度・汎用能力

- ①現代の人間、社会、ビジネス、及び現実空間と仮想空間とが高度に融合した創造社会の動向に強い関心を持っている人。
- ②自分の考えをしっかりと持ち、他の人と協働しながら、積極的にリーダーシップとフォロワーシップを発揮できる人。
- ③人間社会学部で学ぶ上で必要な英語、国語、地理歴史、公民、数学、情報などに関し、

高等学校卒業程度の学力を身につけた人。

2. 入学者選抜の方法

人間社会学部は学部一括入試を実施するため、社会デザイン学科独自の入学試験は実施しない。2年次進級時に各自が学科を選択し、希望者が多い学科の場合は、1年次のGPAをもとにして学科を振り分ける。

人間社会学部の入学者選抜は、アドミッション・ポリシーを踏まえ、次の選抜方法で、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、入学志願者の能力・意欲・適正等を多面的・総合的に評価・判定する。なお、募集人員は人間社会学部3学科合計の入学定員260名をもとに、各試験の人数としている。

1)【一般選抜】募集人員 98名

アドミッション・ポリシーに定めた「人間社会学部で学ぶ上で必要な英語、国語、地理歴史、公民、数学、情報などに関し、高等学校卒業程度の学力」を評価する。なお、必ずしもアドミッション・ポリシーで定める教科のすべての学力を判定するものではない。本学が作成する試験問題により各教科の基礎学力と英語運用能力を中心に合否を判定する入試方式である。I期、II期の2回に分け実施する。

【I期】(2科目型、3科目型、外部試験利用)

- ・2科目型：英語と選択科目(国語・日本史・世界史・数学)の筆記試験を課すことにより、各教科の基礎学力や英語運用能力を評価する。
- ・3科目型：英語と選択科目(国語、日本史・世界史・生物・化学・数学)の筆記試験を課すことにより、特定の科目に偏ることなく、バランスよく各教科の基礎学力が身につけているかを評価する。
- ・外部試験利用：本学の指定する英語資格・検定試験の成績(スコア)を得点化し英語の筆記試験を受験する場合にはいずれか高得点の方を英語の得点とする。これに加え3科目型入試の選択科目の筆記試験を課すことにより、各教科の基礎学力や英語運用能力を評価する。

【II期】(2科目型、高校時代評価方式)

- ・2科目型：選択科目(英語・国語、数学)のうち2科目を選択させ、各教科の基礎学力を評価する。
- ・高校時代評価方式：高校時代の活動(部活動、ボランティア等)を点数化(50点満点)し、選択科目(英語・国語・数学)のうち2科目を選択させ、主体性・多様性・協働力と各教科の基礎学力を評価する。

2)【大学入学共通テスト利用選抜】募集人員 62名

大学入学共通テストにより、高等学校までの基礎学力を中心に合否を判定する入学方式であり、アドミッション・ポリシーに定めた「人間社会学部で学ぶ上で必要な英語、国語、

地理歴史、公民、数学、情報などに関し、高等学校卒業程度の学力」を評価する。なお、必ずしもアドミッション・ポリシーで定める教科のすべての学力を判定するものではない。

【Ⅰ期】(2科目型、3科目型、外部試験利用)

- ・2科目型：大学入学共通テスト出題教科から選択科目（外国語（英語）、国語、地歴・公民、理科、数学【各100点】）5科目から2科目を選択させ、計200点で合否を判定する。
- ・3科目型：大学入学共通テスト出題教科から外国語（英語）及び国語は近代以降文章を100点満点に換算し、選択科目（地歴・公民、理科、数学【各100点】）3科目から1科目を選択させ、計300点で合否を判定する。
- ・外部試験利用：本学の指定する英語資格・検定試験の成績（スコア）を得点化し、大学入学共通テストの外国語（英語）といずれか高得点の方を英語の得点とする。これに加え2、3科目型入試の外国語以外の筆記試験を課すことにより、各教科の基礎学力や外国語の運用能力を評価する。

【Ⅱ期】

大学入学共通テスト出題教科から外国語（英語）を必須科目として150点に換算し選択科目（国語、地歴・公民、理科、数学【各100点】）4科目から1科目を選択させ計250点で合否を判定。各教科の基礎学力や外国語の運用能力を評価する。

【Ⅲ期】

大学入学共通テスト出題教科から外国語（英語）、国語、地歴・公民、理科、数学【各100点】5科目から2科目を選択させ計200点で合否を判定。各教科の基礎学力や外国語の運用能力を評価する。

【Ⅳ期】

大学入学共通テスト出題教科から外国語（英語）、国語、地歴・公民、理科、数学【各100点】5科目から2科目を選択させ計200点で合否を判定。各教科の基礎学力や外国語の運用能力を評価する。

3)【学校推薦型選抜】募集人員71名

学校推薦型選抜は、指定校推薦、公募推薦、内部（併設校）推薦、卒業生・在学生推薦がある。どちらも「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」を重視する。

- ・指定校・公募推薦は、本学への入学を強く希望し、勉学に明確な目的と意欲を持つ学業・人物とも優秀な生徒を広く全国から募ることを目的とし、高等学校長の推薦に基づき、書類審査、学力試験（小論文）、面接等を用いて合否を判定する。

調査書の評定平均値が本学の定める水準以上であることを出願資格としており、高等学校の教育課程を踏まえた一定の学力水準を担保している。

- ・内部（併設校）推薦は、本学の一貫教育の理念に共感して本学への入学を強く希望する者を対象とし、高等学校長の推薦に基づき、書類審査、学力試験（小論文）を用いて合否を

判定する。一定の成績基準を満たした者を学校長が推薦することにより、相応の学力水準の担保を図っている。

・卒業生・在学生推薦は、本学の教育理念に共感して本学への入学を強く希望する卒業生の子女、在学生の姉妹を対象とし、高等学校長の推薦に基づき、書類審査、学力試験（小論文）、面接等を用いて合否を判定する。調査書の評定平均値が本学の定める水準以上であることが出願資格としており、高等学校の教育課程を踏まえた一定の学力水準を担保している。

4)【特別選抜】募集人員若干名

海外帰国生、社会人入試の募集人数は若干名とし、出願書類、筆記試験（英語、小論文）、面接等により意欲や多様な背景によって培われた思考力、判断力等を総合的に評価する。なお、社会人の基準は、高等学校（中等教育学校を含む）を卒業又は卒業見込みの者で、入学する年度の4月1日現在満26歳以上であるものである。

5)【外国人留学生選抜】募集人員若干名

多様な学習環境を経験した入学者を受け入れるべく外国で教育を受けた日本国籍を有しない者を対象とした入学試験を実施する。具体的な学歴要件は、外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学省の指定した者で、独立行政法人日本学生支援機構が実施する「日本留学試験」のうち、各学科が指定する実施回・科目を受験する者又は受験した者としている。

選抜方法は、「日本留学試験」の結果と面接により意欲・適正・基礎学力等有しているか確認する。また、入学手続き時に留学にかかる経費負担計画書を提出させ、留学するために係る経費をどのように負担するのか確認している。

6)【総合型選抜】募集人員29名

本学への入学を強く希望し、勉学に明確な目的と意欲を持ち、「思考力・判断力・表現力」、「主体性・多様性・協働力」を有する者を受け入れるべく入試として総合型選抜を実施している。出願書類（調査書・エントリーシート）、模擬授業を受講しての課題レポートの提出と口頭試問により合否を判定している。

3. 入学者選抜の実施体制

大学協議会（議長学長）のもとに入試対策委員会を置き、入学者選抜の全学的な方針の策定、入学試験の全般的な実務の調査及び実施にあたっている。

合格者の決定は、学部教授会の議を経て、学長が行う。

一般選抜の入試問題作成及び採点業務については、大学協議会のもとにおかれる入試問題作成委員会において各科目の出題責任者、出題者、採点者等を選定し、学長が委嘱する。

出題及び採点にあたっては、予め定められた手順に則り業務を行うことにより、ミスの防止及び公平性・公共性の確保に努めている。

第9 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 教員組織編成の考え方

人間社会学部社会デザイン学科の目的である、高度情報化する知識基盤社会に求められるソーシャル・データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などを中心とする専門的な知識・理論を学び、社会情勢・環境が変化し続ける創造社会で発生する諸問題を解決できる能力を修得し、社会で主体的に活躍し貢献できる人材の育成を実現するために、「組織として研究対象とする中心的な学問分野」に掲げた社会学、統計科学、データサイエンス、社会情報学、情報科学、メディア学などについて幅広い専門知識を教授できる教員組織を編成し、9名の専任教員を配置し、本学部各学科における大学設置基準上の必要教員数を満たしている。このうち8名が博士の学位を有しており、学位における分野は、経営学1名、社会情報学1名、理学2名、工学2名、生命科学1名、学術1名である。

社会デザイン学科の教育課程は、展開・応用科目群において「ソーシャル・データサイエンス科目群」「メディア・イノベーション科目群」、「共創デザイン科目群」の3つの分野に分かれている。専任教員の配置についても、この3つの分野を中心にそれぞれ3名の教員を配置することとした。

専任教員9名のうち、人間社会学部人間社会学科から移籍する教員が2名、新規採用する教員が7名である。7名の教員のうち、令和6年(2024年)4月に着任する教員が5名、令和7年(2025年)4月に着任する教員が2名である。

2. 教員組織の特色と教員配置

社会デザイン学科の教員組織は、いずれの教員も社会科学と情報科学に関する高い研究能力を有しており、学生の教育はもとより研究活動についても高度なレベルでの発表等が行える点に特色がある。またそれぞれ各系の分野の科目だけを担当するのではないが、以下に主に担当する系の教員として教員配置を示す。

1) ソーシャル・データサイエンス系科目を主に担う教員

氏名	研究分野	研究内容のキーワード
林 篤裕	情報科学、教育学	計算機統計学、教育工学、高等教育論、論理的記述論
竹内 光悦	統計科学、行動計量学、統計教育	統計的思考力、データサイエンス教育
今田 一希	統計科学、データサイエンス	数理統計学、データの可視化、データのモデル化

2)メディア・イノベーション系科目を主に担う教員

氏名	研究分野	研究内容のキーワード
児玉 充	経営学、情報学、社会学	戦略経営、イノベーション、デジタル革新、社会ネットワーク
板倉 文彦	情報学、経営学	企業の創造性と組織、女性のキャリア教育、リスクリング
田中 瑛	社会学、メディア・ジャーナリズム研究	ジャーナリズム、メディア、声なき声、公共性、真正性

3)共創デザイン系科目を主に担う教員

氏名	研究分野	研究内容のキーワード
佐倉 統	科学社会学、進化生物学	進化生態情報学、科学コミュニケーション、人間と機械、技術と社会の共生
標葉 靖子	科学技術社会論、コミュニケーション・デザイン	対話デザイン、シリアスゲーム、ジェンダー・イノベーション
筒井 晴香	哲学、応用倫理学	自動運転技術の倫理的・法的・社会的課題、ジェンダー、サブカルチャー

3. 教員組織の年齢構成

人間社会学部社会デザイン学科の教員組織構成は、設置時には、教授5名、准教授2名、専任講師2名の9名である。本学教育職員就業規則第22条に「教員の定年は70歳とし、定年に達した月の属する会計年度の末日をもって退職とする。」と規定されているが、社会デザイン学科では完成年度令和9年（2027年）度前に定年に達する者はいない。【資料7】「実践女子大学・実践女子大学短期大学教育職員就業規則（抜粋）」

各教員の年齢は、完成年度となる令和9年度（2027年度）末の時点で70歳以上が1名、65歳以上が2名、60歳以上が1名、50歳代が1名、40歳代が2名、30歳代が2名とバランスがとれており、中期的にみても継続的に教育研究を実施できる体制である。

第10 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学では、教員の研究活動を積極的に支援するために、実践女子大学研究推進機構（機構長は副学長）を設置し、事務組織として研究推進室研究推進課がある。

また研究推進機構のもとには、本学の教育研究の理念を実現するために、文芸資料研究所、香雪記念資料館及び下田歌子記念女性総合研究所の3つの研究組織を設け、それぞれに専任教員を配置している。

研究活動の実施するための施策等を検討、決定する研究推進機構会議があり、機構会議の

構成員は、学長、副学長、各学部長、各研究所長、研究推進室部長である。

教員の研究活動を支援するための補助制度として、プロジェクト研究所、国内国外研修制度、学術研究図書出版助成などの他、研究活動支援のための研究費制度を設けており、研究推進課が所掌している。

また、科学研究費補助金の獲得に向けた支援も積極的に行い、不採択であっても翌年度の再申請に向け研究補助を行っている。

現在、URA は配置していないが、研究活動の支援や他機関との共同研究や受託研究などの取り扱いは研究推進室が、また学外諸機関との連携を進める際には、学園経営企画室内にある社会連携推進室がサポートを行っている。

第11 施設、設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

本学の校地、運動場については、日野キャンパス及び渋谷キャンパスがあり、日野キャンパスには、生活科学部が教育研究を行う校舎等を置くとともに、大学全体の運動施設として、運動場、テニスコートの他体育館を設置している。

本学の校地は、東京都日野市の日野キャンパスとして大坂上校地と神明校地がある。大坂上校地では、主に生活科学部の教育研究に使われるとともに、運動施設として体育館、グラウンド及びテニスコートを有している。また、神明校地には教育倉庫の他、運動場としてソフトボール等を行う人工芝グラウンドと、サッカーやラグロスなどに供する通常芝のグラウンドを有している。

一方、人間社会学部が教育を行う渋谷キャンパスは、校地面積 4,707 m²に、地上 17 階、地下 1 階の高層棟の校舎（校舎面積 24,527.28 m²）を設置している。渋谷キャンパス校舎は、創立 120 周年記念館として平成 26 年（2014 年）に竣工し、同年 4 月より文学部（国文学科（448 名）、英文学科（448 名）、美学美術史学科（364 名））、人間社会学部（人間社会学科（400 名）、現代社会学科（400 名））、実践女子大学短期大学部（日本語コミュニケーション学科（160 名）、英語コミュニケーション学科（200 名））及び大学院文学研究科、人間社会研究科が学ぶ場としてきた。社会デザイン学科設置後は短期大学部を廃止することから大学のみが使用するキャンパスとなる。

校舎の南側には屋外テラスを設け、創立 120 周年記念館 1 階と連続した憩いのスペースとなっている。また、校舎外には、小さいながらも遊歩道を整備し、散策ができるものとしている。また、校舎 10 階には屋上庭園も整備し、ハーブ等の植栽も整備している。

渋谷キャンパスには運動施設がないため、運動系活動では、日野キャンパスの施設を使用することとしている。なお、渋谷キャンパスから日野キャンパスまではおおよそ 1 時間で移動が可能である。

2. 校舎等施設の整備計画

渋谷キャンパスには、講義科目の授業を実施する 30 名～385 名を収容できる講義室 42 室あり、それぞれの広さに応じてプロジェクトや液晶ディスプレイなどの教育用機材を設置している。社会デザイン学科の授業科目の講義型及び演習型の科目であり、既存の教室及び施設で授業の実施に支障はない。また、少人数のゼミや外国語科目などを実施するための演習室が 17 室あり、少人数教育に対応可能である。さらに PC 演習室（3 室）を設けている。

人間社会学部社会デザイン学科の設置により 1 学科増えるが、これまで渋谷キャンパスに設置していた文学部、人間社会学部と学問分野も同じ座学を中心とした教室利用となり、また短期大学の学生募集を停止し、短期大学部入学定員をもって大学の入学定員を増加するものであり、講義室をはじめとする施設設備に不足はない。【資料 8】「社会デザイン学科授業時間割表」

学生の教育に直結する ICT 環境は、渋谷キャンパスでは平成 26 年（2014 年）の渋谷キャンパス開設時から計画的に整備を進めており、現在は BYOD(Bring Your Own Device)に対応して無線 LAN 環境の充実、携帯型ルーターの整備などを行っており、PC の設置台数は漸減しているが、教育環境の劣化とはなっていない。

社会デザイン学科の設置により、高層階（11 階から 16 階）に設置されている専任教員の研究室が同時に設置する国際学部及び人間社会学部社会デザイン学科の教員数が増えるため、11 階エリアを改修し、研究室を増やし、専任教員には 1 人 1 室の研究室が使用できるようにする。

3. 図書等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書館の規模、機能

本学図書館は、日野キャンパス図書館及び渋谷キャンパス図書館の 2 館からなる。

図書館の開館は、通常授業期間の平日は 8 時 30 分～19 時 30 分、土曜日は 8 時 30 分～17 時である。授業時間は平日が 9 時～18 時 40 分、土曜日は 9 時～12 時 35 分（一部の科目が 14 時 55 分まで）であり、授業開始 30 分前から開館するとともに、授業時間終了後も利用できる。

平成 26 年（2014 年）4 月に渋谷キャンパスに文学部、人間社会学部及び実践女子大学短期大学部が移転し、教育展開を始める際に、それまで日野キャンパス及び短期大学図書館（日野市）にあった図書館資料のうち、渋谷キャンパス図書館に収蔵可能な範囲で資料を移転した。渋谷キャンパスに移転できなかった資料については、日野キャンパス図書館に保管している。

渋谷キャンパスと日野キャンパスの間は 1 日 1 往復の学内便による移送を行っており、利用者が他キャンパスの資料を予約し取り寄せることが可能となっている。

本学図書館は原則開架式であり、すべての学生が自由に書架に出入りし、資料の閲覧が可能となっている。

2) 図書の整備 整備冊数

図書館の蔵書は、渋谷キャンパス、日野キャンパスを合わせた図書館全体で、日本語図書資料が 76 万冊ある。渋谷キャンパス図書館の総収蔵書数は約 30 万冊であり、図書館 2 階に芸術・美術、言語、文学関係の図書、百科事典・語学辞典などの参考図書、美術書や地図などの大型図書本、教員が授業等に関して指定した指定図書などが配架されている。3 階には総記、哲学、歴史、社会科学を中心に自然科学、技術工学関係の図書、書誌、新書などを配架している。地下 1 階には、比較的出版年の古い図書や洋図書、洋雑誌などが集密書架に所蔵している。社会デザイン学科は、グローバル社会において社会の様々な問題解決力を養う「共創デザイン力」、社会課題を視覚化する「データ分析力」、メディアを活用した「価値想像力」の 3 つの能力養う点ことから、これらの分野に関する基本的図書 1 千冊を完成年度までに整備する（令和 5 年（2023 年）度から令和 9 年（2027 年）度まで各年 200 冊）。外国語図書についても既存資料の活用の他今後は紙資料ではなく、最新の図書 20 万冊が入替・追加されながら提供されるサブスクリプション型の電子書籍サービス（候補：ProQuest eBook Central、EBSCO eBooks 等）を年間購読し提供していく予定である。

3) 学術雑誌、データベース、電子ジャーナル等の整備計画

社会デザイン学科は、既存の人間社会学部の他学科とは異なる分野を含み、コアジャーナルの選定が非常に難しいため、外国語雑誌については、単独誌を所有するのではなく、アグリゲータ 3 社（ProQuest、EBSCO、Gale）が提供する万単位の雑誌コンテンツを収録するデータベースを年間購読し対応する。また、目まぐるしく変化する世界各地の情勢や日々の国際ニュースを得られるように、既存契約している世界の新聞・雑誌数千紙を読むことができる PressReader も継続提供していく。【資料 9】「主な学術洋雑誌（社会デザイン学科関係）」

4) 図書館の閲覧室、閲覧隻数

渋谷キャンパス図書館は、フロアにより静寂エリアと会話等が可能なエリアにゾーニングし、閲覧座席数は、283 席（PC ルーム、グループ学習室を含む。）である。既存の静寂な閲覧室ではなく、PC ルームが 1 室、グループ学習室 1 室を設置している。PC ルームにはパソコンが 30 台設置されており、プレゼンテーション等にも利用できる。グループ学習室には、テーブル付の可動式椅子を 20 脚設置し、図書館資料を用いてのグループ学習を可能としている。

5) 他の大学との協力

渋谷キャンパスの近隣大学との協定を締結しており、渋谷 4 大学図書館協定では、國學院大學、青山学院大学、聖心女子大学と連携協定を締結し、また同様に渋谷地区の、清泉女

子大学と相互利用協定を締結して、相互の蔵書を利用できる。また、図書館を通じた学生の交流も進めていく。

第12 管理運営及び事務組織

本学では、各学部教授会の他、各学部教授会構成員全員からなる全学教授会を設置し、それぞれの役割が、実践女子大学教授会規程及び人間社会学部教授会運営規程で定められている。また、学科の学務に係る重要な事項に関して審議する学科会議を設けている。

1. 人間社会学部教授会

- 1) 構成員 人間社会学部に所属する専任の教授、准教授、講師及び助教
- 2) 開催日 原則として毎月第2木曜日（夏期休業期間を除く）
- 3) 審議事項 実践女子大学人間社会学部教授会運営規程において、教授会は次の事項を審議すると規定されている。

- (1) 教員の人事に関する事項
- (2) 学部の授業科目等カリキュラムに関する事項
- (3) 学生の入学、休学、復学、卒業等学生の身分に関する事項
- (4) 学生の試験、学習評価及び単位修得に関する事項
- (5) 学生の賞罰及び学生支援に関する事項
- (6) その他学部の教育、研究及び運営に関する重要事項

【資料10】「実践女子大学人間社会学部教授会運営規程」

2. 全学教授会

- 1) 構成員 学部の全専任教授。必要ある場合は、准教授、専任講師、助教及びその他の職員を加えることができる。
- 2) 開催日 年間3回～4回程度（年度初め、年度末、その他重要事項審議時）
- 3) 審議事項 全学教授会は、次の事項を審議し、学長に意見を述べることができる。

- (1) 学長の候補者に関する事項
- (2) 学則の制定に関する事項
- (3) 教育研究に関する事項
- (4) 学科・教育研究の施設に関する事項
- (5) その他学長が必要と認める事項

【資料11】「実践女子大学教授会規程」

3. 大学協議会

本学の教学関係管理・運営に関する事項を審議し、学長が教学の重要事項を決定するに当たり、教授会等の意見を聴き、十分に協議を行うために実践女子大学協議会を置く。

- 1) 構成員 学長、副学長、各学部長、各研究科委員長、大学教育研究センター長、学生

総合支援センター長、教学事務局長、学長室部長、学生総合支援センター副センター長、国際交流推進部長、研究推進室部長、その他学長が必要と認めた者

- 2) 開催日 原則、毎週水曜日
- 3) 審議事項
 - (1)理事会付議事項である学部・学科・研究科・専攻の設置及び廃止並びに定員に関する事項
 - (2)理事会付議事項である学則の改廃に関する事項
 - (3)常任理事会付議事項である教学関係規程の制定及び改廃に関する事項
 - (4)教員人事計画及び教員の採用・昇任に関する事項
 - (5)学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
 - (6)奨学金に関する事項
 - (7)授業の内容及び授業方法の改善と向上を目的としたファカルティ・ディベロップメントの基本方針に関する事項
 - (8)教育研究活動等の効果的な運営のための、教職員の能力及び資質の向上を目的としたスタッフ・ディベロップメントの基本方針に関する事項
 - (9)前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する事項で、学長が予め教授会等の意見を聴取することが必要と認めた事項
 - (10)第1号から第8号に掲げるもののほか、教授会等が審議し学長に提出された意見のうち、学長が審議が必要と認めた事項
- 4) 決定 学長は、大学協議会で審議された事項を参酌し、決定する。
【資料12】「実践女子大学協議会規程」

4. 学科会議

学科会議は、学科の学務に係る重要な事項に関し審議をし、学科主任は学長・学部長・教授会に報告、提案する。

- 1) 構成員 社会デザイン学科に所属する専任の教授、准教授、講師及び助教
- 2) 開催日 原則として毎月第2木曜日（夏期休業期間を除く）
- 3) 審議事項 学務に係る重要な事項

5. その他委員会

学生の教育、学生支援に関する重要事項を決定するために、教授会のほかに下記委員会等を置く。

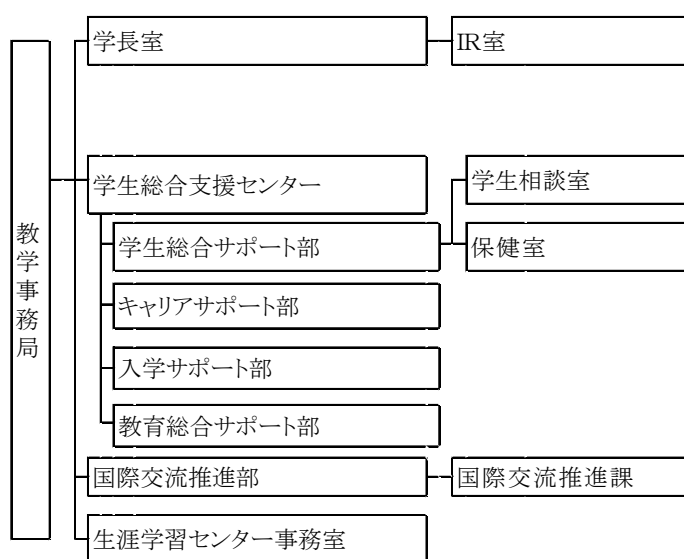
- ・大学教育研究センター委員会
- ・学生生活支援委員会
- ・入試対策委員会
- ・言語文化教育研究センター運営委員会

- ・図書委員会
- ・自己点検・評価委員会

6. 教学事務組織

教学事務組織は、学長室、学生総合支援センター、国際交流推進部、生涯学習センター事務室からなる。

学生総合支援センターは、学生総合サポート部、キャリアサポート部、入学サポート部及び教育総合サポート部を統括する。



第13 自己点検・評価

自己点検・評価については、大学学則第2条に、「本学は、その教育研究水準の向上を図り、本学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検、評価を行うこととする。」、さらに第2条第2項にて「前項の点検、評価の方法等については、別に定める。」と規定し、「実践女子大学自己点検・評価に関する規程」を定めている。また、自己点検及び評価を行った結果を、教育研究の水準の向上に向けた指標の作成や達成状況、改善に向けて取り組むこととしている。

実践女子大学自己点検・評価に関する規程で、自己点検・評価の組織として大学自己点検・評価委員会を置くとともに、本学の自己点検・評価の客観性・公平性を担保するために、学外有識者によって組織する外部評価・助言委員会を置く。【資料13】「実践女子大学自己点検・評価に関する規程」

1. 実施体制

1) 大学自己点検・評価委員会

本学の自己点検・評価全体を統括し、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1)自己点検・評価の基本方針及び実施要領の策定に関する事項
- (2)自己点検・評価の実施に関する事項
- (3)各学部及び大学院各研究科等の自己点検・評価委員会（以下「部門会議」という。）への連絡、調整に関する事項
- (4)各部門会議の自己点検・評価結果の総括及び大学全体の自己点検・評価報告書の作成に関する事項
- (5)前号に基づく実践女子学園自己点検・評価委員会(以下「学園自己点検・評価委員会」という。)及び大学協議会への報告
- (6)その他本学の自己点検・評価に関する事項

2)各学部自己点検・評価委員会(部門会議)

部門会議の構成は、次のとおりとする。なお、国際学部設置後は、国際学部自己点検・評価委員会を設ける。

- (1)文学部自己点検・評価委員会
 - (2)生活科学部自己点検・評価委員会
 - (3)人間社会学部自己点検・評価委員会
 - (4)大学院文学研究科自己点検・評価委員会
 - (5)大学院生活科学研究科自己点検・評価委員会
 - (6)大学院人間社会研究科自己点検・評価委員会
- また、部門会議は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1)各学部（課程・研究所を含む。以下同じ）及び各研究科等の自己点検・評価の実施
- (2)自己点検・評価結果の報告書の作成及び大学自己点検・評価運営委員会への提出
- (3)自己点検・評価結果に基づく検証及び活用
- (4)その他各学部及び各研究科等の自己点検・評価の実施に関すること

3)外部評価・助言委員会

本学の自己点検・評価の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させることを目的として実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部外部評価・助言委員会を置く。

外部評価・助言委員会は、本学の教育・研究活動等の現状を把握し、将来の発展のために、次の事項について、評価・助言を行う。

- (1)本学の教育活動に関する事項
- (2)本学の研究活動に関する事項
- (3)本学の社会貢献活動に関する事項
- (4)その他学長から諮問された事項

【資料 14】「実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部外部評価・助言委員会に関する規程」

2. 自己点検・評価方法

各学部自己点検評価委員会は、大学自己点検評価委員会の定める方針に基づき、毎年自己点検・評価を行う。

- ①点検・評価項目ごとの現状説明（新たな取組の有無、継続している取組の成果などを含む。）
- ②評価が上がっている事項
- ③改善すべき事項
- ④達成目標、目標達成の指標及び進捗状況

各学部自己点検評価委員会の評価内容を大学自己点検評価委員会が確認するとともに、外部評価助言委員会の報告し、評価・助言を得、大学の教育研究水準の向上に活用する。

3. 認証評価

本学がこれまで実施してきた自己点検・評価に関する報告書の公表実績は次のとおりである。

- ・平成 18 年（2006 年）度 財団法人大学基準協会 相互評価
- ・平成 25 年（2013 年）度 公益財団法人大学基準協会 大学評価（認証評価）
- ・令和 2 年（2020 年）度 公益財団法人大学基準協会 大学評価（認証評価）

令和 2 年の大学評価の評価結果は、「適合」判定で、提言として長所が 2 点、改善課題が 5 点が付され、是正勧告はなかった。

主な長所は、「J-TAS」による学生支援の取組、教育研究等の機会を広く提供し、広範な研究成果につながる取組であった。

改善課題としては、教育課程の編成・実施方針に教育課程の実施に関する基本的な考え方が示されていない、学習成果の把握・評価が多角的かつ適切な実施、人間社会学部への入学人数比率が高い、大学院の定員管理を徹底する、大学院の FD を適切に実施することが提示された。

第14 情報の公表

本学では、学校教育法第 113 条、学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、教育研究活動の基本情報について、本学ウェブサイト上の「情報公表」に取りまとめ、公表するとともに、それぞれ必要な情報を Web に公開している。

ア 大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること

大学の教育研究上の目的は、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期

大学部) > (1) 教育研究体制>実践女子大学の教育研究所の目的 に掲載している。

https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-03.html

大学の建学の精神並びに教育の理念に関しては、大学案内>建学の精神と教育理念 に掲載している。

<https://www.jissen.ac.jp/about/spirit/index.html>

また、大学全体の3つの方針については、大学案内>3つの方針 に掲載している。

<https://www.jissen.ac.jp/about/policy/index.html>

各学部学科の3つの方針は、それぞれの学部のHPの「3つの方針(ポリシー)」の下に各学科の方針にリンクが貼られている。

イ 教育研究上の基本組織に関すること

基本組織は、情報公表>教育研究活動に関する情報(大学、大学院、短期大学部) > (1) 教育研究体制>設置学校・学部・学科・大学院研究科等 [PDF] に掲載している。

ウ 教員組織, 教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員組織に関しては、情報公表>教育研究活動に関する情報(大学、大学院、短期大学部) > (1) 教育研究体制>教員組織および教員の学位(実践女子大学) [PDF] に掲載している。

また教員の業績については、教員組織に関しては、情報公表>教育研究活動に関する情報(大学、大学院、短期大学部) > (1) 教育研究体制>研究者情報データベース(実践女子大学・実践女子大学短期大学部) からアクセスできる。

<http://gyoseki.jissen.ac.jp/search/index.html;jsessionid=684FD5DC3089DA53CE2B6864ED5A168F?lang=ja>

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数, 収容定員及び在学する学生の数, 卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

入学者に関する受入れ方針は、情報公表>教育研究活動に関する情報(大学、大学院、短期大学部) > (1) 教育研究体制>大学の3つの方針(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)のもとに、各学部学科の入学方針を掲載している。

収容定員及び在学する学生数は、大学案内>学生・生徒の在籍状況、収容定員充足率、社会人学生数教育研究活動に関する情報(大学、大学院、短期大学部)に掲載している。

<https://www.jissen.ac.jp/about/data/index.html>

卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関することは、情報公表>教育研究活動に関する情報(大学、大学院、短期大学部) > (2) 学生に関する情報>卒業者数、学位授与数に各年度の卒業生数、学位授与数を掲載している。

進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関することは、情報公表>教育研

究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（2）学生に関する情報＞進路データに掲載している。

<https://www.jissen.ac.jp/career/data/index.html>

オ 授業科目, 授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞大学、大学院及び短期大学部で開設している科目のシラバス（教育内容・方法、授業計画、成績評価方法等を含む。）＞科目一覧及び講義概要（シラバス）からそれぞれ科目区分、学部学科の授業科目について閲覧することができる。

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞大学、短期大学部の学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に掲載している。

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞施設案内からアクセスすることができる。

ク 授業料, 入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞学費・奨学金からアクセスすることができる。

ケ 大学が行う学生の修学, 進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

学生支援に関することは、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（2）学生に関する情報＞学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援からアクセスすることができる。

コ 学位論文に係る評価に当たっての基準

学位論文に係る評価に当たっての基準は、情報公表＞教育研究活動に関する情報（大学、大学院、短期大学部）＞（1）教育研究体制＞大学院研究科の3つの方針（ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー）＞審査基準からアクセスすることができる。

サ その他(教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報, 学則等各種規程, 設置認可申請書, 設置届出書, 設置計画履行状況等報告書, 自己点検・評価報告書, 認証

評価の結果 等)

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報は、情報公表>教育研究活動に関する情報(大学、大学院、短期大学部)>(1)教育研究体制>大学、短期大学部の教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報に掲載している。

・学則等各種規程は、情報公表>教育研究活動に関する情報(大学、大学院、短期大学部)>(1)教育研究体制>に学則及び学位に関する規程を掲載する。また、その他の規程等は、学園例規集として、掲載している。

<https://www.jissen.ac.jp/reiki/>

設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書は、情報公表>1学園の基本情報>設置認可申請書・設置届出書・履行状況報告書として掲載している。

自己点検・評価報告書、認証評価の結果は、情報公表>7.自己点検・評価及び外部評価に関する情報>大学評価 のもとに掲載している。

https://www.jissen.ac.jp/about/information_disclosure/07-01.html

第15 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

本学では、大学教育研究センターを設置し、全学の教育に係る諸施策の立案及びその推進を図り、共通教育の企画・運営を行っており、合わせて、当センターが本学の教育内容及び授業方法等の改善と向上を目的として、大学協議会の方針に基づき、ファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」という。)を推進する。(大学教育研究センター規程 第2条)

人材育成の目標と取組を次のように毎年度定め、計画的にFD・SDを実施する。

1. FD

- ①社会で活躍できる基礎力を持ち、社会を変革していくチャレンジ精神を持った学生の育成を目指し、授業方法や授業内容の改善のための取組を進める。
- ②授業アンケートを実施し、授業内容等を点検し学生へのフィードバックを行う。
- ③本学のアセスメント・ポリシーを踏まえ、適正な成績評価が行われているか検証し、あるべき評価方法について検討する取組を進める。

2. SD

- ①中期計画に掲げる学生支援(修学支援・生活支援・進路支援)に基づき、今後のキャリア形成についての施策について教職員で共有し、取組を促進する。また、悩みを抱えている学生からの相談対応等、多様な学生の支援を充実させる。
- ②科研費等の外部資金獲得のための取組を進める共に、研究の信頼性・公正性を担保するためのコンプライアンス・研究倫理に関する取組を進める。
- ③本学の内部質保証の一層の推進を図る(第3期認証評価結果の指摘に関する改善と点検・評価)。また、教育プロジェクトの成果報告により、新たな取組を共有して教育全体の質向上をはかる。
- ④本学での社会連携について、現状を報告するとともに、具体事例を紹介し、連携を促進

する。

- ⑤大短・中高の教職員が交流する機会を設定することにより、中高大短の交流機会を拡大し、高大連携を活性化する。
- ⑥その他、情報セキュリティの向上等の取り組みを進める。

上記を踏まえ、具体的には次のような取組を行う。

- ・授業改善：学生の主体的な学びの促進【FD①③：FDワーキンググループ】
（対象：全教員、関係職員）
- ・授業アンケート【FD②：大学教育研究センター、短期大学部運営委員会、教務課】
（対象：授業担当教員）
- ・キャリア形成支援【SD①：学生総合支援センター】（対象：全教職員）
- ・多様な学生支援【SD①：学生総合支援センター】（対象：全教職員）
- ・研究費マニュアル説明会【SD②：研究推進室】（対象：新任教員・研究者および希望者）
- ・教員業績システム説明会【SD②：研究推進室】（対象：新任教員および希望者）
- ・科研費申請に関する講演会【SD②：研究推進室】（対象：全教員・研究員）
- ・コンプライアンスに関する講演会【SD②：研究推進室】（対象：全教職員・研究員）
- ・知的財産権に関する講演会【SD②：研究推進室】（対象：全教職員）
- ・内部質保証の推進（改善と点検・評価について）【SD③：学長室】
（対象：学部長・学科課程主任、センター長および事務部門の管理職）
- ・教育プロジェクト報告会【SD③：学長室】（対象：全教職員）
- ・社会連携【SD④：社会連携推進室】（対象：全教職員）
- ・高大連携【SD⑤：学長室・中高総務部】（対象：全教職員 ※中高教員含む）
- ・情報セキュリティ（情報漏えいリスク等）【SD⑥：情報センター】（対象：全教職員）

第16 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組

本学の教育課程は、学部学科の所属に関わらず全学学生が履修する共通教育科目と、各学部学科の専門教育科目からなる。

本学共通教育科目は、「実践スタンダード科目」「実践アドバンスト科目」「教養教育科目」からなり、社会的・職業的自立を図るための授業科目として、「実践スタンダード科目」に置く「実践キャリアプランニング」を全学生が1年次に履修する必修科目としており、授業科目の内容は、次のとおりである。

これまでの社会を形成してきた、女性を取り巻く環境の推移や実態についての理解を深め、そして将来を見据え、これからの時代における仕事とは、また仕事と家庭の両立などについて考えていく。大学卒業後、仕事・結婚・子育てなどの大きなライフイベン

トにどう対応していくか、人生にとって重要な判断をしなければならない。その判断材料としての事例紹介やロールモデルに登場してもらい、より身近に社会や仕事を実感し、自らのキャリア形成に役立てていく場としていく。

また、「実践アドバンス科目」には選択科目として「キャリアデザイン」「グローバル・キャリアデザイン」「短期インターンシップ」「長期インターンシップ」「ビジネスのスキルとマナー」「国際理解とキャリア形成」「女性とキャリア形成」「キャリア・ショーケース」「ライフデザイン」「実践企業分析論」「実践企業分析論演習」を配置している。さらに、海外インターンシップを奨励することから、「海外短期インターンシップ」「海外長期インターンシップ」の科目を配置している。

これらの授業科目の運営には、文学部国文学科及び英文学科に所属するキャリア教育を専門とする教員と、大学教育研究センターの特別任用教員1名が中心となっている。

国際学部の専門教育科目には、次の科目を置き、学生の興味関心に応じて選択履修ができるように考えている。専門科目には、本学部の人材育成ではグローバル化社会で活躍できる人材の育成を目的としており、学部の目的の実現のため「国際的なキャリアを築いていくことを念頭におきながら、日本企業とグローバル企業等における採用、配置、雇用等、人的資源管理を比較し、国際的なキャリア形成へと向けた知識を修得することを目標とする」授業科目として、「国際キャリア論」を配置する。さらに、国際学部の専門的知識を活かせるインターンシップとして、「国内インターンシップa～d」を配置し、空港、ホテル、公共機関、教育機関でのインターンシップ先をそれぞれ用意し、実務経験を積めるようにする。

2. 教育課程外の取組

本学では、「学生の自信を高め、成長を実感できる支援の実現」するために、J-TAS (Jissen Total Advanced Support) を導入し、入学前から卒業後まで、学生一人ひとりの個性を大切にしたい個別支援体制を構築している。(資料 J-TAS が目指す支援と事例紹介) HP の図

1) 学生の成長支援

○学生が主体となって行動・経験する「アクション総量を増やす」

J-TAS の特徴の一つとして、全学を挙げて学生の実践的な成長機会の提供を行っている。これら正課内外の活動に学生が主体的に参加することで、特に低学年からのアクション総量を増やすことを目指している。

本学のこれまでに次のようなプロジェクトを用意し、学生の参画を促してきた。

- まちの居場所研究所
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピックプロジェクト
- 実践女子大学の学生が選んだ本
- 「日野レッドドルフィンズ」サポーターマスコットの企画

- 公益財団法人日本相撲協会公式グッズデザイン開発
- 空港インターンシップ（科目外）
- 最先端プリンタを活用した創発事業の開発
- 多世代交流かるたプロジェクト
- 高大連携プログラムの開発
- 近隣小学校英語レッスン
- 栄養相談ボランティア
- J-ミッション
- J-STAFF
- 渋谷のラジオ出演
- 顧客視点を取り入れた「観光・レジャー施設」の改善策
- 国連大学研修生と市民交流
- コロナ禍の化粧品開発

○行動を振り返り次につなげる「リフレクションと教職員のフィードバック」

J-TAS の 2 つ目の特徴として行動・経験したことを、自分の履修やライフプランに落とし込むための、リフレクション（振り返り）を重視している。自分自身の目標に照らして行動できたか、次の課題・目標は何か、今回成長したポイントは何かなど、自分自身の行動や経験から得られた「成長実感」をアウトプット（言語化）することを支援している。各学生のリフレクションに対して、教職員によるフィードバックを行っている。

2) 低学年からのキャリア志向

成長診断テスト（PROG テスト）の実施

自分の強み、弱みなどを客観的に知るために、成長診断テストで社会から求められるジェネリックスキルを定期的に測定し、自身の今を確かめ、これから必要な力を理解する。

3) 社会連携活動

社会の様々な問題を解決するための取り組みを学生とともにしている。大学の所在地である渋谷区や日野市と連携した地域活性化を図る活動や自治体との連携による研究、企業との連携による新商品開発など、実社会で学びを発展させる活動を実施している。

例) 東京都日野市、東京都渋谷区、岐阜県恵那市、岩手県久慈市、京都府京都市、富士ゼロックス株式会社、株式会社東京サマーランド、公益財団法人日本相撲協会

4) 学科別就職ガイダンス

大学 3 年生を対象とした、全員参加型の学科別就職ガイダンスを実施している。学部・学科の特性に応じた就職活動の進め方をレクチャーし、より効果的かつ効率的な就職活動が

出来るようサポートを行っている。

5)OG 懇談会

在学生を対象に、卒業生を学内に招き「OG 懇談会」を開催している。卒業生の就職活動の経験談、現在の仕事のやりがい、働くことで得た価値観などの話を通じ、仕事や社会についての理解を深めている。

6)就職支援講座

キャリアサポート部では、就職支援として様々な講座を企画し、実施している。

進路を考える

- ・ 仕事体験講座
- ・ 一日企業見学会
- ・ 学科別就職ガイダンス
- ・ 自己分析講座

仕事を考える

- ・ 良い企業の見分け方
- ・ OG 懇談会

就職を考える

- ・ 就職ガイダンス（全5回）
- ・ 筆記試験対策
- ・ マナー講座
- ・ 履歴書・エントリーシート対策
- ・ 面接対策講座
- ・ 学内企業セミナー
- ・ 業界研究講座
- ・ オリエンテーション
- ・ 個別相談
- ・ 学内企業セミナー
- ・ フォローアップ講座
- ・ ハローワーク求人紹介会
- ・ 求人紹介会
- ・ 学内選考会

7)UIJ ターン就職へのサポート

本学では地方出身者も多く在学し、UIJ ターン就職を希望する学生も数多くおり、また地方都市では、首都圏の大学を卒業して地元で就職する学生へのニーズが存在している。本学

ではそのような地方自治体と協定を結び、就職を希望する学生の活動を支援している。

現在、就職包括協定を締結している自治体等は次のとおりである。

山梨県、群馬県、長野県、新潟県、栃木県、福島県、札幌市、福岡県、愛知県、静岡県
サポート内容は、地方の企業が参加する、学内での合同就職面接会の開催や、面接時の交通費・宿泊費の補助などがあります。

3. 適切な体制の整備

学生の社会的・職業的自立を図るため、以下の取組を行っている。

1) 学内にキャリア教育を主とする専任教員の配置

キャリア教育担当教員として、文学部に2名（国文学科1名、英文学科1名）の専任教員を配置するとともに、特別任用教員として大学教育研究センターにキャリア教育担当として1名を配置している。キャリア教育担当教員（文学部2名、大学教育研究センター1名）は、全学の共通教育科目のキャリア教育科目の編成、実施に係るものであり、人間社会学部のキャリア教育も担当する。

2) 大学教育研究センター

大学全体の教育課程の編成や授業方法等を審議する大学教育研究センターのもとに、全学共通教育科目のカリキュラム、担当教員等を協議する共通教育ワーキングを設置している。共通教育ワーキングには、キャリア教育を担当する専任教員も構成員となり、科目構成、授業内容等を検討している。

3) 学生総合サポート部、キャリアサポート部、教育総合サポート部

大学の事務組織に学生総合サポート部、キャリアサポート部及び教育総合サポート部を置き、教育課程の編成は教育総合サポート部、学生のキャリア支援はキャリアサポート部が担当し、相互に連携をとり、学生の指導に当たっている。

設置の趣旨等を記載した書類（社会デザイン学科） 資料

目次

資料 1	「学校法人実践女子学園 中期計画 2022～2026 年度（抜粋）」	P 2
資料 2	「人間社会学部社会デザイン学科カリキュラムマップ」	P 4
資料 3	「人間社会学部社会デザイン学科カリキュラムと 3 つのポリシーの相関図」	P 8
資料 4	「履修モデル：メディアイノベーション系」	P 9
資料 5	「履修モデル：共創デザイン系」	P 10
資料 6	「履修モデル：ソーシャル・データサイエンス系」	P 11
資料 7	「実践女子大学・実践女子大学短期大学部教育職員就業規則（抜粋）」	P 12
資料 8	「社会デザイン学科授業時間割表」	P 13
資料 9	「主な学術洋雑誌（社会デザイン学科関係）」	P 24
資料 10	「実践女子大学人間社会学部教授会運営規程」	P 25
資料 11	「実践女子大学教授会規程」	P 27
資料 12	「実践女子大学協議会規程」	P 29
資料 13	「実践女子大学自己点検・評価に関する規程」	P 32
資料 14	「実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部 外部評価・助言委員会に関する規程」	P 35



中期計画

学園の基本方針

7/49



2022

2027

2032

2037

外部のリソース
活用を考えた提携
や連携強化の検討

- 他大学との提携
本学と学問系統が重複しない大学もしくは国・地域の異なる大学等との提携による教育の充実、施設の共同利用、学生支援等
- 学園の枠を超えた高大連携
- 企業との連携（社会連携の推進）

競争力のある学部・学科構成の検討

高額資金が必要と
なる施策の基礎的
スタディを開始

- 築年数の長い校舎（中学校高等学校の下田陸
勲記念館等）の建替え
- デジタル化の社会的進展に伴うICTの整備

24/49



多様で流動的なグローバル化時代

現代の社会や経済、科学技術などの有り様は、地球規模で連動し、
 広範にわたって構造的な変容を遂げつつある。
 社会階層、地域の違いなどにかかわらず、
 AIやIoT技術、ICTの活用などによって、
 すべての人が情報や通信技術を利用できることが当然となっている。

社会を改革し未来を切り開いていくグローバル人材の育成



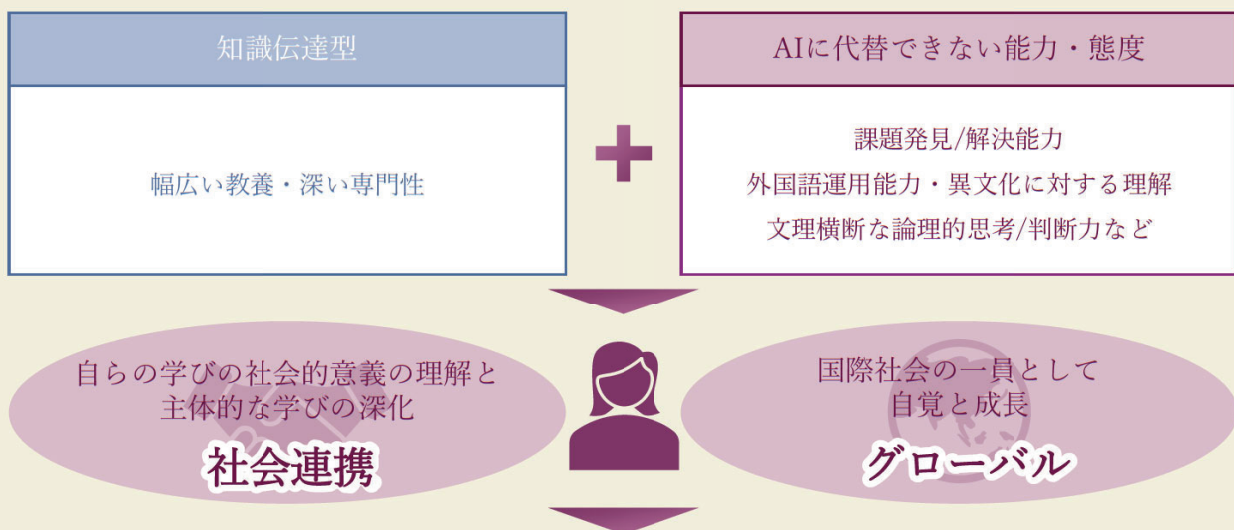
例えば、SDGsで掲げられている課題を自らの問題ととらえ、
 身近なところから取り組むことで、
 課題解決につながる新しい考え方や行動を生み出せる人材



28/49



社会を改革し未来を切り開いていくグローバル人材を育成するために



- 学びのフィールドを教室からキャンパスの外へ、地域社会や国際社会へ展開できるよう、教育課程やプラットフォームの体制・環境を整備
- 公開講座や生涯学習の充実、留学生を受け入れるための体制を整備

29/49

資料2

人間社会学部 社会デザイン学科 カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー

人間社会学部は、「人を知り、社会を知り、ビジネスを学び、よりよい未来をデザインする」をモットーに、グローバル化や情報化が進展し、多様化・複雑化・成熟化する 21 世紀社会において活躍できる女性の育成をめざしています。そのため、人間社会学部では、全学ディプロマ・ポリシーとして求める内容を含め、以下に掲げる態度と能力を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士（人間社会学）」の学位を授与します。

<態度>

- DP1. 多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度【国際的視野】
- ①豊かなコミュニケーション能力を身につけ、国内外の人々と相互理解と協力関係を築こうとする態度。
 - ②国内外の多様な人間と社会のあり方について理解し、受容し、尊重しようとする態度。
 - ③国内外で発生している様々な問題の解決に貢献しようとする態度。
- DP2. 知を求め、心の美を育む態度【美の探究】
- ①人間と社会とビジネスに関して学び、よりよい未来をデザインしようとする態度。
 - ②人間と社会のあり方に関して望ましい価値観を探究しようとする態度。
 - ③高い倫理観をもって、自己の言動・価値観を批判的に振り返りつつ、行動する態度。

<能力>

- DP3. 学修を通して自己成長する力【研鑽力】
- ①現代社会の諸課題について常に興味・関心を持ち、学び続けることができる。
 - ②専門的知識とスキルを身につけ、社会人・職業人として活躍することができる。
- DP4. 課題解決のために主体的に行動する力【行動力】
- ①現代社会における様々な課題について自らテーマを設定し、情報を集め、多角的・総合的に分析することができる。
 - ②課題を解決するために自らアクションプランを策定し、主体的に実践することができる。
- DP5. 相互を活かして自らの役割を果たす力【協働力】
- ①自己や他者の役割を理解し、他者と協働しながら自らの役割を果たすことができる。
 - ②課題の遂行や解決にむけて、主体的にリーダーシップを発揮することができる。

社会デザイン学科は、全学ディプロマ・ポリシー及び学部ディプロマ・ポリシーにおいて求める内容を含め、以下に掲げる態度、能力を身につけ、所定の単位を修得した者に「学士（人間社会学）」の学位を授与します。

<態度>

- DP1. 多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度【国際的視野】
- ①データ・サイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などを学ぶことを通じて、国内外の多様な人間と社会のあり方や現実空間と仮想空間とが高度に融合した創造社会について理解を深めようとする態度。
 - ②国内外の創造社会で発生している様々な問題の解決に貢献しようとする態度。
- DP2. 知を求め、心の美を育む態度【美の探究】
- ①データ・サイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などを学ぶことを通じて、創造社会と人間のあり方に関して新たな知を創造しようとする態度。
 - ②創造社会と人間のあり方に関して、望ましい価値観を探究しようとする態度。

<能力>

- DP3. 学修を通して自己成長する力【研鑽力】
- ①データ・サイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会論、デザイン思考などの専門的知識とスキルを身につけ、創造社会の様々な分野で社会人・職業人として活躍することができる。
 - ②創造社会における様々な問題について常に興味・関心を持ち、学び続けることができる。
- DP4. 課題解決のために主体的に行動する力【行動力】【学部学科共通】
- ①現代社会における様々な課題について自らテーマを設定し、情報を集め、多角的・総合的に分析することができる。
 - ②課題を解決するために自らアクションプランを策定し、主体的に実践することができる。
- DP5. 相互を活かして自らの役割を果たす力【協働力】【学部学科共通】
- ①自己や他者の役割を理解し、他者と協働しながら自らの役割を果たすことができる。
 - ②課題の遂行や解決にむけて、主体的にリーダーシップを発揮することができる。

科目区分	授業科目名	単位数	履修年次	必修・選択	ディプロマ・ポリシー 授業を履修して身につく態度・能力（◎=特に重視するもの ○=重視するもの）					備考	
					態度		能力				
					DP1 国際的視野	DP2 美の探究	DP3 研鑽力	DP4 行動力	DP5 協働力		
実践 ドス 科タ 目	実践入門セミナー	2	1	必修			○	○	○		
	実践キャリアプランニング	2	1・2	必修		○	○	○	○		
	Integrated English a	1	1	必修	○			○			
	Integrated English b	1	1	必修	○			○			
	データサイエンス入門	1	1	必修	○		○	◎			
	情報リテラシー基礎	1	1	必修	○		○	◎			
	キャリア 教育 科目	キャリアデザイン	2	3	選択			○	○	○	
		グローバル・キャリアデザイン	2	3	選択	◎		○	○	○	
		短期インターンシップ	1	3	選択			○	○	○	
		長期インターンシップ	2	3	選択			○	○	○	
		キャリア開発実践論	2	3	選択			○	○	○	
		ビジネスのスキルとマナー	2	3	選択		○	○	○		
		国際理解とキャリア形成	2	2	選択	◎		○		○	
		女性とキャリア形成	2	2	選択			○	◎	○	
		キャリア・ショーケース	2	2	選択		○	○		○	
ライフデザイン		2	3	選択			○	○			
実践企業分析論	2	2	選択			◎	○				
実践企業分析論演習	2	2	選択			○		○			
Global Studies	Effective Writing	1	1	選択	○			○			
	Effective Speaking	1	1	選択	○			○			
	Active Reading	1	1	選択	○			○			
	Active Listening	1	1	選択	○			○			
	CEFR BI	1	1	選択	○			○			
	Global Studies a	2	1	選択	◎		○				
	Global Studies b	2	1	選択	◎		○				
	Global Studies c	2	1	選択	◎		○				
	Global Studies d	2	1	選択	◎		○				
	Global Studies e	2	1	選択	◎		○				
	Global Studies f	2	1	選択	◎		○				
	Global Studies g	2	1	選択	◎		○				
	Global Studies h	2	1	選択	◎		○				
Global Studies i	2	1	選択	◎		○					
Global Studies j	2	1	選択	◎		○					

科目区分	授業科目名	単位数	履修 年次	必修・ 選択	ディプロマ・ポリシー 授業を履修して身につく態度・能力 (◎=特に重視するもの ○=重視するもの)					備考	
					態度		能力				
					DP1 国際的視野	DP2 美の探究	DP3 研鑽力	DP4 行動力	DP5 協働力		
実践アドバンス科目 英語教育科目	フランス語 1 a	1	1	選択	○			○			
	フランス語 1 b	1	1	選択	○			○			
	ドイツ語 1 a	1	1	選択	○			○			
	ドイツ語 1 b	1	1	選択	○			○			
	中国語 1 a	1	1	選択	○			○			
	中国語 1 b	1	1	選択	○			○			
	ロシア語 1 a	1	1	選択	○			○			
	ロシア語 1 b	1	1	選択	○			○			
	スペイン語 1 a	1	1	選択	○			○			
	スペイン語 1 b	1	1	選択	○			○			
	フランス語 2 a	1	2	選択	○			○			
	フランス語 2 b	1	2	選択	○			○			
	ドイツ語 2 a	1	2	選択	○			○			
	ドイツ語 2 b	1	2	選択	○			○			
	中国語 2 a	1	2	選択	○			○			
	中国語 2 b	1	2	選択	○			○			
	ロシア語 2 a	1	2	選択	○			○			
	ロシア語 2 b	1	2	選択	○			○			
	スペイン語 2 a	1	2	選択	○			○			
	スペイン語 2 b	1	2	選択	○			○			
	海外語学研修 a	2	1	選択	◎			○			
	海外語学研修 b	2	1	選択	◎			○			
	海外語学研修 c	2	1	選択	◎			○			
	海外語学研修 d	2	1	選択	◎			○			
	海外語学研修 e	1	1	選択	◎			○			
	海外語学研修 f	1	1	選択	◎			○			
	海外語学研修 g	1	1	選択	◎			○			
	海外語学研修 h	1	1	選択	◎			○			
海外短期インターンシップ	1	1	選択	◎			○				
海外長期インターンシップ	2	1	選択	◎			○				
情報リテラシー教	情報スキル基礎	1	1	選択	○		○	◎			
	情報リテラシー応用 a	2	1	選択	○		○	◎			
	情報リテラシー応用 b	2	1	選択	○		○	◎			
	情報リテラシー応用 c	2	1	選択	○		○	◎			
	情報リテラシー応用 d	2	1	選択	○		○	◎			
情報リテラシー応用 e	2	1	選択	○		○	◎				
実践プロジェクト	実践プロジェクト a	2	1	選択	○			○	◎		
	実践プロジェクト b	2	2	選択	○			○	◎		
	実践プロジェクト c	2	2	選択	◎	○	○				
	ボランティアプロジェクト a	1	1	選択	○			○	◎		
	ボランティアプロジェクト b	1	1	選択	○			○	◎		
共通教育科目	ジェンダーについて	ジェンダー論入門	2	1	選択	○		◎		○	
		女性の歴史	2	1	選択	○		◎		○	
		女性の健康	2	1	選択		○		○	◎	
		文学とジェンダー	2	1	選択		○	○		◎	
		国際社会とジェンダー	2	1	選択	◎		○			○
		女性教育とジェンダー	2	1	選択			○			○
	ジェンダーと心理	2	1	選択		◎	○			○	
	人間を究める	哲学入門	2	1	選択	○	◎	○			
		現代の思想	2	1	選択	○	◎	○			
		言語学入門	2	1	選択	○	◎	○			
		倫理学入門	2	1	選択	○	◎	○			
		生命と環境の倫理	2	1	選択	○	◎	○			
		社会思想入門	2	1	選択	○	◎	○			
		東洋思想入門	2	1	選択	○	◎	○			
		世界の宗教	2	1	選択	○	◎	○			
		日本の古典文学	2	1	選択	○	○	○			
		日本の近現代文学	2	1	選択	○	○	○			
		西洋の文学	2	1	選択	○	○	○			
		児童文学入門	2	1	選択	○	○	○			
		文化人類学入門	2	1	選択	○	○	○			
		美術の世界	2	1	選択	○	○	○			
		音楽の世界	2	1	選択	○	○	○			
		映像文化論	2	1	選択	○	○	○			
		日本の伝統文化	2	1	選択	◎		○			
		心理学入門	2	1	選択	○	○				
		人間関係の心理学	2	1	選択	○	○				
心の健康	2	1	選択	○		○	○				
日本のポップカルチャー	2	1	選択	○	○	○					
ファッションの世界	2	1	選択	○	○	○					
世界のファンタジー	2	1	選択	○	○	○					
社会を捉える	地域研究 a	2	1	選択	○		○				
	地域研究 b	2	1	選択	○		○				
	食文化論	2	1	選択	◎	○	○				
	衣文化論	2	1	選択	◎	○	○				
	生活とデザイン	2	1	選択	○	◎					
	社会とデザイン	2	1	選択	○	◎		○			
	メディア論	2	1	選択			○	○			
	サブカルチャー論	2	1	選択	○		○				
	教育学	2	1	選択	○		○				
	日本国憲法	2	1	選択			○	◎			
	法学入門	2	1	選択			○	◎			
	日本の政治	2	1	選択	○			◎			
	国際政治の基礎	2	1	選択	○			◎			
	日本の経済	2	1	選択	○	○					
	国際経済の基礎	2	1	選択	◎	○		○			
日本史	2	1	選択	◎			○				

科目区分	授業科目名	単位数	履修 年次	必修・ 選択	ディプロマ・ポリシー 授業を履修して身につく態度・能力 (◎=特に重視するもの ○=重視するもの)					備考		
					態度		能力					
					DP1 国際的視野	DP2 美の探究	DP3 研鑽力	DP4 行動力	DP5 協働力			
教養 教育科目	西洋史	2	1	選択	◎			○				
	東洋史	2	1	選択	◎			○				
	地理学	2	1	選択	◎			○				
	社会学入門	2	1	選択		○	○					
	社会保障論	2	1	選択	○		○					
	日常生活と法	2	1	選択	○		○					
	金融リテラシー入門	2	1	選択	◎			○				
	自然と 環境を 探る	数学的思考	2	1	選択		○	○				
		統計的思考	2	1	選択			○	○			
		くらしの化学	2	1	選択		○		○			
		くらしの人間工学	2	1	選択			○	○			
		生活環境の科学	2	1	選択			○				
		生命の科学	2	1	選択		○					
		身体の科学	2	1	選択		○					
		宇宙の科学	2	1	選択		◎					
		地球と環境の科学	2	1	選択	○	○					
		科学技術と人間	2	1	選択	○	○					
		農業と食料	2	1	選択	○	○					
		バイオの世界	2	1	選択	○	○	○				
		防災の科学	2	1	選択		○	○	○			
		健康な 体を 創る	身体運動の科学 a	2	1	選択			○	○		
			身体運動の科学 b	2	1	選択			○	○		
	スポーツ文化論		2	1	選択	○		○				
	健康運動実習 a		1	1	選択			◎		○		
	健康運動実習 b		1	1	選択			◎		○		
	基礎スポーツ実習 a		1	1	選択			◎		○		
	基礎スポーツ実習 b		1	1	選択			◎		○		
	基礎スポーツ実習 c		1	1	選択			◎		○		
	基礎スポーツ実習 d		1	1	選択			◎		○		
	健康体力科学演習		1	1	選択			○		○		
	ヘルスプロモーション実践実習 a		1	1	選択			○		○		
	ヘルスプロモーション実践実習 b		1	1	選択			○		○		
	アダプテッドスポーツ	1	1	選択			○		○			
	スポーツ応用科学実習	1	1	選択			○		○			
	知を 拓く	実践教養講座 a	2	2	選択							
		実践教養講座 b	2	1	選択							
		実践教養講座 c	2	1	選択							
		実践教養講座 d	2	1	選択							
		実践教養講座 e	2	1	選択							
		実践教養講座 f	2	1	選択							
		実践教養講座 g	2	1	選択							
		実践教養講座 h	2	1	選択							
		実践教養講座 i	2	1	選択							
		オープン講座 a	2	1	選択							
		オープン講座 b	2	1	選択							
オープン講座 c		2	1	選択								
クォーターオープン講座 a		1	1	選択								
クォーターオープン講座 b		1	1	選択								
クォーターオープン講座 c		1	1	選択								
演習 科目	演習 I	2	1	必修				◎	○			
	演習 II a	2	2	必修			○	○	○			
	演習 II b	2	2	必修			○	○	○			
	演習 III a	2	3	必修			○	○	○			
	演習 III b	2	3	必修			○	○	○			
	演習 IV a	2	4	必修			○	○	○			
	演習 IV b	2	4	必修			○	○	○			
	卒業研究	4	4	必修			◎					
	人間を 学ぶ 社会を 学ぶ ビジネスを 学ぶ 未来を デザインす	人間社会学入門	2	1	必修		○	◎				
		心理学概論	2	1	必修		○	◎				
コミュニケーション概論		2	1	必修	◎		○	○				
教育学概論		2	1	選択		○	◎					
発達心理学		2	2	選択			◎					
異文化理解		2	2	選択	◎							
文化人類学		2	2	選択	◎		○					
社会学概論		2	1	必修				◎				
法律学概論		2	1	必修				◎				
ジェンダー論		2	1	選択			◎					
地理学概論		2	1	選択				◎				
女性と労働		2	2	選択			◎					
メディア社会論		2	2	選択		○	◎					
国際関係概論		2	2	選択	◎		○					
経営学概論		2	1	必修			◎					
経営学概論	2	1	必修				◎					
簿記論 I	2	1	選択			◎	○	○				
簿記論 II	2	1	選択			◎	○	○				
民法概論	2	2	選択	○								
マーケティング論	2	2	選択			◎						
商法概論	2	2	選択			◎						
キャリア・マネジメント論	2	1	選択			○	◎					
キャリア・デザイン論	2	2	選択				◎					
実践デザインラボ I	2	1	選択					◎				
アントレプレナーシップ論	2	1	選択			○		◎				
アントレプレナーシップ演習	2	2	選択				○	◎				
リーダーシップ開発 a	2	1	選択				◎	○				

科目区分	授業科目名	単位数	履修年次	必修・選択	ディプロマ・ポリシー 授業を履修して身につく態度・能力 (◎=特に重視するもの ○=重視するもの)					備考	
					態度		能力				
					DP1 国際的視野	DP2 美の探究	DP3 研鑽力	DP4 行動力	DP5 協働力		
専門教育科目	リーダーシップ開発 b	2	2	選択				◎	○		
	リサーチ・スキル										
	社会と統計	2	1	必修				◎			
	社会調査概論	2	1	選択				◎			
	社会調査方法論	2	1	選択			◎	○			
	社会の基礎数学	2	1	選択			◎	○			
	調査・実験データ処理法	2	2	選択				◎			
	プログラミング基礎	2	1	選択			◎	○			
	データベース基礎	2	2	選択				◎			
	コミュニケーション・スキル										
	英語コミュニケーションⅠ a	1	1	必修	◎						
	英語コミュニケーションⅠ b	1	1	必修	◎						
	英語コミュニケーションⅡ a	1	2	必修	◎						
	英語コミュニケーションⅡ b	1	2	必修	◎						
	英語コミュニケーションⅢ a	1	2	必修	◎						
	英語コミュニケーションⅢ b	1	2	必修	◎						
	日本語コミュニケーション基礎	2	1	選択	◎		○			○	
	日本語コミュニケーション実践	2	1	選択	◎		○			○	
	基幹科目										
	社会情報学概論	2	2	選択				◎			
	情報と職業	2	2	選択				◎			
	サステナビリティ論	2	2	選択				◎			
	社会システム論	2	2	選択			○	◎			
	社会・集団・家族心理学	2	2	選択			◎				
	社会言語学	2	2	選択	◎		○	○			
	都市フィールドワーク論	2	2	選択			◎	○			
	課題解決プロセス基礎	2	2	選択				○		◎	
	社会科学におけるAI・機械学習	2	2	選択			◎	○			
	マルチメディア処理	2	2	選択			◎				
	実践デザインラボⅡ	2	2	選択						◎	
	デザイン思考とデータ活用	2	2	選択				○		◎	
	地域社会学	2	2	選択	○			○			
	応用経済学	2	2	選択			◎	○			
	行動経済学	2	2	選択			◎	○			
	特別講義 a	2	3	選択	◎						
	特別講義 b	2	3	選択	○		◎				
	展開・応用科目										
	表象メディア論	2	2	選択				◎			
	メディア・コミュニケーション論	2	2	選択	○						
	メディア情報学	2	2	選択			◎				
	情報セキュリティ	2	2	選択		○	○	◎			
	応用倫理学	2	2	選択			◎				
	国際政治論	2	2	選択	○		◎				
	身体論	2	2	選択			◎				
	テクノロジーと性	2	2	選択	○		○	◎			
	共創デザイン論	2	2	選択				○		◎	
	社会ネットワーク論	2	2	選択				◎			
広告・PR論	2	2	選択			◎					
福祉社会学	2	2	選択			◎	○				
メディア心理学	2	2	選択		○	◎					
マスメディア論	2	2	選択	○		○					
メディア・ワークショップ	2	2	選択						○		
社会科学におけるデータと数理	2	2	選択			◎					
データに基づく地域創生	2	2	選択	○		○	◎				
データ時代の女性キャリア開発	2	2	選択		◎	○					
シリアスゲーム・デザイン演習	2	2	選択				○		◎		
ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	2	2	選択				○		◎		
社会科学における Web データ収集技術論	2	2	選択			◎	○				
社会科学データ分析	2	3	選択				◎				
共創デザイン・プロジェクト	2	3	選択				○		◎		
メディア情報リテラシー	2	3	選択	○	○		◎				
イノベーション論	2	3	選択			○	◎				
メディアとインターセクショナリティ	2	3	選択			◎	◎				
社会科学におけるプログラミング	2	3	選択			◎	○				
社会科学におけるソフトウェア設計	2	3	選択			○	◎				
課題解決プロセス応用	2	3	選択				○		◎		
ソーシャル・マーケティング論	2	3	選択			◎	○				
ジェンダー・イノベーション	2	3	選択	○		○	◎				
リスク・コミュニケーション	2	3	選択	○		○	◎				
社会調査実習Ⅰ	2	3	選択			○	○		◎		
社会調査実習Ⅱ	2	3	選択			○	○		◎		
デジタルメディア論	2	3	選択			◎					
メディア表現	2	3	選択		○		○		◎		
メディアデータ分析	2	3	選択			◎	○				
社会科学における AI・機械学習応用	2	3	選択			◎	○				
社会科学における質的データ分析	2	3	選択			◎	○				
社会的価値創造論	2	3	選択	○			◎				
心理学統計法	2	3	選択		○	◎	○				
人工知能と人間・社会	2	3	選択			◎					
科学技術社会学	2	3	選択			◎					
リスク社会学	2	3	選択			◎					
専門資格科目											
関係行政論	2	2	自由								
言語コミュニケーション開発支援実習	1	3	自由								
公認心理師の職責	2	2	自由								
心理実習	4	3	自由								
精神疾患とその治療	2	3	自由								

【養成する人材像】 社会デザイン学科では、高度情報化する知識基盤社会に求められるソーシャル・データサイエンス、社会情報学、メディア論、デザイン思考などを中心とする専門的な知識・理論を学び、社会情勢・環境が変化し続ける創造社会で発生する諸問題を解決できる能力を修得し、社会で主体的に活躍し貢献できる人材の育成を目的とする。

アドミッション・ポリシー

人間社会学部は、グローバル化や情報化が進展し、多様化・複雑化・成熟化する21世紀の社会において活躍するために、正解のない多様な社会課題に対して、主体的に考え、協働し、意欲的に行動する人を求めます。

①現代の人間、社会、ビジネス、及び現実空間と仮想空間とが高度に融合した創造社会の動向に強い関心を持っている人。

②自分の考えをしっかりと持ち、他の人と協働しながら、積極的にリーダーシップとフォローシップを発揮できる人。

③人間社会学部で学ぶ上で必要な英語、国語、地理歴史、公民、数学、情報などに関し、高等学校卒業程度の学力を身につけた人。

カリキュラム・ポリシー

＜教育課程編成＞

【学部】
①1、2年次に学部の基本的な知識とスキルを習得するための学部共通科目を配置します。
②1年次から4年次まで必修の演習科目を配置します。
③学科の専門科目を「基幹科目」と「展開・応用科目」に分けて体系的に配置します。
④学部の授業を通して得られる資格科目を配置します。
⑤4年次に全員が履修する卒業研究を配置します。
⑥学科の特色を超えた他学科履修科目を設定します。

＜教育内容＞

【学部学科共通】
①学部共通教育では、人間、社会、ビジネス、未来デザイン、リサーチ・スキル、コミュニケーション・スキルについて学びます。
②1、2年次の「基礎演習」では、大学で学ぶためのアカデミック・スキルを修得し、3、4年の「専門演習」では、専門的な知識とスキルを身につけます。
③2年次以降の「基幹科目」では、各学科の専門分野の基本となる科目や資格取得のための科目を配置し、段階的・系統的に専門的な知識・スキルを修得できるようにします。
④「展開・応用科目」では、各学科の専門分野の発展的・応用的な科目を配置し、専門的な学問分野を体系的に学びます。

【学部学科共通】
①講義科目では、現代社会の諸課題と最先端の学問動向を分かりやすく講義します。
②PBL (Project Based Learning)、フィールドワーク、ワークショップ、実践、実習、調査などのアクティブラーニングにより、学生が主体的に学び、考え、実践することのできる授業を行います。
③1年次から4年次までの演習では、アカデミック・スキルを身につけ、ディベート能力やプレゼンテーション能力を高める教育を行います。
④学外の企業や地域との連携を通じて、社会の様々な問題を解決し、よりよい未来をデザインするための教育を行います。

＜教育方法＞

①社会デザイン学科では、仮想空間と現実空間が高度に融合した創造社会と人間について多角的・総合的に理解し、社会の様々な分野で活躍する女性を育成します。そのために、データ・サイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会学、デザイン思考などの多様な科目を専門科目として配置します。

②社会デザイン学科の「展開・応用科目」は、以下の3つの系より構成します。

【ソーシャル・データ・サイエンス系】
社会調査、データサイエンス、統計科学、情報学など、ソーシャル・データ・サイエンスに関する科目群

【メディア・イノベーション系】
メディア論、メディア情報学など、メディア・イノベーションに関する科目群

【共創デザイン系】
デザイン思考、科学技術社会学、コミュニケーション・デザイン技法など、共創デザインに関する科目群

教育課程	1年	2年	3年	4年	
専門教育科目	<p>基礎科目 (学部共通科目)</p> <p>＜人間を学ぶ＞ 人間社会学入門、心理学概論 コミュニケーション概論、教育学概論 ＜社会を学ぶ＞ 社会学概論、法律学概論 ジェンダー論、地理学概論 ＜ビジネスを学ぶ＞ 経済学概論、経営学概論 簿記論I、簿記論II ＜未来をデザインする＞ キャリア・マネジメント論、実践デザインラボ I アントレプレナーシップ論、リーダーシップ開発a ＜リサーチ・スキル＞ 社会と統計、社会調査概論、社会調査方法論 社会の基礎数学、プログラミング基礎 ＜コミュニケーション・スキル＞ 英語コミュニケーションIa 英語コミュニケーションIb 日本語コミュニケーション基礎 日本語コミュニケーション実践</p> <p>＜人間を学ぶ＞ 発達心理学、異文化理解、文化人類学 ＜社会を学ぶ＞ 女性と労働、メディア社会学、国際関係概論 ＜ビジネスを学ぶ＞ 民法概論、マーケティング論、商法概論 ＜未来をデザインする＞ キャリア・デザイン論、アントレプレナーシップ演習 リーダーシップ開発b ＜リサーチ・スキル＞ 調査・実践データ処理法、データベース基礎 ＜コミュニケーション・スキル＞ 英語コミュニケーションIIa 英語コミュニケーションIIb 英語コミュニケーションIIIa 英語コミュニケーションIIIb</p>	<p>展開・応用科目</p> <p>社会科学におけるデータと数理 データに基づく地域創生 データ時代の女性Web開発 社会科学におけるWeb データ収集技術論</p> <p>社会科学データ分析、社会科学におけるプログラミング 社会科学におけるソフトウェア設計 課題解決プロセス応用、ソーシャル・マーケティング論 社会調査実習 I、社会調査実習 II 社会科学におけるAI・機械学習応用 社会科学における質的データ分析 社会的価値創造論、心理統計法</p> <p>表衆メディア論、メディア・コミュニケーション論 メディア情報学、情報セキュリティ 社会ネットワーク論、広告・PR論 メディア心理学、マスメディア論 メディア・ワークショップ</p> <p>メディア情報リテラシー、イノベーション論 メディアとインターセクショナルイティ デジタルメディア論、メディア表現 メディアデータ分析</p> <p>応用倫理学、国際政治論、身体論 テクノロジと性、福祉社会学 シリアスゲーム・デザイン演習 ソーシャル・マーケティング・プロジェクト</p> <p>共創デザイン論、共創デザイン・プロジェクト ジェンダー・イノベーション リスク・コミュニケーション 人工知能と人間・社会、科学技術社会学 リスク社会学</p>	<p>基礎科目</p> <p>社会情報学概論、情報と職業 サステナビリティ論、社会システム論 社会・集団・家族心理学、社会言語学 都市フィールドワーク論、課題解決プロセス基礎 社会科学における AI・機械学習 マルチメディア処理、実践デザインラボ II デザイン思考とデータ活用、地域社会学 応用経済学、行動経済学</p> <p>特別講義 a、特別講義 b</p>	<p>展開・応用科目</p> <p>社会科学データ分析、社会科学におけるプログラミング 社会科学におけるソフトウェア設計 課題解決プロセス応用、ソーシャル・マーケティング論 社会調査実習 I、社会調査実習 II 社会科学におけるAI・機械学習応用 社会科学における質的データ分析 社会的価値創造論、心理統計法</p> <p>メディア情報リテラシー、イノベーション論 メディアとインターセクショナルイティ デジタルメディア論、メディア表現 メディアデータ分析</p> <p>共創デザイン論、共創デザイン・プロジェクト ジェンダー・イノベーション リスク・コミュニケーション 人工知能と人間・社会、科学技術社会学 リスク社会学</p>	<p>展開・応用科目</p> <p>社会科学データ分析、社会科学におけるプログラミング 社会科学におけるソフトウェア設計 課題解決プロセス応用、ソーシャル・マーケティング論 社会調査実習 I、社会調査実習 II 社会科学におけるAI・機械学習応用 社会科学における質的データ分析 社会的価値創造論、心理統計法</p> <p>メディア情報リテラシー、イノベーション論 メディアとインターセクショナルイティ デジタルメディア論、メディア表現 メディアデータ分析</p> <p>共創デザイン論、共創デザイン・プロジェクト ジェンダー・イノベーション リスク・コミュニケーション 人工知能と人間・社会、科学技術社会学 リスク社会学</p>
	<p>演習科目 (基礎演習)</p> <p>演習 I</p> <p>演習 II a、演習 II b</p>	<p>演習科目 (専門演習)</p> <p>演習 III a、演習 III b</p> <p>演習 IV a、演習 IV b 卒業研究</p>	<p>演習科目 (専門演習)</p> <p>演習 III a、演習 III b</p> <p>演習 IV a、演習 IV b 卒業研究</p>	<p>演習科目 (専門演習)</p> <p>演習 III a、演習 III b</p> <p>演習 IV a、演習 IV b 卒業研究</p>	<p>演習科目 (専門演習)</p> <p>演習 III a、演習 III b</p> <p>演習 IV a、演習 IV b 卒業研究</p>
	<p>専門資格科目 (自由科目)</p> <p>関係行政論、公認心理師の職業</p> <p>人間社会学部他学科履修科目</p>	<p>専門資格科目 (自由科目)</p> <p>言語コミュニケーション開発支援実習 心理実習、精神疾患とその治療</p>	<p>専門資格科目 (自由科目)</p> <p>言語コミュニケーション開発支援実習 心理実習、精神疾患とその治療</p>	<p>専門資格科目 (自由科目)</p> <p>言語コミュニケーション開発支援実習 心理実習、精神疾患とその治療</p>	<p>専門資格科目 (自由科目)</p> <p>言語コミュニケーション開発支援実習 心理実習、精神疾患とその治療</p>
	<p>共通教育科目</p> <p>＜実践スタンダード科目＞ 実践入門セミナー、実践キャリアプランニング Integrated English a、Integrated English b データサイエンス入門、情報リテラシー基礎</p> <p>＜実践アドバンスト科目＞キャリア教育科目、外国語教育科目、情報リテラシー教育科目</p> <p>＜実践プロジェクト科目＞</p> <p>＜教養教育科目＞ジェンダーについて学ぶ 人間を究める 社会を捉える 自然と環境を探る 健康な体を創る 知を拓く</p>	<p>共通教育科目</p> <p>＜実践スタンダード科目＞ 実践入門セミナー、実践キャリアプランニング Integrated English a、Integrated English b データサイエンス入門、情報リテラシー基礎</p> <p>＜実践アドバンスト科目＞キャリア教育科目、外国語教育科目、情報リテラシー教育科目</p> <p>＜実践プロジェクト科目＞</p> <p>＜教養教育科目＞ジェンダーについて学ぶ 人間を究める 社会を捉える 自然と環境を探る 健康な体を創る 知を拓く</p>	<p>共通教育科目</p> <p>＜実践スタンダード科目＞ 実践入門セミナー、実践キャリアプランニング Integrated English a、Integrated English b データサイエンス入門、情報リテラシー基礎</p> <p>＜実践アドバンスト科目＞キャリア教育科目、外国語教育科目、情報リテラシー教育科目</p> <p>＜実践プロジェクト科目＞</p> <p>＜教養教育科目＞ジェンダーについて学ぶ 人間を究める 社会を捉える 自然と環境を探る 健康な体を創る 知を拓く</p>	<p>共通教育科目</p> <p>＜実践スタンダード科目＞ 実践入門セミナー、実践キャリアプランニング Integrated English a、Integrated English b データサイエンス入門、情報リテラシー基礎</p> <p>＜実践アドバンスト科目＞キャリア教育科目、外国語教育科目、情報リテラシー教育科目</p> <p>＜実践プロジェクト科目＞</p> <p>＜教養教育科目＞ジェンダーについて学ぶ 人間を究める 社会を捉える 自然と環境を探る 健康な体を創る 知を拓く</p>	<p>共通教育科目</p> <p>＜実践スタンダード科目＞ 実践入門セミナー、実践キャリアプランニング Integrated English a、Integrated English b データサイエンス入門、情報リテラシー基礎</p> <p>＜実践アドバンスト科目＞キャリア教育科目、外国語教育科目、情報リテラシー教育科目</p> <p>＜実践プロジェクト科目＞</p> <p>＜教養教育科目＞ジェンダーについて学ぶ 人間を究める 社会を捉える 自然と環境を探る 健康な体を創る 知を拓く</p>

ディプロマ・ポリシー
以下に掲げる態度、能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学位を授与します。

想定される進路・就職先

サービス、マスコミ等の企業におけるコンサルタント、リサーチャー、アナリスト、企画・事業開発、金融・商社、IT・情報、シンクタンク
公務員・公的団体、NPO法人など公共分野

DP1 多様性を受容し、多角的な視点をもって世界に臨む態度【国際的視野】
①データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会学、デザイン思考などを学ぶことを通して、国内外の多様な人間と社会のあり方や現実空間と仮想空間とが高度に融合した創造社会について理解を深めようとする態度。
②国内外の創造社会で発生している様々な問題の解決に貢献しようとする態度。

DP2 知を求め、心の美を育む態度【美の探究】
①データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会学、デザイン思考などを学ぶことを通して、創造社会と人間のあり方に関して新たな知を創造しようとする態度。
②創造社会と人間のあり方に関して、望ましい価値観を探究しようとする態度。

DP3 学修を通して自己成長する力【研鑽力】
①データサイエンス、社会情報学、メディア論、科学技術社会学、デザイン思考などの専門的な知識とスキルを身につけ、創造社会の様々な分野で社会人・職業人として活躍することができる。
②創造社会における様々な問題について常に興味・関心を持ち、学び続けることができる。

DP4 課題解決のために主体的に行動する力【行動力】
(学部学科共通)
①現代社会における様々な課題について自らテーマを設定し、情報を集め、多角的・総合的に分析することができる。
②課題を解決するために自らアクションプランを策定し、主体的に実践することができる。

DP5 相互を活かして自らの役割を果たす力【協働力】
(学部学科共通)
①自己や他者の役割を理解し、他者と協働しながら自らの役割を果たすことができる。
②課題の遂行や解決にむけて、主体的にリーダーシップを発揮することができる。

青字の授業科目は必修科目

資料4

履修モデル：メディア・イノベーション系

将来の進路：マスコミ・メディア関係企業などでの企画・事業開発、メディアデータを活用したアナリスト

		実践スタンダード科目	共通教育科目	専門科目（演習科目）	専門（基礎科目）	基礎・基幹科目	展開応用科目（メディア・イノベーション）	展開応用科目（共創デザイン）	展開応用科目（データサイエンス）									
1年次	前期	実践入門セミナー	2	生活とデザイン	2	人間社会学入門	2	アントレプレナーシップ論	2									
		Integrated English a	1			心理学概論	2	社会の基礎数学	2									
		Integrated English b	1			社会学概論	2											
		情報リテラシー基礎	1			経済学概論	2											
	履修単位数	19																
	後期	データサイエンス入門	1	社会思想入門	2	演習Ⅰ	2	コミュニケーション概論	2	プログラミング基礎	2							
								法律学概論	2									
								経営学概論	2									
								社会と統計	2									
								英語コミュニケーションⅠa	1									
							英語コミュニケーションⅠb	1										
履修単位数	17																	
2年次	前期	実践キャリアプランニング	2	児童文学入門	2	演習Ⅱa	2	英語コミュニケーションⅡa	1	実践デザインラボⅡ	2	メディア情報学	2	テクノロジーと性	2			
				日常生活と法	2			英語コミュニケーションⅡb	1	社会情報学概論	2	情報セキュリティ	2					
	履修単位数	22							サステナビリティ論	2								
	後期			数学的思考	2	演習Ⅱb	2	英語コミュニケーションⅢa	1	情報と職業	2	社会ネットワーク論	2	共創デザイン論	2	データに基づく地域創生	2	
				くらしの人間工学	2			英語コミュニケーションⅢb	1	マルチメディア処理	2	メディア心理学	2					
	履修単位数	20																
3年次	前期			国際社会とジェンダー	2	演習Ⅲa	2			社会科学におけるAI・機械学習	2	イノベーション論	2	ソーシャル・マーケティング	2	社会科学データ分析	2	
				日本の経済	2								メディア情報リテラシー	2			社会科学におけるプログラミング	2
	履修単位数	18																
	後期			音楽の世界	2	演習Ⅲb	2					都市フィールドワーク論	2	メディア表現	2	人工知能と人間・社会	2	社会科学におけるAI・機械学習応用
			女性教育とジェンダー	2									メディアデータ分析	2				
履修単位数	18												メディア・ワークショップ	2				
4年次	前期					演習Ⅳa	2					メディア・コミュニケーション論	2					
						卒業研究	4											
	履修単位数	8																
	後期					演習Ⅳb	2											
履修単位数	2																	
履修単位数	124	8	20	18	22	20	20	8	8									

授業科目名 は、必修科目。

資料5

履修モデル：共創デザイン系

将来の進路：企業における企画・事業開発者、データを用いた新しいサービスの開発・起業

		実践スタンダード科目	共通教育科目	専門科目（演習科目）	専門（基礎科目）	基礎・基幹科目	展開応用科目（メディア・イノベーション）	展開応用科目（共創デザイン）	展開応用科目（データサイエンス）								
1年次	前期	実践入門セミナー	2	社会とデザイン	2	人間社会学入門	2	社会の基礎数学	2								
		Integrated English a	1			心理学概論	2										
		Integrated English b	1			社会学概論	2										
		情報リテラシー基礎	1			経済学概論	2										
	履修単位数	17															
	後期	データサイエンス入門	2	生命と環境の倫理	2	演習Ⅰ	2	コミュニケーション概論	2	実践デザインラボⅠ	2						
			1					法学概論	2	プログラミング基礎	2						
								経営学概論	2								
								社会と統計	2								
								英語コミュニケーションⅠa	1								
							英語コミュニケーションⅠb	1									
履修単位数	21																
2年次	前期	実践キャリアプランニング		日本の近現代文学	2	演習Ⅱa	2	英語コミュニケーションⅡa	1	社会情報学概論	2	メディア情報学	2	応用倫理学	2		
				日常生活と法	2			英語コミュニケーションⅡb	1	課題解決プロセス基礎	2		身体論	2			
												国際政治論	2				
	履修単位数	20															
	後期			国際経済の基礎	2	演習Ⅱb	2	英語コミュニケーションⅢa	1	応用経済学	2	広告・PR論	2	共創デザイン論	2	データ時代の女性キャリア開発	2
				文化人類学入門	2			英語コミュニケーションⅢb	1	行動経済学	2		福祉社会学	2			
履修単位数		20															
3年次	前期		国際社会とジェンダー	2	演習Ⅲa	2			実践デザインラボⅡ	2	イノベーション論	2	共創デザイン・プロジェクト	2	ソーシャル・マーケティング論	2	
			日本の経済	2									リスク・コミュニケーション	2			
	履修単位数	16															
	後期		農業と食料	2	演習Ⅲb	2			社会システム論	2	メディア表現	2	人工知能と人間・社会	2	社会的価値創造論	2	
		宇宙の科学	2					マルチメディア処理	2		科学技術社会論	2	リスク社会論	2			
履修単位数	20																
4年次	前期				演習Ⅳa	2						テクノロジーと性	2				
					卒業研究	4											
	履修単位数	8															
後期					演習Ⅳb	2											
	履修単位数	2															
履修単位数	124	8	20	18	22	20	8	22	6								

授業科目名 は、必修科目。

資料6

履修モデル：ソーシャル・データサイエンス系

将来の進路：シンクタンク、コンサルティング会社でのリサーチャー・データアナリスト、IT・情報系などビックデータを扱う企業でのデータ分析・プログラマー

	実践スタンダード科目	共通教育科目	専門科目（演習科目）	専門（基礎科目）	基礎・基幹科目	展開応用科目（メディア・イノベーション）	展開応用科目（共創デザイン）	展開応用科目（データサイエンス）		
1年次	前期	実践入門セミナー	2 地球と環境の科学	2	人間社会学入門	2 社会の基礎数学	2			
		Integrated English a	1		心理学概論	2 社会調査概論	2			
		Integrated English b	1		社会学概論	2				
		履修単位数	情報リテラシー基礎	1		経済学概論	2			
	19									
	後期	データサイエンス入門	2 現代の思想	2 演習Ⅰ	2 コミュニケーション概論	2 プログラミング基礎	2			
			1		法律学概論	2				
					経営学概論	2				
					社会と統計	2				
					英語コミュニケーションⅠa	1				
履修単位数				英語コミュニケーションⅠb	1					
19										
2年次	前期	実践キャリアプランニング	2 生命の科学	2 演習Ⅱa	2 英語コミュニケーションⅡa	1 課題解決プロセス基礎	2 メディア情報学	2 テクノロジーと性	2	
			2 社会保障論	2	英語コミュニケーションⅡb	1 データベース基礎	2 メディア・コミュニケーション論	2		
			2 日本の経済	2						
		履修単位数								
	20									
	後期		2 美術の世界	2 演習Ⅱb	2 英語コミュニケーションⅢa	1 デザイン思考とデータ活用	2	共創デザイン論	2 社会科学におけるデータと数理	2
			2 暮らしの人間工学	2	英語コミュニケーションⅢb	1 マルチメディア処理	2		社会科学における Web データ収集技術論	2
			2 女性の歴史	2						
		履修単位数								
	20									
3年次	前期		2 国際社会とジェンダー	2 演習Ⅲa	2	社会科学におけるAI・機械学習	2 メディア情報リテラシー	2 ソーシャル・マーケティング	2 社会科学データ分析	2
									課題解決プロセス応用	2
		履修単位数								社会科学におけるソフトウェア設計
	16									
	後期		2 ビジネスのスキルとマナー	2 演習Ⅲb	2		2 メディアデータ分析	2 人工知能と人間・社会	2 データに基づく地域創生	2
							2		社会科学におけるAI・機械学習応用	2
履修単位数										
16										
4年次	前期			2 演習Ⅳa	2				社会調査実習Ⅰ	2
				4 卒業研究	4				ソーシャル・マーケティング論	2
	履修単位数									
	10									
後期			2 演習Ⅳb	2					社会調査実習Ⅱ	2
	履修単位数									
4										
履修単位数	124	8	20	18	22	20	8	8	20	

授業科目名 は、必修科目。

資料 7

○実践女子大学・実践女子大学短期大学部教育職員就業規則（抜粋）

改正 平成 23 年 5 月 27 日 平成 24 年 5 月 25 日改正
平成 26 年 3 月 22 日改正

第 1 章 総則

（目的）

第 1 条 この規則は、労働基準法（以下「労基法」という。）に基づき、学校法人実践女子学園（以下「学園」という。）が設置する実践女子大学及び実践女子大学短期大学部（以下「大学等」という。）に勤務する期間の定めのない教育職員（以下「教員」という。）の労働条件、服務規律その他就業に関する事項を定めることを目的とする。

（略）

（定年）

第 22 条 教員の定年は 70 歳とし、定年に達した月の属する会計年度の末日をもって退職とする。

（略）

附 則

- 1 この規則は昭和 45 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 昭和 35 年 10 月 1 日施行の、実践女子大学、実践女子学園短期大学教官勤務規則及び附属規程はこれを廃止する。
- 3 この規則施行に伴う細則は別に定めるところによる。

附 則(平成 23 年 5 月 27 日)

この改正規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 24 年 5 月 25 日改正)

この改正規則は、「実践女子学園教職員厚生基金規程」の廃止（平成 24 年 4 月 25 日）に伴い第 46 条を削除し、平成 24 年 5 月 25 日から施行する。

附 則(平成 26 年 3 月 22 日改正)

- 1 この改正規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 昭和 43 年 4 月 1 日施行の「保険手当に関する規程」の廃止（平成 26 年 3 月 31 日）に伴い、第 47 条を削除する。

曜日	時限	授業科目名	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
月	1	英語コミュニケーションⅡ b	前期	2(7)	人社2	渋406
月	1	コリア語 1 a	前期	1～	共通大学1～	渋708
月	1	倫理学入門	前期	1～	共通大学1～	渋502
月	1	児童文学入門	前期	1～	共通大学1～	渋602
月	1	経済学概論	前期	1 (A)	人社1	渋601
月	1	経営学概論	前期	1 (B)	人社1	渋501
月	1	国際関係概論	前期	2	人社2	渋503
月	1	メディア・コミュニケーション論	前期	2	人社2	渋605
月	1	コリア語 1 b	後期	1～	共通大学1～	渋708
月	1	女性の歴史	後期	1～	共通大学1～	渋502
月	1	生命と環境の倫理	後期	1～	共通大学1～	渋602
月	1	応用経済学	後期	2	人社2	渋707
月	2	実践入門セミナー	前期	人部1(D)	共通大学1	渋803
月	2	実践入門セミナー	前期	人部1(F)	共通大学1	渋801
月	2	実践入門セミナー	前期	人部1(H)	共通大学1	渋607
月	2	実践入門セミナー	前期	人部1(J)	共通大学1	渋809
月	2	CEFR B1	前期	1～	共通大学1～	渋401
月	2	オープン講座 b	前期	1	共通大学1～	渋406
月	2	社会とデザイン	前期	1～	共通大学1～	渋504
月	2	メディア論	前期	1～	共通大学1～	渋702
月	2	Global Studies e	前期	1～	共通大学1～	渋80A
月	2	コリア語 2 a	前期	2～	共通大学2～	渋708
月	2	実践プロジェクト b	前期	2～	共通大学2～	渋605
月	2	英語コミュニケーションⅡ a	前期	2(1)	人社2	渋507
月	2	英語コミュニケーションⅡ a	前期	2(2)	人社2	渋604
月	2	英語コミュニケーションⅡ b	前期	2(8)	人社2	渋707
月	2	文化人類学	前期	2	人社2	渋602
月	2	社会科学データ分析	前期	3	人社3	渋502
月	2	Effective Writing	後期	1～	共通大学1～	渋404
月	2	Avtive Listening	後期	1～	共通大学1～	渋802
月	2	CEFR B1	後期	1～	共通大学1～	渋401
月	2	情報リテラシー応用 b	後期	1～	共通大学1～	渋406
月	2	情報リテラシー応用 b	後期	1～	共通大学1～	渋408
月	2	スポーツ文化論	後期	1～	共通大学1～	渋701
月	2	Global Studies b	後期	1～	共通大学1～	渋608
月	2	コリア語 2 b	後期	2～	共通大学2～	渋708
月	2	演習Ⅰ	後期	1 (A)	人社1	渋809
月	2	演習Ⅰ	後期	1 (B)	人社1	渋801
月	2	演習Ⅰ	後期	1 (F)	人社1	渋504
月	2	演習Ⅰ	後期	1 (J)	人社1	渋803
月	2	英語コミュニケーションⅢ a	後期	2(4)	人社2	渋604
月	2	英語コミュニケーションⅢ a	後期	2(5)	人社2	渋609
月	2	英語コミュニケーションⅢ b	後期	2(1)	人社2	渋707
月	2	アントレプレナーシップ演習	後期	2	人社2	渋602
月	3	Integrated English a	前期	1(5)	共通大学1	渋604
月	3	Integrated English a	前期	1(6)	共通大学1	渋609
月	3	Integrated English a	前期	1(9)	共通大学1	渋605

社会デザイン学科授業時間割表（渋谷）

曜日	時限	授業科目名	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
月	3	Integrated English a	前期	1(10)	共通大学1	渋50B
月	3	Integrated English b	前期	1(2)	共通大学1	渋707
月	3	Active Reading	前期	1～	共通大学1～	渋802
月	3	フランス語 1 a	前期	1～	共通大学1～	渋704
月	3	コリア語 1 a	前期	1～	共通大学1～	渋708
月	3	西洋史	前期	1～	共通大学1～	渋502
月	3	Global Studies f	前期	1～	共通大学1～	渋402
月	3	中国語 2 a	前期	2～	共通大学2～	渋703
月	3	英語コミュニケーションⅡ a	前期	2(3)	人社2	渋801
月	3	英語コミュニケーションⅡ b	前期	2(9)	人社2	渋404
月	3	英語コミュニケーションⅡ b	前期	2(10)	人社2	渋401
月	3	商法概論	前期	2	人社2	渋602
月	3	共創デザイン・プロジェクト	前期	3	人社3	渋608
月	3	社会科学におけるソフトウェア設計	前期	3	人社3	渋611
月	3	演習Ⅲ a	前期	3	人社3	渋709
月	3	演習Ⅲ a	前期	3	人社3	渋506
月	3	演習Ⅲ a	前期	3	人社3	渋511
月	3	Active Listening	後期	1～	共通大学1～	渋402
月	3	Effective Speaking	後期	1～	共通大学1～	渋802
月	3	フランス語 1 b	後期	1～	共通大学1～	渋704
月	3	コリア語 1 b	後期	1～	共通大学1～	渋708
月	3	中国語 2 b	後期	2～	共通大学2～	渋703
月	3	英語コミュニケーションⅠ a	後期	1(2)	人社1	渋803
月	3	英語コミュニケーションⅠ a	後期	1(5)	人社1	渋603
月	3	英語コミュニケーションⅠ a	後期	1(6)	人社1	渋607
月	3	英語コミュニケーションⅠ a	後期	1(7)	人社1	渋604
月	3	英語コミュニケーションⅠ a	後期	1(8)	人社1	渋404
月	3	英語コミュニケーションⅠ b	後期	1(9)	人社1	渋705
月	3	英語コミュニケーションⅠ b	後期	1(10)	人社1	渋608
月	3	英語コミュニケーションⅢ a	後期	2(6)	人社2	渋504
月	3	英語コミュニケーションⅢ b	後期	2(2)	人社2	渋401
月	3	演習Ⅲ b	後期	3	人社3	渋709
月	3	演習Ⅲ b	後期	3	人社3	渋506
月	3	演習Ⅲ b	後期	3	人社3	渋511
月	4	Integrated English a	前期	1(4)	共通大学1	渋801
月	4	Integrated English a	前期	1(7)	共通大学1	渋604
月	4	Integrated English a	前期	1(1)	共通大学1	渋401
月	4	Integrated English a	前期	1(8)	共通大学1	渋404
月	4	Integrated English a	前期	1(3)	共通大学1	渋605
月	4	Integrated English a	前期	1(11)	共通大学1	渋806
月	4	Global Studies i	前期	1～	共通大学1～	渋703
月	4	ドイツ語 1 a	前期	1～	共通大学1～	渋402
月	4	宇宙の科学	前期	1～	共通大学1～	渋804
月	4	実践教養講座 f	前期	1	共通大学1～	渋50A
月	4	アントレプレナーシップ論	前期	1	人社2	渋708
月	4	社会情報学概論	前期	2	人社2	渋701
月	4	演習Ⅲ a	前期	3	人社3	渋505

社会デザイン学科授業時間割表（渋谷）

曜日	時限	授業科目名	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
月	4	演習Ⅲ a	前期	3	人社3	渋510
月	4	演習Ⅲ a	前期	3	人社3	渋611
月	4	演習Ⅳ a	前期	4	人社4	渋709
月	4	演習Ⅳ a	前期	4	人社4	渋506
月	4	演習Ⅳ a	前期	4	人社4	渋511
月	4	ドイツ語 1 b	後期	1～	共通大学1～	渋603
月	4	Global Studies j	後期	1～	共通大学1～	渋703
月	4	世界の宗教	後期	1～	共通大学1～	渋502
月	4	くらしの化学	後期	1～	共通大学1～	渋802
月	4	英語コミュニケーションⅠ a	後期	1(1)	人社1	渋401
月	4	英語コミュニケーションⅠ a	後期	1(3)	人社1	渋404
月	4	英語コミュニケーションⅢ a	後期	2(7)	人社2	渋507
月	4	英語コミュニケーションⅢ a	後期	2(8)	人社2	渋604
月	4	社会科学におけるデータと数理	後期	2	人社2	渋803
月	4	演習Ⅲ b	後期	3	人社3	渋505
月	4	演習Ⅲ b	後期	3	人社3	渋510
月	4	演習Ⅲ b	後期	3	人社3	渋611
月	4	演習Ⅳ b	後期	4	人社4	渋709
月	4	演習Ⅳ b	後期	4	人社4	渋506
月	4	演習Ⅳ b	後期	4	人社4	渋511
月	5	情報リテラシー応用 b	前期	1～	共通大学1～	渋408
月	5	科学技術と人間	前期	1～	共通大学1～	渋804
月	5	ドイツ語 2 a	前期	2～	共通大学2～	渋402
月	5	女性とキャリア形成	前期	2～	共通大学2～	渋701
月	5	社会の基礎数学	前期	1	人社1	渋401
月	5	英語コミュニケーションⅡ a	前期	2(4)	人社2	渋404
月	5	英語コミュニケーションⅡ b	前期	2(11)	人社2	渋801
月	5	演習Ⅳ a	前期	4	人社4	渋505
月	5	演習Ⅳ a	前期	4	人社4	渋510
月	5	演習Ⅳ a	前期	4	人社4	渋406
月	5	データサイエンス入門	後期	人部1A	共通大学1	渋501
月	5	データサイエンス入門	後期	人部1B	共通大学1	渋601
月	5	情報リテラシー応用 c	後期	1～	共通大学1～	渋408
月	5	防災の科学	後期	1～	共通大学1～	渋402
月	5	人間関係の心理学	後期	1～	共通大学1～	渋701
月	5	ドイツ語 2 b	後期	2～	共通大学2～	渋603
月	5	英語コミュニケーションⅢ b	後期	2(3)	人社2	渋404
月	5	精神疾患とその治療	後期	3	人社3	渋803
月	5	演習Ⅳ b	後期	4	人社4	渋505
月	5	演習Ⅳ b	後期	4	人社4	渋510
月	5	演習Ⅳ b	後期	4	人社4	渋406
火	1	Integrated English b	前期	1(10)	共通大学1	渋701
火	1	日本の伝統文化	前期	1～	共通大学1～	渋602
火	1	メディア論	前期	1～	共通大学1～	渋604
火	1	フランス語 2 a	前期	2～	共通大学2～	渋60A
火	1	サステナビリティ論	前期	2	人社2	渋603
火	1	文化人類学入門	後期	1～	共通大学1～	渋502

社会デザイン学科授業時間割表（渋谷）

曜日	時限	授業科目名	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
火	1	音楽の世界	後期	1～	共通大学1～	渋804
火	1	フランス語 2 b	後期	2～	共通大学2～	渋60A
火	1	地理学概論	後期	1	人社1	渋802
火	1	情報と職業	後期	2	人社2	渋501
火	2	実践入門セミナー	前期	人部1(A)	共通大学1	渋607
火	2	実践入門セミナー	前期	人部1(B)	共通大学1	渋809
火	2	実践入門セミナー	前期	人部1(C)	共通大学1	渋706
火	2	実践入門セミナー	前期	人部1(E)	共通大学1	渋707
火	2	実践入門セミナー	前期	人部1(G)	共通大学1	渋608
火	2	実践入門セミナー	前期	人部1(I)	共通大学1	渋801
火	2	サブカルチャー論	前期	1～	共通大学1～	渋601
火	2	日本史	前期	1～	共通大学1～	渋602
火	2	バイオの世界	前期	1～	共通大学1～	渋604
火	2	実践教養講座 g	前期	1	共通大学1～	渋406
火	2	フランス語 2 a	前期	2～	共通大学2～	渋60A
火	2	社会言語学	前期	2	人社2	渋503
火	2	キャリア・デザイン論	前期	2	人社2	渋404
火	2	身体論	前期	2	人社2	渋804
火	2	Effective Writing	後期	1～	共通大学1～	渋604
火	2	心理学入門	後期	1～	共通大学1～	渋701
火	2	日本国憲法	後期	1～	共通大学1～	渋704
火	2	フランス語 2 b	後期	2～	共通大学2～	渋60A
火	2	英語コミュニケーションⅠ a	後期	1(9)	人社1	渋504
火	2	英語コミュニケーションⅠ a	後期	1(10)	人社1	渋602
火	2	演習Ⅰ	後期	1 (C)	人社1	渋607
火	2	演習Ⅰ	後期	1 (D)	人社1	渋802
火	2	演習Ⅰ	後期	1 (E)	人社1	渋509
火	2	演習Ⅰ	後期	1 (G)	人社1	渋707
火	2	演習Ⅰ	後期	1 (H)	人社1	渋809
火	2	演習Ⅰ	後期	1 (I)	人社1	渋801
火	2	リスク社会論	後期	3	人社3	渋605
火	2	教育学概論	後期	1	人社3	渋404
火	3	Global Studies g	前期	1～	共通大学1～	渋60A
火	3	情報リテラシー応用 a	前期	1～	共通大学1～	渋408
火	3	地域研究 a	前期	1～	共通大学1～	渋402
火	3	西洋史	前期	1～	共通大学1～	渋804
火	3	実践教養講座 d	前期	1～	共通大学1～	渋608
火	3	国際理解とキャリア形成	前期	2～	共通大学2～	渋702
火	3	簿記論Ⅰ	前期	1	人社1	渋704
火	3	日本語コミュニケーション基礎	前期	1	人社1	渋503
火	3	演習Ⅱ a	前期	2	人社2	渋406
火	3	演習Ⅱ a	前期	2	人社2	渋809
火	3	演習Ⅱ a	前期	2	人社2	渋801
火	3	演習Ⅱ a	前期	2	人社2	渋707
火	3	Global Studies h	後期	1～	共通大学1～	渋60A
火	3	情報リテラシー応用 a	後期	1～	共通大学1～	渋408
火	3	地理学	後期	1～	共通大学1～	渋509

社会デザイン学科授業時間割表（渋谷）

曜日	時限	授業科目名	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
火	3	英語コミュニケーションⅠa	後期	1(11)	人社1	渋410
火	3	英語コミュニケーションⅠb	後期	1(1)	人社1	渋806
火	3	簿記論Ⅱ	後期	1	人社1	渋704
火	3	日本語コミュニケーション実践	後期	1	人社1	渋503
火	3	演習Ⅱb	後期	2	人社2	渋809
火	3	演習Ⅱb	後期	2	人社2	渋801
火	3	演習Ⅱb	後期	2	人社2	渋504
火	3	演習Ⅱb	後期	2	人社2	渋707
火	4	日常生活と法	前期	1～	共通大学1～	渋402
火	4	生活環境の科学	前期	1～	共通大学1～	渋603
火	4	女性とキャリア形成	前期	2～	共通大学2～	渋804
火	4	キャリアデザイン	前期	3	共通大学3	渋702
火	4	日本語コミュニケーション基礎	前期	1	人社1	渋503
火	4	テクノロジーと性	前期	2	人社2	渋607
火	4	地域社会学	前期	2	人社2	渋602
火	4	公認心理師の職責	前期	2	人社2	渋707
火	4	メディアとインターセクショナルリティナリティ	前期	3	人社3	渋803
火	4	リスク・コミュニケーション	前期	3	人社3	渋802
火	4	メディア情報リテラシー	前期	3	人社3	渋406
火	4	情報スキル基礎	後期	1	共通大学1	渋406
火	4	情報リテラシー応用a	後期	1～	共通大学1～	渋408
火	4	金融リテラシー入門	後期	1～	共通大学1～	渋402
火	4	数学的思考	後期	1～	共通大学1～	渋509
火	4	くらしの人間工学	後期	1～	共通大学1～	渋702
火	4	実践教養講座 i	後期	1	共通大学1	渋501
火	4	キャリア・マネジメント論	後期	1	人社1	渋703
火	4	日本語コミュニケーション実践	後期	1	人社1	渋503
火	4	メディア心理学	後期	2	人社2	渋502
火	4	社会ネットワーク論	後期	2	人社2	渋602
火	4	科学技術社会論	後期	3	人社3	渋707
火	5	女性の健康	前期	1～	共通大学1～	渋804
火	5	哲学入門	前期	1～	共通大学1～	渋704
火	5	情報スキル基礎	後期	1	共通大学1	渋406
火	5	健康運動実習 a	前期	1～	共通大学1～	渋609,渋509
火	5	簿記論Ⅰ	前期	1	人社1	渋501
火	5	哲学入門	後期	1～	共通大学1～	渋708
火	5	生活環境の科学	後期	1～	共通大学1～	渋604
火	5	健康運動実習 b	後期	1～	共通大学1～	渋609,渋509
火	5	実践教養講座 h	後期	1～	共通大学1～	渋607
火	5	ビジネスのスキルとマナー	後期	3	共通大学3	渋601
火	5	ビジネスのスキルとマナー	後期	3	共通大学3	渋602
火	5	簿記論Ⅱ	後期	1	人社1	渋501
火	5	シリアスゲーム・デザイン演習	後期	2	人社2	渋803
火	6	基礎スポーツ実習 a	前期	1～	共通大学1～	
火	6	基礎スポーツ実習 a	後期	1～	共通大学1～	
火	9	データベース基礎	前期	2	人社2	オ(渋)
火	9	キャリア・ショーケース	前期	2～	共通大学2～	オ(渋)

社会デザイン学科授業時間割表（渋谷）

曜日	時限	授業科目名	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
水	1	中国語 1 a	前期	1～	共通大学1～	渋603
水	1	ジェンダーと心理	前期	1～	共通大学1～	渋502
水	1	日本の近現代文学	前期	1～	共通大学1～	渋402
水	1	生活とデザイン	前期	1～	共通大学1～	渋602
水	1	オープン講座 a	前期	1～	共通大学1～	渋507
水	1	心理学概論	前期	1 (A)	人社1	渋601
水	1	発達心理学	前期	2	人社2	渋604
水	1	中国語 1 b	後期	1～	共通大学1～	渋603
水	1	ジェンダー論入門	後期	1～	共通大学1～	渋502
水	1	日本の近現代文学	後期	1～	共通大学1～	渋402
水	1	美術の世界	後期	1～	共通大学1～	渋503
水	1	調査・実験データ処理法	後期	2	人社3	渋50B
水	2	スペイン語 1 a	前期	1～	共通大学1～	渋603
水	2	日本国憲法	前期	1～	共通大学1～	渋404
水	2	日本の政治	前期	1～	共通大学1～	渋504
水	2	コミュニケーション概論	前期	1 (A)	人社1	渋601
水	2	英語コミュニケーションⅡ b	前期	2(1)	人社2	渋608
水	2	英語コミュニケーションⅡ a	前期	2(5)	人社2	渋809
水	2	英語コミュニケーションⅡ a	前期	2(6)	人社2	渋706
水	2	英語コミュニケーションⅡ a	前期	2(7)	人社2	渋607
水	2	英語コミュニケーションⅡ a	前期	2(8)	人社2	渋50A
水	2	英語コミュニケーションⅡ a	前期	2(9)	人社2	渋406
水	2	英語コミュニケーションⅡ a	前期	2(10)	人社2	渋504
水	2	民法概論	前期	2	人社2	渋801
水	2	社会科学におけるプログラミング	前期	3	人社3	渋508
水	2	スペイン語 1 b	後期	1～	共通大学1～	渋603
水	2	映像文化論	後期	1～	共通大学1～	渋503
水	2	人間関係の心理学	後期	1～	共通大学1～	渋404
水	2	経営学概論	後期	1 (A)	人社1	渋805
水	2	コミュニケーション概論	後期	1 (B)	人社1	渋601
水	2	英語コミュニケーションⅢ b	後期	2(4)	人社2	渋608
水	2	英語コミュニケーションⅢ a	後期	2(1)	人社2	渋809
水	2	英語コミュニケーションⅢ a	後期	2(2)	人社2	渋706
水	2	英語コミュニケーションⅢ a	後期	2(3)	人社2	渋607
水	2	英語コミュニケーションⅢ b	後期	2(5)	人社2	渋705
水	2	英語コミュニケーションⅢ b	後期	2(6)	人社2	渋408
水	2	英語コミュニケーションⅢ b	後期	2(7)	人社2	渋60A
水	2	異文化理解	後期	2	人社3	渋50B
水	2	人工知能と人間・社会	後期	3	人社3	渋502
水	3	Integrated English b	前期	1(1)	共通大学1	渋706
水	3	Integrated English b	前期	1(2)	共通大学1	渋809
水	3	Integrated English b	前期	1(3)	共通大学1	渋507
水	3	日本史	前期	1～	共通大学1～	渋604
水	3	生命の科学	前期	1～	共通大学1～	渋404
水	3	基礎スポーツ実習 a	前期	1～	共通大学1～	渋504
水	3	基礎スポーツ実習 a	前期	1～	共通大学1～	渋504
水	3	スペイン語 2 a	前期	2～	共通大学2～	渋603

社会デザイン学科授業時間割表（渋谷）

曜日	時限	授業科目名	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
水	3	英語コミュニケーションⅡ a	前期	2(11)	人社2	渋801
水	3	英語コミュニケーションⅡ b	前期	2(4)	人社2	渋608
水	3	Integrated English b	前期	1(11)	共通大学1	渋401
水	3	英語コミュニケーションⅡ b	前期	2(3)	人社2	渋803
水	3	課題解決プロセス応用	前期	3	人社3	渋702
水	3	衣文化論	後期	1～	共通大学1～	渋704
水	3	生活とデザイン	後期	1～	共通大学1～	渋703
水	3	基礎スポーツ実習 a	後期	1～	共通大学1～	渋504
水	3	基礎スポーツ実習 a	後期	1～	共通大学1～	渋504
水	3	スペイン語 2 b	後期	2～	共通大学2～	渋603
水	3	英語コミュニケーションⅠ b	後期	1(11)	人社1	渋801
水	3	英語コミュニケーションⅠ b	後期	1(5)	人社1	渋607
水	3	英語コミュニケーションⅠ b	後期	1(8)	人社1	渋809
水	3	英語コミュニケーションⅢ b	後期	2(8)	人社2	渋507
水	3	英語コミュニケーションⅢ b	後期	2(9)	人社2	渋608
水	3	英語コミュニケーションⅢ b	後期	2(10)	人社2	渋401
水	3	英語コミュニケーションⅢ b	後期	2(11)	人社2	渋803
水	3	行動経済学	後期	2	人社3	渋802
水	3	社会的価値創造論	後期	3	人社3	渋702
水	4	Integrated English b	前期	1(8)	共通大学1	渋801
水	4	Integrated English b	前期	1(4)	共通大学1	渋803
水	4	Integrated English b	前期	1(5)	共通大学1	渋507
水	4	Integrated English b	前期	1(6)	共通大学1	渋401
水	4	Integrated English b	前期	1(7)	共通大学1	渋608
水	4	身体運動の科学 a	前期	1～	共通大学1～	渋509
水	4	身体運動の科学 a	前期	1～	共通大学1～	渋604
水	4	クォーターオープン講座 a	前期	1～	共通大学1～	渋402
水	4	実践教養講座 a	前期	2～	共通大学2～	渋707,渋708
水	4	演習Ⅲ a	前期	3	人社3	渋505
水	4	演習Ⅲ a	前期	3	人社3	渋50B
水	4	演習Ⅲ a	前期	3	人社3	渋510
水	4	法学入門	後期	1～	共通大学1～	渋701
水	4	国際政治の基礎	後期	1～	共通大学1～	渋604
水	4	オープン講座 c	後期	1～	共通大学1～	渋508
水	4	実践教養講座 a	後期	2～	共通大学2～	渋707,渋708
水	4	英語コミュニケーションⅠ b	後期	1(2)	人社1	渋507
水	4	英語コミュニケーションⅠ b	後期	1(3)	人社1	渋801
水	4	英語コミュニケーションⅠ b	後期	1(4)	人社1	渋803
水	4	英語コミュニケーションⅠ b	後期	1(6)	人社1	渋401
水	4	英語コミュニケーションⅠ b	後期	1(7)	人社1	渋608
水	4	演習Ⅲ b	後期	3	人社3	渋505
水	4	演習Ⅲ b	後期	3	人社3	渋50B
水	4	演習Ⅲ b	後期	3	人社3	渋510
水	5	情報リテラシー応用 c	前期	1～	共通大学1～	渋406
水	5	情報リテラシー応用 d	前期	1～	共通大学1～	渋507
水	5	クォーターオープン講座 b	前期	1～	共通大学1～	渋706
水	5	実践企業分析論	前期	2～	共通大学2～	渋804

社会デザイン学科授業時間割表（渋谷）

曜日	時限	授業科目名	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
水	5	実践プロジェクト b	前期	2～	共通大学2～	渋808
水	5	演習Ⅳ a	前期	4	人社4	渋505
水	5	演習Ⅳ a	前期	4	人社4	渋50B
水	5	演習Ⅳ a	前期	4	人社4	渋510
水	5	社会学概論	後期	1	人社1	渋403
水	5	身体運動の科学 b	後期	1～	共通大学1～	渋803
水	5	身体運動の科学 b	後期	1～	共通大学1～	渋809
水	5	演習Ⅳ b	後期	4	人社4	渋505
水	5	演習Ⅳ b	後期	4	人社4	渋50B
水	5	演習Ⅳ b	後期	4	人社4	渋510
水	9	プログラミング基礎	後期	1	人社1	オ(渋)
木	1	地域研究 b	前期	1～	共通大学1～	渋809
木	1	東洋史	前期	1～	共通大学1～	渋604
木	1	社会調査概論	前期	1	人社1	渋501
木	1	マーケティング論	前期	2	人社2	渋601
木	1	表象メディア論	前期	2	人社2	渋502
木	1	心理実習	通年	3	人社3	渋507
木	1	実践教養講座 e	後期	1～	共通大学1～	渋804
木	1	Global Studies a	後期	1～	共通大学1～	渋603
木	1	経済学概論	後期	1 (B)	人社1	渋601
木	1	社会と統計	後期	1 (A)	人社1	渋501
木	1	都市フィールドワーク論	後期	2	人社2	渋801
木	1	共創デザイン論	後期	2	人社2	渋402
木	1	社会科学における質的データ分析	後期	3	人社3	渋404
木	1	社会調査方法論	後期	1	人社3	渋603
木	2	西洋の文学	前期	1～	共通大学1～	渋603
木	2	映像文化論	前期	1～	共通大学1～	渋702
木	2	女性とキャリア形成	前期	2～	共通大学2～	渋704
木	2	ライフデザイン	前期	3・4	共通大学3・4	渋502
木	2	英語コミュニケーションⅡ b	前期	2(5)	人社2	渋705
木	2	英語コミュニケーションⅡ b	前期	2(6)	人社2	渋806
木	2	メディア情報学	前期	2	人社2	渋706
木	2	応用倫理学	前期	2	人社2	渋406
木	2	ソーシャル・マーケティング論	前期	3	人社3	渋503
木	2	女性教育とジェンダー	後期	1～	共通大学1～	渋402
木	2	社会思想入門	後期	1～	共通大学1～	渋509
木	2	東洋思想入門	後期	1～	共通大学1～	渋701
木	2	世界のファンタジー	後期	1～	共通大学1～	渋604
木	2	英語コミュニケーションⅢ a	後期	2(9)	人社2	渋705
木	2	英語コミュニケーションⅢ a	後期	2(10)	人社2	渋806
木	2	社会と統計	後期	1 (B)	人社1	渋501
木	2	福祉社会学	後期	2	人社2	渋604
木	2	データ時代の女性キャリア開発	後期	2	人社2	渋602
木	2	社会科学におけるWebデータ収集技術論	後期	2	人社2	渋406
木	2	メディア・ワークショップ	後期	2	人社2	渋801
木	2	特別講義 b	後期	3	人社3	渋603
木	2	心理学統計法	後期	3	人社3	渋609

社会デザイン学科授業時間割表（渋谷）

曜日	時限	授業科目名	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
木	3	日本のポップカルチャー	前期	1～	共通大学1～	渋401
木	3	心理学入門	前期	1～	共通大学1～	渋703
木	3	心の健康	前期	1～	共通大学1～	渋704
木	3	特別講義 a	前期	3	人社3	渋603
木	3	情報リテラシー応用 e	後期	1～	共通大学1～	渋603
木	3	西洋の文学	後期	1～	共通大学1～	渋404
木	3	心の健康	後期	1～	共通大学1～	渋701
木	3	食文化論	後期	1～	共通大学1～	渋804
木	3	ファッションの世界	後期	1～	共通大学1～	渋401
木	4	社会学入門	前期	1～	共通大学1～	渋603
木	4	社会保障論	前期	1～	共通大学1～	渋607
木	4	統計的思考	前期	1～	共通大学1～	渋608
木	4	コリア語 2 a	前期	2～	共通大学2～	渋401
木	4	国際政治論	前期	2	人社3	渋503
木	4	日本国憲法	後期	1～	共通大学1～	渋404
木	4	国際経済の基礎	後期	1～	共通大学1～	渋708
木	4	東洋史	後期	1～	共通大学1～	渋809
木	4	コリア語 2 b	後期	2～	共通大学2～	渋401
木	4	マスメディア論	後期	2	人社2	渋805
木	4	社会科学におけるAI・機械学習応用	後期	3	人社3	渋503
木	5	情報スキル基礎	後期	1	共通大学1	渋407
木	9	人間社会学入門	前期	1	人社1	オ(渋)
木	9	ソーシャル・マーケティング・プロジェクト	後期	2	人社3	オ(渋)
金	1	情報リテラシー応用 a	前期	1～	共通大学1～	渋407
金	1	国際社会とジェンダー	前期	1～	共通大学1～	渋502
金	1	現代の思想	前期	1～	共通大学1～	渋402
金	1	課題解決プロセス基礎	前期	2	人社2	渋507
金	1	情報リテラシー応用 a	後期	1～	共通大学1～	渋407
金	1	現代の思想	後期	1～	共通大学1～	渋502
金	1	心理学概論	後期	1 (B)	人社1	渋601
金	1	社会システム論	後期	2	人社2	渋608
金	1	マルチメディア処理	後期	2	人社2	渋507
金	2	情報リテラシー基礎	前期	人部1(a)	共通大学1	渋402
金	2	情報リテラシー基礎	前期	人部1(b)	共通大学1	渋406
金	2	情報リテラシー基礎	前期	人部1(c)	共通大学1	渋408
金	2	情報リテラシー基礎	前期	人部1(d)	共通大学1	渋608
金	2	情報リテラシー基礎	前期	人部1(e)	共通大学1	渋706
金	2	情報リテラシー基礎	前期	人部1(f)	共通大学1	渋707
金	2	Global Studies d	前期	1～	共通大学1～	渋404
金	2	グローバル・キャリアデザイン	後期	3	共通大学3	渋702
金	2	社会科学におけるAI・機械学習	前期	2	人社2	渋708
金	2	実験デザインラボ II	前期	2	人社2	渋809
金	2	関係行政論	前期	2	人社2	渋507
金	2	社会調査実習 I	前期	3	人社3	渋704
金	2	イノベーション論	前期	3	人社3	渋607
金	2	ジェンダード・イノベーション	前期	3	人社3	渋504
金	2	言語学入門	後期	1～	共通大学1～	渋502

社会デザイン学科授業時間割表（渋谷）

曜日	時限	授業科目名	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
金	2	リーダーシップ開発 a	後期	1	人社1	渋608
金	2	デザイン思考とデータ活用	後期	2	人社2	渋708
金	2	社会調査実習 II	後期	3	人社3	渋704
金	2	メディアデータ分析	後期	3	人社3	渋50A
金	3	実践入門セミナー	前期	人部1(K)	共通大学1～	渋702
金	3	実践入門セミナー	前期	人部1(L)	共通大学1～	渋703
金	3	実践入門セミナー	前期	人部1(M)	共通大学1～	渋60A
金	3	情報リテラシー応用 c	前期	1～	共通大学1～	渋408
金	3	日本の古典文学	前期	1～	共通大学1～	渋603
金	3	心理学入門	前期	1～	共通大学1～	渋804
金	3	教育学	前期	1～	共通大学1～	渋704
金	3	実践プロジェクト a	前期	1～	共通大学1～	渋503
金	3	メディア社会論	前期	2	人社2	渋502
金	3	女性と労働	前期	2	人社2	渋508
金	3	法律学概論	前期	1 (A)	人社3	渋701
金	3	Global Studies c	後期	1～	共通大学1～	渋404
金	3	演習 I	後期	1 (K)	人社1	渋401
金	3	演習 I	後期	1 (L)	人社1	渋605
金	3	演習 I	後期	1 (M)	人社1	渋604
金	3	実践デザインラボ I	後期	1	人社1	渋708
金	3	ジェンダー論	後期	1	人社1	渋501
金	3	データに基づく地域創生	後期	2	人社2	渋802
金	3	メディア表現	後期	3	人社3	渋508
金	3	デジタルメディア論	後期	3	人社3	渋402
金	4	Integrated English b	前期	1(9)	共通大学1	渋707
金	4	日本の経済	前期	1～	共通大学1～	渋401
金	4	法律学概論	前期	1 (B)	人社1	渋602
金	4	英語コミュニケーション II b	前期	2(2)	人社2	渋504
金	4	リーダーシップ開発 b	前期	2	人社2	渋608
金	4	社会・集団・家族心理学	前期	2	人社2	渋607
金	4	情報セキュリティ	前期	2	人社2	渋408
金	4	情報リテラシー応用 b	後期	1～	共通大学1～	渋406
金	4	クォーターオープン講座 c	後期	1	共通大学1～	渋702
金	4	英語コミュニケーション I a	後期	1(4)	人社1	渋706
金	4	英語コミュニケーション III a	後期	2(11)	人社2	渋607
金	4	広告・PR論	後期	2	人社2	渋509
金	5	情報リテラシー応用 b	後期	1～	共通大学1～	渋406
金	5	実践キャリアプランニング	前期	人部2A	共通大学2	渋501
金	5	実践キャリアプランニング	前期	人部2B	共通大学2	渋601
土	1	Active Reading	前期	1～	共通大学1～	渋404
土	1	文学とジェンダー	前期	1～	共通大学1～	渋503
土	1	地球と環境の科学	前期	1～	共通大学1～	渋504
土	1	身体の科学	後期	1～	共通大学1～	渋504
土	2	農業と食料	後期	1～	共通大学1～	渋603
他	9	海外語学研修a	集中	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修b	集中	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修c	集中	1～	共通大学1～	

社会デザイン学科授業時間割表（渋谷）

曜日	時限	授業科目名	開講区分	配当学年・組	学年クラス	教室名
他	9	海外語学研修d	集中	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修e	集中	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修f	集中	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修g	集中	1～	共通大学1～	
他	9	海外語学研修h	集中	1～	共通大学1～	
他	9	海外短期インターンシップ	集中	1～	共通大学1～	
他	9	海外長期インターンシップ	集中	1～	共通大学1～	
他	9	ボランティアプロジェクトa	集中	1～	共通大学1～	
他	9	ボランティアプロジェクトa	集中	1～	共通大学1～	
他	9	実践教養講座 b	後期	1～	共通大学1～	
他	9	実践教養講座 c	前期	1～	共通大学1～	
他	9	実践企業分析論演習	前期	2～	共通大学2～	
他	9	実践プロジェクト c	前期	2～	共通大学2～	
他	9	キャリア開発実践論	通年	3	共通大学3	
他	9	短期インターンシップ	集中	3	共通大学3	
他	9	長期インターンシップ	集中	3	共通大学3	
他	9	言語コミュニケーション開発支援実習	通年	3	人社3	
他	9	卒業研究	通年	4	人社4	
他	9	卒業研究	通年	4	人社4	
他	9	卒業研究	通年	4	人社4	
他	9	卒業研究	通年	4	人社4	
他	9	卒業研究	通年	4	人社4	
他	9	卒業研究	通年	4	人社4	
他	9	卒業研究	通年	4	人社4	
他	9	卒業研究	通年	4	人社4	
他	9	卒業研究	通年	4	人社4	
他	9	卒業研究	通年	4	人社4	

資料9

主な学術洋雑誌（社会デザイン学科関係）

No.	種類	雑誌名	出版社名
1	洋雑誌	American Journal of Sociology	University of Chicago
2	洋雑誌	Annals of Data Science (SpringerLink)	Springer Science and Business Media Deutschland GmbH
3	洋雑誌	Annual Review of Sociology	Annual Reviews Inc.
4	洋雑誌	Artificial Intelligence (Science Direct)	Elsevier
5	洋雑誌	British Journal of Sociology (Wiley Online Library)	Wiley-Blackwell Publishing Ltd
6	洋雑誌	British Journal of Sociology of Education (Taylor & Francis Journals)	Taylor and Francis Ltd.
7	洋雑誌	Current Sociology (SAGE journals)	SAGE Publications Ltd
8	洋雑誌	Educational Media International	Routledge
9	洋雑誌	Engineering Applications of Artificial Intelligence (Science Direct)	Elsevier Ltd.
10	洋雑誌	Entrepreneurship and Regional Development	Routledge
11	洋雑誌	Entrepreneurship Theory and Practice (Wiley Online Library)	Wiley-Blackwell
12	洋雑誌	EPJ Data Science (SpringerLink)	Springer Science + Business Media
13	洋雑誌	Information Communication and Society	Routledge
14	洋雑誌	Information Society (Taylor & Francis Journals)	Taylor and Francis Ltd.
15	洋雑誌	International Entrepreneurship and Management Journal (SpringerLink)	Springer New York
16	洋雑誌	International Journal of Business Intelligence and Data Mining	Inderscience Enterprises Ltd
17	洋雑誌	International Journal of Data Science and Analytics (SpringerLink)	Springer Nature Switzerland AG
18	洋雑誌	Journal of Artificial Intelligence Research	Morgan Kaufmann Publishers, Inc.
19	洋雑誌	Journal of International Entrepreneurship	Kluwer Academic Publishers
20	洋雑誌	Social Media and Society (SAGE journals)	SAGE Publications Ltd
21	洋雑誌	Social Science Computer Review (SAGE journals)	SAGE Publications Inc.
22	洋雑誌	Social Science Quarterly (Wiley Online Library)	Wiley-Blackwell Publishing Ltd
23	洋雑誌	Social Science Researce	Academic Press Inc.
24	洋雑誌	Social Studies of Science (SAGE journals)	SAGE Publications Ltd
25	洋雑誌	Sociology (SAGE journals)	SAGE Publications Ltd
26	洋雑誌	Sociology of Education (SAGE journals)	SAGE Publications Inc.
27	洋雑誌	Sociology of Health and Illness (Wiley Online Library)	Wiley-Blackwell Publishing Ltd
28	洋雑誌	Strategic Entrepreneurship Journal (Wiley Online Library)	John Wiley & Sons Inc.

○実践女子大学人間社会学部教授会運営規程

(平成16年12月15日制定)

改正 平成19年2月28日 平成20年3月28日
平成24年3月23日 平成26年4月1日改正
2022年6月1日改正

(趣旨)

第1条 この規程は、実践女子大学学則第53条第2項の規定に基づき、人間社会学部教授会(以下「教授会」という。)の組織及び運営に関して必要な事項を定めるものである。

(構成員)

第2条 教授会は、実践女子大学人間社会学部に所属する専任の教授、准教授、講師及び助教(以下「構成員」という。)をもって構成する。

(審議事項)

第3条 教授会は、人間社会学部に係る次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教員の人事に関する事項
- (2) 学部の授業科目等カリキュラムに関する事項
- (3) 学生の入学、休学、復学、卒業等学生の身分に関する事項
- (4) 学生の試験、学習評価及び単位修得に関する事項
- (5) 学生の賞罰及び学生支援に関する事項
- (6) その他学部の教育、研究及び運営に関する重要事項

(会議の開催)

第4条 教授会は、原則として毎月第2木曜日を定例の開催日とする。ただし、必要があるときは、臨時に開催することができる。

(会議の招集)

第5条 教授会は、学部長がこれを招集する。

- 2 学部長は、構成員の3分の1以上から議案を添えて開催の要求があったときは、教授会を招集しなければならない。
- 3 教授会において審議する議案は、緊急やむを得ない場合を除き、会議の3日前までに構成員に通知しなければならない。

(議長)

第6条 学部長は、教授会の議長となり、会議を主宰する。

- 2 学部長に事故あるときは、あらかじめ指名された者が議長の職務を行う。

(定足数)

第7条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。ただし、6か月以上の長期出張者及び休職中の者は構成員の数に算入しない。

(構成員以外の者の出席)

第8条 教授会は、必要があると認めたときは、構成員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

(議事及び議決)

第9条 教授会の議事は、他に特別の定めのある場合を除き、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(特別議決事項)

第10条 教員の採用及び昇任に係る事項は、別に定める内規によってその議決方法を定める。

(議事録)

第11条 教授会の議事については、議事録を作成し、これを次回教授会において確認しなければならない。

2 議事録は、教育総合サポート部が保管し、構成員から請求があった場合は閲覧させなければならない。

(専門委員会)

第12条 教授会は、必要に応じて専門委員会を置き、企画立案に当たらせることができる。

(事務)

第13条 教授会の事務は、教育総合サポート部において行う。

(細則)

第14条 この規程に定めるもののほか、教授会の運営に関し必要な事項は、教授会の議を経て、別に定める。

(規程の改廃)

第15条 この規程の改廃は、教授会において構成員の3分の2以上の同意を必要とする。

附 則

この規程は、平成16年12月15日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則(平成19年2月28日)

この改正規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年3月28日)

この改正規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月23日)

この改正規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則(平成26年4月1日改正)

この改正規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(2022年6月1日改正)

この改正規程は、2022年6月1日から施行する。

資料 11

○実践女子大学教授会規程

改正 平成 12 年 4 月 1 日 平成 17 年 4 月 1 日
平成 18 年 12 月 6 日 平成 26 年 4 月 1 日改正
平成 27 年 3 月 19 日改正

- 第 1 条 教授会は、学部全専任教授をもって構成する。ただし、必要ある場合は准教授、専任講師、助教及びその他の職員を加えることができる。
- 第 2 条 教授会は、学部教授会と全学教授会とする。
- 第 3 条 学部教授会の運営に関する規程は、別に定める。
- 第 4 条 学部教授会は、学部長が招集し、議長となる。1 名の書記を置く。書記は、学部長がこれを委嘱する。
- 2 前項の規定にかかわらず、学部長は教授会の議を経て、議長の権限を他の構成員に委ねることができる。
- 第 5 条 全学教授会は学長が招集し、議長となる。1 名の書記を置く。書記は、学長がこれを委嘱する。
- 2 前項の規定にかかわらず、学長は全学教授会の議を経て、議長の権限を他の構成員に委ねることができる。
- 第 6 条 学部教授会及び全学教授会は、構成員の 3 分の 2 以上の出席により成立する。
- 第 7 条 学部教授会及び全学教授会の議決は、出席者の過半数により決し、可否同数の場合は議長が議決する。
- 第 8 条 学部教授会及び全学教授会に幹事若干名を置く。幹事は、事務職員がこれに当たり、議長を助けて議事の進行に当たる。
- 第 9 条 学部教授会は、次の事項を審議し、学長に意見を述べるものとする。
- (1) 学部長の選任に関する事項
 - (2) 学則に関する事項
 - (3) 教授、准教授、講師、助教の任免、昇任、代講等異動に関する事項
 - (4) 学科・課程等の授業科目編成に関する事項
 - (5) 学生の入学及び卒業に関する事項
 - (6) 学位の授与に関する事項
 - (7) 学生の身分に関する事項
 - (8) 学生の賞罰に関する事項
 - (9) その他学長が定めた重要な事項
- 2 学部教授会は、前項に規定するもののほか、教育研究に関する事項について審議し、又は学長及び学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。

第10条 全学教授会は、次の事項を審議し、学長に意見を述べることができる。

- (1) 学長の候補者に関する事項
- (2) 学則の制定に関する事項
- (3) 教育研究に関する事項
- (4) 学科・教育研究の施設に関する事項
- (5) その他学長が必要と認める事項

第11条 第9条第3号の教授の採用及び教授への昇任に関する事項は、教授をもって構成する教授会において審議するものとし、准教授の採用及び准教授への昇任については准教授を、講師の採用については講師を、助教の採用については助教を、それぞれ教授会の中に加えることができる。

第12条 学長は、大学・短期大学の共通事項を審議するため、合同教授会を開催することができる。

2 合同教授会の運営方法は、全学教授会に準ずる。

第13条 この規程の改廃は、全学教授会の議を経て、学長が決定し、常任理事会が行う。

附 則(平成12年4月1日)

この改正規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成17年4月1日)

この改正規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成18年12月6日)

この改正規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成26年4月1日改正)

この改正規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成27年3月19日改正)

この改正規程は、平成27年4月1日から施行する。

資料 12

○実践女子大学協議会規程

(平成 27 年 3 月 19 日制定)

改正 平成 28 年 3 月 23 日改正 平成 28 年 4 月 13 日改正

平成 29 年 4 月 26 日改正 2019 年 3 月 13 日改正

2022 年 6 月 1 日改正

(目的)

第 1 条 実践女子大学及び実践女子大学大学院（以下「本学」という。）の教学関係管理・運営に関する事項を審議するために、実践女子大学協議会（以下「大学協議会」という。）を置く。

2 大学協議会は、学長が教学の重要事項を決定するに当たり、教授会及び研究科委員会（以下「教授会等」という。）の意見を聴き、十分に協議を行う。

3 大学協議会は、本学の教育課程の編成に関する全学的な方針を策定し、その検証・評価を行う。

4 大学協議会は、本学の教育の質保証の責任を担い、自己点検・評価等の検証結果を改善・改革に反映するための方針を協議する。

(審議事項)

第 2 条 大学協議会は、次の事項を審議する。

(1) 理事会付議事項である学部・学科・研究科・専攻の設置及び廃止並びに定員に関する事項

(2) 理事会付議事項である学則の改廃に関する事項

(3) 常任理事会付議事項である教学関係規程の制定及び改廃に関する事項

(4) 教員人事計画及び教員の採用・昇任に関する事項

(5) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(6) 奨学金に関する事項

(7) 授業の内容及び授業方法の改善と向上を目的としたファカルティ・ディベロップメントの基本方針に関する事項

(8) 教育研究活動等の効果的な運営のための、教職員の能力及び資質の向上を目的としたスタッフ・ディベロップメントの基本方針に関する事項

(9) 前各号に掲げるもののほか、教育研究に関する事項で、学長が予め教授会等の意見を聴取することが必要と認めた事項

(10) 第 1 号から第 8 号に掲げるもののほか、教授会等が審議し学長に提出された意見のうち、学長が審議が必要と認めた事項

2 前項第 8 号の審議にあたっては、事前に人事担当理事と協議するものとする。

(構成員)

第3条 大学協議会の構成員は、次のとおりとする。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 各研究科委員長
- (5) 大学教育研究センター長
- (6) 学生総合支援センター長
- (7) 教学事務局長
- (8) 学長室部長
- (9) 学生総合支援センター副センター長（事務職員）
- (10) 国際交流推進部長
- (11) 研究推進室部長
- (12) その他学長が必要と認めた者
(招集・議長)

第4条 大学協議会は、学長が招集し、議長となる。

- 2 学長に事故あるとき又は学長が欠けたときは、副学長がその職務を代行する。
(成立)

第5条 大学協議会は、構成員の3分の2以上の出席をもって成立する。

- 2 学長は、必要に応じて構成員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。
(学長の決定)

第6条 学長は、第2条に定める審議事項について、前条の規定により審議された事項を参酌し、決定する。

- 2 学長は、大学協議会における再審議が必要と認めたときは、改めて大学協議会にて審議を行うことができる。
(決定事項の報告等)

第7条 学長は、大学協議会で審議した理事会付議事項及び常任理事会付議事項について、常任理事会に付議する。

- 2 学長は、前条で決定した事項のうち、学園の経営にかかわる重要事項について、常任理事会に報告し、承認を得るものとする。
- 3 学部長は、大学協議会で協議し、学長が決定した学部運営上必要な事項を学部教授会に報告するものとする。
- 4 研究科委員長は、大学協議会で協議し、学長が決定した研究科運営上必要な事項を研究科委員会に報告するものとする。

(任期)

第8条 第3条第12号の構成員の任期は1年とする。

- 2 前項以外の構成員の任期は、役職の任期とする。

(事務)

第9条 大学協議会の事務は、学長室が行う。

(大学短大協議会)

第10条 学長は、大学・短期大学部の共通事項を審議するため、実践女子大学短期大学部協議会と合同で開催することができる。

2 前項の合同で行う協議会を「大学短大協議会」と称し、その運営は、大学協議会に準ずる。

(改廃)

第11条 この規程の改廃については、大学協議会の議を経て、学長が決定し、常任理事会に付議する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則(平成28年3月23日改正)

この改正規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則(平成28年4月13日改正)

この改正規程は、平成28年4月13日から施行する。

附 則(平成29年4月26日改正)

この改正規定は、平成29年4月26日から施行する。

附 則(2019年3月13日改正)

この改正規程は、2019年4月1日から施行する。

附 則(2022年6月1日改正)

この改正規程は、2022年6月1日から施行する。

資料 13

○実践女子大学自己点検・評価に関する規程

(平成 17 年 6 月 1 日制定)

改正 平成 22 年 3 月 24 日 平成 26 年 4 月 1 日改正

2019 年 3 月 13 日改正 2019 年 5 月 22 日改正

2022 年 6 月 1 日改正

(目的)

第 1 条 この規程は、「実践女子大学学則」第 2 条及び「実践女子大学大学院学則」第 2 条に基づき、実践女子大学及び実践女子大学大学院（以下「本学」という。）の自己点検・評価に関する必要な事項を定める。

(自己点検・評価の組織)

第 2 条 本学は、自己点検・評価を円滑に実施するため、大学自己点検・評価委員会を置く。

2 前項に定めるもののほか、本学の自己点検・評価の客観性・公平性を担保するため、学外有識者によって組織する外部評価・助言委員会を置く。

3 前項の外部評価・助言委員会については、別に定める「実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部外部評価・助言委員会に関する規程」による。

(大学自己点検・評価委員会)

第 3 条 大学自己点検・評価委員会は、本学の自己点検・評価全体を統括し、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 自己点検・評価の基本方針及び実施要領の策定に関する事項

(2) 自己点検・評価の実施に関する事項

(3) 各学部及び大学院各研究科等の自己点検・評価委員会（以下「部門会議」という。）への連絡、調整に関する事項

(4) 各部門会議の自己点検・評価結果の総括及び大学全体の自己点検・評価報告書の作成に関する事項

(5) 前号に基づく実践女子学園自己点検・評価委員会（以下「学園自己点検・評価委員会」という。）及び大学協議会への報告

(6) その他本学の自己点検・評価に関する事項

2 大学自己点検・評価委員会は、次の委員をもって構成する。

(1) 副学長

(2) 学部長

(3) 大学院研究科委員会委員長

(4) 大学教育研究センター長

(5) 学生総合支援センター長

- (6) 学長室部長
 - (7) 学生総合支援センター副センター長（事務職員）
 - (8) 研究推進室部長
 - (9) その他副学長が必要と認める者
- 3 前項第9号の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
 - 4 大学自己点検・評価委員会は、必要に応じて構成員以外の者に出席を求め意見を徴することができる。
 - 5 委員会に委員長及び副委員長を置く。
 - 6 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代行する。
 - 7 大学自己点検・評価委員会の委員長は、副学長がこれにあたる。副委員長は、副学長が選任する。
 - 8 大学自己点検・評価委員会は、自己点検・評価報告書を、学園自己点検・評価委員会の承認を得て、公表することができる。
 - 9 大学自己点検・評価委員会の事務は、学長室が所管する。
(各学部自己点検・評価委員会)

第4条 部門会議の構成は、次のとおりとする。

- (1) 文学部自己点検・評価委員会
 - (2) 生活科学部自己点検・評価委員会
 - (3) 人間社会学部自己点検・評価委員会
 - (4) 大学院文学研究科自己点検・評価委員会
 - (5) 大学院生活科学研究科自己点検・評価委員会
 - (6) 大学院人間社会研究科自己点検・評価委員会
- (部門会議の業務)

第5条 部門会議は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 各学部（課程・研究所を含む。以下同じ）及び各研究科等の自己点検・評価の実施
 - (2) 自己点検・評価結果の報告書の作成及び大学自己点検・評価運営委員会への提出
 - (3) 自己点検・評価結果に基づく検証及び活用
 - (4) その他各学部及び各研究科等の自己点検・評価の実施に関すること
- 2 部門会議は、各学部長及び各研究科委員会委員長が委員長となり、各学部及び各研究科の専任教員若干名を委員とする。
 - 3 前項の委員は、各学部長及び各研究科委員会委員長が選任し、その任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(改廃)

第6条 この規程の改廃については、大学自己点検・評価委員会の議を経て、学長が決定し、常任理事会に付議する。

附 則

- 1 この規程は、平成 17 年 6 月 1 日から施行する。
- 2 平成 5 年 10 月 1 日施行の実践女子大学自己評価委員会規程及び平成 5 年 11 月 1 日施行の実践女子大学大学院自己評価委員会規程は廃止する。

附 則(平成 22 年 3 月 24 日)

この改正規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 26 年 4 月 1 日改正)

この改正規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(2019 年 3 月 13 日改正)

この改正規程は、2019 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(2019 年 5 月 22 日改正)

この改正規程は、2019 年 5 月 22 日から施行する。

附 則(2022 年 6 月 1 日改正)

この改正規定は、2022 年 6 月 1 日から施行する。

資料 14

○実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部外部評価・助言委員会に関する規程

(平成 28 年 7 月 20 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、実践女子大学学則第 2 条、実践女子大学大学院学則第 2 条及び実践女子大学短期大学部学則第 2 条に基づき、実践女子大学、実践女子大学大学院及び実践女子大学短期大学部（以下「本学」という。）の自己点検・評価の客観性・公平性を担保し、教育研究水準の更なる向上を図るため、学外有識者による評価を行い、その意見を自己点検・評価活動に反映させることを目的として設置する外部評価・助言委員会（以下「委員会」という。）に関する必要な事項を定める。

(構成)

第 2 条 委員会は、学外有識者による委員をもって構成する。

2 前項の外部評価委員については、次条で定める。

(外部評価委員)

第 3 条 外部評価委員は、人格識見が高く、かつ本学の振興と発展に関心と理解のある学外者とする。

2 外部評価委員は、6 名以上 12 名以内とする。

3 外部評価委員の任期は、1 年とし、再任を妨げない。

4 外部評価委員の選任及び任命は、大学協議会及び短期大学部協議会の議を経て学長が行う。

(委員長及び副委員長)

第 4 条 委員会に委員長及び副委員長をおく。

2 委員長及び副委員長は、委員の中から互選する。

3 副委員長は、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(評価・助言項目)

第 5 条 委員会は、本学の教育・研究活動等の現状を把握し、将来の発展のために、次の各号に定める事項について、評価・助言を行う。

(1) 本学の教育活動に関する事項

(2) 本学の研究活動に関する事項

(3) 本学の社会貢献活動に関する事項

(4) その他学長から諮問された事項

(委員会の運営)

第 6 条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 委員会は、原則として年に 1 回以上開催する。

3 委員会は、評価・助言の結果及び改善を求める提言事項を報告書にまとめ、学長に提出する。

4 委員会は、必要に応じて、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
(専門部会)

第7条 委員会は、大学・大学院・短期大学部ごとに、又は第5条各号に定める事項ごとに、必要に応じて専門部会を置くことができる。

2 専門部会の長は、委員長が指名する。

3 専門部会の委員の選任等、部会の運営に関する事項は、委員会の議を経て別に定める。

4 専門部会の長は、専門部会の業務推進状況を適宜委員会に報告する。
(報告書の活用)

第8条 学長は、第6条3項により提出された報告書を受理し、「実践女子大学自己点検・評価に関する規程」に定める大学自己点検・評価委員会及び「実践女子大学短期大学部自己点検・評価に関する規程」に定める短期大学部自己点検・評価委員会に提案する。

2 自己点検・評価に関する各委員会は、報告書を尊重し、点検・評価活動に反映させるものとする。

(守秘義務)

第9条 委員会の委員は、この規程に基づく評価を行う際に知り得た事項について、守秘義務を順守しなければならない。かつ、任期終了後も他に漏らしてはならない。

(事務)

第10条 委員会の事務は、学長室が所管する。

(改廃)

第11条 本規程の改廃は、委員会の意見を踏まえて、学長が決定し、常任理事会が行う。

附 則

1 この規程は、平成28年7月20日から施行する。

2 第3条第3項の定めにかかわらず、平成28年度に就任した外部評価委員の任期は、平成28年度末までとする。

学生確保の見通し等を記載した書類

目次

1	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	P. 2
(1)	設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	P. 2
(2)	地域・社会的動向等の現状把握・分析	P. 4
(3)	新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等	P. 5
i	新設学科等の趣旨目的、教育内容	P. 5
ii	定員設定の理由	P. 5
iii	今学科等を新設しなければならない理由	P. 7
iv	学納金額設定理由	P. 8
(4)	学生確保の見通し	P. 8
i	学生確保の見通しの調査結果	P. 8
ii	新設学部等の分野の動向	P. 11
iii	中期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等	P. 12
iv	競合校の状況	P. 13
v	既設学部の状況	P. 14
(5)	学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	P. 15
2	人材需要の動向等社会の要請	P. 17
(1)	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	P. 17
(2)	社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	P. 17
i	卒業生の採用意向の調査結果	P. 17
ii	社会的な人材需要	P. 21

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

実践女子大学は、建学の精神として「女性が社会を変える、世界を変える」を掲げている。この建学の精神に基づき、昭和24年(1949年)実践女子大学文家政学部として発足した。その後昭和40年(1965年)に文学部、家政学部の2学部体制とした後、平成6年(1994年)家政学部を生活科学部に改めるなどの学部学科の改編を経て、平成16年(2004年)に3つ目の学部人間社会学部人間社会学科を設置した。その後、人間社会学部に現代社会学科を設置、生活科学部に現代生活学科を設置、平成26年(2014年)の渋谷キャンパス開設と時代が求める人材を輩出するために、学部学科の改編を進め、教育・研究を担ってきた。

本学は、平成26年(2014年)の渋谷キャンパス開設により、文学部、人間社会学部並びに併設の短期大学部において志願者増となったが、渋谷キャンパスの教育研究が落ち着くまで学部等の改編には着手してこなかった。また、日野キャンパスにおいても現代生活学科設置後の改編は行わなかった。また、この間に特定地域内の収容定員の抑制、入学定員の厳格化など、大学全体の学生数を維持するための施策の実施が求められてきた。

大学内では、令和6年(2024年)に向けて、既存学部学科の教育課程の見直しを行うとともに、共通教育科目の改編なども計画的に進められてきた。

大学全体で見れば、入学定員を確保してきたが、日本私立学校振興・共済事業団の入学志願動向調査によれば、令和3年(2021年)度は全国の短期大学が設置する人文系の学科のうち、86.0%が定員割れを起こしており、62.8%は入学定員充足率が80%未満となるなど、その入学者の状況は大変厳しいものとなっていることから、本学短期大学部でも志願者の減少により入学定員の確保が厳しくなることを想定し、本学の教育資源を活用した新たな学部学科設置を構想することとなった。

グローバル化が進展し、また社会情勢・環境が変化し続ける現代社会で発生する諸問題を解決できる能力を有する人材が求められている。本学では、英語教育はもとより、コミュニケーション力、観光を通じた地域貢献などの教育を行ってきた短期大学部の教育資源の活用が可能であること、また、現代社会が有する諸問題を解決するために必要な知識と情報化社会で必要とされる情報通信技術の知識などが求められており、人間社会学部の人材や教育手法の活用が可能であることから、新たな学科の設置を構想した。

このような社会情勢を踏まえ、令和6年(2024年)4月に人間社会学部社会デザイン学科(入学定員80名)の設置を計画した。なお、大学の入学定員増に合わせて、人間社会学部現代社会学科(令和6年4月から「ビジネス社会学科」に名称変更予定)の入学定員を100名から80名に減じる。また実践女子大学短期大学部(日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科)の学生募集を停止し廃止する。これにより、短期大学部の入学定員180名、収容定員360名が減少する。

社会学部社会デザイン学科と同時に設置する国際学部国際学科は入学定員 120 名、収容定員 480 名、人間社会学部社会デザイン学科は入学定員 80 名、収容定員 320 名とするとともに、人間社会学部現代社会学科の入学定員 20 名、収容定員 80 名を減じることにより、実践女子大学全体の収容定員は 720 名増の 4,410 名となる。これは、実践女子大学短期大学部の入学定員 180 名の 4 年分の増加である。本学渋谷キャンパスが所在する東京都渋谷区は「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律」で定める特定地域に該当するが、同一法人が有する大学等の入学定員の範囲で大学の入学定員に振り替えることができる特例を用いて、入学定員、収容定員を増員するものである。

<図表 1 >

変更前

実践女子大学

学部・学科等の名称	修業 年限 年	入学 定員	編入 学定 3年次 人	収容 定員
文学部				
国文学科	4	110	9	458
英文学科	4	110	9	458
美学美術史学科	4	90	2	364
生活科学部				
食生活科学科				
管理栄養士専攻	4	70	—	280
食物科学専攻	4	75	—	300
健康栄養専攻	4	40	—	160
生活環境学科	4	80	2	324
生活文化学科				
生活心理専攻	4	40	2	164
幼児保育専攻	4	45	—	180
現代生活学科	4	60	—	240
人間社会学部				
人間社会学科	4	100	—	400
現代社会学科	4	100	—	400
計		920	24	3,728

変更後

実践女子大学

学部・学科等の名称	修業 年限 年	入学 定員	編入 学定 3年次 人	収容 定員
文学部				
国文学科	4	110	9	458
英文学科	4	110	9	458
美学美術史学科	4	90	2	364
生活科学部				
食生活科学科				
管理栄養士専攻	4	70	—	280
食物科学専攻	4	75	—	300
健康栄養専攻	4	40	—	160
生活環境学科	4	80	2	324
生活文化学科				
生活心理専攻	4	40	2	164
幼児保育専攻	4	45	—	180
現代生活学科	4	60	—	240
人間社会学部				
人間社会学科	4	100	—	400
ビジネス社会学科	4	80	—	320
社会デザイン学科	4	80	—	320
国際学部				
国際学科	4	120	—	480
計		1,100	24	4,448

実践女子大学短期大学部

学部・学科等の名称	修業 年限	入学 定員	編入 学定	収容 定員
日本語コミュニケーション学科	2	80	—	160
英語コミュニケーション学科	2	100	—	200
計		180		360

実践女子大学短期大学部

学部・学科等の名称	修業 年限	入学 定員	編入 学定	収容 定員
日本語コミュニケーション学科	2	0	—	0
英語コミュニケーション学科	2	0	—	0
計		0		0

(2) 地域・社会的動向等の現状把握・分析

20世紀の後半から、ヒト・モノ・カネ・情報の移動がかつてないほど国際的な広がりを見せ、環境問題に代表される国境を越えた「世界的課題」が認識されるようになり、さらに情報通信技術が劇的な進化を遂げる中、いわゆるグローバル化が加速度的に進展しており、経済、文化、環境、情報通信など、あらゆる活動が国家の範囲には収まらず、地球規模で連動し変化するようになった。

また、本学が立地する東京は、日本の政治、経済、社会活動の中心であり、多くの企業が立地し活動を行っており、多くの海外出身の人が働き、生活をし、さらには、観光等でおとずれ、日本のグローバル化が最も進んだ地域の一つであり、また日本各地からも多くの人材が流入し多様な社会を構成している。

現代社会においては、社会を理解し新しい取り組みに欠かせない共創デザイン、ソーシャル・データサイエンス、メディア・イノベーションなどの社会科学の幅広い学問を学び、主体的に社会の問題を発見し、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、地域社会やビジネス社会、メディアなどの分野で力を発揮しうる人材が求められてきている。

異なる立場や職業の人・団体が協力して新たな価値を創り出す共創デザインや、行政や地域社会の多様な人たちが社会を良くしていこうとするソーシャル・デザイン、社会のビッグデータを基にしてデータ分析など、既存の社会学の知識をもとに様々な問題解決手法を取り入れ、現代社会の課題を解決していく人材が求められている。さらに、ICT (Information and Communication Technology : 情報通信技術) により、DX (デジタル・トランスフォーメーション) が進展し、また、ビッグデータによるデータ分析などが急速に高度化している。DXの推進を担う人材は、エンジニアやデータサイエンティストだけではなく、社会科学の知識を有し、デザイン思考やプロジェクト管理ができる人材であると考えられる。

このように、グローバル化が進展し国と国の境界がなくなり、またSDGsへの対応、ICT技術の進展による高度化された知識基盤社会における人材については、わが国全体において不足しているところであり、人材育成に資することは大学の責務であるとともに、女子大学として女性の人材育成に取り組むことの重要性は極めて高い。

人間社会学部は文学及び社会学・社会福祉学を基礎とする学部であり、「人を知り、社会を知り、ビジネスを学んで、よりよい未来をデザインする。」をモットーにした人材育成を行ってきた。現代社会において活躍するためには、社会に関する知識とともに、様々な課題解決手法を身につけることが必要となる。本学人間社会学部に新たに社会デザイン学科を

設置することは、社会が求める人材像に合致するものである。

(3)新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

i 新設学科等の趣旨目的、教育内容

人間社会学部社会デザイン学科は、人間社会学部の理念である「人を知り、社会を知り、ビジネスを学んで、よりよい未来をデザインする。」に示されるとおり、人間社会学部共通科目として社会学、コミュニケーション学、経済学、経営学、心理学、統計学や英語を学修するとともに、学科独自の科目としてプログラミングやデータ処理などの ICT 関連科目を学ぶことができる。

人間社会学部の中に社会デザイン学科を設置することにより、現代社会の複雑化する社会情勢や社会システムを理解するための社会学的知識やアクティブラーニングなどを通して学ぶ、各種の課題解決手法の修得ができるとともに、社会学分野においてデータサイエンス知識を活用しながら多様化する社会を分析し、新たな仕組みを構築する土台となる情報通信技術を学ぶことは大いに意義があると考えます。社会デザイン学科で学ぶ ICT に関する専門知識は、社会科学におけるデータ収集、データ処理と関連させ、様々な課題解決手法やアイデアの創出につなげるものであり、企業が求めるデータサイエンス思考やビッグデータ処理などの知識に対応している。

後段で述べるが、社会デザイン学科に対して、企業から次の意見をいただき期待されている。

- ・データサイエンス、デザイン思考など今後より注目される分野だと考える
- ・現代社会に沿った「情報」のスキルを身につけている学生の育成に力を入れている
- ・人間関係、コミュニケーション、チームワークを科学する力
- ・データサイエンスは今後もニーズが高まる
- ・アクティブラーニングは、社会に出て大いに役立つ

ii 定員設定の理由

新設学科である人間社会学部社会デザイン学科の設置を検討するにあたり、学生募集を停止する実践女子大学短期大学部の入学定員である日本語コミュニケーション学科 80 名、英語コミュニケーション学科 100 名の定員を維持する方針を定めた。そのうえで短期大学部の学生募集を停止することにより、この 180 名の入学定員を人間社会学部社会デザイン学科並びに同時に設置する国際学部割り当てることとした。本学園の発展のためには、現在の経営基盤をさらに安定化させる必要がある、その方策の一つとして、現行の収容定員の増員が必要であるが、東京都 23 区内が特定地域であるため、単なる学部等設置による収容定員増が出来ない中、同一法人内の入学定員の移行による除外規定があり、この制度を用いて短期大学部の入学定員を大学に移行し、大学の収容定員増を行うこととした。また、短期大学部の入学定員の範囲であれば、4 年制にして収容定員の増員がされても渋谷キャンパス

での教育が可能であり、既存の学部学科の教育研究環境の維持は可能であることを確認したうえで構想した。

人間社会学部は、これまで人間社会学科及び現代社会学科（令和 6 年からビジネス社会学科に名称変更予定）の 2 学科体制であったが、入学試験は学部一括で行い学科選考を 2 年次進級時（1 年次終了時）に行うこととしてきた。社会デザイン学科を設置した後も、入学試験は学部一括で行い、2 年次進級時に学科を選択する形をとることとした。これまで人間社会学部の入学試験の志願状況等は、次のとおり常に志願者数、受験者数、合格者数、入学者数が入学定員を超えている。

<図表 2 >

人間社会学部入学者状況

	平成30年度 2018年度	令和元年度 2019年度	令和2年度 2020年度	令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度
入学定員	200	200	200	200	200
志願者数	2,076	1,907	1,438	1,307	901
志願倍率	10.4	9.5	7.2	6.5	4.5
受験者数	2,029	1,848	1,319	1,233	838
受験倍率	10.1	9.2	6.6	6.2	4.2
合格者数	511	351	387	385	420
入学者数	256	220	226	227	241

人間社会学部の従来の入学定員は人間社会学科 100 名、現代社会学科 100 名の合計 200 名を、上記の学部一括入試にて募集し、2 年次進級時に学科選考を行ってきた。社会デザイン学科の入学定員の設定にあたっては、学部一括入試の規模並びに学部全体の入学定員及び収容定員を考慮し、既存の現代社会学科（令和 6 年 4 月から「ビジネス社会学科」に名称変更）の入学定員を 100 名から 80 名に減じるとともに、社会デザイン学科の入学定員を 80 名として、人間社会学部全体の入学定員を 260 名とすることとした。図表でも示したとおり、過去 5 年間の志願者数、受験者数は学部の入学定員 200 名を超えており、令和 4 年（2022 年）度の受験者数は入学定員の 4.2 倍であり、260 名の入学定員であっても十分入学者を確保できる状況にある。

なお、ビジネス社会学科の入学定員を 100 名から 80 名に減じるのは、2 年次進級時の学科選択の状況から人間社会学科を志向する学生が多いことも考慮したものである。社会デザイン学科の設置にあたり、人間社会学部全体の入学定員が従来の 200 名から 60 名増の 260 名となり、2 年次から配属する各学科の入学定員も適切に見直しを行っており、定員を確保できるものと考えている。

また、社会学系学部を有する他大学においても日本女子大学人間社会学部現代社会学科（入学定員 97 名）、昭和女子大学人間社会学部現代教養学科（入学定員 100 名）、大妻女子大学社会情報学部社会情報学科（入学定員 300 名）、専修大学人間科学部社会学科（入学定員 147 名）、成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科（入学定員 60 名）など、他大

学社会学系学部・学科の入学定員は、90名～250名であり、社会デザイン学科80名、人間社会学部の入学定員260名は適切である。【資料1】「人間社会学部競合学部学科（ユニバーサスケープ(株)」

人間社会学部社会デザイン学科

- ・日本女子大学人間社会学部現代社会学科 97名
- ・津田塾大学総合政策学部総合政策学科 入学定員110名
- ・昭和女子大学人間社会学部現代教養学科 入学定員100名
- ・大妻女子大学社会情報学部社会情報学科 入学定員300名（3専攻各100名 社会生活情報学専攻、環境情報学専攻、情報デザイン専攻）
- ・大妻女子大学人間関係学部人間関係学科 入学定員160名
- ・東京女子大学現代教養学部国際社会学科 入学定員284名
- ・法政大学キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 入学定員300名
- ・専修大学人間科学部社会学科 入学定員147名
- ・成城大学文芸学部マスコミュニケーション学科 入学定員60名
- ・東洋大学社会学部 入学定員600名
- ・武蔵野大学データサイエンス学部データサイエンス学科 入学定員 90名

iii 今学科等を新設しなければならない理由

人間社会学部社会デザイン学科は、複雑化する社会情勢や社会システムを理解するための社会学的知識やアクティブラーニングなどを通して、各種の課題解決手法の修得やデータサイエンス知識を活用しながら多様化する社会を分析し、新たな仕組みを構築する土台となる情報通信技術を学ぶなど、現代社会が必要としている、課題解決手法や社会デザイン思考などを修得する。これらの教育を行っていく必要性が高いと人間社会学部内、また大学全体でも認識してきた。また、人間社会学部は、平成23年（2011年）の現代社会学科設置時から10年が経過し、人間社会学部の教育内容は多くの受験生に支持されているところである。複雑化する社会のグローバル化、Society5.0、SDGsなどの変化により、求められる人材も多様化してきている時代において、既存の学科の教育内容の見直しだけでは、社会が求める人材育成を十分に果たすことが困難になってきた。特に、技術の進展により社会学、統計学、社会情報学、科学技術社会論、メディア論などの専門的知識に加え、情報やネットワーク、テクノロジーの技術を活用し、社会やコミュニティを創造する知識や能力を身につけた人材の育成が求められている。また、人間社会学部を志願する受験生は確保できているが、今後も継続して志願者並びに入学者の確保をするためには、新しい学問を取り入れ、教育をしていく改革が必要である。これらにより、人間社会学部に社会デザイン学科の設置をするものである。

iv 学納金額設定理由

人間社会学部社会デザイン学科の授業料は、人間社会学部に設置することから他の 2 学科と同額の年間 770,000 円とする。本学の入学金は、240,000 円、施設設備費は 320,000 円であり、授業料を合わせた人間社会学部社会デザイン学科の初年度納入金額は 1,330,000 円である。

<図表 3 >

実践女子大学人間社会学部学費

		入学金	授業料	施設設備費	実験実習費	合計
人間社会学部	社会デザイン学科	240,000	770,000	320,000		1,330,000

参考：人間社会学部他学科の学費

		入学金	授業料	施設設備費	実験実習費	合計
人間社会学部	人間社会学科 ビジネス社会学科	240,000	770,000	320,000		1,330,000

(4) 学生確保の見通し

i 学生確保の見通しの調査結果

人間社会学部社会デザイン学科及び国際学部（同時設置）の設置にあたり、両学科への入学意向を把握するために、東京圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）に所在し、本学に進学実績のある高等学校を中心に、令和 6 年度（2024 年度）の進学者である高校 2 年生の女子生徒を対象に、第三者機関である「株式会社日本ドリコム」を介してアンケートを実施した。【資料 2】「実践女子大学 国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）設置に関する受容性調査結果報告書（高校生）」

調査は令和 4 年（2022 年）11 月～令和 5 年（2023 年）1 月の期間で行った。

調査方法は、高等学校 218 校に対してアンケートの依頼を行い、141 校の協力を得て、協力校にアンケート用紙と実践女子大学国際学部国際学科及び実践女子大学人間社会学部社会デザイン学科のリーフレットを送付し、対象者が直接アンケート用紙に記入する方法並びに一部高等学校には Web での回答を併用して実施した。なお、アンケートの回答用紙は、高校から直接第三者機関である日本ドリコム社に郵送してもらい、その集計を日本ドリコムが行った。

アンケートの実施にあたっては、内容の異なる 2 学科の調査となるため、興味のある学問分野や新学部学科での教育内容等については、全員に回答を求め、その後に本学への受験意向、合格後の入学意向、入学したい学部学科を問う形にした。

アンケート用紙を送付した高校には共学校も多くあり、回答用紙の回収 2 万枚超に対し、高校 2 年生、女子に限ると有効回答数は 13,259 件となった。

さらに高校卒業後の希望進路として、「大学・専門職大学」選択したものは、10,446 件（78.8%）であったので、10,446 件を対象に集計処理を行い分析した。

○関心がある学びの分野（複数回答）

高校 2 年生の秋の実施だったため、ある程度の志望分野は絞っていると思われるが、次のとおりであり、社会科学・教育、文学、芸術・体育への関心が高く、国際学部及び社会デザイン学科に関する分野としては、人文科学（文学・語学）2,742 件（26.2%）、社会科学・教育（法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学）3,774（36.1%）であった。

関心がある学びの分野

【MA】	件数(N)	割合
全体	(10446)	
人文科学(文学・語学)	2742	26.2%
社会科学・教育 (法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学)	3774	36.1%
理工学(理学・工学)	1040	10.0%
農学・獣医学	765	7.3%
医学・保健衛生(医学/ 歯学・薬学)	1247	11.9%
保健衛生(看護・リハビリ等)	1722	16.5%
芸術・体育(美術・音楽・体育)	2103	20.1%
家政	868	8.3%
未定/わからない	430	4.1%
無回答	15	0.1%

以下、国際学部国際学科及び人間社会学部社会デザイン学科に関する分野として、関心がある学びの分野に「人文科学」「社会科学・教育」のいずれか一つ以上を回答した 5,253 件を対象として集計した。

○人間社会学部社会デザイン学科の特色について関心が持てるもの

人間社会学部社会デザイン学科を設置する人間社会学部は、人間社会学科、ビジネス社会学科、社会デザイン学科の 3 学科を設置し、学科選択は、1 年次の人間社会学に関する様々な学びを通じた後の 2 年次としている。さらに、1 年次から少人数ゼミが必修としてあり、4 年間通してゼミを履修することは学部開設時から変わらない教育の柱である。アンケートでは、幅広い視野を持てる人間社会学部の一括募集（2 年次に所属学科を選ぶ）、1 年次から少人数のゼミでアクティブラーニング（プレゼン能力・ディスカッション能力が身につく）への関心が高く、このことは社会デザイン学科はもとより、人間社会学部全体の志願者確保につながるものと考えられる。

アンケートの結果次のとおりである。

「人間社会学部の一括募集」2,402（45.7%）、「PBL やビジネスコンテストへの参加」1,504（28.6%）、「アクティブラーニング」2,102（40.0%）

以上のとおり、社会デザイン学科の学びの特色に対する関心は高く、これらのものの本学の受験意向、入学意向及び進学したい学科についての回答は次のとおりであった。

○受験意向

国際学部国際学科・人間社会学部社会デザイン学科の受験意向として、受験者層として想定される、関心がある学びの分野に「人文科学」「社会科学・教育」のいずれか一つ以上と回答した 5,253 名のうち、受験意向を示したのは 1,065 名であり、そのうち「受験したい」と回答した者は 291 名（5.5%）、「受験を検討したい」は 774 件（14.7%）であった。

受験意向

	件数(N)	割合
全体	(5253)	
受験したい	291	5.5%
受験を検討したい	774	14.7%
受験しない	2608	49.6%
わからない	1520	28.9%

○入学意向

受験意向として「受験を検討したい」「わからない」と回答したものを除く、「受験したい」との明確な意思を回答した 291 名のうち、国際学部国際学科・人間社会学部社会デザイン学科への入学意向を示したのは 235 名であった。なお、この 235 名は、「併願校が不合格だった場合入学したい」と回答したものは除かれており、「入学したい」との明確な入学意思を回答したもののみの数値となっている。

入学意向

	件数(N)	割合
全体	(291)	
入学したい	235	80.8%
併願校が不合格だった場合入学したい	53	18.2%
無回答	3	1.0%

○入学希望学科

国際学部国際学科・人間社会学部社会デザイン学科への入学意向を示した 235 名のうち、人間社会学部社会デザイン学科と関係する、関心のある学びの分野において「社会科学・教育」と回答したものを対象として集計した結果、93 人の入学希望者があった。なお、人間社会学部社会デザイン学科に入学したいと回答したものは、前述 93 人のほか、関心のある学問分野が人文科学のみだったものが 9 名あり、それを加えた合計は 102 件であった。

入学希望学科

	件数(N)
全体	(235)
国際学部 国際学科	133
人間社会学部 社会デザイン学科 ※1	93
その他※2	9

※1：関心ある学びにおいて、社会科学・教育（法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学）を回答したもののみ集計

※2：人間社会学部 社会デザイン学科に入学したいと回答したもののうち、人文学（文学・語学）のみを回答したもの

以上のとおり、東京圏を中心とした、人間社会学部社会デザイン学科への入学意向調査において、学生確保が十分に行える回答を得た。

さらに、今回のアンケートが東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の回答数が12,029（90.7%）、関東地方（東京圏及び茨城県、栃木県、群馬県）では12,509件（94.3%）となり、上記の関東地方以外の地域の回答は750件（5.7%）である。

本学への入学者の割合は、おおよそ関東地方出身者が80%強、関東地方以外の出身者が20%弱であるので、他地域からの志願者、入学者を想定すれば、入学定員を十分確保できる。

ii 新設学部等の分野の動向

人間社会学部社会デザイン学科の設置にあたり、学問分野に対する高校生の受験志向、地域的問題などを検討した。

社会デザイン学科では、社会科学の幅広い学問を学び、主体的に社会の問題を発見し、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、地域社会やビジネス社会、メディアなどの分野で力を発揮しうる人材を育成することを目的としている。これは、学部のモットーである「人を知り、社会を知り、ビジネスを学んで、よりよい未来をデザインする。」に一致し、また、人間社会学部の既存学科である人間社会学科、現代社会学科（令和6年4月学科名称変更予定）とも共存するものである。

人間社会学部は、社会科学のうち社会学が最も近い分野といえる。社会科学の志願者数等は非常に多く、令和4年度学校基本調査大学入学状況（関係学科別）によれば、令和4年（2022年）であっても12万人を超える女子の志願者がある。また、社会デザイン学科について人間社会学部の中に設置する学科であるので、その学問分野も社会学である。

<図表5>令和4年（2022年）度社会科学（社会学部）の志願者状況

社会科学（社会学）	平成30年度 2018年度	令和元年度 2019年度	令和2年度 2020年度	令和3年度 2021年度	令和4年度 2022年度
入学志願者数	131,386	138,287	124,773	122,808	124,215
入学者数	17,739	17,719	17,811	18,175	18,453
入学志願者（私立）	125,819	132,519	119,275	117,440	118,476
入学者数（私立）	16,276	16,256	16,412	16,615	16,820

※令和4年度学校基本調査 高等教育機関大学・大学院 関係学科別大学入学状況をもとに、女子の数値を抽出し作成

東京圏においては、社会科学系統の学部等を設置する大学の多くは女子大学ではなく共学大学である。主要大学の学部の女子比率では、50%を超える女子学生が所属する大学がかなりあるとともに、50%を以下の大学であっても、30%を超える大学が多く存在する。【資料3】「競合学部学科女子比率（ユニバースケープ(株)）」

iii 中期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

本学が立地する東京都は、日本最大の人口を擁するとともに、大学進学率でみても69.8%と高い。さらに、大学進学時には、他県から東京の大学に進学する人数も非常に多くなっている。また、国際学部国際学科並びに人間社会学部の教育研究を行う渋谷キャンパスは、関東の各地から通学するにも至極便利な場所であり、学生募集における優位性がある。本学は、渋谷キャンパス（文学部、人間社会学部）と日野キャンパス（生活科学部）を設置するが、令和4年（2022年）度の大学全体の入学者数1,034名の出身都道府県では、東京都364名（35.2%）、埼玉県170名（16.4%）、神奈川県134名（13.0%）、千葉県105名（10.2%）の4都県で全体の4分の3にあたっている。【資料4】「令和4年度（2022年度）実践女子大学・短期大学部出身都道府県別入学者数」

東京都は他の地域からの受験生や入学生も毎年一定程度あるが、日本全国で人口が減少しているため、ここでは、本学が所在する東京都を中心として、中期的な18歳人口の動向を、国勢調査結果を参考として検証する。

2020年度の国勢調査によると、女子の人口は15歳が全国で514,877人、東京都は47,019人、埼玉県29,449人、千葉県25,400人、神奈川県36,733人であり、4都県で全体の27%の人口を有する。また、10歳人口、5歳人口をみてもこの4都県が全国の4分の1の人口を有している。

将来的に日本の人口が減少となっていくが、中期的には本学が入学者を確保するには十分な18歳人口があると考えられる。

<図表6>

地域別女子の人口

地域名	総数	0歳		5歳		10歳		15歳	
		人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
全国	62,465,616	397,871		478,571		508,384		514,877	
埼玉県	3,539,406	22,580	5.7	27,212	5.7	28,983	5.7	29,449	5.7
千葉県	3,042,017	19,292	4.8	23,298	4.9	24,827	4.9	25,400	4.9
東京都	6,740,800	46,831	11.8	52,123	10.9	49,864	9.8	47,019	9.1
神奈川県	4,470,478	29,082	7.3	34,792	7.3	36,941	7.3	36,733	7.1

(令和2年国勢調査人口等基本集計より作成)

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来人口推計(平成30年)」の都道府県別0-14歳人口の指数によれば、日本全国では、2015年(平成27年)に対し、2030年(令和12年)の0歳~14歳の人口は82.9に対し、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県の4都県はいずれも全国の値よりも大きく減少幅が小さいところから、中期的にみても受験対象者層の人数は十分にあると考える。

<図表7>

都道府県別0-14歳人口と指数(平成27(2015)年=100)

地域	総人口(1,000人)							指数(平成27(2015)年=100)	
	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)	平成42年 (2030)	平成57年 (2045)
全国	15,945	15,075	14,073	13,212	12,457	11,936	11,384	82.9	71.4
埼玉県	914	871	819	779	744	723	698	85.2	76.5
千葉県	768	724	675	639	608	589	569	83.2	74.1
東京都	1,523	1,534	1,508	1,471	1,443	1,432	1,408	96.6	92.4
神奈川県	1,145	1,092	1,028	977	937	917	891	85.3	77.8

注) 指数とは、平成27(2015)年の0-14歳人口を100としたときの0-14歳人口の値のこと。

※データは男女合計の数値である。男女比はおおよそ50対50。

※都道府県別0-14歳人口と指数から、4都県を抽出

iv 競合校の状況

人間社会学部社会デザイン学科の競合校としては、本学の受験者層の中心が東京圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)であることから、東京都及び近県にある女子大学を想定しており、また同様の学問分野の学部学科を有する偏差値帯が本学と重なる上位の中堅共学校を想定している。これは、これまでの人間社会学部の受験者の併願先大学の社会学系学部学科である。

社会学系学部等は首都圏にも多数あるが、人間社会学部の偏差値(52.5)をもとに前後の偏差値域にある大学を競合校と想定した。国際学部同様に既存学部受験者の併願先から考えると、女子大学であれば日本女子大学人間社会学部、東京女子大学現代教養学部、昭和女子大学人間社会学部、大妻女子大学社会情報学部など、共学大学では、東洋大学社会学部、成城大学文芸学部、専修大学人間科学部などを想定している。

これらの大学を含めた社会科学系学部学科の入学定員の総数は13,817人に対し、2022年

度入試における一般入試の志願者数総数は 96,474 人、共通テスト志願者総数は 37,311 人であり、入学定員に対して 9.7 倍の志願者がある。このことから、本学人間社会学部社会デザイン学科が入学定員を増加しても志願者が十分確保できる。【資料 1】「人間社会学部競合学部学科」（再掲）

以上のことから、本学人間社会学部社会デザイン学科においても十分入学者を確保できると考える。

Ⅴ 既設学部の状況

実践女子大学渋谷キャンパスでは、文学部国文学科、英文学科、美学美術史学科及び人間社会学部人間社会学科、現代社会学科が教育を展開するとともに、実践女子大学短期大学部日本語コミュニケーション学科、英語コミュニケーション学科がある。なお、日野キャンパスでは生活科学部が 4 学科で教育を展開している。

本学の既存学部の過去 5 年間の志願者、合格者、入学者数は次のとおりであり、志願者数は減少の傾向を示しているが、入学定員を上回る合格者を出し、毎年入学定員を充足している。また、全国的に短期大学の志願者は減少しており、学生の確保が困難な短期大学が多い中、短期大学部においては入学定員を満たす学生を確保してきた。

国際学部においては、既存の学部としては短期大学部英語コミュニケーション学科が分野的には近く、過去 5 年間短期大学部への志願者数が減少する中、入学定員 100 名を確保してきたことを踏まえると、入学者の確保が十分にできると考える。

新たに社会デザイン学科を設置する人間社会学部は、入学試験を学部一括で行っており、これまで 2 学科の入学定員 200 名に対して、ここ数年志願者数は減少してきてはいるが、1,000 名ほどの志願者があり、入学者数も定員 200 名を確保している。社会デザイン学科の設置は、人間社会学部に新たな学問領域を追加することになり、受験生の興味・関心の領域が広がることにより、これまで以上の志願者を集めることができ、学生確保は十分にできると考える。

<図表 8> 過去 5 年間志願者数、受験者数、合格者数、入学者数

	入学定員	2018年度					2019年度				
		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	充足率	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	充足率
文学部	310	2,614	2,497	909	387	1.25	2,997	2,868	752	376	1.21
国文学科	110	901	853	312	143	1.30	1,125	1,075	255	147	1.34
英文学科	110	1,073	1,029	323	133	1.21	1,051	1,003	283	126	1.15
美学美術史学科	90	640	615	274	111	1.23	821	790	214	103	1.14
生活科学部	410	3,277	3,091	1,227	508	1.24	3,171	3,013	1,145	454	1.11
食生活科学科	185	1,532	1,435	608	225	1.22	1,457	1,369	590	195	1.05
管理栄養士専攻	70	712	669	212	92	1.31	676	631	218	72	1.03
食物科学専攻	75	511	482	276	88	1.17	484	464	240	82	1.09
健康栄養専攻	40	309	284	120	45	1.13	297	274	132	41	1.03
生活環境学科	80	432	407	160	99	1.24	473	454	169	87	1.09
生活文化学科	85	729	690	234	103	1.21	718	679	201	103	1.21
生活心理専攻	40	502	483	157	55	1.38	493	477	109	56	1.40
幼児保育専攻	45	227	207	77	48	1.07	225	202	92	47	1.04
現代生活学科	60	584	559	225	81	1.35	523	511	185	69	1.15
人間社会学部	200	2,076	2,029	511	256	1.28	1,907	1,848	351	220	1.10
人間社会学科	100										
現代社会学科	100										
大学合計	920	7,967	7,617	2,647	1,151	1.25	8,075	7,729	2,248	1,050	1.14

	入学定員	2020年度					2021年度				
		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	充足率	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	充足率
文学部	310	2,709	2,462	845	349	1.13	1,844	1,718	803	360	1.16
国文学科	110	1,018	907	253	124	1.13	598	561	192	132	1.20
英文学科	110	957	884	327	126	1.15	616	575	324	125	1.14
美学美術史学科	90	734	671	265	99	1.10	630	582	287	103	1.14
生活科学部	410	2,976	2,742	1,221	457	1.11	2,311	2,102	1,084	439	1.07
食生活科学科	185	1,235	1,126	604	189	1.02	1,163	1,036	491	192	1.04
管理栄養士専攻	70	598	549	179	75	1.07	530	471	157	76	1.09
食物科学専攻	75	375	342	247	74	0.99	355	322	191	76	1.01
健康栄養専攻	40	262	235	178	40	1.00	278	243	143	40	1.00
生活環境学科	80	499	460	176	95	1.19	379	350	163	94	1.18
生活文化学科	85	763	710	228	100	1.18	413	381	225	92	1.08
生活心理専攻	40	425	402	117	53	1.33	254	233	99	49	1.23
幼児保育専攻	45	338	308	111	47	1.04	159	148	126	43	0.96
現代生活学科	60	479	446	213	73	1.22	356	335	205	61	1.02
人間社会学部	200	1,438	1,319	387	226	1.13	1,307	1,233	385	227	1.14
人間社会学科	100										
現代社会学科	100										
大学合計	920	7,123	6,523	2,453	1,032	1.12	5,462	5,053	2,272	1,026	1.12

	入学定員	2022年度				
		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	充足率
文学部	310	1,182	1,103	792	334	1.08
国文学科	110	339	310	228	119	1.08
英文学科	110	438	415	331	117	1.06
美学美術史学科	90	405	378	233	98	1.09
生活科学部	410	1,902	1,757	997	459	1.12
食生活科学科	185	974	889	418	210	1.14
管理栄養士専攻	70	473	422	169	73	1.04
食物科学専攻	75	298	276	149	91	1.21
健康栄養専攻	40	203	191	100	46	1.15
生活環境学科	80	317	296	173	94	1.18
生活文化学科	85	350	326	168	96	1.13
生活心理専攻	40	181	169	94	45	1.13
幼児保育専攻	45	169	157	74	51	1.13
現代生活学科	60	261	246	238	59	0.98
人間社会学部	200	901	838	420	241	1.21
人間社会学科	100					
現代社会学科	100					
大学合計	920	3,985	3,698	2,209	1,034	1.12

(5) 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

① オープンキャンパス

本学のオープンキャンパスは、年間渋谷キャンパス、日野キャンパスそれぞれ10回開催し、それぞれのキャンパスの学びを、学科教員、事務職員、学生スタッフが説明するなど、来場者一人一人に対して、それぞれ興味関心にこたえる形で実施している。

コロナ禍においてもオンラインによるオープンキャンパスを実施するなど、工夫を凝らし、来場者の満足度が高く、志願者確保に高い効果がある。

2022年度の年間オープンキャンパス（2022年3月～2022年10月）の参加者数は5,021人あった。

② 高校等訪問

本学の入学支援課では、首都圏の高校を中心に、高校訪問を日常的に繰り返し実施しており、高校の先生方とのつながりも大切にしている。現在、進学実績の多い高校約250校について訪問担当を設定し、年間を通じて訪問し高校との関係を築いている。

高校の先生方から、本学を紹介していただくことにより、高校生の志望につながるなど、志願者確保に高い効果がある。

今回の人間社会学部社会デザイン学科の設置届出に伴う高校生の受容性調査を行う際にも、各高校の学事日程等が厳しい中、依頼した学校のうち 141 校が協力していただけるなど、強いつながりができている。

③ キャンパス見学会

受験生を対象としたキャンパス見学会を実施し、実際に学生が受講している授業や学生が利用している施設などを見学してもらうことにより、大学の授業をより身近に感じてもらうことになり、また、在学生からの説明などにより、実際の大学での学びの特徴などを聞くことで、大学での学びへの関心が高まり、志望者増につながる。また、施設や立地などを直接体験することにより、キャンパスの利便性なども体感することとなる。

④ 進学相談会

対面形式の進学相談会の回数が減少してきてはいはいるが、首都圏を中心とするとともに、地方入試を行う都市や、本学への志願者は少ないが重要な都市などを選択し、効率的に参加することとしている。大学独自では直接訪問などが難しい地域の高校生に対しても、本学を PR する重要な機会として活用している。進学相談会を活用することにより、HP 等での検索では、すでに知っている大学や学部の情報に目が留まりやすくなるが、対面式の進学相談会では、進学したい学問分野の学部学科を有している大学などにも関心が向き、大学にとっては新たな受験生の獲得につながられる。

⑤ 新学部設置特別イベントの開催

令和 5 年（2023 年）7 月に渋谷キャンパスにおいて、新学部向け特別イベントを開催予定している。新学科の学問領域を題材とした探究学習講座を行い、進路指導における探究ニーズに役に立つ講座を用意し PR することで、高校現場における新学科の理解促進を図り、志願者の獲得を目指す。

⑥ 新学部・学科の特設 Web サイトの設置

人間社会学部社会デザイン学科の特設 Web サイトを設置し、各種進学メディアと連動しながら情報を発信する、特設 Web サイトを設置することで、受験生・ステークホルダーの新学科に対する理解の促進を図り、志願者の獲得を目指す。

⑦ 新学部・学科紹介の特別リーフレット作成

人間社会学部社会デザイン学科を紹介する特別リーフレットを作成し、常に最新の情報を更新した状態で、段階的な情報発信を行う。これにより、受験生、高校の教員等に新学科を PR するとともに、理解を深めてもらい、志願者の獲得を目指す。

2 人材需要の動向等社会の要請

(1)人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)

社会デザイン学科では、複雑な現代社会において、社会学に関する分野はもちろん、社会を理解し新しい取り組みに欠かせない共創デザイン、ソーシャル・データサイエンス、メディア・イノベーションなどの社会科学の幅広い学問を学び、主体的に社会の問題を発見し、課題を解決する社会デザイン力を身につけ、地域社会やビジネス社会、メディアなどの分野で力を発揮しうる人材を養成することを目的とする。

この目的のため、社会デザイン学科では、国内外の多様な人間と社会と文化のあり方について理解し、受容し、尊重しようとする態度、人間と社会と文化のあり方に関して、望ましい価値観を探究しようとする態度を身に付け、社会学、統計学、社会情報学、科学技術社会論、メディア論などの専門的知識に加え、情報やネットワーク、テクノロジーの技術を活用し、社会やコミュニティを創造する知識や能力を身につけ、社会の様々な分野で社会人・職業人として活躍できる能力を養う。そして、サービス、マスコミ、メディア関連等の企業における企画・事業開発、リサーチャー、アナリスト、コンサルタント、金融、商社、IT・情報、シンクタンクなどの仕事が考えられる。また、公務員・公的団体、NPO 法人など公共分野での活躍も期待できる。

(2)社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

i 卒業生の採用意向の調査結果

人間社会学部社会デザイン学科及び国際学部国際学科(同時設置)を設置するにあたり、社会的ニーズを客観的かつ定量的に把握するために、国際学部国際学科(仮称)、人間社会学部社会デザイン学科(仮称)設置に関する受容性調査(企業)を行った。

○調査概要

調査の目的 国際学部国際学科、人間社会学部社会デザイン学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体を対象に、その関心度や想定する採用人数を調査。

調査期間 令和4年(2022年)11月29日～令和4年(2022年)12月24日

調査方法 卒業生の就職先として想定される企業・団体の人事採用担当者
オンライン回答フォームと質問紙による調査

有効回答数 114件

調査会社 株式会社日本ドリコム

アンケートにおける調査対象は、当該学部学科の卒業生の就職先として想定される東京都に所在する企業・団体を中心に行い、114の企業・団体より有効な回答を得た。今回の調査は、養成する人材像が異なる2学科に関するニーズ調査であることから、はじめに所在する都道府県、業種、従業員数、新卒者を採用する際の重視する能力、人材の過不足の状況、直近の新卒者の採用人数、今後の新卒採用の計画を尋ね、そのうえで国際学部国際学科及び

人間社会学部社会デザイン学科の社会的ニーズ、国際学部国際学科、人間社会学部社会デザイン学科の卒業生の採用意向を調査した。【資料5】「実践女子大学 国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）設置に関する受容性調査結果報告書（企業）」

○業種

今回の調査に回答のあった企業・団体の業種は次のとおりである。この回答状況は、就職状況の業種分類とは異なるが、本学全体の卒業生の就職先とほぼ一致する。

業種

MA N=114

業種	回答数	割合
1. 農林漁業・鉱業・建設	6	5.3%
2. 製造業	18	15.8%
3. 情報通信業	20	17.5%
4. 運輸業・卸売業・小売業	38	33.3%
5. 金融・保険・不動産業	9	7.9%
6. 宿泊・飲食サービス業	7	6.1%
7. 医療・福祉業	1	0.9%
8. 対個人サービス業	6	5.3%
9. 他事業所サービス業	8	7.0%
10. 電気・ガス・熱供給・水道業	5	4.4%
その他	13	11.4%

○新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか（複数回答）

今回の調査に回答により、社会デザイン学科のニーズが高いと回答した企業・団体の採用する際の重視する能力は次のとおりであり、「コミュニケーション能力」、「協調性」、「柔軟性・素直さ」「主体性」が上位であった。

新卒者を採用する際に重視する能力

新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか。MA

N=110

能力	回答数	割合(%)
コミュニケーション能力	105	95.5
協調性	82	74.5
柔軟性・素直さ	73	66.4
主体性	72	65.5
チャレンジ精神	59	53.6
ストレス耐性	54	49.1
責任感	51	46.4
協働力	50	45.5
思考力	40	36.4
課題解決能力	38	34.5
実践力	36	32.7
成長力	32	29.1
ホスピタリティマインド	30	27.3
リーダーシップ	22	20.0
創造性	21	19.1
学業成績・一般常識	14	12.7
専門性	4	3.6
取得資格	4	3.6
出身学部・学科	1	0.9
その他	1	0.9

※回答数の多い順に並び替え

○人間社会学部社会デザイン学科が養成する人材の社会的ニーズ

人間社会学部社会デザイン学科が養成する人材の社会的ニーズとしては、「ニーズは高い」(48.2%)、「どちらかといえばニーズは高い」(48.2%)と96%にあたる110の企業・団体から回答があり、この110社・団体のうち「採用したい」は59.9%65件であった。さらに、人間社会学部社会デザイン学科の卒業生の今後の採用想定人数を合計すると183人となり、人材の需要は十分に高い。

人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

N=114

ニーズ	回答数	割合
ニーズは高い	55	48.2%
どちらかといえばニーズは高い	55	48.2%
どちらかといえばニーズが低い	4	3.5%
ニーズが低い	0	0.0%

国際学部 国際学科及び人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材の、
貴事業所での今後の採用意向

N=114

採用意向	回答数	割合
採用したい	65	57.0%
採用を検討したい	39	34.2%
どちらとも言えない	10	8.8%
採用しない	0	0.0%

学科ごとの採用意向および採用想定人数

人間社会学部 社会デザイン学科

N=104

採用意向	回答数	採用想定人数
採用したい	65	183
採用を検討したい	39	62

なお、受容性調査における自由記述においても次の意見等があった。これらの意見は、人間社会学部社会デザイン学科が、現代社会の複雑化する社会情勢や社会システムを理解するための社会的知識やアクティブラーニングなどを学び、各種の課題解決手法の修得ができるとともに、社会学分野においてデータサイエンス知識を活用しながら多様化する社会を分析し、新たな仕組みを構築する土台となる情報通信技術を学ぶことの意義と一致している。また、社会デザイン学科で学ぶ ICT に関する専門知識が、社会科学におけるデータ収集、データ処理と関連させ、様々な課題解決手法やアイデアの創出につなげるものであり、企業が求める能力でもあると考えられる。

- ・データサイエンス、デザイン思考など今後より注目される分野だと考えているため、このような最先端の内容に触れることができる学科は必要である。
- ・会社に必要なスキルを身に付けることが出来、主体的に動ける学生がいるのではないかと感じました。
- ・現代社会に沿った「情報」のスキルを身に付けている学生の育成に力を入れていることを伺い今後の活躍という点で魅力に感じた
- ・企業の活動は業務もマーケティングもメディアもデジタル化、DX 化される社内で、人間関係、コミュニケーション、チームワークを科学する力がますます重要となる。
- ・データサイエンスは今後もニーズが高まると思います。実際にビッグデータ、社内データのマッチングを行える人材はまだ少数とされます。
- ・PBL やビジネスコンテストの参加は魅力的に感じる。
- ・授業に取り入れられているアクティブラーニングは、社会に出て大いに役に立つ経験だと思っています。技術サービスを行う弊社では、お客様の課題解決に寄り添う仕事になります。培った知識や経験を活かし活躍して頂きたいです。

- ・DX 化が注目され、データをどう活かしていくかは今後の成長戦略には欠かせない状況です。未来を切り開く人財の育成において、御校で学ばれた方のご活躍が広がるかと存じます。
- ・自由な発想で物事を考える思考力や発信力、企画力のある人材はこれからますます必要とされると思います。

ii 社会的な人材需要

人間社会学部社会デザイン学科が育成する人材は、現代社会の様々な問題を解決し、企画し、提案できる人材である。異なる立場や職業の人・団体が協力して新たな価値を創り出す共創デザインや、行政や地域社会の多様な人たちが社会を良くしていこうとするソーシャル・デザイン、社会のビッグデータをもとにしたデータ分析など、人文社会科学系であっても先端技術や理数系の基礎的知識を学ぶことが重要であり、質の高い情報を取捨選択し、情報を課題解決のために使いこなす能力（情報活用能力）を身につけることが求められている。さらに、統合イノベーション戦略推進会議（AI 戦略 2022）によれば、2019 年に策定した「AI 戦略 2019」で掲げた戦略目標の一つである「教育改革」は人材育成プログラムの広範な導入につながったとしているが、一方、人材育成は十分に実感できるまでには至っていないとしている。そして、AI 戦略の推進に向けては、人材の育成が必要であると示しており、社会デザイン学科では、AI を活用する人材育成にも力を入れていることから、社会的な人材需要があると見込んでいる。

学生確保の見通し等を記載した書類 資料

目次

資料 1	「人間社会学部競合学部学科（ユニバースケープ(株)）」	P 2
資料 2	「実践女子大学 国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）設置に関する受容性調査結果報告書（高校生）」	P 3
資料 3	「競合学部学科女子比率（ユニバースケープ(株)）」	P 23
資料 4	「令和 4 年度（2022 年度）実践女子大学・短期大学部出身都道府県別入学者数」	P 24
資料 5	「実践女子大学 国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）設置に関する受容性調査結果報告書（企業）」	P 25

大学名	学部学科名	入学定員	一般入試志願者	共通テスト利用志願者	入試単位 (●学部単位)
早稲田大学	社会科学部	630	8,773	1,485	●
早稲田大学	文化構想学部	860	11,484		●
上智大学	総合人間科学部社会学科	60	1,104	183	
上智大学	文学部新聞学科	120	626	87	
立教大学	社会学部	519	6,408	2,581	3学科1コース
明治大学	文学部心理社会学科	155	1,884	716	3専攻
明治大学	情報コミュニケーション学部	520	5,759	2,124	●
青山学院大学	社会情報学部	220	1,365	400	●
青山学院大学	地球社会共生学部	190	501	314	●
中央大学	文学部人文社会学科	990	6,456	3,971	14専攻
学習院大学	国際社会科学部	200	1,219	196	●
東京都市大学	メディア情報学部	190	1,465	1,433	2学科
成城大学	社会イノベーション学部	240	2,251	1,127	2学科
明治学院大学	社会学部	490	2,621	839	2学科
法政大学	社会学部	759	6,953	2,233	3学科
東洋大学	社会学部	600	8,476	4,790	4学科
成蹊大学	文学部現代社会学科	105	781	419	
成城大学	文芸学部マスコミュニケーション学科	60	502	324	
※ 東京女子大学	現代教養学部国際社会学科	284	1,385	845	4専攻
※ 大妻女子大学	社会情報学部社会情報学科	300	658	411	3専攻
武蔵大学	社会学部	229	3,221	1,416	2学科
東海大学	文化社会学部	450	1,858	1,263	6学科
※ 日本女子大学	人間社会学部	364	1,827	1,093	4学科
日本大学	文理学部社会学科	210	1,834	432	
駒澤大学	文学部社会学科	147	997	580	2専攻
専修大学	人間科学部社会学科	147	1,503	481	
専修大学	文学部ジャーナリズム学科	124	562	308	
立正大学	文学部社会学科	155	654	189	
※ 昭和女子大学	人間社会学部	380	1,833	736	4学科
※ 実践女子大学	人間社会学部	200	649	391	●
日本大学	法学部新聞学科	200	1,074	314	
明星大学	人文学部人間社会学科	80	674	245	
※ 大妻女子大学	人間関係学部人間関係学科	160	274	181	2専攻
東京経済大学	コミュニケーション学部	240	678	259	2学科
文教大学	情報学部	285	829	496	
大東文化大学	社会学部	200	1,176	631	●
目白大学	社会学部	200	466	391	2学科
大正大学	心理社会学部	230	1,611	545	2学科
帝京大学	文学部社会学科	208	574	332	
千葉商科大学	人間社会学部	200	698	253	●
※ フェリス女学院大学	文学部コミュニケーション学科	90	208	174	
江戸川大学	メディアコミュニケーション学部	240	476	178	3学科
※ 相模女子大学	人間社会学部	230	299	341	2学科
常磐大学	人間科学部	396	345	320	5学科
※ 東洋英和女学院大学	国際社会学部	240	357	169	2学科
流通経済大学	社会学部	250	449	294	2学科
浦和大学	社会学部	90	未発表	未発表	2学科
※ 恵泉学園大学	人間社会学部	160	402	359	2学科
埼玉工業大学	人間社会学部情報社会学科	90	75	272	2専攻
※ 十文字学園女子大学	社会情報デザイン学部	130	200	190	●
		13,817	96,474	37,311	

※は女子大学

貴学併願大学

・志願者は2021年度入試結果(代々木ゼミナール 入試結果より)

- ・早稲田大学文化構想学部(学部一括入試)志願者数は、社会学部系統に当てはまらない専攻系統も含まれる
- ・中央大学文学部人文社会学科(専攻別入試)志願者数は、社会学部系統に当てはまらない専攻系統も含まれる
- ・早稲田大学文学部、慶應義塾大学文学部の中にも社会系学科が存在するが、このリストには入れていません

実践女子大学

国際学部国際学科（仮称）

人間社会学部社会デザイン学科（仮称）

設置に関する受容性調査 結果報告書

【高校生】

株式会社日本ドリコム

令和5年1月

目次

1. 調査概要	4
(1) 調査目的		
(2) 調査期間		
(3) 調査対象・方法		
(4) 有効回答数		
(5) 調査実施機関		
(6) 調査項目		
(7) 調査結果の見方		
2 調査のサマリー	5
3 集計結果	6
資料1 質問用紙		
資料2 リーフレット		

1 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、受験層である高校生を対象に進学受容性調査を行うことで入学志望者の分析を行い、実践女子大学国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）の設置構想における検討資料とすることを目的とする。

(2) 調査期間

令和4年11月23日～令和5年1月20日

(3) 調査対象・方法

- ・ 高等学校に在籍する高校2年生の女子生徒を対象とし、高等学校にアンケートの実施を依頼
- ・ 質問用紙もしくはオンライン回答フォームを利用した調査

(4) 有効回答数

141校 13,259件

(5) 調査実施機関

株式会社 日本ドリコム

(6) 調査項目

資料1 質問用紙に記載

(7) 調査結果の見方

- ・ 比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ 基数となる実数はNとして掲載し、各グラフの比率はNを母数とした割合を示す。
- ・ 1人の回答者が複数回答する設問では「MA」と表示。

2 調査結果のサマリー

I. 回答者の属性等

既存学部に入學実績を有する高等学校を中心に協力を依頼し、当該学部学科が対象とする受験者層（高校2年生、女子生徒）より **13,259 件の回収**を得た。南関東に在住する高校生が全体の90.7%を占め、その他の地域に在住する高校生は全体の9.3%であった。

II. 大学進学希望者と関心分野

回答者の内、78.8%（10,446件）が大学・専門職大学への進学を希望していた。その内、**当該学部学科の受験者層として想定できるもの**（人文科学、社会科学・教育分野に関心を持っている回答者は**5,253名**であった。

III. 受験意向

当該学部学科の受験者層として想定できる5,253名の内、**受験意向を示したのは291名**であった。この291名は、「受験を検討したい」「わからない」と回答したものは除かれており、「受験したい」との明確な受験意思を回答したもののみの数値となっている。

IV. 入学希望者

(1) 「受験したい」との明確な意思を回答した291名の内、**入学意向を示したのは235名**であった。この235名は、「併願校が不合格だった場合入学したい」と回答したものは除かれており、「入学したい」との明確な入学意思を回答したもののみの数値となっている。

(2) 入学意向を示した235名について、希望する学部学科は次のとおりである。この数値は本調査に協力した高等学校のみの入学希望者数であり、既存学部に入學実績を有する高等学校が他にも多く存在することを考慮すると実際の数値はこれを上回るものと推察される。

	入学希望者数
国際学部 国際学科	133
人間社会学部 社会デザイン学科	93

※国際学部国際学科は、関心分野が人文科学、社会科学・教育を集計。

※人間社会学部社会デザイン学科は、関心分野が、社会科学・教育を集計。

3 集計結果

居住エリア

	件数(N)	割合
全体	(13259)	
東京都	5105	38.5%
神奈川県	2164	16.3%
千葉県	1436	10.8%
埼玉県	3324	25.1%
茨城県	373	2.8%
栃木県	3	0.0%
群馬県	92	0.7%
その他	750	5.7%

卒業後の希望進路

【MA】	件数(N)	割合
全体	(13259)	
大学・専門職大学	10446	78.8%
短大・専門職短期大学	1119	8.4%
専門学校	2731	20.6%
就職	448	3.4%
その他	121	0.9%

以下、「大学・専門職大学希望者」10,446件について集計を実施。

関心がある学びの分野

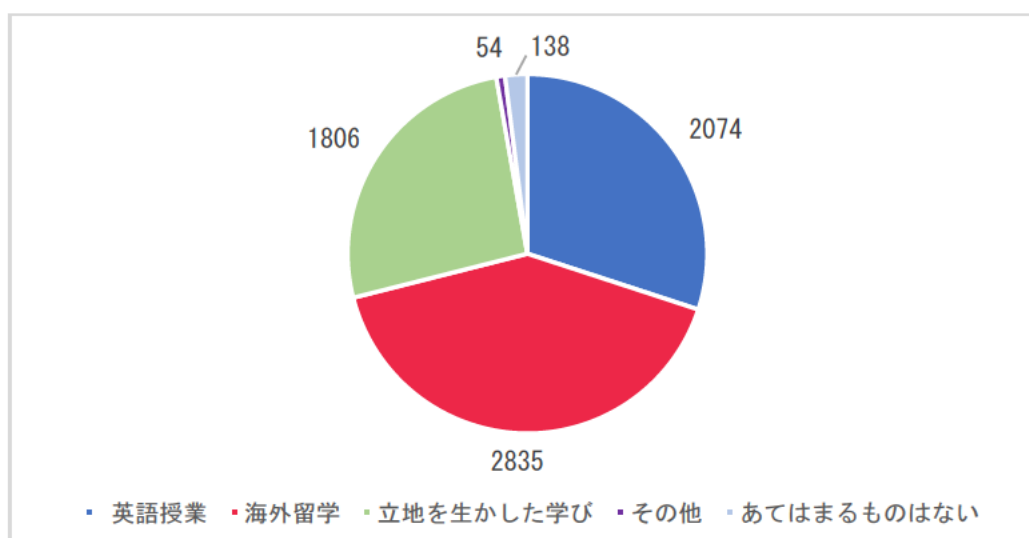
【MA】	件数(N)	割合
全体	(10446)	
人文科学(文学・語学)	2742	26.2%
社会科学・教育 (法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学)	3774	36.1%
理工学(理学・工学)	1040	10.0%
農学・獣医学	765	7.3%
医学・保健衛生(医学/ 歯学・薬学)	1247	11.9%
保健衛生(看護・リハビリ等)	1722	16.5%
芸術・体育(美術・音楽・体育)	2103	20.1%
家政	868	8.3%
未定/わからない	430	4.1%
無回答	15	0.1%

以下、人文科学(文学・語学)、社会科学・教育(法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学)のいずれか一つ以上を回答した5,253件について集計を実施。

実践女子大学 国際学部 国際学科の特色について関心が持てるもの

【MA】	件数 (N)	割合
全体	(5253)	
外国人と日本人教員が行う6レベルの英語授業（2年間半にわたる約20名クラスによるレベル別英会話中心授業）	2074	39.5%
全学生が2年次に3カ月以上の海外留学（鍛えた英語力を、海外留学を通してさらにブラッシュアップ）	2835	54.0%
渋谷という立地を生かした学び（幅広い視野と知識を手に入れ、海外と日本をつなぐ人材へと成長）	1806	34.4%
その他	54	1.0%
あてはまるものはない/無回答	138	2.6%

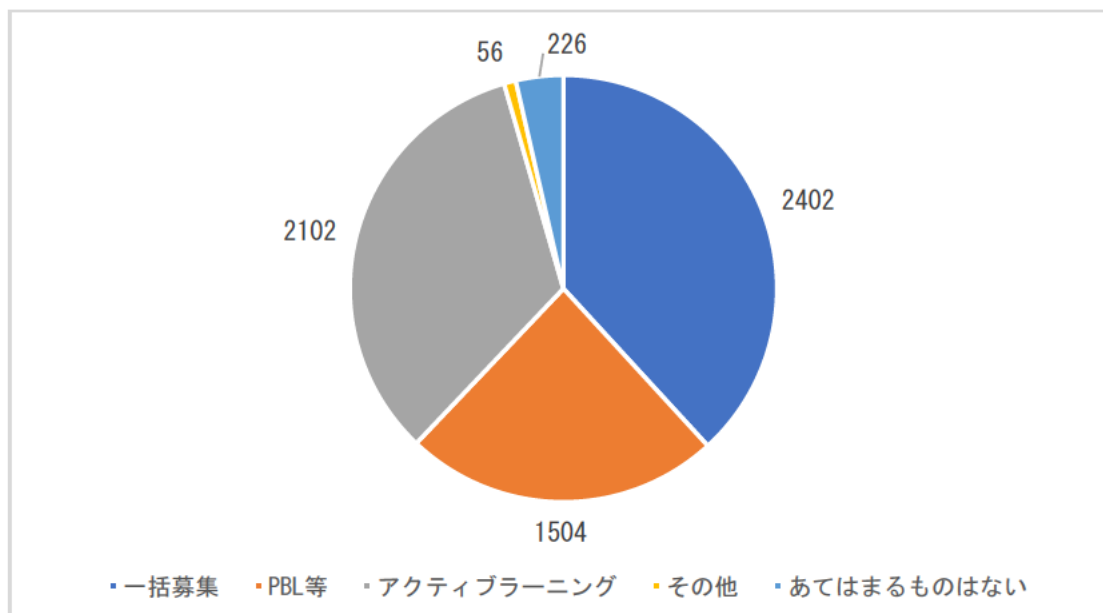
N=5253



実践女子大学 人間社会学部 社会デザイン学科の特色について関心が持てるもの

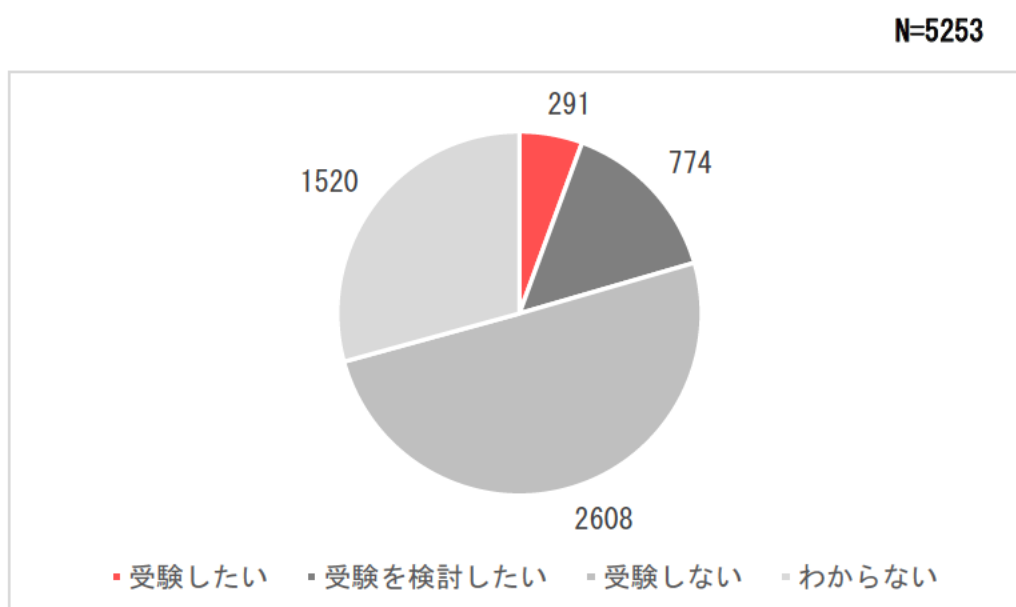
【MA】	件数 (N)	割合
全体	(5253)	
幅広い視野をもてる人間社会学部での一括募集 (2年次に所属学科を選ぶ)	2402	45.7%
PBL (課題解決型学習プログラム) やビジネスコンテストへの参加 (在学中に社会での実践経験を積むことができる)	1504	28.6%
1年次から少人数のゼミでアクティブラーニング (プレゼン能力・ディスカッション能力が身につく)	2102	40.0%
その他	56	1.1%
あてはまるものはない	226	4.3%

N=5253



受験意向

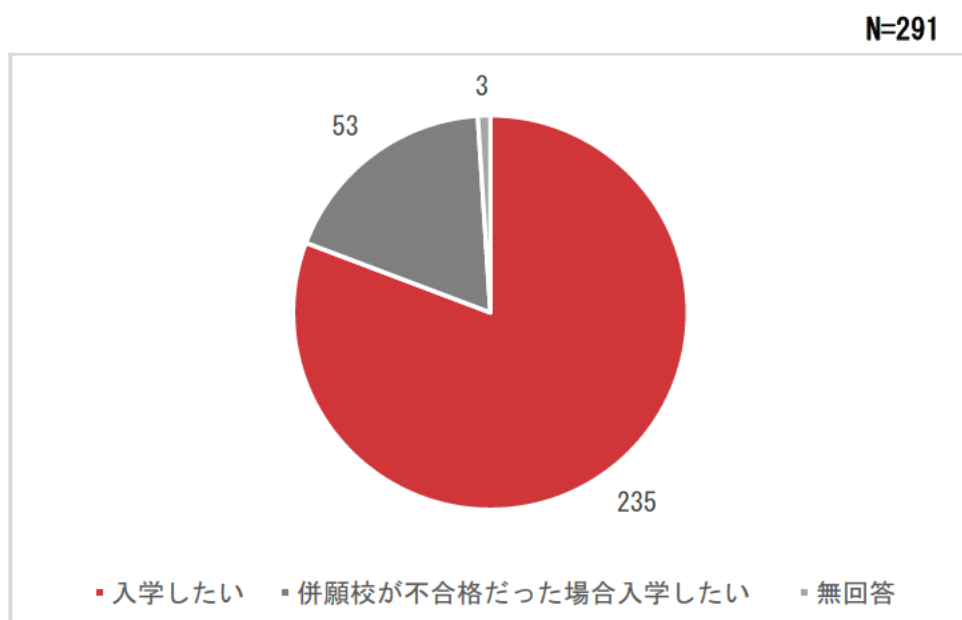
	件数(N)	割合
全体	(5253)	
受験したい	291	5.5%
受験を検討したい	774	14.7%
受験しない	2608	49.6%
わからない	1520	28.9%



以下、受験したいを回答した 291 件について集計を実施。

入学意向

	件数 (N)	割合
全体	(291)	
入学したい	235	80.8%
併願校が不合格だった場合入学したい	53	18.2%
無回答	3	1.0%



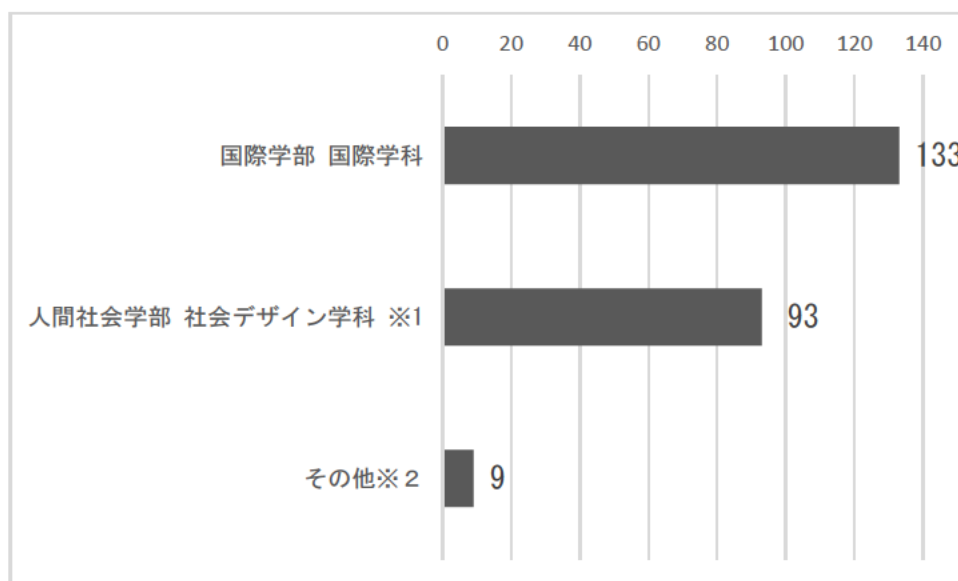
入学希望学科

	件数(N)
全体	(235)
国際学部 国際学科	133
人間社会学部 社会デザイン学科 ※1	93
その他※2	9

※1：関心ある学びにおいて、社会科学・教育（法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学）を回答したもののみ集計

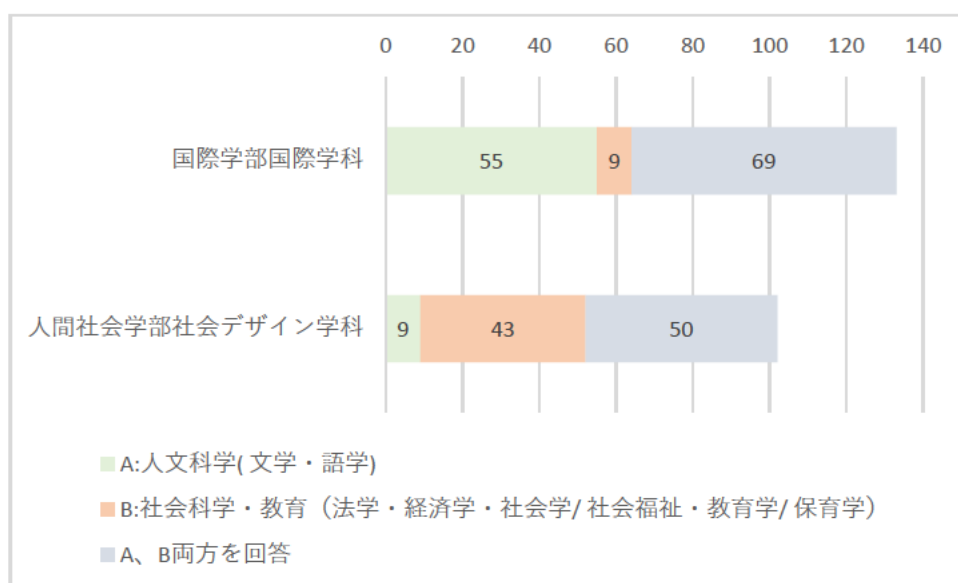
※2：人間社会学部 社会デザイン学科に入学したいと回答したものうち、人文学（文学・語学）のみを回答したもの

N=235



参考：入学希望学科（関心がある学びの分野別）

	関心がある学びの分野		
	A:人文科学 (文学・語学)	B:社会科学・教育 (法学・経済学・社会学/ 社会福祉・教育学/ 保育学)	A、B両方を回答
国際学部国際学科	55	9	69
人間社会学部 社会デザイン学科	9	43	50



資料 1

実践女子大学では、2024年4月、東京都渋谷区に新たな学部・学科の開設を計画しています。

このアンケート調査は、実践女子大学 国際学部国際学科（仮称・設置構想中）・人間社会学部社会デザイン学科（仮称・設置構想中）の設置に関する検討資料とするものです。回答内容があなたの今後の進学（受験・入学等）に影響することはありません。また、この調査の実施及び集計は受託先である株式会社日本ドリコムにて行われます。

■質問の答えとなる番号に○をつけてください。

Q1) あなたの性別をお答えください。

- 1 男性 2 女性

Q2) あなたの学年をお答えください。

- 1 高校3年生 2 高校2年生 3 高校1年生 4 その他

Q3) あなたの居住エリアをお答えください。

- 1 東京都 2 神奈川県 3 千葉県 4 埼玉県 5 茨城県 6 栃木県 7 群馬県 8 その他 ()

Q4) 卒業後の進路として検討している選択肢を全てお答えください。(複数回答可)

- 1 大学・専門職大学 2 短大・専門職短期大学 3 専門学校 4 就職 5 その他 ()

Q5) 関心のある学びの分野を全てお答えください。(複数回答可)

- 1 人文科学(文学・語学) 2 社会科学・教育(法学・経済学・社会学/社会福祉・教育学/保育学) 3 理工学(理学・工学)
4 農学・獣医学 5 医学・保健衛生(医学/歯学・薬学) 6 保健衛生(看護・リハビリ等)
7 芸術・体育(美術・音楽・体育) 8 家政 9 わからない

Q6以降の質問は、一緒に配布した学部学科紹介リーフレットを参照しながら、お答えください。

Q6) 実践女子大学 国際学部 国際学科の特色について関心が持てるものを全て回答してください。(複数回答可)

- 1 外国人と日本人教員が行う6レベルの英語授業(2年間半にわたる約20名クラスによるレベル別英会話中心授業)
2 全学生が2年次に3カ月以上の海外留学(鍛えた英語力を、海外留学を通してさらにブラッシュアップ)
3 渋谷という立地を生かした学び(幅広い視野と知識を手に入れ、海外と日本をつなぐ人材へと成長)
4 その他 ()

Q7) 実践女子大学 人間社会学部 社会デザイン学科の特色について関心が持てるものを全て回答してください。(複数回答可)

- 1 幅広い視野をもてる人間社会学部での一括募集(2年次に所属学科を選ぶ)
2 PBL(課題解決型学習プログラム)やビジネスコンテストへの参加(在学中に社会での実践経験を積むことができる)
3 1年次から少人数のゼミでアクティブラーニング(プレゼン能力・ディスカッション能力が身につく)
4 その他 ()

Q8) 実践女子大学 国際学部 国際学科・人間社会学部 社会デザイン学科を受験したいと思いますか。
(あなたの気持ちに近いものを回答してください)

- 1 受験したい 2 受験を検討したい 3 受験しない 4 わからない



Q8で「1 受験したい」を選択した方のみ回答してください。

Q9) 実践女子大学 国際学部 国際学科・人間社会学部 社会デザイン学科に合格した場合、入学したいと思いますか。
(あなたの気持ちに近いものを回答してください)

- 1 入学したい 2 併願校が不合格だった場合入学したい



Q9で「1 入学したい」を選択した方のみ回答してください。

Q10) どちらの学部学科に入学したいと思いますか。

- 1 国際学部 国際学科 2 人間社会学部 社会デザイン学科

Q11) 実践女子大学 国際学部 国際学科・人間社会学部 社会デザイン学科について、印象や感想、要望等があれば自由に記載してください。

国際学部 国際学科について

人間社会学部 社会デザイン学科について

Q12) 2022年11月24日から現在までの間に、本アンケートと同じ内容のインターネットアンケートに回答したことがありますか。

- 1 回答したことはない 2 回答したことがある -学生確保(資料)-17-

資料 2

社会連携プログラム

実践女子大学では、企業や自治体と連携したプログラムを行っています。

Point 1



渋谷の立地を活かした
課題解決を実践

渋谷キャンパスでは、若者文化の発信地であり、「IT企業やベンチャー企業が集積する渋谷の立地を活かし、さまざまな企業・自治体と連携を行っています。

Point 2



学部の枠組みを超えた
豊富な活動

学部の授業だけでなく、社会連携プログラムではキャンパス・学部・学科を超え、さまざまな専門性・バックグラウンドを持った学生同士がグループワークを行います。

Point 3



企業のトップから、
「女性のキャリア」を
直接学ぶ機会

変化が目まぐるしい社会のなかで、女性として今後どのような力が必要か、各企業のトップで活躍する方の講演を通して、自身のキャリアについて考える機会があります。



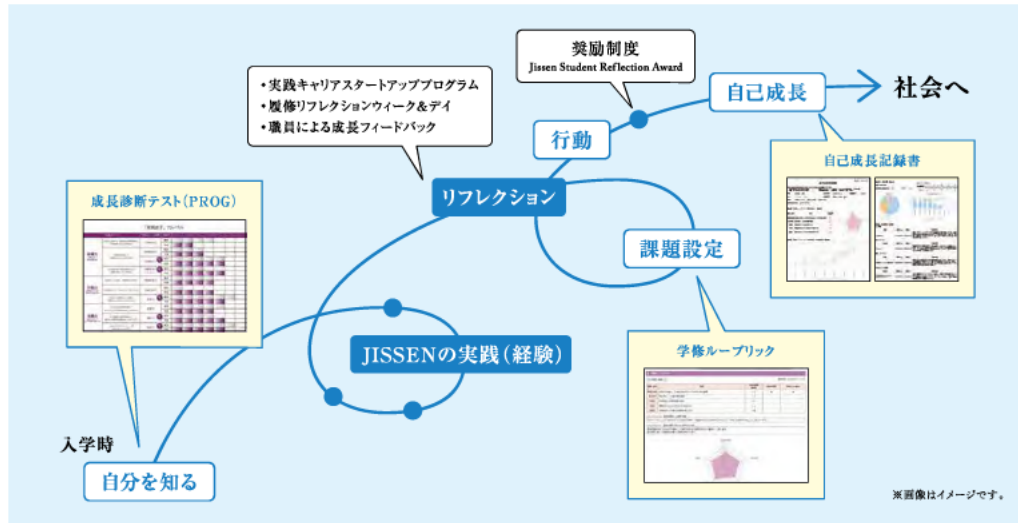
社会連携プログラム 特設サイト

産業界や自治体とコラボレーションした取り組みの実例を紹介しています。ぜひご覧ください！



学生ひとりひとりの成長を支える「J-TAS」

すべての学生がより確かな成長と経験で得た自信を獲得するためのシステムが「J-TAS (Jissen Total Advanced Support)」。
特に本学においては「アクション(実践・経験の場)を増やす」「リフレクション(ふり返し)を行い、アウトプットの機会を増やす」この2つに注力した自己成長支援を、入学直後から継続的にを行っています。



※画像はイメージです。

納付金について

■初年度学費(予定)
国際学部 1,350,000円

(入学金、授業料、施設設備費含む)

※海外留学などのオフキャンパスプログラムに関しては別途費用がかかります。

参考:2022年度入学者納付金

■昭和女子大学 国際学部	1,418,000円
■日本女子大学 国際文化学部(2023年4月開校)	1,340,860円
■学習院女子大学 国際文化交流学部	1,373,800円

実践女子大学

渋谷キャンパス

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49
TEL:03-6450-6820(入学サポート部)

交通アクセス

渋谷駅から ◆JR(山手線、埼京線、湘南新宿ライン)
／東京メトロ(有楽線、半蔵門線、副都心線)
／東急(東横線、田園都市線)
／京王井の頭線 東口C1出口から徒歩約10分
表参道駅から ◆東京メトロ(銀座線、半蔵門線、千代田線)
B1出口から徒歩約12分



—学生確保(資料)—19—

世界で実践

渋谷ではじまる新しい学び

国際学部 国際学科

2024年4月 設置構想中

実践女子大学

※学部学科の内容は構想中のため、変更になる可能性があります。

Concept

世界で実践。



世界はあなたにとっての未知にあふれています。
世界で何が起きているのかを知ることで
あなたの未来の立ち位置がわかります。

世界に出て活躍したい。
日本と海外の懸け橋になりたい。
世界に通用するビジネスパーソンになりたい。
自分たちの地域を活性化させたい。

世界を舞台に、あなたの未来を「実践する」ために、
全学生必修の海外留学*を経験し、
英語運用能力を徹底的に向上させながら
日本文化と国際文化の専門知識を身につけ、
未知にチャレンジできる人を目指します。

国際学部国際学科 3つの特色

Topic 1

外国人と日本人教員が行う
6レベルの英語授業(必修)



1年次前期から3年次前期までの2年間に
わたり、約20名クラスによるレベル別の英
会話中心授業が必修となっています。

Topic 2

全学生が2年次に
3か月以上の海外留学が必修*



1年次前期から徹底的に鍛えた英語力を、
海外留学を通してさらにブラッシュアップ。
※中むを得ない事由により海外留学が不可能な学生に
ついては、別途実地研修等で卒業時に必要な単位の取
得が可能です。

Topic 3

渋谷という立地を
活かした学びを、世界へ



国家戦略特別区域で再開発が進む渋谷で
の4年間の学びを通して、多民族・異文化から
成る世界の幅広い視野と知識を手に入れ、海
外と日本をつなぐ人材へと成長していきます。

こんな人におすすめ

- 日本に限らず、世界でも活躍したい
- 自分のやりたいことを「国内外問わず」チャレンジしたい
- 日本や地域の良さを認識し、海外に広く伝えたい
- 英語力を習得して、多様な人々とコミュニケーションしたい
- 今、世界で何が起きているかを知りたい
- 世界を舞台に自分のキャリアを築きたい
- 国際交流を通して、地域を活性化させたい

卒業後は?

国際性と専門性を活かして、さまざまな分野での
海外営業、貿易事務、海外駐在員を目指します。

目指せる進路

- 外資系企業・グローバル企業
- 航空会社・旅行会社
- 国際物流企業・商社・メーカー
- IT企業、ベンチャー・キャピタル企業
- NGO・NPO など



学びの特徴

徹底した英語教育をベースに、4領域からカスタマイズして学ぶ

	1年次	2年次	3年次	4年次
英語を徹底的に学ぶ	渋谷 Speaking(話す)・Reading(読む)・Listening(聴く)力の強化 Writing(書く)・プレゼンテーション ディスカッション能力をつける	海外 Writing(書く)・プレゼンテーション ディスカッション能力を磨く	海外 Writing(書く)・プレゼンテーション ディスカッション能力を磨く	海外 Writing(書く)・プレゼンテーション ディスカッション能力を磨く
世界を広く、日本を深く学ぶ	専門基礎 国際人として必要な 多様な見方・考え方の 基礎となる4領域を学ぶ	専門応用 グループ演習も含め 各領域の 知識を深める	卒業論文 演習講義 専門領域での ディスカッションを行い 理解を深める	卒業論文 選択する専門領域での 国際人としての 素養の完成

「英語」を活かし、日本や海外で活躍

学びのKEY WORD

言語・コミュニケーション科目群

- #異文化コミュニケーション
- #国際メディア
- #英語学
- #対人コミュニケーション
- #ソーシャルメディア

国際文化科目群

- #多文化共生
- #世界の民族と宗教
- #グローバルゼーション
- #国際社会
- #国際関係
- #国際経営

日本文化科目群

- #海外の日本文学
- #民俗伝統芸能
- #日本文化資源
- #コンテンツ産業
- #東京文化

地域・観光科目群

- #観光学
- #マーケティング
- #ホスピタリティ
- #観光英語
- #地域ブランディング

国内インターンシップ(単位取得可)

オフキャンパスプログラムとして、国際学科には
単位認定される国内インターンシップがあります。
国際ビジネスの現場で実践的なコミュニケーションを
経験します。

プログラム例(予定)

- 国際空港において、来日する外国人をサポート
- 国内の高級リゾートホテルで、サービス業界の業務を経験

海外インターンシップ

本学では、国内だけでなくとどまらず、
海外での実践プログラムを用意しています。
「英語を学ぶ」だけでなく、「英語で学ぶ」経験ができます。
※本プログラムは課外活動となるため、単位認定はされません。

プログラム事例(すべて2022年実績)

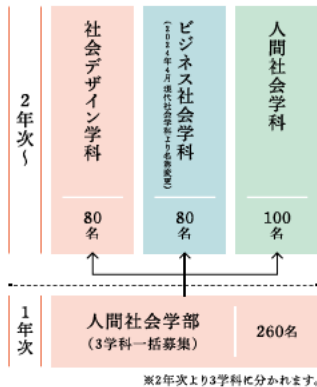
- オーストラリア・シドニーで4週間のインターン研修
- ベトナム・ホーチミンで4週間のインターン研修
- アメリカ・フロリダのテーマパークでチームワークを学ぶ
- カンボジア・プノンペンでカレーハウスの経営を体験

人間社会学部の学びの特色

1

幅広い視野をもてる
3学科一括募集

1年次は人間社会学部に所属し、各学科の基礎分野を幅広く学び、2年次に所属学科を選び、自らの学びをデザインします。



2

1年次から少人数のゼミで
アクティブラーニング

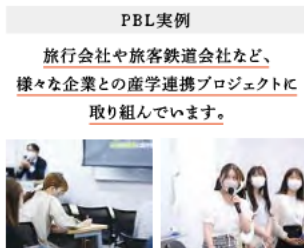
1年次から「基礎ゼミ」に所属し、学生が主体的に考え行動する「アクティブラーニング」方式で学びます。グループワークを豊富に取り入れているため、ディスカッションスキルやプレゼンテーションスキルの向上を実感することができます。



3

PBL(課題解決型学習プログラム)や
ビジネスコンテストへの参加

4年間を通して、学生独自の目標で課題を発見し、解決方法を提案する機会が豊富です。ビジネスの第一線で活躍する企業の方から実際にフィードバックをいただき、ビジネス感覚を養う貴重な経験が授業やゼミ内でできます。



- PBL実例**
- 旅行会社や旅客鉄道会社など、様々な企業との産学連携プロジェクトに取り組んでいます。
- 左:遊園地におけるオールシーズンの集客および売上増加、顧客満足度向上を研究
 - 右:若者が何度でも地域に通いたくなる、帰りたくなる新たな旅のスタイルをプレゼンテーション

社会連携プログラム

実践女子大学では、企業や自治体と連携したプログラムを行っています。

Point 1



渋谷の立地を活かした
課題解決を実践

渋谷キャンパスでは、若者文化の発信地であり、IT企業やベンチャー企業が集積する渋谷の立地を活かし、さまざまな企業・自治体と連携を行っています。

Point 2



学部の枠組みを超えた
豊富な活動

学部の授業だけでなく、社会連携プログラムではキャンパス・学部・学科を超え、様々な専門性・バックグラウンドを持った学生同士がグループワークを行います。

Point 3



企業のトップから、
「女性のキャリア」について直接学ぶ機会

変化が目まぐるしい社会のなかで、女性として今後どのような力が必要か、各企業のトップで活躍する方の講演を通して、自身のキャリアについて考える機会が豊富にあります。

社会連携プログラム 特設サイト

産業界や自治体とコラボレーションした取り組みの実例を紹介しています。ぜひご覧ください！



納付金について

■初年度納入金(2023年度実績)
人間社会学部 1,367,010円

※参考:2022年度入学者納付金

■津田塾大学 総合政策学部	1,280,000円
■法政大学 キャリアデザイン学部	1,320,000円
■武蔵野大学 データサイエンス学部	1,496,600円



実践女子大学

渋谷キャンパス

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49
TEL:03-6450-6820(入学サポート部)

交通アクセス

- 渋谷駅から ◆JR(山手線、埼京線、湘南新宿ライン)
 /東京メトロ(有楽町線、半蔵門線、副都心線)
 /東急(東横線、田園都市線)
 /京王井の頭線 東口C1出口から徒歩約10分
- 渋谷道玄駅から ◆東京メトロ(有楽町線、半蔵門線、千代田線)
 B1出口から徒歩約12分



★実践女子大学
渋谷キャンパス

—学生確保(資料)—21—



未来を創る

渋谷ではじまる新しい学び

人間社会学部 社会デザイン学科

(仮称)

2024年4月 設置構想中



実践女子大学

※学科の内容は構想中のため、変更になる可能性があります。

社会デザイン学科

(仮称・2024年4月 設置構想中)



Concept

この先の社会を、 デザインする。

グローバル化が当たり前になり、SDGsが浸透し、
今、メタバースが様々な分野で取り入れられています。
社会が大きく変わっていく中、
未来を切り開くのが、デザイン(設計)の力。
課題を発見し、アイデアを出し、
試行錯誤を繰り返していくことで、
古い仕組みが変わり、
新しい製品やサービス、仕掛けが生まれます。

社会デザイン学科で学ぶのは、
データ・AIの活かし方、
多様な人々と新しい価値を生み出す「共創」の仕方、
変化するメディアの活用など、
今までとは異なるアプローチ。

好奇心と、失敗さえも楽しむ前向きさで、
よりよい未来をデザインしていこう。

学びの領域

3系統を組み合わせて学び、実践でかたちにしていきます。



学びのキーワード

- #社会学
- #デザイン思考
- #科学技術社会論
- #メディア論
- #情報ネットワーク
- #AI・データサイエンス
- #ジェンダー・イノベーション
- #アントレプレナーシップ
- #コミュニケーション・デザイン

こんな人におすすめ

- 大学でなにかに挑戦したい
- チームで成果を出す楽しさを味わいたい
- まずは「やってみよう」と好奇心を持って取り組める
- 社会の最先端に触れてみたい
- 世の中の課題を解決したり、ニーズに応えたい
- データサイエンスやAIの活用に興味がある

取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(公民)
- 認定心理士
- 公認心理士国家試験受験資格 (要実務経験又は大学院修了)
- 社会調査士

想定される将来像

- シンクタンク、コンサルティング会社でのリサーチャー・データアナリスト
- データを用いた新しいサービスの開発・起業家
- マスコミ・メディア関係企業などでの企画・事業開発
- IT・情報系などビッグデータを扱う企業でのデータ分析・プログラマー
- 公務員、NPO法人・公共分野での社会貢献事業



社会デザイン学科授業(一例)

実践デザインラボ

社会の課題を発見し、解決策をデザイン。

デザイン思考をベースに、少子高齢化、地域、防災、環境・エネルギー、健康、教育、格差、ダイバーシティなど、「ソーシャル・デザイン」に挑戦します。ソーシャル・デザインとは、社会の中の課題を発見し、その解決をデザインする一連のプロセスのこと。デザインする対象は、モノだけでなく、社会制度や活動、サービスなど多岐にわたります。このプロジェクト学習を通して、デザイン思考を実際の社会課題解決のために活用できる力を身につけます。



データ時代の女性キャリア開発

研究者や実務家を招いてディスカッション。

Society 5.0を迎え、社会のさまざまな領域でDX(デジタルトランスフォーメーション)が進み、AIやIoT、ビッグデータが活用されるようになってきています。そうしたデータサイエンス業界における女性活躍の現状や課題等について、研究者や実務家を招き、議論を行います。それにより、ジェンダーステレオタイプにとらわれない、データ・AI時代の女性キャリア開発についての理解を深めます。



学びのテーマ(例)

社会デザイン学科では、4年次に卒業研究・論文に取り組みます。
3つの学び領域でどのような卒業研究のテーマが考えられるのか、一部例を紹介いたします。

共創デザイン系	ソーシャル・データサイエンス系	メディアイノベーション系
<ul style="list-style-type: none"> ■ ソーシャルゲーム空間における「創発的共同行為」の発生要件 ■ 生理管理アプリで収集されるビッグデータ活用の可能性と課題 ■ 人工知能と人間との共生社会を考えるためのゲームデザイン ■ 共創ワークショップを活用した地方自治体の課題解決スキームの提案 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ファンにおける推しの好みの計量化とその傾向分析 ■ 渋谷での空きオフィス問題と未来型スマート農業の導入と課題 ■ スーパーにおける購買履歴データを用いた値引きのタイミングの最適化 ■ データからみる過疎化地域における地域創生 	<ul style="list-style-type: none"> ■ バーチャルアイドルの「成長」とファンダム形成 ■ ソーシャルメディアにおけるフェイクニュース拡散のネットワーク分析 ■ TikTokで配信されるニュースがもたらす情報接触行動への影響 ■ サブスクリプションサービスの台頭によるメディア・コンテンツ制作の変化

人間社会学部は、幅広い視野を持てる3学科一括募集。

1年次は学部に所属し、各学科の基礎分野を幅広く学び、
2年次に所属学科を選び、自らの学びをデザインします。

ビジネス社会学科 (仮称) 兼現代社会学科から名称変更

ビジネスで社会を変え、
新時代のキャリアを描く

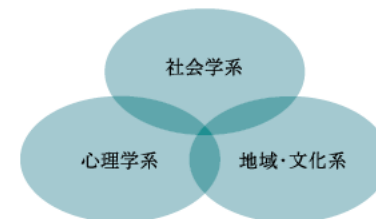


学びのキーワード

#第2言語 #経営学 #法律学 #マーケティング #コミュニケーション学 #国際経済

人間社会学科

人間と社会と文化の在り方を理解し、
新しい価値観を創造する



学びのキーワード

#社会学 #心理学 #教育学 #ジェンダー論 #文化人類学 #メディア学

競合学科候補(主要大学から抜粋)
心理系

大学名	学部名	学部 女子比率
跡見学園女子大学	心理学部	100.0%
聖徳大学	心理・福祉学部	100.0%
東京未来大学	こども心理学部	76.5%
明治学院大学	心理学部	75.6%
立教大学	現代心理学部	73.3%
立正大学	心理学部	67.9%
明星大学	心理学部	65.2%
目白大学	心理学部	63.5%
東京成徳大学	応用心理学部	61.7%
駿河台大学	心理学部	54.4%
東京福祉大学	心理学部	49.6%

メディア系

大正大学	表現学部	76.7%
目白大学	メディア学部	66.0%
城西国際大学	メディア学部	61.6%
江戸川大学	メディアコミュニケーション学部	51.3%
駿河台大学	メディア情報学部	35.2%
東京工科大学	メディア学部	27.9%

観光系

跡見学園女子大学	観光コミュニティ学部	100.0%
明海大学	ポスピタリティ・ツーリズム学部	81.1%
玉川大学	観光学部	78.9%
東洋大学	国際観光学部	67.7%
立教大学	観光学部	67.6%
東海大学	観光学部	59.2%
秀明大学	観光ビジネス学部	55.1%
城西国際大学	観光学部	41.0%
※女子比率は、2021年4月入学者の学部全体の女子比率。(旺文社調べ)		
國學院大學	観光まちづくり学部	新設(2022年)

競合学科候補(主要大学から抜粋)
社会系

大学名	学部名	学部 女子比率
日本女子大学	人間社会学部	100.0%
昭和女子大学	人間社会学部	100.0%
実践女子大学	人間社会学部	100.0%
恵泉女学園大学	人間社会学部	100.0%
十文字学園女子大学	社会情報デザイン学部	100.0%
青山学院大学	地球社会共生学部	74.6%
明治学院大学	社会学部	71.7%
立教大学	社会学部	65.5%
東京外国語大学	国際社会学部	65.0%
学習院大学	国際社会科学部	63.5%
大正大学	心理社会学部	63.0%
東京都立大学	人文社会学部	61.9%
東洋大学	社会学部	61.5%
成城大学	社会イノベーション学部	58.4%
早稲田大学	文化構想学部	58.2%
目白大学	社会学部	56.8%
東海大学	文化社会学部	55.2%
茨城大学	人文社会科学部	53.8%
武蔵大学	社会学部	52.4%
東京経済大学	コミュニケーション学部	52.3%
明治大学	情報コミュニケーション学部	46.6%
筑波大学	社会・国際学類	46.5%
大東文化大学	社会学部	45.0%
一橋大学	社会学部	42.9%
法政大学	社会学部	42.6%
青山学院大学	社会情報学部	40.5%
流通経済大学	社会学部	39.2%
千葉商科大学	人間社会学部	32.3%
早稲田大学	社会科学部	32.2%
東京都市大学	メディア情報学部	32.1%
文教大学	情報学部	30.2%
浦和大学	社会学部	20.0%

※女子比率は、2021年4月入学者の学部全体の女子比率。(旺文社調べ)

競合学科候補(主要大学から抜粋)
情報系

大学名	学部名	学部 女子比率
中央大学	国際情報学部	41.6%
横浜市立大学	データサイエンス学部	38.1%
群馬大学	情報学部	37.2%
筑波大学	情報学群	33.1%
千葉商科大学	政策情報学部	32.1%
武蔵野大学	データサイエンス学部	28.7%
滋賀大学	データサイエンス学部	25.0%
東洋大学	総合情報学部	25.0%
専修大学	ネットワーク情報学部	24.3%
東洋大学	情報連携学部	19.2%
法政大学	情報科学部	16.5%
電気通信大学	情報理工学域	13.8%
東京都市大学	情報工学部	13.5%
千葉工業大学	情報科学部	11.9%
立正大学	データサイエンス学部	11.7%
工学院大学	情報学部	10.4%
明星大学	情報学部	10.4%
東海大学	情報理工学部	9.1%
神奈川工科大学	情報学部	6.9%
慶應義塾大学	環境情報学部	非公開

※女子比率は、2021年4月入学者の学部全体の女子比率。(旺文社調べ)

一橋大学	ソーシャルデータサイエンス学部	新設(2023年)
神奈川大学	情報学部	新設(2023年)
北里大学	未来工学部	新設(2023年)
順天堂大学	健康データサイエンス学部	新設(2023年)
東京都市大学	デザイン・データ科学部	新設(2023年)
湘南工科大学	情報学部	新設(2023年)
お茶の水女子大学	共創工学部(2024年)	新設(2024年)
明治学院大学	情報数理学部(2024年)	新設(2024年)
麗澤大学	工学部(2024年)	新設(2024年)
日本先端工科大学	情報学部(2024年開学)	新設(2024年)

資料4

令和4年度（2022年度） 実践女子大学・短期大学部 出身都道府県別入学者数

地域・都道府県別		大学		短期大学部	
		入学者数	割合	入学者数	割合
北海道		14	1.4	1	0.6
東北	青森県	5	0.5	0	0.0
	岩手県	7	0.7	2	1.3
	宮城県	11	1.1	1	0.6
	秋田県	6	0.6	1	0.6
	山形県	8	0.8	1	0.6
	福島県	11	1.1	3	1.9
関東	茨城県	33	3.2	4	2.6
	栃木県	18	1.7	2	1.3
	群馬県	23	2.2	1	0.6
	埼玉県	170	16.4	43	27.6
	千葉県	105	10.2	11	7.1
	東京都	364	35.2	41	26.3
	神奈川県	134	13.0	24	15.4
中部	新潟県	13	1.3	3	1.9
	富山県	3	0.3	0	0.0
	石川県	2	0.2	0	0.0
	福井県	1	0.1	0	0.0
	山梨県	34	3.3	3	1.9
	長野県	17	1.6	4	2.6
	岐阜県	3	0.3	0	0.0
	静岡県	27	2.6	1	0.6
	愛知県	2	0.2	0	0.0
	近畿	三重県	4	0.4	0
滋賀県		1	0.1	0	0.0
京都府		1	0.1	0	0.0
大阪府		1	0.1	0	0.0
兵庫県		0	0.0	0	0.0
奈良県		3	0.3	0	0.0
和歌山県		0	0.0	0	0.0
中国	鳥取県	0	0.0	0	0.0
	島根県	0	0.0	0	0.0
	岡山県	2	0.2	0	0.0
	広島県	0	0.0	0	0.0
	山口県	2	0.2	0	0.0
四国	徳島県	0	0.0	0	0.0
	香川県	3	0.3	0	0.0
	愛媛県	0	0.0	0	0.0
	高知県	0	0.0	1	0.6
九州	福岡県	1	0.1	0	0.0
	佐賀県	0	0.0	0	0.0
	長崎県	0	0.0	0	0.0
	熊本県	1	0.1	0	0.0
	大分県	0	0.0	2	1.3
	宮崎県	1	0.1	1	0.6
	鹿児島県	2	0.2	1	0.6
	沖縄県	1	0.1	2	1.3
その他	0	0.0	3	1.9	
合計	1034		156		

資料5

実践女子大学

国際学部国際学科（仮称）

人間社会学部社会デザイン学科（仮称）

設置に関する受容性調査 結果報告書

【企業】

株式会社日本ドリコム

令和5年1月

目次

1. 調査概要	4
(1) 調査目的		
(2) 調査期間		
(3) 調査対象・方法		
(4) 有効回答数		
(5) 調査実施機関		
(6) 調査項目		
(7) 調査結果の見方		
2 調査結果のサマリー	5
3 集計結果	6
資料1 質問用紙		
資料2 リーフレット		

1 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、当該学部学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体を対象に、その関心度や想定する採用人数等を尋ねたものであり、実践女子大学国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）の設置構想における検討資料とすることを目的とする。

(2) 調査期間

令和4年11月29日～令和4年12月24日

(3) 調査対象・方法

- ・当該学部学科の卒業生の就職先として想定される企業・団体の人事採用担当者
- ・オンライン回答フォームと質問紙による調査

(4) 有効回答数

114件

(5) 調査実施機関

株式会社 日本ドリコム

(6) 調査項目

資料1 質問用紙に記載

(7) 調査結果の見方

- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・基数となる実数はNとして掲載し、各グラフの比率はNを母数とした割合を示す。
- ・1人の回答者が複数回答する設問では「MA」と表示。

2 調査結果のサマリー

I. 概要

- ・本調査は、実践女子大学国際学部国際学科（仮称）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）の新規設置に伴う社会的ニーズの把握を目的として実施した。
- ・当該学部学科の卒業生の就職先として想定される 114 の企業・団体より有効な回答を得た。

II. 新卒採用・人材充足状況

- ・直近(2022年4月)の採用動向として、97.4%の企業・団体に採用実績があり、採用人数の平均値は68.6名、中央値は27名であった。
- ・人材の過不足について、78.1%の企業・団体が人材不足と回答している。
- ・今後の新卒採用の計画については、95.6%の企業が採用人数の増加もしくは現状の採用数維持の意向を示した。

III 養成する人材の社会的ニーズ

- ・養成する人材の社会的ニーズの高さについて、国際学部国際学科（仮称）は95.6%、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）は96.5%の企業・団体が肯定的な回答（「ニーズは高い」、「どちらかといえばニーズは高い」）を行っている。

IV 採用意向

- ・当該学科について採用意向を示した企業・団体は、国際学部国際学科（仮称）が65の企業・団体（採用想定数162名）、人間社会学部社会デザイン学科（仮称）が65の企業・団体（採用想定数183名）となった。尚、この数値には「採用を検討したい」の回答は含まれておらず、明確に「採用したい」と回答した企業・団体のみを集計した値となっている。

3 集計結果

所在する都道府県

N=114

都道府県	回答数	割合
東京都	94	82.5%
神奈川県	5	4.4%
埼玉県	3	2.6%
静岡県	3	2.6%
大阪府	3	2.6%
群馬県	2	1.8%
兵庫県	2	1.8%
愛知県	1	0.9%
岡山県	1	0.9%

※回答数の多い順に並び替え

業種

MA N=114

業種	回答数	割合
1. 農林漁業・鉱業・建設	6	5.3%
2. 製造業	18	15.8%
3. 情報通信業	20	17.5%
4. 運輸業・卸売業・小売業	38	33.3%
5. 金融・保険・不動産業	9	7.9%
6. 宿泊・飲食サービス業	7	6.1%
7. 医療・福祉業	1	0.9%
8. 対個人サービス業	6	5.3%
9. 他事業所サービス業	8	7.0%
10. 電気・ガス・熱供給・水道業	5	4.4%
その他	13	11.4%

従業員・職員数

N=114

従業員数	回答数	割合
～ 50 人	0	0.0%
51 ～ 100 人	2	1.8%
101 ～ 499 人	35	30.7%
500 ～ 999 人	27	23.7%
1, 000 人以上	50	43.9%

新卒者を採用する際に重視する能力

新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか。MA

単位% N=114

能力	回答数	割合
コミュニケーション能力	109	95.6%
協調性	85	74.6%
柔軟性・素直さ	76	66.7%
主体性	75	65.8%
チャレンジ精神	60	52.6%
ストレス耐性	57	50.0%
責任感	53	46.5%
協働力	51	44.7%
思考力	41	36.0%
課題解決能力	39	34.2%
実践力	37	32.5%
成長力	33	28.9%
ホスピタリティマインド	31	27.2%
リーダーシップ	24	21.1%
創造性	22	19.3%
学業成績・一般常識	16	14.0%
専門性	5	4.4%
取得資格	4	3.5%
出身学部・学科	2	1.8%
その他	1	0.9%

※回答数の多い順に並び替え

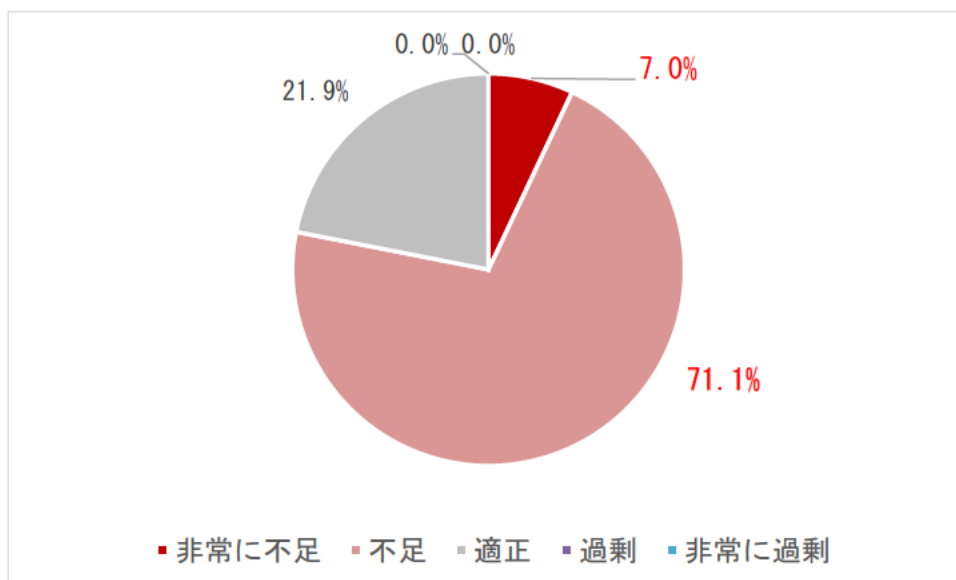
人材の過不足状況

現在の人材の過不足状況をお答えください。

N=114

過不足の状況	回答数	割合
非常に不足	8	7.0%
不足	81	71.1%
適正	25	21.9%
過剰	0	0.0%
非常に過剰	0	0.0%

N=114



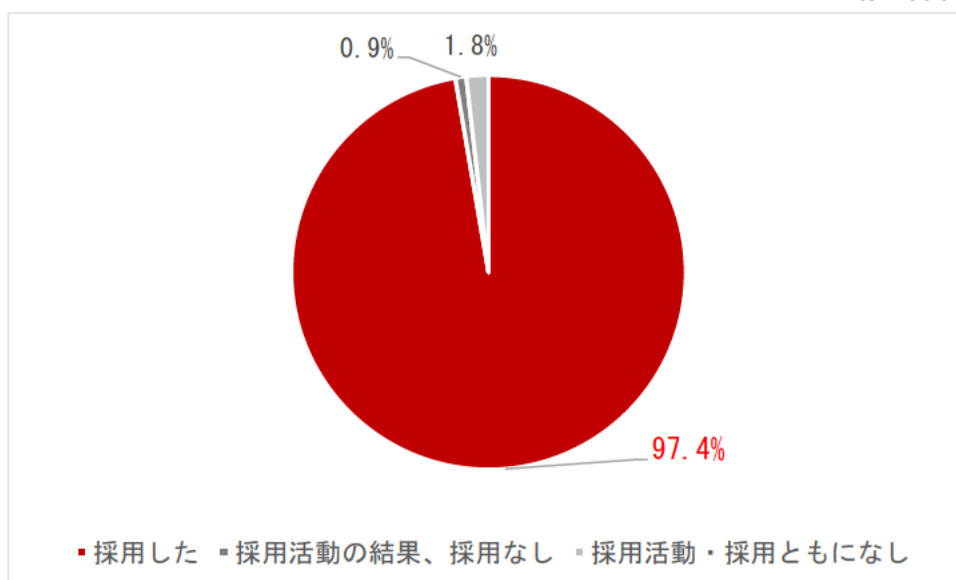
直近の新卒採用状況（2022年4月）

直近（2022年4月）の新卒採用の状況についてお答えください。

N=114

採用状況	回答数	割合
採用した	111	97.4
採用活動の結果、採用なし	1	0.9
採用活動・採用ともになし	2	1.8

N=114



直近（2022年4月）の採用人数

回答数	採用人数 合計	平均	最小値	最大値	中央値
111	7615名	68.6名	1名	700名	27名

※回答数には人数未記入の企業・団体も含む

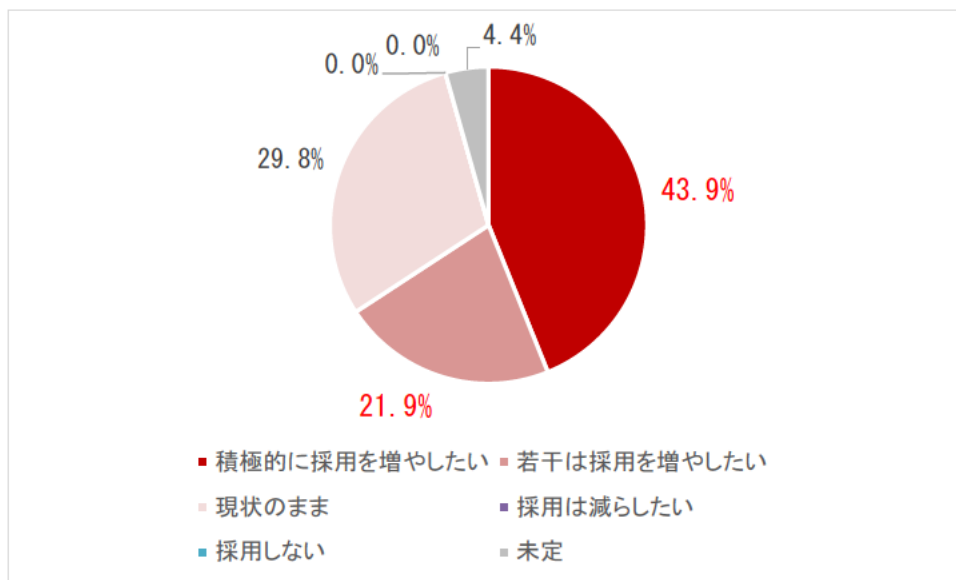
今後の新卒採用計画

今後の新卒採用の計画についてお答えください。

N=114

今後の新卒採用の計画	回答数	割合
積極的に採用を増やしたい	50	43.9%
若干は採用を増やしたい	25	21.9%
現状のまま	34	29.8%
採用は減らしたい	0	0.0%
採用しない	0	0.0%
未定	4	4.4%

N=114



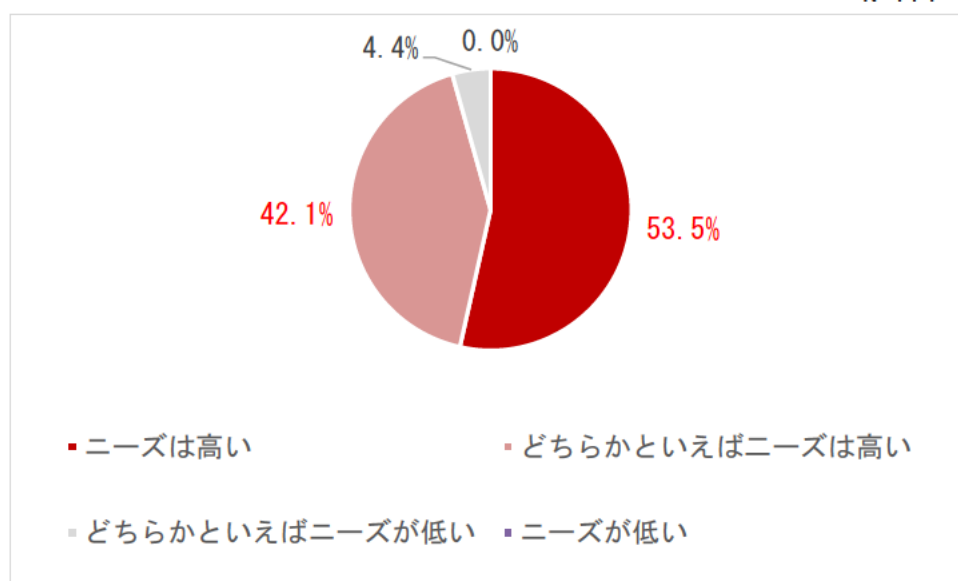
養成する人材の社会的ニーズ

国際学部 国際学科が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

N=114

ニーズ	回答数	割合
ニーズは高い	61	53.5%
どちらかといえばニーズは高い	48	42.1%
どちらかといえばニーズが低い	5	4.4%
ニーズが低い	0	0.0%

N=114

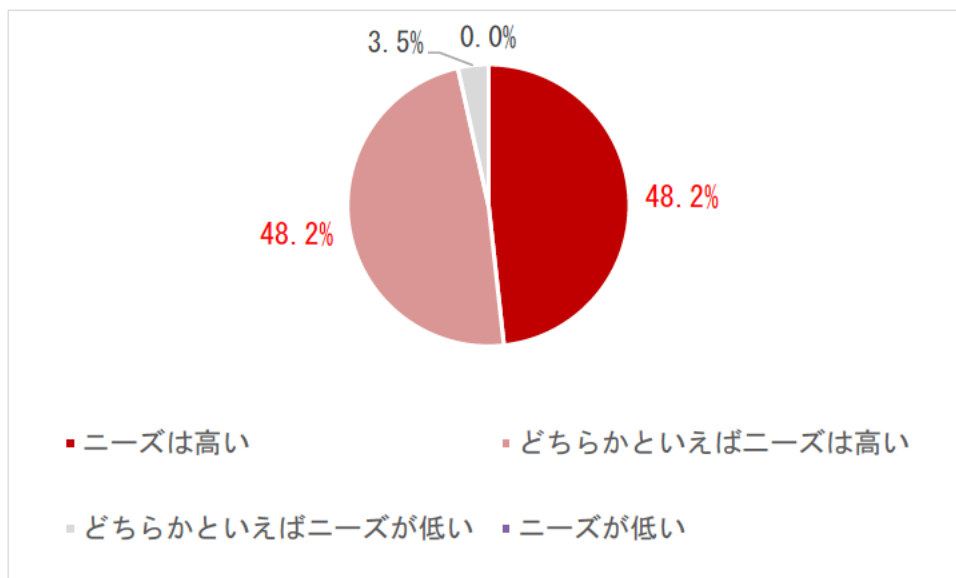


人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

N=114

ニーズ	回答数	割合
ニーズは高い	55	48.2%
どちらかといえばニーズは高い	55	48.2%
どちらかといえばニーズが低い	4	3.5%
ニーズが低い	0	0.0%

N=114



養成する人材の採用意向

国際学部 国際学科及び人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材の、
貴事業所での今後の採用意向

N=114

採用意向	回答数	割合
採用したい	65	57.0%
採用を検討したい	39	34.2%
どちらとも言えない	10	8.8%
採用しない	0	0.0%

学科ごとの採用意向および採用想定人数

国際学部 国際学科

N=104

採用意向	回答数	採用想定人数
採用したい	65	162
採用を検討したい	39	41

人間社会学部 社会デザイン学科

N=104

採用意向	回答数	採用想定人数
採用したい	65	183
採用を検討したい	39	62

意見・要望等

印象やご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。(自由記述)

国際学部 国際学科

期待しております。
コロナ禍もあったが、今後も異文化や国際分野は重要になってくる。このようなさまざまな視点を身に着けることができる学部は必要だと感じた。
当社の海外コースにマッチしていると感じます。
ワールドワイドに活躍するからこそ、日本のことを学ぶカリキュラムは活躍するうえで必要だと思いますしとても魅力的に感じました。
弊社の人材募集に適しています
当社の事業発展に貢献できそうに感じた。
弊社の事業展開が国内であることから、専攻を生かしきれないのでは、という懸念からニーズを低くしております。
IT分野でもグローバルな視点でものを考える力が今後必要とされると思われまますので、そういった広い視野を持つ人材を育てていただきたいです。
日本市場がシュリンクする予測の中、日本企業の海外進出は必須となる。異文化に興味を持ち、流ちょうな英語でコミュニケーションできる人材に期待したい。
当社でも海外事業部がございます。グローバル化が進む中、海外に触れ、多様な経験をされている学生は魅力的でございます。
日本にいても英語を使った業務・会社は増えていると感じます。徹底した英語教育は必要不可欠です。社会に出られる日を楽しみにしております。
競争力は昨今のウクライナ・ロシア（エネルギー・食料問題からエネルギー・食料自給率）や環境問題により国際的視点からの施策が必要と考えられます。それ以外にも多々あると思いますが、上記の点等と経済成長が絡み合う複雑さは更に高まると思います。
英会話中心授業が魅力的である。
国際的な視点を身に付け日本と海外を繋ぐうえで重要な人材を輩出されることを期待しております。
グローバルな視点を学ぶ場として興味深く感じました。弊社でも学びを活かしてグローバル化が進み、アフターコロナでインバウンドの需要が高まっていく世の中で、今後どのようなサービスが必要となるのかを考えてカタチにしていきたいです。
世界との繋がりがポータレスになっていく中で、グローバルな視点を持つ人材の育成は喫緊の課題であると思う。新学部にそういう人材の輩出を期待したい

貿易に携わるポジションは多く、英語力を活かせると感じました。
国際化に適用できる人材の育成教育を促進されている
現在グループ会社にて、海外進出をしておりますので、今後の事業展開によっては英語力を重視した採用を行う可能性も出てくるかと思えます。その際は求人のご相談をさせていただきます。存じます。
グローバル化の中、国際関係や観光学など 英語コミュニケーション力をアップできるアイテムがそろっているのが魅力だと思います。
ジャパンマーケットのみならず、ワールドワードで活躍する人材がますます求められておりますので、学生にとっても、社会にとっても御校の国際学部国際学科で学ばれた方のご活躍が広がるかと存じます。
弊社では新卒で施工管理業務を行っていただける学生の皆様に募集しております。国際学部は直接建設業と関係は無いかもしれませんが、昨今現場では外国籍の方が増えていること、また海外からの送られてくる図面の解析・翻訳等の業務に対するニーズが増えていることから、外国語スキルの高い学生様への評価は年々上昇しております。
現状国際系の学部学科がないため（英文学科はありますが）、設置はとても効果的かと思えます。
時代にマッチしている
多様な考え方や英語・そのほかの言語を使える学生は、今後企業でも求められると思えます。
グローバル社会の中で、国際的に考えられる思考や日本以外に目を向ける意識が高いことは重要だと感じる。
国際性と専門性を身に付けたビジネスパーソンが多く輩出され、その人材とご縁が結ばますことを祈念しております。
語学、とくに英語がメインになるようですが、その習得のみならず、日本文化・東京文化などの学習も出来るのが魅力的です。
英語をスタンダードに海外展開などの人財としては有効
人間社会学部 社会デザイン学科、でも共通する話ですが、類似した名前の学部学科は多いと思えます。コースやカリキュラムなど貴校ならではのものがあると良いと思えます。
グローバル化が進み、語学習得だけでなく、語学をツールに働くことが求められる中での御学部のニーズは高いように感じる。 一方で採用側としては、あくまで人物本位での選考がメインとなっており、学部の枠にとられず、自身で考え行動できるマインドを持った学生の育成に期待したい。
今後に向けて需要の高い学部・学科を設置されること、とても素晴らしいと思えます。一方、弊社は学部などの学歴は不問ですが、貴学部の学生様が学んだことを活かしたいと感じ

じた場合、必ずしも活かしきれるとは言い難い為、弊社にとってはやや学生様が繋がりにくい印象を受けました。
国際的な視点で国境を超えて活躍できる人材の育成はとても社会的意義があると考えます。
3ヶ月以上の海外留学を必修にし、単位に組み込んでいるところが良いと思いました。

※文章は原文ママ。但し、個人名・企業名等が記載されている部分は削除。

人間社会学部 社会デザイン学科

期待しております。
データサイエンス、デザイン思考など今後より注目される分野だと考えているため、このような最先端の内容に触れることができる学科は必要である。
会社に必要なスキルを身に着けることが出来、主体的に動ける学生がいるのではないか感じました。
企業のトップから学べる機会が大学時代にあることはとてもよい刺激になりそうだと感じました。
弊社の人材募集に適しています。デザイン（容器）など募集しているので魅力的
当社の事業発展に貢献できそうに感じた。
データサイエンスは、今後さらに様々な業界で活用される分野だと考えております。単なるデータ分析だけではなく、それをどう生かすか柔軟な発想でデザインする力が求められていると思います。
現代社会に沿った「情報」のスキルを身に付けている学生の育成に力を入れていることを伺い今後の活躍という点で魅力に感じた
企業の活動は業務もマーケティングもメディアもデジタル化、DX化される社内で、人間関係、コミュニケーション、チームワークを科学する力がますます重要となる。
社会で活躍するための基礎を経験できることは魅力だと思います。ビジネスに関連することを早くから経験できることはとても大切だと思います。
3系統の学びをすることでより社会に貢献できる学生さんが育つのかと思いました。社会に出られる日を楽しみにしております。
データサイエンスは今後もニーズが高まると思います。実際にビッグデータ、社内データのマッチングを行える人材はまだまだ少数と思われます。
PBL やビジネスコンテストの参加は魅力的に感じる。
必要性が高まっていく分野だと思いますので、どんな人材が輩出されるか楽しみです。
新しい環境や社会の変化に柔軟に対応できる人材の育成教育を促進されている

<p>授業に取り入れられているアクティブラーニングは、社会に出て大いに役に立つ経験だと思っております。技術サービスを行う弊社では、お客様の課題解決に寄り添う仕事になります。培った知識や経験を活かし活躍して頂きたいです。</p>
<p>データ時代に対応したカリキュラムの中で、実践的な学びの機会があることで、多様なキャリアを描くことが可能となることがビジネス社会にアピールできると思います。</p>
<p>DX化が注目され、データをどう活かしていくかは今後の成長戦略には欠かせない状況です。未来を切り開く人材の育成において、御校で学ばれた方のご活躍が広がるかと存じます。</p>
<p>弊社では新卒で施工管理業務を行っていただける学生の皆様を募集しております。施工管理とは言わば「ものづくり」「街づくり」に繋がる業務です。こうした観点からすれば、社会デザイン学科で学ばれた内容について、実務の方に活かされるのではと考えております。</p>
<p>人間社会学科とまた違う社会人になってからマルチに活かせるスキルを身に付けられる印象でいいと思います。ただ、学ぶ領域を幅広くしすぎずある程度専門性を高められる内容である方がいいと思います。</p>
<p>データサイエンスやAIといった分野は今後需要は高まると思います。</p>
<p>個人・集団・組織などいずれの枠組みでも社会との関わりは大きく、そのような基礎知識をもった人材は重要と感じる。</p>
<p>本年度、弊社に人間社会学部出身の社員が入社しておりますが、技術職という職種に対し、スキルを身に付けようと日々の業務に主体性をもって臨んでいるという報告を受けており、とても頼もしく思っております。システム開発に必ずしも直結した学部ではないかもしれませんが、弊社の業務にも問題なく対応できるものと確信しております。</p>
<p>主体性をもって、ゼミを中心にコミュニケーション能力を磨き、課題可決能力が養われるのは素晴らしいです。</p>
<p>発想力や実践力が身につく、地域活性等に活躍できそう</p>
<p>上記同様学部名を採用基準に影響することはありませんが、社会的環境が大きく変わる中で、その変化を学ぶ学部があれば有効な学びになると感じる。</p>
<p>自由な発想で物事を考える思考力や発信力、企画力のある人材はこれからますます必要とされると思います。</p>
<p>とても興味を持ちやすい内容が多い印象でした。</p>
<p>ビジネス感覚を養う貴重な経験が授業やゼミでできる事は非常に良い。この経験は、企業採用時のポイントとなり得ると思われます。</p>

※文章は原文ママ。但し、個人名・企業名等が記載されている部分は削除。

資料 1

FAX 送信先：03-6746-0053

株式会社日本ドリコム（担当：水島）

実践女子大学 国際学部 国際学科・人間社会学部 社会デザイン学科
(仮称・設置構想中) (仮称・設置構想中)

設置構想についての企業・団体様向けアンケート調査

選択肢がある場合は、該当する番号に○をつけてください。

はじめに貴社・貴機関・貴団体についてお訊ねします。

Q 1. 所在する都道府県（主たる事業所・本社等）をお答えください。

所在地： () 都・道・府・県

回答者： 1 人事・採用担当者 2 その他 ()

Q 2. 業種をお答えください。(複数回答可)

- | | | | |
|---------------|-------------------|-------------|----------------|
| 1. 農林漁業・鉱業・建設 | 2. 製造業 | 3. 情報通信業 | 4. 運輸業・卸売業・小売業 |
| 5. 金融・保険・不動産業 | 6. 宿泊・飲食サービス業 | 7. 医療・福祉業 | 8. 対個人サービス業 |
| 9. 他事業所サービス業 | 10. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 11. その他 () | |

Q 3. 従業員数、職員数の規模をお答えください。(支店や支社を含めた数)

1. ～50人 2. 51～100人 3. 101～499人 4. 500～999人 5. 1,000人以上

Q 4. 新卒者を採用する際、どのような能力を重視しますか。(複数回答可)

- | | | | |
|----------------|-------------|---------------|-------------|
| 1. コミュニケーション能力 | 2. 思考力 | 3. 実践力 | 4. 協働力 |
| 5. ホスピタリティマインド | 6. 課題解決能力 | 7. 主体性 | 8. 協調性 |
| 9. 責任感 | 10. リーダーシップ | 11. 専門性 | 12. 成長力 |
| 13. 柔軟性・素直さ | 14. 創造性 | 15. チャレンジ精神 | 16. ストレス耐性 |
| 17. 取得資格 | 18. 出身学部・学科 | 19. 学業成績・一般常識 | 20. その他 () |

Q 5. 現在の人材の過不足状況をお答えください。

1. 非常に不足 2. 不足 3. 適正 4. 過剰 5. 非常に過剰

Q 6. 直近(2022年4月)の新卒採用の状況、採用人数についてお答えください。

1. 採用した 人数 名 2. 採用活動の結果、採用なし 3. 採用活動・採用ともになし

Q 7. 今後の新卒採用の計画についてお答えください。

1. 積極的に採用を増やしたい 2. 若干は採用を増やしたい 3. 現状のまま
4. 採用は減らしたい 5. 採用しない 6. 未定

以下は、リーフレットをご覧くださいお答えください。

Q 8. 国際学部 国際学科が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

1. ニーズが高い 2. どちらかといえばニーズが高い 3. どちらかといえばニーズが低い 4. ニーズが低い

Q 9. 人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材は社会的ニーズが高いと思いますか。

1. ニーズが高い 2. どちらかといえばニーズが高い 3. どちらかといえばニーズが低い 4. ニーズが低い

※以下Q10、Q11における採用意向・人数に関する回答は、実際の採用人数をお約束いただくものではありません。ご担当部署もしくはご担当者様ご自身のお考えに最も近いものをお答えください。

Q 10. 国際学部 国際学科及び人間社会学部 社会デザイン学科が養成する人材の、貴事業所での今後の採用意向

1. 採用したい 2. 採用を検討したい 3. どちらとも言えない 4. 採用しない

Q 11. 【Q10で「1.採用したい」「2.採用を検討したい」を選んだ方のみお答えください】今後、採用を想定いただける人数

●国際学部 国際学科

名

●人間社会学部 社会デザイン学科

名

Q 12. 印象やご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

国際学部 国際学科について

人間社会学部 社会デザイン学科について

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

尚、当該学部学科の名称、教育内容等は予定であり変更される場合があります。

資料 2

Concept

世界で実践。



世界はあなたにとっての未知にあふれています。
世界で何が起きているのかを知ること
あなたの未来の立ち位置がわかります。

世界に出て活躍したい。
日本と海外の懸け橋になりたい。
世界に通用するビジネスパーソンになりたい。
自分たちの地域を活性化させたい。

世界を舞台に、あなたの未来を「実践する」ために、
全学生必修の海外留学*を経験し、
英語運用能力を徹底的に向上させながら
日本文化と国際文化の専門知識を身につけ、
未知にチャレンジできる人を目指します。

国際学部国際学科 3つの特色

Topic 1

外国人と日本人教員が行う
6レベルの英語授業(必修)



1年次前期から3年次前期までの2年間に
わたり、約20名クラスによるレベル別の英
会話中心授業が必修となっています。

Topic 2

全学生が2年次に
3か月以上の海外留学が必修*



1年次前期から徹底的に鍛えた英語力を、
海外留学を通してさらにブラッシュアップ。
※やむを得ない事由により海外留学が不可能な学生に
ついては、別途実地研修等で卒業時に必要な単位の取
得が可能です。

Topic 3

渋谷という立地を
活かした学びを、世界へ



国家戦略特別区域で再開発が進む渋谷で
の4年間の学びを通して、多民族・異文化から
成る世界の幅広い視野と知識を手に入れ、海
外と日本をつなぐ人材へと成長していきます。

こんな人におすすめ

- 日本に限らず、世界でも活躍したい
- 自分のやりたいことを「国内外問わず」チャレンジしたい
- 日本や地域の良さを認識し、海外に広く伝えたい
- 英語力を習得して、多様な人々とコミュニケーションしたい
- 今、世界で何が起きているかを知りたい
- 世界を舞台に自分のキャリアを築きたい
- 国際交流を通して、地域を活性化させたい

卒業後は?

国際性と専門性を活かし、さまざまな分野での
海外営業、貿易事務、海外駐在員を目指します。

目指せる進路

- 外資系企業・グローバル企業
- 航空会社・旅行会社
- 国際物流企業・商社・メーカー
- IT企業、ベンチャーキャピタル企業
- NGO・NPO など



学びの特徴

徹底した英語教育をベースに、4領域からカスタマイズして学ぶ

	1年次	2年次	3年次	4年次
英語を徹底的に学ぶ	Speaking・Reading・Listening (話す・読む・聞く)力の強化	Writing(書く)・プレゼンテーション ディスカッション能力をつける	Writing(書く)・プレゼンテーション ディスカッション能力を磨く	
世界を広く、日本を深く学ぶ	専門基礎 国際人として必要な 多様な見方・考え方の 基礎となる4領域を学ぶ	専門応用 グループ演習も含め 各領域の 知識を深める	演習講義 専門領域での ディスカッションを行い 理解を深める	卒業論文 選択する専門領域での 国際人としての 素養の完成
		海外短期留学 (必修)3~6ヶ月	オフキャンパスプログラム	

「英語」を活かし、日本や海外で活躍

学びのKEY WORD

言語・コミュニケーション科目群

- # 異文化コミュニケーション
- # 国際メディア
- # 英語学
- # 対人コミュニケーション
- # ソーシャルメディア

国際文化科目群

- # 多文化共生
- # 世界の民族と宗教
- # グローバリゼーション
- # 国際社会
- # 国際関係
- # 国際経営

日本文化科目群

- # 海外の日本文学
- # 民俗伝統芸能
- # 日本文化資源
- # コンテンツ産業
- # 東京文化

地域・観光科目群

- # 観光学
- # マーケティング
- # ホスピタリティ
- # 観光英語
- # 地域ブランディング

国内インターンシップ(単位取得可)

オフキャンパスプログラムとして、国際学科には
単位認定される国内インターンシップがあります。
国際ビジネスの現場で実践的なコミュニケーションを
経験します。

プログラム例(予定)

- 国際空港において、来日する外国人をサポート
- 国内の高級リゾートホテルで、サービス業界の業務を経験

海外インターンシップ

本学では、国内だけにとどまらず、
海外での実践プログラムを用意しています。
「英語を学ぶ」だけでなく、「英語で学ぶ」経験ができます。
※本プログラムは課外活動となるため、単位認定はされません。

プログラム実例(すべて2022年実績)

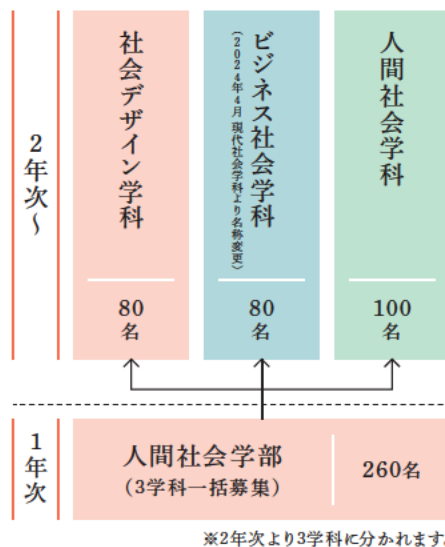
- オーストラリア・シドニーで4週間のインターン研修
- ベトナム・ホーチミンで4週間のインターン研修
- アメリカ・フロリダのテーマパークでチームワームを学ぶ
- カンボジア・プノンペンでカレーハウスの経営を体験

人間社会学部の学びの特色

1

幅広い視野をもてる
3学科一括募集

1年次は人間社会学部に所属し、各学科の基礎分野を幅広く学び、2年次に所属学科を選び、自らの学びをデザインします。



2

1年次から少人数のゼミで
アクティブラーニング

1年次から「基礎ゼミ」に所属し、学生が主体的に考え行動する「アクティブラーニング」方式で学びます。グループワークを豊富に取り入れているため、ディスカッションスキルやプレゼンテーションスキルの向上を実感することができます。



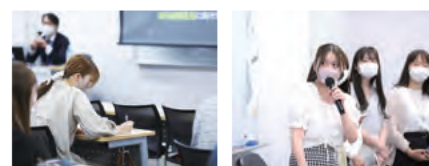
3

PBL(課題解決型学習プログラム)や
ビジネスコンテストへの参加

4年間を通して、学生独自の目線で課題を発見し、解決方法を提案する機会が豊富です。ビジネスの第一線で活躍する企業の方から実際にフィードバックをいただき、ビジネス感覚を養う貴重な経験が授業やゼミ内でできます。

PBL事例

旅行会社や旅客鉄道会社など、
様々な企業との産学連携プロジェクトに
取り組んでいます。



- 左: 遊園地におけるオールシーズンの集客および売上の増加、顧客満足度向上を研究
- 右: 若者が何度も地域に通いたくなる、帰りたいくなる新たな旅のスタイルをプレゼンテーション

社会連携プログラム

実践女子大学では、企業や自治体と連携したプログラムを行っています。

Point 1



渋谷の立地を
活かした
課題解決を実践

渋谷キャンパスでは、若者文化の発信地であり、IT企業やベンチャー企業が集積する渋谷の立地を活かし、さまざまな企業・自治体と連携を行っています。

Point 2



学部の
枠組みを超えた
豊富な活動

学部の授業だけでなく、社会連携プログラムではキャンパス・学部・学科を超え、様々な専門性・バックグラウンドを持った学生同士がグループワークを行います。

Point 3



企業のトップから、
「女性のキャリア」に
ついて直接学ぶ機会

変化が目まぐるしい社会のなかで、女性として今後どのような力が必要か、各企業のトップで活躍する方の講演を通して、自身のキャリアについて考える機会が豊富にあります。



社会連携プログラム 特設サイト

産業界や自治体とコラボレーションした取り組みの実例を紹介しています。ぜひご覧ください！



納付金について

■ 初年度納入金(2023年度実績)
人間社会学部 1,367,010円

参考:2022年度入学者納付金

- 津田塾大学 総合政策学部 1,280,000円
- 法政大学 キャリアデザイン学部 1,320,000円
- 武蔵野大学 データサイエンス学部 1,496,600円

実践女子大学

渋谷キャンパス

〒150-8538 東京都渋谷区東1-1-49
TEL:03-6450-6820(入学サポート部)

交通アクセス

- 渋谷駅から ◆JR(山手線、埼京線、湘南新宿ライン)
/東京メトロ(銀座線、半蔵門線、副都心線)
/東急(東横線、田園都市線)
/京王井の頭線 東口C1出口から徒歩約10分
- 表参道駅から ◆東京メトロ(銀座線、半蔵門線、千代田線)
B1出口から徒歩約12分



—学生確保(資料)—48—



未来を創る

渋谷ではじまる新しい学び

人間社会学部 社会デザイン学科

(仮称)

2024年4月 設置構想中

実践女子大学

※学科の内容は構想中のため、変更になる可能性があります。

社会デザイン学科

(仮称・2024年4月 設置構想中)



Concept

この先の社会を、 デザインする。

グローバル化が当たり前になり、SDGsが浸透し、
今、メタバースが様々な分野で取り入れられています。

社会が大きく変わっていく中、
未来を切り開くのが、デザイン(設計)の力。

課題を発見し、アイデアを出し、
試行錯誤を繰り返していくことで、
古い仕組みが変わり、
新しい製品やサービス、仕掛けが生まれます。

社会デザイン学科で学ぶのは、
データ・AIの活かし方、
多様な人々と新しい価値を生み出す「共創」の仕方、
変化するメディアの活用など、
今までとは異なるアプローチ。

好奇心と、失敗さえも楽しむ前向きさで、
よりよい未来をデザインしていこう。

学びの領域

3系統を組み合わせて学び、実践でかたちにしていきます。



学びのキーワード

- #社会学
- #デザイン思考
- #科学技術社会論
- #メディア論
- #情報ネットワーク
- #AI・データサイエンス
- #ジェンダード・イノベーション
- #アントレプレナーシップ
- #コミュニケーション・デザイン

こんな人におすすめ

- 大学でなにかに挑戦したい
- チームで成果を出す楽しさを味わいたい
- まずは「やってみたい」と好奇心を持って取り組める
- 社会の最先端に触れてみたい
- 世の中の課題を解決したり、ニーズに応えたい
- データサイエンスやAIの活用に興味がある

取得できる資格

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(公民)
- 認定心理士
- 公認心理士国家試験受験資格 (要実務経験又は大学院修了)
- 社会調査士

想定される将来像

- シンクタンク、コンサルティング会社でのリサーチャー・データアナリスト
- データを用いた新しいサービスの開発・起業家
- マスコミ・メディア関係企業などでの企画・事業開発
- IT・情報系などビッグデータを扱う企業でのデータ分析・プログラマー
- 公務員、NPO法人・公共分野での社会貢献事業



社会デザイン学科授業(一例)

実践デザインラボ

社会の課題を発見し、解決策をデザイン。

デザイン思考をベースに、少子高齢化、地域、防災、環境・エネルギー、健康、教育、格差、ダイバーシティなど、「ソーシャル・デザイン」に挑戦します。ソーシャル・デザインとは、社会の中の課題を発見し、その解決をデザインする一連のプロセスのこと。デザインする対象は、モノだけでなく、社会制度や活動、サービスなど多岐にわたります。このプロジェクト学習を通して、デザイン思考を実際の社会課題解決のために活用できる力を身につけます。



データ時代の女性キャリア開発

研究者や実務家を招いてディスカッション。

Society 5.0を迎え、社会のさまざまな領域でDX(デジタルトランスフォーメーション)が進み、AIやIoT、ビッグデータが活用されるようになってきています。そうしたデータサイエンス業界における女性活躍の現状や課題等について、研究者や実務家を招き、議論を行います。それにより、ジェンダーステレオタイプにとらわれない、データ・AI時代の女性キャリア開発についての理解を深めます。



学びのテーマ(例)

社会デザイン学科では、4年次に卒業研究・論文に取り組めます。

3つの学び領域でどのような卒業研究のテーマが考えられるのか、一部例を紹介いたします。

共創デザイン系	ソーシャル・データサイエンス系	メディアイノベーション系
<ul style="list-style-type: none"> ■ ソーシャルゲーム空間における「創発的共同行為」の発生要件 ■ 生理管理アプリで収集されるビッグデータ活用の可能性と課題 ■ 人工知能と人間との共生社会を考えるためのゲームデザイン ■ 共創ワークショップを活用した地方自治体の課題解決スキームの提案 	<ul style="list-style-type: none"> ■ ファンにおける推しの好みの計量化とその傾向分析 ■ 渋谷での空きオフィス問題と未来型スマート農業の導入と課題 ■ スーパーにおける購買購入履歴データを用いた値引きのタイミングの最適化 ■ データからみる過疎化地域における地域創生 	<ul style="list-style-type: none"> ■ バーチャルアイドルの「成長」とファンダム形成 ■ ソーシャルメディアにおけるフェイクニュース拡散のネットワーク分析 ■ TikTokで配信されるニュースがもたらす情報接触行動への影響 ■ サブスクリプションサービスの台頭によるメディア・コンテンツ制作の変化

人間社会学部は、幅広い視野を持てる3学科一括募集。

1年次は学部に所属し、各学科の基礎分野を幅広く学び、
2年次に所属学科を選び、自らの学びをデザインします。

ビジネス社会学科 (仮称) ※現代社会学科から名称変更

ビジネスで社会を変え、
新時代のキャリアを描く

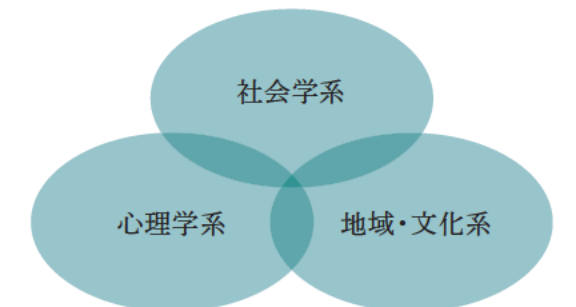


学びのキーワード

- #経済学 #経営学 #法学 #マーケティング #コミュニケーション学 #国際経済

人間社会学科

人間と社会と文化の在り方を理解し、
新しい価値観を創造する



学びのキーワード

- #社会学 #心理学 #教育学 #ジェンダー論 #文化人類学 #メディア学

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学長	ナンバ マサリ 難波 雅紀 <令和3年4月>		文学修士		実践女子大学学長 (令和3.4～令和7.3) 実践女子大学短期大学部学長 (令和3.4～令和7.3)

(注) 高等専門学校にあっては校長について記入すること。

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
1	専	教授	コガマミツル 児玉 充 <令和6年4月>		博士(工 学)		実践入門セミナー 演習 I 演習 III a 演習 III b 演習 IV a 演習 IV b 卒業研究 アントレプレナーシップ論 アントレプレナーシップ演習 リーダーシップ開発 a リーダーシップ開発 b デジタルメディア論	1前 1後 3前 3後 4前 4後 4通 1前 2後 1後 2前 3後	2 2 2 2 2 2 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	日本大学 商学部経営学科 教授 (平成19年4月)	5日
2	専	教授	タケノ アキラ 竹内 光悦 <令和6年4月>		博士(理 学)		実践入門セミナー 統計的思考 演習 I 演習 III a 演習 III b 演習 IV a 演習 IV b 卒業研究 人間社会学入門※ 社会と統計 社会調査概論 調査・実験データ処理法 データベース基礎 デザイン思考とデータ活用 特別講義 a 特別講義 b 社会調査実習 I 社会調査実習 II	1前 1前 1後 3前 3後 4前 4後 4通 1前 1後 1前 2後 2前 2後 3前 3後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 4 0.2 4 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成16年4月)	5日
3	専	教授	サクラ オサム 佐倉 統 <令和7年4月>		博士(理 学)		演習 II a 演習 II b 演習 III a 演習 III b 演習 IV a 演習 IV b 卒業研究 社会情報学概論 サステナビリティ論 共創デザイン論 共創デザイン・プロジェクト 人工知能と人間・社会	2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 2前 2前 2後 3前 3後	2 2 2 2 2 2 4 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京大学 大学院情報学環 教授 (平成19年4月)	5日
4	専	教授	イタクラ フミホ 板倉 文彦 <令和6年4月>		博士 (経営学)		演習 I 演習 II a 演習 II b 演習 III a 演習 III b 演習 IV a 演習 IV b 卒業研究 情報と職業 メディア情報学 情報セキュリティ 社会的価値創造論	1後 2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 2後 2前 2前 3後	2 2 2 2 2 2 4 4 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学 短期大学部 教授 (平成21年4月)	5日

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
5	専	教授	ハヤシ アツヒロ 林 篤裕 <令和7年4月>		博士(工 学)		演習Ⅱ a 演習Ⅱ b 演習Ⅲ a 演習Ⅲ b 演習Ⅳ a 演習Ⅳ b 卒業研究 課題解決プロセス基礎 社会科学におけるデータと数理 データに基づく地域創生 社会科学データ分析 課題解決プロセス応用 社会科学における質的データ分析	2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 2前 2後 2後 3前 3前 3後	2 2 2 2 2 2 4 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	名古屋工業大学 大学院工学研究科 教授 (平成28年4月)	5日
6	専	准教授	ツツイ ハルカ 筒井 晴香 <令和6年4月>		博士(学 術)		実践入門セミナー 情報スキル基礎 演習Ⅰ 演習Ⅲ a 演習Ⅲ b 演習Ⅳ a 演習Ⅳ b 卒業研究 人間社会学入門※ 応用倫理学 身体論 テクノロジーと性 科学技術社会論 リスク社会論	1前 1後 1後 3前 3後 4前 4後 4通 1前 2前 2前 2前 3後 3後	2 1 2 2 2 2 4 0.1 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東京大学 生産技術研究所 機械生体系部門 特任研究員 (令和3年1月)	5日
7	専	准教授	シネハ セロ 標葉 靖子 <令和6年4月>		博士 (生命科 学)		演習Ⅱ a 演習Ⅱ b 演習Ⅲ a 演習Ⅲ b 演習Ⅳ a 演習Ⅳ b 卒業研究 人間社会学入門※ 実践デザインラボⅠ 実践デザインラボⅡ シリアスゲーム・デザイン演習 ジェンダード・イノベーション リスク・コミュニケーション	2前 2後 3前 3後 4前 4後 4通 1前 1後 2前 2後 3前 3前	2 2 2 2 2 2 4 0.2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 准教授 (令和2年4月)	5日
8	専	講師	コンタ カズキ 今田 一希 <令和6年4月>		修士(理 学) ※		実践入門セミナー 演習Ⅲ a 演習Ⅲ b 演習Ⅳ a 演習Ⅳ b 卒業研究 人間社会学入門※ プログラミング基礎 社会科学における AI・機械学習 社会科学における Web データ収集技術論 社会科学におけるプログラミング 社会科学におけるソフトウェア設計 社会科学における AI・機械学習応用	1前 3前 3後 4前 4後 4通 1前 1後 2前 2後 3前 3前 3後	2 2 2 2 2 4 0.1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	学校法人中央大学 教育技術員 (令和5年4月)	5日

教 員 の 氏 名 等													
(人間社会学部 社会デザイン学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する 週当たり 平均日数	
9	専	講師	タカ アキラ 田中 瑛 <令和6年4月>		博士(社会 情報学)		実践入門セミナー 情報スキル基礎 演習 I 演習 III a 演習 III b 演習 IV a 演習 IV b 卒業研究 人間社会学入門※ 表象メディア論 メディア・コミュニケーション論 メディア・ワークショップ メディアとインターセクショナルリティ メディアデータ分析	1前 1後 1後 3前 3後 4前 4後 4通 1前 2前 2前 2後 3前 3後	2 1 2 2 2 2 4 0.1 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		5日	
10	兼担	教授	アツタ シュウジ 粟津 俊二 <令和6年4月>		博士 (文学)		実践入門セミナー 短期インターンシップ 長期インターンシップ ボランティアプロジェクト a ボランティアプロジェクト b 演習 I 心理学統計法 心理実習	1前 3休 3休 1休 1休 1後 3後 3通	2 1 1 1 1 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成16年4月)		
11	兼担	教授	イケガキ(イイズミ)ミコ 池田(飯泉)三枝 子 <令和6年4月>		修士(文 学)		実践教養講座 b	1休	2	1	実践女子大学 文学部 教授 (平成11年4月)		
12	兼担	教授	イケガキ シンイチ 稲垣 伸一 <令和6年9月>		文学修士		実践教養講座 h ※	1後	0.5	1	実践女子大学 文学部 教授 (平成18年4月)		
13	兼担	教授	ウエノ(コノ)エロ 上野(今野)英子 <令和6年9月>		博士(文 学)		日本の古典文学	1後	2	1	実践女子大学 文芸資料研究所 教授 (昭和59年4月)		
14	兼担	教授	オカワ トモコ 大川 知子 <令和6年4月>		博士(経営 学)		衣文化論	1前	2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成25年4月)		
15	兼担	教授	オホ ユウコ 於保 祐子 <令和6年4月>		博士 (医学)		Global Studies d ※ 身体の科学 実践教養講座 i ※	1後 1前 1後	1 2 0.3	1 1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成28年4月)		
16	兼担	教授	カスノ ショウジ 数野 昌三 <令和6年9月>		法学修士		法学概論 民法概論	1後 2前	2 2	1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成17年4月)		
17	兼担	教授	カトモト ノブテル 角本 伸晃 <令和6年4月>		経済学博士		実践入門セミナー 教会的思考※ 経済学概論 行動経済学	1前 1後 1後 2後	2 0.7 2 2	1 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成28年4月)		
18	兼担	教授	コマヤ マミ 駒谷 真美 <令和6年4月>		博士(学 術)		人間社会学入門※ メディア社会論 メディア心理学 メディア情報リテラシー メディア表現	1前 2前 2後 3前 3後	0.3 2 2 2 2	1 1 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成29年4月)		
19	兼担	教授	サイトウ ヒロシ 齋藤 洋 <令和6年4月>		博士(工 学)		データサイエンス入門 情報スキル基礎 情報リテラシー応用 c 実践教養講座 e	1後 1前 1前 1後	3 1 2 2	3 1 1 1	実践女子大学 大学教育研究センター 特任教授 (令和5年4月)		
20	兼担	教授	ササキ ケマル 佐々木 溪円 <令和6年9月>		博士(生物 環境調整 学)		実践教養講座 c ※ 実践教養講座 i ※	1後 1後	0.1 0.1	1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成30年4月)		

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
21	兼担	教授	ササキ マリ 佐々木 真理 <令和6年9月>		文学修士		実践教養講座 h ※	1後	0.4	1	実践女子大学 文学部 教授 (平成16年4月)	
22	兼担	教授	サトリ サチ 佐藤 幸子 <令和6年9月>		博士(食物 栄養学)		実践教養講座 i ※	1後	0.1	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成25年4月)	
23	兼担	教授	サトリ タケ 佐藤 健 <令和6年4月>		博士(工 学)		情報リテラシー応用 d くらしの人間工学 身体運動の科学 a 身体運動の科学 b スポーツ応用科学実習 実践教養講座 c ※	1前 1前・後 1前 1後 1前・後 1後	2 4 2 2 2 0.3	1 2 1 1 2 1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成19年4月)	
24	兼担	教授	シハラ ノブヒロ 椎原 伸博 <令和6年9月>		芸術学修士		実践プロジェクト c 実践教養講座 h ※	2休 1後	2 0.4	1 1	実践女子大学 文学部 教授 (平成14年4月)	
25	兼担	教授	シカワ ヒロト 塩川 宏郷 <令和6年9月>		博士(医 学)		実践教養講座 c ※ 精神疾患とその治療	1後 3後	0.1 2	1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成30年4月)	
26	兼担	教授	シバキ(ヤサキ)カサ 篠崎(矢崎) 香織 <令和6年4月>		博士(知識 科学)		演習 I 経営学概論 社会システム論 イノベーション論	1後 1前・後 2後 3前	2 4 2 2	1 2 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成26年4月)	
27	兼担	教授	シバキ アカネ 島崎 あかね <令和6年4月>		博士(環境 共生学)		身体運動の科学 a 身体運動の科学 b 基礎スポーツ実習 a 基礎スポーツ実習 b 健康体力科学演習 アダプテッドスポーツ	1前 1後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	2 2 2 2 2 2	1 1 2 2 2 2	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成28年4月)	
28	兼担	教授	シモヤマ ハジメ 下山 肇 <令和6年9月>		学士 (造形)		実践プロジェクト b 実践教養講座 h ※	2前 1後	2 0.3	1 1	実践女子大学 文学部 教授 (平成23年4月)	
29	兼担	教授	シムツケル, ジェイコブ Schmigel, Jacob <令和6年4月>		Master of Arts (米国)		Global Studies b	1前・後	4	2	実践女子大学 言語文化教育研究セン ター 教授 (平成28年4)	
30	兼担	教授	ショウ ヒロユ 蔣 飛鴻 <令和6年4月>		博士(経営 学)		演習 I 簿記論 I 簿記論 II	1後 1前 1後	2 2 2	1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成25年4月)	
31	兼担	教授	シラオ ミチ 白尾 美佳 <令和6年9月>		医学博士		実践教養講座 c ※ 実践教養講座 i ※	1後 1後	0.1 0.1	1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成25年4月)	
32	兼担	教授	スキヤマ ヤスマサ 杉山 靖正 <令和6年9月>		博士 (農業)		実践教養講座 i ※	1後	0.1	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成30年4月)	
33	兼担	教授	セイヤ ナツヨ 清田 夏代 <令和6年4月>		博士(教育 学)		Global Studies e 女性教育とジェンダー※	1後 1前	2 1	1 1	実践女子大学 教職センター 教授 (平成28年4月)	
34	兼担	教授	タケギ ヒロコ 高木 裕子 <令和6年4月>		教育学修士		コミュニケーション概論 社会言語学 言語コミュニケーション開発支援実習	1前・後 2前 3通	4 2 1	2 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成16年4月)	
35	兼担	教授	タカハシ ケイコ 高橋 桂子 <令和6年4月>		博士 (社会科 学)		ライフデザイン 金融リテラシー入門 教員の思考※	3前 1前 1後	2 2 0.7	1 1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成27年4月)	
36	兼担	教授	タカハシ ヒロキ 高橋 裕樹 <令和6年4月>		修士(経営 学)		キャリアデザイン グローバル・キャリアデザイン 実践プロジェクト a	3前 3後 1前	2 2 2	1 1 1	実践女子大学 大学教育研究センター 特任教授 (令和3年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
37	兼任	教授	タカシ ミ 高橋 美和 <令和6年4月>		博士(文 学)		実践入門セミナー 演習 I 人間社会学入門※ 文化人類学	1前 1後 1前 2前	2 2 0.3 2	1 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成29年4月)	
38	兼任	教授	タケチ(スズキ) ミ 竹内(鈴木) 美香 <令和6年4月>		博士(医 学)		実践入門セミナー 演習 I 心理学概論 発達心理学 心理実習	1前 1後 1前 2前 3通	2 2 2 2 4	1 1 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成26年4月)	
39	兼任	教授	タバナ ヒロシ 橋 弘志 <令和6年4月>		博士(工 学)		実践教養講座 g	1前	2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成14年4月)	
40	兼任	教授	ナカムラ アキラ 中村 彰男 <令和6年9月>		博士 (医学)		実践教養講座 i ※	1後	0.3	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成30年4月)	
41	兼任	教授	ナカヤマ セイイチ 中山 誠一 <令和6年4月>		博士(教育 学)		Global Studies a	1前・後	4	2	実践女子大学 言語文化教育研究セン ター 教授 (平成26年4月)	
42	兼任	教授	ナラ カズヒロ 奈良 一寛 <令和6年9月>		博士 (農学)		実践教養講座 i ※	1後	0.1	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成28年4月)	
43	兼任	教授	ハラダ ケン 原田 謙 <令和6年4月>		博士(都市 科学)		社会学概論 社会調査方法論 都市フィールドワーク論 地域社会学	1前・後 1後 2後 2前	4 2 2 2	2 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成20年4月)	
44	兼任	教授	ヒロイ タツコ 広井 多鶴子 <令和6年4月>		教育学修士		女性教育とジェンダー※ 実践教養講座 h ※ 人間社会学入門※ 教育学概論	1後 1後 1前 1後	1 0.4 0.1 2	1 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成16年4月)	
45	兼任	教授	フカザワ アキヒサ 深澤 晶久 <令和6年4月>		法学士		実践キャリアプランニング キャリアデザイン グローバル・キャリアデザイン キャリア開発実践論 国際理解とキャリア形成 女性とキャリア形成 キャリア・ショーケース 実践プロジェクト a	2前 3前 3後 3通 2前 2前 2前 1前	2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学 文学部 教授 (平成30年4月)	
46	兼任	教授	フジワラ マサミチ 藤原 正道 <令和7年9月>		教育学修士		言語学入門	1後	2	1	実践女子大学短期大学 部 教授 (平成7年4月)	
	兼任	講師	フジワラ マサミチ 藤原 正道 <令和6年9月>		教育学修士		言語学入門	1後	2	1		

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
47	兼担	教授	ブラック, ヨーガン Bulach, Juergen <令和6年4月>		教育学修士		ドイツ語 1 a ドイツ語 1 b ドイツ語 2 a ドイツ語 2 b 海外語学研修 a 海外語学研修 b 海外語学研修 c 海外語学研修 d 海外語学研修 e 海外語学研修 f 海外語学研修 g 海外語学研修 h 海外短期インターンシップ 海外長期インターンシップ	1前 1後 2前 2後 1休 1休 1休 1休 1休 1休 1休 1休 1休 1休	2 2 1 1 2 2 1 2 1 1 1 1 1 1 2	2 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	実践女子大学 言語文化教育研究セン ター 教授 (平成14年4月)	
48	兼担	教授 (副学 長)	マキ キリム 榎 究 <令和6年4月>		博士(工 学)		実践教養講座 b	1休	2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成7年4月)	
49	兼担	教授	マツウラ ツネオ 松浦 常夫 <令和6年9月>		博士(人間 科学)		心理学概論 心理実習	1後 3通	2 4	1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成16年4月)	
50	兼担	教授	マツシマ テルヒコ 松島 照彦 <令和6年9月>		博士 (医学)		実践教養講座 c ※ 実践教養講座 i ※	1後 1後	0.5 0.5	1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成22年4月)	
51	兼担	教授	ムカサ アキラ 武笠 朗 <令和6年4月>		芸術学修士		実践教養講座 b	1休	2	1	実践女子大学 文学部 教授 (平成9年4月)	
52	兼担	教授	ヤチ アツヒロ 谷内 篤博 <令和6年4月>		修士(カウ ンセリン グ)		実践入門セミナー キャリア・マネジメント論	1前 1後	2 2	1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成24年4月)	
53	兼担	教授	ヤマザキ カズヒコ 山崎 和彦 <令和6年4月>		医学博士		生活環境の科学	1前	2	1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成3年4月)	
54	兼担	教授	ヤマザキ タシ 山崎 壮 <令和6年9月>		薬学博士		Global Studies d ※ くらしの化学 ※ 実践教養講座 i ※	1後 1後 1後	1 1 0.3	1 1 1	実践女子大学 生活科学部 教授 (平成24年4月)	
55	兼担	教授	ヤマネ(ナイトリ) スミカ 山根(内藤) 純佳 <令和6年4月>		博士(社会 学)		実践入門セミナー 演習 I ジェンダー論 女性と労働 福祉社会学	1前 1後 1後 2前 2後	2 2 2 2 2	1 1 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (平成27年4月)	
56	兼担	教授	ヨシダ マサヒコ 吉田 雅彦 <令和6年4月>		博士(経済 学)		演習 I 経済学概論 キャリア・デザイン論	1後 1前 2前	2 2 2	1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 教授 (令和2年4月)	
57	兼担	准教授	アサヒ アツコ 阿佐美 敦子 <令和6年4月>		文学修士		Integrated English a 異文化理解 ※ 英語コミュニケーション I a 英語コミュニケーション II a 英語コミュニケーション III a	1前 2後 1後 2前 2後	2 1 2 1 1	2 1 2 1 1	実践女子大学 人間社会学部 准教授 (平成16年4月)	
58	兼担	准教授	イノウエ アヤノ 井上 綾野 <令和6年4月>		修士(商 学)		実践入門セミナー 人間社会学入門 ※ マーケティング論 広告・PR論 ソーシャル・マーケティング・プロジェクト ソーシャル・マーケティング論	1前 1前 2前 2後 2後 3前	2 0.3 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 准教授 (平成31年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
59	兼担	准教授	エドワーズ, マイケル EDWARDS, Anthony Michael <令和6年4月>		MA in TESOL (米国)		Global Studies c Global Studies d	1後 1前	2 2	1 1	実践女子大学短期大学 部 准教授 (令和2年4月)	
60	兼担	准教授	カトキ ヒデアキ 加藤木 秀章 <令和6年9月>		博士 (工学)		くらしの化学※ 実践教養講座 c ※	1後 1後	1 0.3	1 1	実践女子大学 生活科学部 准教授 (平成30年4月)	
61	兼担	准教授	クラモト ハツメ 倉持 一 <令和6年9月>		博士(経営 学)		実践教養講座 c ※	1後	0.4	1	実践女子大学 生活科学部 准教授 (令和3年4月)	
62	兼担	准教授	ナラ ノリコ 奈良 典子 <令和6年9月>		修士 (教育学)		実践教養講座 i ※	1後	0.1	1	実践女子大学 生活科学部 准教授 (平成31年4月)	
63	兼担	准教授	ハツメ アキコ 橋詰 秋子 <令和6年9月>		博士(図書 館・情報 学)		オープン講座 a ※	1後	1	1	実践女子大学短期大学 部 図書館学課程 准教授 (令和2年4月)	
64	兼担	准教授	ワタベ サトシ 渡辺 敏 <令和6年9月>		修士(教育 学)		教学的思考	1後	2	1	実践女子大学 生活科学部 准教授 (平成31年4月)	
65	兼担	講師	オオサワ(ミヤケ)トモコ 大澤(三宅) 朋子 <令和6年9月>		博士(社会 福祉学)		実践教養講座 c ※	1後	0.1	1	実践女子大学 生活科学部 講師 (平成29年4月)	
66	兼担	講師	カシマ(スズキ)チカ 鹿島(鈴木) 千穂 <令和6年4月>		修士(学 術)		メディア論 オープン講座 a ※ クォーターオープン講座 c	1前 1後 1後	2 1 1	1 1 1	実践女子大学短期大学 部 講師 (令和4年4月)	
67	兼担	講師	カナツ ケン 金津 謙 <令和6年4月>		修士(法 学)		日本国憲法 法学入門 演習 I 法律学概論	1前・後 1後 1前 1前	6 2 2 2	3 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 講師 (平成21年4月)	
68	兼担	講師	カワイ ノブアキ 河井 延晃 <令和6年9月>		修士(学際 情報学)		メディア論	1後	2	1	実践女子大学 生活科学部 講師 (平成21年4月)	
69	兼担	講師	ホノ(フクヤ)タカ 久保(福家) 貴子 <令和6年4月>		文学修士		女性教育とジェンダー※ 実践教養講座 d	1前・後 1前	2 2	2 1	実践女子大学 下田歌子記念女性総合 研究所 講師 (平成30年4月)	
70	兼担	講師	コヤマ シズカ 神山 静香 <令和6年4月>		博士(法 学)		実践入門セミナー 人間社会学入門※ 国際関係概論 商法概論	1前 1前 2前 2前	2 0.3 2 2	1 1 1 1	実践女子大学 人間社会学部 講師 (平成30年4月)	
71	兼担	講師	トネタ(コバヤシ)トモコ 時田(小林) 朋子 <令和6年4月>		博士(学 術)		Integrated English a 異文化理解※ 英語コミュニケーション I a	1前 2後 1後	1 1 2	1 1 2	実践女子大学 人間社会学部 講師 (平成31年4月)	
72	兼担	講師	バリース, キンセラ Valise, Kinsella <令和6年4月>		修士 (応用言語 学)		Effective Speaking Active Reading Active Listening Global Studies h	1前・後 1前 1後 1前・後	2 1 1 4	2 1 1 2	実践女子大学 言語文化教育研究セン ター 講師 (令和4年4月)	
73	兼任	講師	アヅカリ(シタ)エミ 相川(新田) 愛美 <令和6年4月>		Ph. D. (History) (インド)		地域研究 b	1前	2	1	学校法人木下学園 カナン国際教育学院 学生部長 (平成28年2月)	
74	兼任	講師	アハラ カツキ 合原 勝之 <令和6年4月>		芸術学士		生活とデザイン	1前	2	1	アハラ・デザイン・ラボ株式 会社 代表取締役社長 (昭和60年10月)	
75	兼任	講師	アオキ ジュンコ 青木 淳子 <令和6年9月>		博士(学際 情報学)		衣文化論	1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成31年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
76	兼任	講師	アキヤマ(ロミヤ)チ 秋山(小宮)千恵 <令和6年4月>		修士 (史学)		西洋史	1前	6	3	実践女子大学 非常勤講師 (平成17年4月)	
77	兼任	講師	アサハラ フサオ 浅原 房夫 <令和6年4月>		修士(哲 学)		情報リテラシー基礎	1前	2	2	実践女子大学 非常勤講師 (平成12年4月)	
78	兼任	講師	アベ キミコ 阿部 貴美子 <令和6年4月>		Doctor of Philosophy (英国)		女性の健康	1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 (平成31年4月)	
79	兼任	講師	アベ テツリ 阿部 哲理 <令和6年4月>		修士(文 学)		心の健康	1前・後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 (令和5年4月)	
80	兼任	講師	アラオ(イワナ)ミヨ 荒尾(岩熊)美代 <令和6年4月>		博士(学 術)		食文化論	1前・後	6	3	昭和女子大学 国際文化研究所 客員研究員 (平成16年4月)	
81	兼任	講師	アルカ(キシ)アキコ 有賀(岸)暁子 <令和6年4月>		学士(国 文学)		健康運動実習 a	1前・後	2	2	実践女子大学 非常勤講師 (平成29年4月)	
82	兼任	講師	アルカ(ミズノ)チカコ 有賀(水野)千佳 子 <令和6年4月>		修士(文 学)		日本語コミュニケーション基礎 日本語コミュニケーション実践	1前 1後	4 4	2 2	実践女子大学 人間社会学部 非常勤講師 (平成28年4月)	
83	兼任	講師	イズミ(トクナガ)エミコ 飯泉(徳永)恵美子 <令和6年4月>		法学士		Global Studies i Global Studies j	1前 1後	2 2	1 1	有限会社ジェックス 代表取締役社長 (平成10年5月)	
84	兼任	講師	イノ トモコ 飯野 智子 <令和6年4月>		修士(社 会学)		ジェンダー論入門 女性の歴史 日本のポップ・カルチャー	1前 1後 1後	2 2 2	1 1 1	実践女子大学 非常勤講師 (平成13年4月)	
85	兼任	講師	イモリ モトキ 飯盛 元章 <令和6年9月>		博士(哲 学)		現代の思想	1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (令和5年4月)	
86	兼任	講師	イケガキ リマサ 池田 徳正 <令和6年9月>		修士(学 術情報学)		情報リテラシー応用 c	1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成25年9月)	
87	兼任	講師	イツツカ マサキ 石塚 雅貴 <令和6年9月>		修士(人 間科学)		情報リテラシー応用 b	1後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 (令和5年4月)	
88	兼任	講師	イズミ トシロウ 泉 敏郎 <令和6年4月>		修士(体 育科学)		基礎スポーツ実習 a	1前・後	2	2	帝京平成大学 人文社会学部 准教授 (平成29年4月)	
89	兼任	講師	イカリ(ハナダ)カオル 市川(花田)薫 <令和6年4月>		博士(農 学)		生活環境の科学	1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 (令和5年4月)	
90	兼任	講師	イチケ ヨコ 市毛 洋子 <令和6年4月>		Master's degree in TESOL (米国)		Active Reading Active Listening CEFR B1	1前・後 1前 1前・後	3 2 4	3 2 4	実践女子大学 非常勤講師 (平成18年9月)	
91	兼任	講師	イトウ アサカ 伊藤 綾香 <令和7年9月>		博士(政 策・メ ディア)		マルチメディア処理	2後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成30年9月)	
92	兼任	講師	イヒセ タケル 猪瀬 武則 <令和6年4月>		博士 (教育学)		日本の経済	1前	2	1	実践女子大学 生活科学部 非常勤講師 (平成29年4月)	
93	兼任	講師	イマイ ヤスル 今井 康晴 <令和6年4月>		修士(教 育学) ※		教育学	1前	2	1	東京未来大学 こども心理学部 准教授 (平成27年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
94	兼任	講師	イカミキ 石上 美紀 <令和6年4月>		家政学修士		ファッションの世界	1前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成31年4月)	
95	兼任	講師	ウエストモ 上西 朋子 <令和6年9月>		修士(生活 科学)		情報スキル基礎	1後	2	2	実践女子大学 非常勤講師 (平成27年4月)	
96	兼任	講師	ウヅカ マサリ 氏川 雅典 <令和6年4月>		修士 (社会学) ※		社会学入門	1前	4	2	実践女子大学 非常勤講師 (平成28年9月)	
97	兼任	講師	ウチガ サトミ 内田 里美 <令和6年4月>		修士(米文 学)		Integrated English a 英語コミュニケーション I a 英語コミュニケーション II a	1前 1後 2前	2 2 1	2 2 1	実践女子大学 非常勤講師 (平成31年4月)	
98	兼任	講師	エチコ ケイ 越後 敬子 <令和6年4月>		修士(文 学)		日本の古典文学	1前	2	1	実践女子大学 文学部 非常勤講師 (平成16年4月)	
99	兼任	講師	エトウ ケ 江藤 双恵 <令和6年4月>		修士(国際 学) ※		国際社会とジェンダー 地域研究 a	1前 1後	4 2	2 1	実践女子大学 人間社会学部 非常勤講師 (平成31年4月)	
100	兼任	講師	オキ ヒロミ 大木 博巳 <令和6年9月>		経済学士		国際経済の基礎	1後	2	1	一般財団法人国際貿易 投資研究所 研究主幹 (平成26年4月)	
101	兼任	講師	オウケ キョウカ 大倉 恭輔 <令和6年4月>		文学修士		サブカルチャー論	1前	2	1	実践女子大学 短期大学部 准教授 (平成26年4月)	
102	兼任	講師	オサワ タカミ 大澤 隆文 <令和6年4月>		博士(農 学)		地球と環境の科学	1前	2	1	環境省 九州地方環境事務所 野生生物課長 (平成19年4月)	
103	兼任	講師	オオヤマ リョウ 大厩 諒 <令和6年9月>		博士(哲 学)		社会思想入門	1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成30年4月)	
104	兼任	講師	オガタ ヒトシ 岡田 斉 <令和6年4月>		文学修士※		心理学入門	1前・後	6	3	文教大学 人間科学部 教授 (平成11年4月)	
105	兼任	講師	オカベ ヒデオ 岡部 英男 <令和6年4月>		文学修士※		倫理学入門 生命と環境の倫理	1前 1後	4 4	2 2	東京音楽大学 音楽学部 准教授 (平成3年4月)	
106	兼任	講師	オカワ イズミ 小川 泉 <令和6年4月>		修士(教育 学)		情報リテラシー基礎 情報スキル基礎	1前 1後	3 2	3 2	実践女子大学 非常勤講師 (平成20年4月)	
107	兼任	講師	オガリ コウタ 小栗 宏太 <令和6年9月>		Master of Arts in Political Science (米 国)		文化人類学入門	1後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 (令和5年4月)	
108	兼任	講師	オサワ ミチヒロ 小澤 康裕 <令和6年4月>		博士 (経営学)		簿記論 I 簿記論 II	1前 1後	2 2	1 1	立教大学経済学部 会計ファイナンス学科 准教授 (平成20年4月)	
109	兼任	講師	オガ(ウエイ)ヤヨイ 織田(上市) 弥生 <令和7年4月>		修士(人間 科学)		社会・集団・家族心理学	2前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成28年9月)	
110	兼任	講師	カハラ ケニコ 笠原 邦子 <令和6年4月>		短期大学 卒業		情報リテラシー基礎	1前	3	3	実践女子大学 非常勤講師 (平成15年4月)	
111	兼任	講師	カスウェル イアン マイケル Caswell, Ian Michael <令和6年9月>		Master of Arts (英 国)		Effective Writing	1後	1	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成24年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
112	兼任	講師	カニエ リコ 蟹江 教子 <令和7年9月>		博士(社会科学)		女性とキャリア形成	2後	2	1	宇都宮共和大学 子ども生活学部 教授 (平成24年4月)	
113	兼任	講師	カワガミ ミホ 河田 美保 <令和6年4月>		修士 (体育学)		健康運動実習 a 基礎スポーツ実習 c ヘルスプロモーション実践実習 a ヘルスプロモーション実践実習 b	1前・後 1前・後 1前 1後	2 2 1 1	2 2 1 1	実践女子大学 生活科学部 非常勤講師 (平成19年4月)	
114	兼任	講師	キノシタ ショウコ 木下 頌子 <令和6年4月>		修士(文学)		現代の思想	1前・後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 (令和3年4月)	
115	兼任	講師	キミズ(ヨシワリ)チカト 木水(吉澤) 千里 <令和6年4月>		doctorat (フランス)		映像文化論	1前・後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 (平成31年4月)	
116	兼任	講師	クミキヨシ 楠見 清 <令和6年9月>		哲学士		サブカルチャー論	1後	2	1	東京都立大学 システムデザイン学部 准教授 (平成20年4月)	
117	兼任	講師	グティエレス, テイモシー Gutierrez Timothy <令和6年4月>		Master of Arts in English(TES OL Option) (米国)		Integrated English b 英語コミュニケーションⅠ b 英語コミュニケーションⅢ b	1前 1後 2後	2 2 1	2 2 1	実践女子大学 非常勤講師 (平成27年4月)	
118	兼任	講師	クボテラ リエ 久保寺 紀江 <令和6年4月>		博士(美術 史学)		美術の世界	1前・後	6	3	実践女子大学 文学部 非常勤講師 (平成23年4月)	
119	兼任	講師	クマガイ シゲゾウ 熊谷 滋三 <令和6年4月>		文学修士※		東洋史	1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 (平成8年4月)	
120	兼任	講師	クワトモコ 栗田 智子 <令和7年9月>		M.A. in TESOL(米 国)		実践プロジェクト c	2後	2	1	実践女子大学短期大学 部 非常勤講師 (令和4年4月)	
121	兼任	講師	クリハラ サカミ 栗原 栄美 <令和8年9月>		学士(文芸 学)		ビジネスのスキルとマナー	3後	4	2	CARREL 社会保険労務士 事務所 代表 (平成22年3月)	
122	兼任	講師	クウ ウンスク 高 恩淑 <令和6年4月>		博士(言語 文化)		コリア語 1 a コリア語 1 b コリア語 2 a コリア語 2 b	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	獨協大学 国際教養学部 特任教授 (令和2年4月)	
123	兼任	講師	クワノ ヤスナリ 河野 康成 <令和6年4月>		社会学修士 ※		情報リテラシー応用 b 情報リテラシー応用 c 統計的思考	1前・後 1前 1後	4 2 2	2 1 1	実践女子大学短期大学 部 非常勤講師 (平成31年4月)	
124	兼任	講師	コジマ マサヒロ 小島 将裕 <令和6年9月>		博士(統計 化学)		情報スキル基礎	1後	1	1	協和キリン株式会社 (平成26年4月)	
125	兼任	講師	コスタ ケン 小須田 健 <令和6年4月>		博士(哲 学)		哲学入門	1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 (平成30年4月)	
126	兼任	講師	コバヤシ マチコ 小林 真知子 <令和6年4月>		学術博士		西洋の文学	1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 (平成元年4月)	
127	兼任	講師	コバヤシ エキコ 小林 幸子 <令和6年4月>		博士(芸術 学)		音楽の世界	1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 (令和2年4月)	
128	兼任	講師	コメダ ヒデツグ 米田 英嗣 <令和6年9月>		博士(教育 学)		心理学入門	1後	2	1	青山学院大学 教育人間科学部 准教授 (平成30年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
129	兼任	講師	コムム ナホシ 惟村 直公 <令和6年9月>		農学博士		情報スキル基礎	1後	2	2	東京農業大学 教職・学術情報課程 准教授 (平成19年4月)	
130	兼任	講師	サイキョウカン 蔡 曉軍 <令和6年4月>		修士(文学) ※		中国語1 a 中国語1 b 中国語2 a 中国語2 b	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	実践女子大学 非常勤講師 (平成12年4月)	
131	兼任	講師	サイウ タカシ 斎藤 孝 <令和6年4月>		法学修士		日本国憲法 法学入門 日本の政治	1前・後 1後 1前	4 2 4	2 1 2	実践女子大学 非常勤講師 (平成4年4月)	
132	兼任	講師	サイウ ヒロミ 齋藤 宏文 <令和6年4月>		博士(学 術)		科学技術と人間	1前・後	4	2	九州工業大学 教養教育院人文社会系 准教授 (令和4年4月)	
133	兼任	講師	サイウ シユキ 齋藤 宜之 <令和6年9月>		博士(哲 学)		社会思想入門	1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (令和5年4月)	
134	兼任	講師	サノ エツコ 笹野 悦子 <令和6年4月>		修士(社会 学) ※		ジェンダー論入門	1前・後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 (平成23年4月)	
135	兼任	講師	サウ エミ 佐藤 恵美 <令和6年4月>		博士(心理 学)		心の健康	1前・後	4	2	東京富士大学 経営学部 准教授 (平成21年4月)	
136	兼任	講師	シオティノ、アン Sciortino Anne <令和6年4月>		教育学修士		Integrated English b 英語コミュニケーション I b 英語コミュニケーション II b 英語コミュニケーション III b	1前 1後 2前 2後	3 2 1 1	3 2 1 1	実践女子大学 非常勤講師 (平成29年4月)	
137	兼任	講師	シダ マリコ 篠田 真理子 <令和6年4月>		修士(学 術)		バイオの世界	1前・後	4	2	恵泉女学園大学 人間社会学部 准教授 (平成17年4月)	
138	兼任	講師	シミス ヤヨイ 清水 弥生 <令和6年4月>		修士(法律 学)		日常生活と法	1前・後	4	2	実践女子大学 人間社会学部 非常勤講師 (平成25年4月)	
139	兼任	講師	シラカ(タムラ)リエ 白川(谷村) 理恵 <令和6年4月>		博士(文 学)		Global Studies g フランス語1 a フランス語1 b	1前 1前 1後	2 1 1	1 1 1	実践女子大学 非常勤講師 (令和4年9月)	
140	兼任	講師	シラベ ブンメイ 調 文明 <令和6年4月>		修士(文 学) ※		映像文化論	1前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (令和2年4月)	
141	兼任	講師	スカ ユキコ 菅 由紀子 <令和7年9月>		学士(経 済学)		データ時代の女性キャリア開発	2後	2	1	株式会社Rejoui 代表取締役 (平成28年9月)	
142	兼任	講師	スカ マカシ 菅沼 崇 <令和6年4月>		修士(教育 学) ※		心理学入門 人間関係の心理学	1前 1前・後	2 8	1 4	相模女子大学 人間社会学部 教授 (平成16年4月)	
143	兼任	講師	スカハラ アツシ 菅原 淳史 <令和6年4月>		修士(人間 科学)		情報スキル基礎 情報リテラシー応用 b 情報リテラシー応用 c	1後 1前 1後	2 2 2	2 1 1	実践女子大学 生活科学部 非常勤講師 (平成21年4月)	
144	兼任	講師	スキヤマ ハル 杉山 春 <令和6年4月>		文学士		実践教養講座 f	1前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (令和2年4月)	
145	兼任	講師	スカカキ キヨミ 鈴川 清美 <令和6年4月>		修士(体 育)		身体運動の科学 a 身体運動の科学 b 健康運動実習 a 健康運動実習 b 健康運動実習 a	1前 1後 1後 1前 1前・後	2 2 1 1 2	1 1 1 1 2	実践女子大学 非常勤講師 (平成30年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する 週当たり 平均日数
146	兼任	講師	ススキアツヒロ 鈴木 淳弘 <令和6年9月>		修士(国際 学)		情報スキル基礎	1後	1	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成20年4月)	
147	兼任	講師	ススキカシ 鈴木 卓 <令和6年4月>		博士(応用 言語学)		Effective Writing Effective Speaking Active Listening Global Studies c	1前 1前・後 1後 1前	1 2 1 2	1 2 1 1	清泉女子大学 文学部 教授 (平成21年4月)	
148	兼任	講師	スマトモヒロ 須山 智裕 <令和6年4月>		修士(文 学)		文学とジェンダー	1前	2	1	慶応義塾大学大学院 文学研究科 助教 (令和4年4月)	
149	兼任	講師	ソバケイタ 園部 圭太 <令和6年9月>		修士(理 学) ※		情報リテラシー応用 b	1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (令和5年4月)	
150	兼任	講師	タラコウイチロウ 田浦 紘一朗 <令和6年4月>		修士(文 学)※		Integrated English a 英語コミュニケーション I a	1前 1後	2 2	2 2	実践女子大学短期大学 部 非常勤講師 (令和4年4月)	
151	兼任	講師	タケヤシカズヒロ 竹林 和彦 <令和6年4月>		修士(教 育学)※		地理学 地理学概論	1前・後 1後	4 2	2 1	学校法人 早稲田実業高等学校 教諭 (平成27年4月)	
152	兼任	講師	タカ(フシワ)アミ 田中(藤原) 亜美 <令和6年4月>		修士 (文学)		ドイツ語 1 a ドイツ語 1 b ドイツ語 2 a ドイツ語 2 b	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	実践女子大学 非常勤講師 (平成23年4月)	
153	兼任	講師	チア スカイ 謝 淑愛 <令和6年4月>		Master of Education(B usiness Management) (マレーシ ア)		Global Studies e Global Studies f	1前 1前・後	2 4	1 2	城西短期大学 ビジネス総合学科 助教 (平成28年4月)	
154	兼任	講師	チヨウメイヨウ 張 名揚 <令和6年9月>		博士 (文学)		東洋思想入門	1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (令和3年4月)	
155	兼任	講師	ツチヨシケ 土屋 陽介 <令和6年4月>		博士 (工学)		情報リテラシー応用 b 情報リテラシー応用 c	1後 1前	4 2	2 1	東京通信大学 情報マネジメント学部 准教授 (平成30年4月)	
156	兼任	講師	テラモト(ヤマウチ)ミコ 寺本(山内) 美奈子 <令和6年4月>		修士(造 形)		生活とデザイン	1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 (平成22年4月)	
157	兼任	講師	トケチ マサヨ 徳地 昌代 <令和6年4月>		学士(体 育学)		基礎スポーツ実習 d	1前・後	4	4	東京都立南多摩中等教 育学校 指導教諭 (平成27年4月)	
158	兼任	講師	トミクラ アツコ 富倉 敦子 <令和6年4月>		Master of Arts in Linguistics (米国)		Integrated English a 英語コミュニケーション III a	1前 2後	2 1	2 1	実践女子大学 非常勤講師 (平成31年4月)	
159	兼任	講師	トミタ ノブミ 富田 望 <令和7年4月>		博士 (人間科 学)		公認心理師の職責	2前	2	1	早稲田大学 人間科学術院 人間科学部 講師 (平成30年4月)	
160	兼任	講師	トシマ ヨコ 豊島 陽子 <令和6年4月>		理学博士		生命の科学	1前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (令和3年4月)	
161	兼任	講師	ナガイ トモコ 永井 とも子 <令和7年4月>		短期大学 卒業		実践教養講座 a	2前・後	8	4	NPO法人(ウチノチカラ)儀礼 文化教育研究所 理事長 (平成17年1月)	
162	兼任	講師	ナカガワ リエコ 中川 理恵子 <令和6年4月>		修士 (文学)		児童文学入門	1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 (平成27年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
163	兼任	講師	ナカノ ハルカ 中野 遙 <令和6年9月>		博士 (文学)		言語学入門	1後	2	1	上智大学 基礎教育センター 特任助教 (令和3年4月)	
164	兼任	講師	ナカノ ユミコ 中野 裕美子 <令和8年9月>		修士 (社会科学)		ライフデザイン	3後	2	1	実践女子大学 生活科学部 非常勤講師 (平成28年4月)	
165	兼任	講師	ナカムラ タイチ 中村 太一 <令和6年4月>		PhD Linguistics (英国)		Effective Writing	1前・後	2	2	専修大学 経営学部 教授 (平成15年4月)	
166	兼任	講師	ナブ(アカイ)カスカ 南部(赤石)和香 <令和6年9月>		博士 (商学)		国際経済の基礎	1後	2	1	青山学院大学 社会情報学部 准教授 (平成30年4月)	
167	兼任	講師	ニシキ トモ 西脇 智子 <令和6年4月>		社会福祉学 修士		オープン講座 b オープン講座 c クォーターオープン講座 a クォーターオープン講座 b	1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	4 4 2 2	2 2 2 2	実践女子大学短期大学 部 准教授 (平成12年4月)	
168	兼任	講師	ヌタハラ サトシ 奴田原 諭 <令和6年4月>		修士(文学)※		日本の近現代文学	1前・後	6	3	実践女子大学 文学部 非常勤講師 (平成28年4月)	
169	兼任	講師	ノロ シュンイチ 野呂 純一 <令和7年9月>		博士(経済学)		応用経済学	2後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成29年4月)	
170	兼任	講師	ハクキョウ 朴 校熙 <令和6年4月>		博士(教育学)		コリア語 1 a コリア語 1 b コリア語 2 a コリア語 2 b	1前 1後 2前 2後	4 4 2 2	4 4 2 2	実践女子大学 非常勤講師 (平成19年4月)	
171	兼任	講師	ハタノ トシヤ 畑農 鋭矢 <令和6年4月>		博士 (経済学)		日本の経済 教会的思考※	1前 1後	2 0.6	1 1	明治大学 商学部 教授 (平成18年4月)	
172	兼任	講師	ハシ タカマサ 林 忠正 <令和7年4月>		修士(法学)		実践企業分析論 実践企業分析論演習	2前 2前	2 2	1 1	サイボウズ株式会社 取締役執行役員 (平成25年10月)	
173	兼任	講師	ハヤマ(カワカ)トモヨ 早田(河方)朋代 <令和6年4月>		修士 (スポーツ 科学)		健康運動実習 b 基礎スポーツ実習 a	1前・後 1前・後	2 2	2 2	世田谷キッズアリー ディングクラブ 代表 (平成24年6月)	
174	兼任	講師	ヒョウドウ マサシ 兵頭 昌 <令和6年4月>		博士(理学)		情報リテラシー応用 b 社会の基礎数学	1後 1前	2 2	1 1	神奈川大学 経済学部経済学科 准教授 (令和2年4月)	
175	兼任	講師	ヒラツカ リエ 平塚 理恵 <令和6年9月>		博士 (理学)		生命の科学	1後	2	1	東京慈恵会医科大学 医学部 准教授 (平成13年4月)	
176	兼任	講師	ヒラマツ ケイイチロウ 平松 恵一郎 <令和6年4月>		修士 (経営管理 学)		メディア論	1前	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成27年4月)	
177	兼任	講師	フクダ サオ 福田 幸夫 <令和6年4月>		文学修士		社会保障論 関係行政論	1前 2後	4 2	2 1	静岡福祉大学 社会福祉学部 教授 (平成31年4月)	
178	兼任	講師	フジイ アキヒロ 藤井 章博 <令和6年9月>		博士 (情報工 学)		情報リテラシー応用 d	1後	2	1	法政大学 理工学部 教授 (平成20年4月)	
179	兼任	講師	フジイ ヨコ 藤井 陽子 <令和6年4月>		博士(文学)		フランス語 1 a フランス語 1 b フランス語 2 a フランス語 2 b	1前 1後 2前 2後	2 2 2 2	2 2 2 2	実践女子大学 非常勤講師 (平成23年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
180	兼任	講師	フルカ リョウタ 古川 諒太 <令和6年4月>		修士 (文学)		日本の伝統文化	1前・後	4	2	実践女子大学 非常勤講師 (令和4年4月)	
181	兼任	講師	ホトモト 堀 智博 <令和6年4月>		博士 (史学)		日本史	1前	4	2	東京都立大学 大学教育センター 特任助教 (令和2年10月)	
182	兼任	講師	ホリケチ カキト 堀内 隆二 <令和6年4月>		修士(政 策・メディア ア)		情報リテラシー応用 a	1前・後	6	3	実践女子大学 非常勤講師 (令和5年4月)	
183	兼任	講師	マスタ カユキ 増田 貴之 <令和6年4月>		修士(学 術)		防災の科学	1前・後	4	2	東京学参株式会社 (平成25年1月)	
184	兼任	講師	マチダ ダイスケ 町田 大輔 <令和6年9月>		博士(保健 学)		農業と食料	1後	4	2	群馬大学 共同教育学部家政教育 講座 准教授 (年月)	
185	兼任	講師	マツイ エコウ 松井 英光 <令和7年9月>		博士(社会 情報学)		マスメディア論	2後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成28年4月)	
186	兼任	講師	マツタ ケイタ 松下 慶太 <令和6年4月>		博士 (文学)		実践プロジェクト b 社会とデザイン 社会ネットワーク論	2前 1前 2後	2 2 2	1 1 1	実践女子大学 非常勤講師 (令和2年4月)	
187	兼任	講師	マツミ トモコ 松並 知子 <令和6年4月>		博士(言語 文化学)		ジェンダーと心理	1前・後	4	2	武庫川女子大学 非常勤講師 (平成24年4月)	
188	兼任	講師	マルチュフ ミレン・アングロフ Milen anguelov Martchev <令和6年4月>		博士 (社会言語 学)		Integrated English b 英語コミュニケーション I b 英語コミュニケーション II b	1前 1後 2前	2 2 1	2 2 1	一橋大学 経済学部 特任講師 (平成20年4月)	
189	兼任	講師	ミーハン, ケヴィン・パトリック Meehan, Kevin Patrick <令和6年9月>		M. S. Ed. in TESOL (米 国)		Global Studies g	1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (平成20年4月)	
190	兼任	講師	ミツタケ トモコ 光武 智子 <令和6年4月>		学士 (芸術学)		情報リテラシー応用 a	1前・後	14	7	実践女子大学 非常勤講師 (平成28年4月)	
191	兼任	講師	ミナミ ヒデアキ 南 英樹 <令和6年4月>		体育学修士 ※		スポーツ文化論 健康運動実習 a	1前・後 1前	4 1	2 1	実践女子大学 非常勤講師 (平成18年4月)	
192	兼任	講師	ミナモト ヒロコ 嶺崎 寛子 <令和6年4月>		博士(学 術)		地域研究 a	1前	2	1	成蹊大学 文学部国際文化学科 准教授 (令和2年4月)	
193	兼任	講師	ミヤヒラ ケンスケ 宮平 健介 <令和6年4月>		修士 (体育科 学)		基礎スポーツ実習 a 基礎スポーツ実習 b	1前・後 1前・後	2 2	2 2	実践女子大学 非常勤講師 (令和4年4月)	
194	兼任	講師	ミラー, ブルース Miller, Bruce <令和6年4月>		M. S. Ed. in TESOL (米 国)		Integrated English b 英語コミュニケーション I b	1前 1後	2 2	2 2	実践女子大学 非常勤講師 (平成29年4月)	
195	兼任	講師	モリヤマ メリダ 靱山 メリダ <令和6年4月>		Licenciado en Education Especializada: Ciencias (ペルー)		スペイン語 1 a スペイン語 1 b スペイン語 2 a スペイン語 2 b	1前 1後 2前 2後	1 1 1 1	1 1 1 1	青山学院大学 非常勤講師 (平成2年4月)	
196	兼任	講師	モリ ヒロユキ 森 弘之 <令和6年4月>		理学博士		宇宙の科学	1前	2	1	東京都立大学 理学部 教授 (平成21年4月)	

教 員 の 氏 名 等												
(人間社会学部 社会デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担当 単位数	年間 開講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
197	兼任	講師	モリヤマ(アノドリ)アミ 森山(安藤)あゆみ <令和6年9月>		修士(政治 学)※		国際政治の基礎 国際政治論	1後 2前	4 2	2 1	実践女子大学 人間社会学部 非常勤講師 (令和4年4月)	
198	兼任	講師	ヤギ カズユキ 八木 一行 <令和6年9月>		博士(農 学)		地球と環境の科学	1後	2	1	公益財団法人地球環境 戦略研究機関 プログラムマネー ジャー (令和2年4月)	
199	兼任	講師	ヤギ ヒロオ 八木 浩雄 <令和6年4月>		修士(人文 学)※		情報スキル基礎 教育学	1後 1前	2 2	2 1	武蔵野短期大学 幼児教育学科 准教授 (平成23年4月)	
200	兼任	講師	ヤギタ キョウコ 柳田 京子 <令和6年9月>		学士 (社会学)		情報スキル基礎	1後	4	4	実践女子大学 非常勤講師 (平成15年4月)	
201	兼任	講師	ヤナセ マ 柳瀬 実佳 <令和6年4月>		M. S. Ed. in TESOL (米 国)		Integrated English a 英語コミュニケーションⅠa 英語コミュニケーションⅡa 英語コミュニケーションⅢa	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	実践女子大学 非常勤講師 (平成18年4月)	
202	兼任	講師	ヤマカ ヒロシ 山岡 均 <令和6年4月>		博士 (理学)		宇宙の科学	1前	2	1	国立天文台 天文情報センター 准教授 (平成28年4月)	
203	兼任	講師	ヤマヤマ 山谷 真名 <令和7年4月>		修士 (家庭経営 学)		女性とキャリア形成	2前	6	3	実践女子大学 非常勤講師 (平成18年4月)	
204	兼任	講師	ヨコタ ジュンコ 横田 順子 <令和6年4月>		修士(文 学)※		児童文学入門 世界のファンタジー	1後 1前	2 2	1 1	実践女子大学 非常勤講師 (平成12年4月)	
205	兼任	講師	ユムラ トモキ 余村 朋樹 <令和6年9月>		修士(人間 科学)		人間関係の心理学	1後	2	1	公益財団法人大原記念 労働科学研究所 主任研究員兼グループ 長 (平成24年4月)	
206	兼任	講師	ライト,アレックス Wright Alex <令和6年4月>		M. S. Ed. in TESOL (米 国)		Integrated English b 英語コミュニケーションⅠb 英語コミュニケーションⅡb 英語コミュニケーションⅢb	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	実践女子大学 非常勤講師 (平成24年4月)	
207	兼任	講師	リュウ リエイ 劉 素英 <令和6年4月>		文学修士		中国語Ⅰa 中国語Ⅰb 中国語Ⅱa 中国語Ⅱb	1前 1後 2前 2後	2 2 1 1	2 2 1 1	実践女子大学 非常勤講師 (平成2年4月)	
208	兼任	講師	ワタナベ ヒロキ 渡邊 弘己 <令和6年9月>		博士(理 学)		情報リテラシー応用b	1後	2	1	フェリス女学院大学 国際交流学部国際交流 学科 准教授 (令和4年4月)	
209	兼任	講師	ワタニ サトミ 和波 里翠 <令和6年9月>		学士 (芸術学)		情報リテラシー応用e	1後	2	1	実践女子大学 非常勤講師 (令和3年4月)	
210	兼任	講師	ワシナ チェ 蘆科 智恵 <令和6年4月>		博士 (学術)		世界の宗教	1前・後	4	2	日本大学 国際関係学部 助教 (令和2年4月)	

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	1人	1人	2人	1人	5人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准 教 授	博 士	人	人	2人	人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	修 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	1人	2人	1人	1人	2人	1人	8人	
	修 士	人	1人	人	人	人	人	人	1人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短 期 学 大 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	そ の 他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- 1 この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- 2 この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- 3 この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
- 4 専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。